

2021年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）



目次

5201000	美術学概論	金子 敏也	1 Q	• • •	1
5202000	美術学概論	伊藤 光悦	3 Q	• • •	3
5203001	平面構成	中島 義博	前期	• • •	5
5203002	平面構成	(B)	前期	• • •	7
5204001	平面構成	中島 義博	後期	• • •	9
5204002	平面構成	(B)	後期	• • •	11
5205001	色彩環境論	(D) 北嶋 洋一	2 Q	• • •	13
5205002	色彩環境論	(A) 北嶋 洋一	2 Q	• • •	15
5206001	デッサン	(A) 西田 陽二	前期	• • •	17
5206002	デッサン	(B) 西田 陽二	前期	• • •	19
5207001	デッサン	(A) 西田 陽二	後期	• • •	21
5207002	デッサン	(B) 西田 陽二	後期	• • •	23
5207100	デッサン	西田 陽二	前期	• • •	25
5207200	デッサン	西田 陽二	後期	• • •	27
5208000	西洋美術史	金子 敏也	2 Q	• • •	29
5209000	西洋美術史	金子 敏也	4 Q	• • •	31
7302000	立体構成	梅田 力	1 Q	• • •	33
7304000	立体構成	梅田 力	3 Q	• • •	35
7305000	デザイン概論	(D) 梅田 真紀	1 Q	• • •	37
7305100	基礎デザイン	林 春生	2 Q	• • •	39
7305200	基礎デザイン	林 春生	4 Q	• • •	41
7305300	デザイン	上坂 恒章	前期	• • •	43
7305400	デザイン	上坂 恒章	前期	• • •	45
7305500	イラストレーション基礎	佐藤 正人	後期	• • •	47
7305600	イラストレーション基礎	佐藤 正人	後期	• • •	49
7307000	デザイン概論	梅田 真紀	前期	• • •	51
7309000	工芸実習	(統合版) 梅田 力	前期	• • •	53
7309002	工芸実習	(統合版) 上坂(島田・星・中島知)	後期	• • •	55
7318100	グラフィックデザイン	北嶋 洋一	前期	• • •	57
7318200	ポスターデザイン	林 春生	前期	• • •	59
7318300	WEBデザイン	近澤 潤	後期	• • •	61
7319100	グラフィックデザイン	北嶋 洋一	後期	• • •	63
7319200	ポスターデザイン	林 春生	後期	• • •	65
7319300	WEBデザイン	近澤 潤	後期	• • •	67
7319400	WEBデザイン	山腰 雅樹	前期	• • •	69
7319500	WEBデザイン	山腰 雅樹	後期	• • •	71
7319600	アニメーション	梅田 真紀	後期	• • •	73
7319700	アニメーション	梅田 真紀	後期	• • •	75
7319800	CG技法研究	北嶋 洋一	前期	• • •	77
7319900	CG技法研究	北嶋 洋一	後期	• • •	79
7320000	図学	松岡 龍介	前期	• • •	81
7321000	図学	松岡 龍介	後期	• • •	83
7322100	インテリア表現基礎	木下 泰男	後期	• • •	85
7322200	ポスターデザイン	林 春生	前期	• • •	87
7322300	ポスターデザイン	林 春生	後期	• • •	89
7322600	インテリアデザイン	梅田 真紀	後期	• • •	91
7322700	インテリアデザイン	梅田 真紀	後期	• • •	93
7324000	絵画	西田 陽二	前期	• • •	95
7325000	洋画	安田 祐造	前期	• • •	97
7326000	絵画	西田 陽二	後期	• • •	99
7327000	洋画	安田 祐造	後期	• • •	101
7330000	漫画	三上 いずみ	前期	• • •	103
7331000	ビジュアルデザイン	田中 靖之	前期	• • •	105
7331100	キャラクターデザイン	三上 いずみ	後期	• • •	107
7332000	漫画	三上 いずみ	後期	• • •	109
7332100	キャラクターデザイン	三上 いずみ	後期	• • •	111
7335000	ビジュアルデザイン	田中 靖之	後期	• • •	113
7336000	イラストレーション	森迫 暁夫	前期	• • •	115
7337000	イラストレーション	未定	後期	• • •	117
7337100	イラストレーション	佐藤 正人	前期	• • •	119
7337200	イラストレーション	佐藤 正人	後期	• • •	121
7339000	デザイン製図	松岡 龍介	前期	• • •	123
7340000	インテリアデザイン	松岡 龍介	前期	• • •	125
7341000	インテリアデザイン	安藤 淳一	前期	• • •	127
7342000	テキスタイルデザイン	三上 いずみ	前期	• • •	129
7343000	テキスタイルデザイン	三上 いずみ	後期	• • •	131
7344000	版表現	森迫 暁夫	前期	• • •	133
7345000	版表現	鳴海 伸一	後期	• • •	135
7348000	日本画	岡 恵子	前期	• • •	137
7350000	日本画	岡 恵子	後期	• • •	139
7353000	映像表現	北嶋 洋一	前期	• • •	141
7354000	映像表現	北嶋 洋一	後期	• • •	143
7355000	コンテンツデザイン	上坂 恒章	前期	• • •	145
7357000	コンテンツデザイン	上坂 恒章	後期	• • •	147
7359000	デザイン製図	松岡 龍介	後期	• • •	149

7361000	技法・材料研究	安田 祐造	前期	・	・	・	151
7362000	技法・材料研究	安田 祐造	後期	・	・	・	153
7364000	彫刻	梅田 力	前期	・	・	・	155
7365000	彫刻	梅田 力	後期	・	・	・	157
7366001	工芸実習	(1) 星 信彦	前期	・	・	・	159
7366002	工芸実習	(2) 梅田 力	後期	・	・	・	161
7366003	工芸実習	(3) 中島 知之	前期	・	・	・	163
7367000	漫画	鴨 修平	前期	・	・	・	165
7369001	工芸実習	(1) 中島 義博	後期	・	・	・	167
7369002	工芸実習	(2) 島田 晶夫	前期	・	・	・	169
7369003	工芸実習	(3) 宮原 ミユキ	後期	・	・	・	171
7370000	漫画	鴨 修平	後期	・	・	・	173
7371000	造形論	松岡 龍介	前期	・	・	・	175
7372000	造形論	松岡 龍介	後期	・	・	・	177
7373001	東洋・日本美術史	(3年生) 金子 敏也	1 Q	・	・	・	179
7373002	東洋・日本美術史	(4年生) 金子 敏也	1 Q Q	・	・	・	181
7374001	東洋・日本美術史	(3年生) 金子 敏也	3 Q Q	・	・	・	183
7374002	東洋・日本美術史	(4年生) 金子 敏也	3 Q	・	・	・	185
7377000	美術学特講	山腰 雅樹	前期	・	・	・	187
7378000	美術学特講	山腰 雅樹	後期	・	・	・	189
7379000	彫刻	国松 明日香	前期	・	・	・	191
7380000	彫刻	国松 明日香	後期	・	・	・	193
7383061	専門研究	A 林 春生	前期集中	・	・	・	195
7383062	専門研究	A 中島 義博	前期集中	・	・	・	197
7383063	専門研究	A 安田 祐造	前期集中	・	・	・	199
7383066	専門研究	A 松岡 龍介	前期集中	・	・	・	201
7383067	専門研究	A 北嶋 洋一	前期集中	・	・	・	203
7383068	専門研究	A 上坂 恒章	前期集中	・	・	・	205
7383069	専門研究	A 三上 いずみ	前期集中	・	・	・	207
7385061	専門研究	B 林 春生	後期集中	・	・	・	209
7385062	専門研究	B 上坂 恒章	後期集中	・	・	・	211
7385063	専門研究	B 中島 義博	後期集中	・	・	・	213
7385064	専門研究	B 安田 祐造	後期集中	・	・	・	215
7385065	専門研究	B 松岡 龍介	後期集中	・	・	・	217
7385066	専門研究	B 北嶋 洋一	後期集中	・	・	・	219
7385067	専門研究	B 梅田 力	後期集中	・	・	・	221
7385068	専門研究	B 三上 いずみ	後期集中	・	・	・	223
7387061	専門研究	A 林 春生	前期集中	・	・	・	225
7387062	専門研究	A 上坂 恒章	前期集中	・	・	・	227
7387063	専門研究	A 中島 義博	前期集中	・	・	・	229
7387064	専門研究	A 安田 祐造	前期集中	・	・	・	231
7387065	専門研究	A 松岡 龍介	前期集中	・	・	・	233
7387066	専門研究	A 北嶋 洋一	前期集中	・	・	・	235
7387067	専門研究	A 三上 いずみ	前期集中	・	・	・	237
7389061	専門研究	B 林 春生	後期集中	・	・	・	239
7389062	専門研究	B 上坂 恒章	後期集中	・	・	・	241
7389063	専門研究	B 中島 義博	後期集中	・	・	・	243
7389064	専門研究	B 安田 祐造	後期集中	・	・	・	245
7389065	専門研究	B 松岡 龍介	後期集中	・	・	・	247
7389066	専門研究	B 北嶋 洋一	後期集中	・	・	・	249
7389067	専門研究	B 三上 いずみ	後期集中	・	・	・	251
7390061	卒業制作・研究	林 春生	後期集中	・	・	・	253
7390062	卒業制作・研究	上坂 恒章	後期集中	・	・	・	255
7390063	卒業制作・研究	中島 義博	後期集中	・	・	・	257
7390064	卒業制作・研究	安田 祐造	後期集中	・	・	・	259
7390065	卒業制作・研究	松岡 龍介	後期集中	・	・	・	261
7390066	卒業制作・研究	北嶋 洋一	後期集中	・	・	・	263
7390067	卒業制作・研究	梅田 力	後期集中	・	・	・	265
7390068	卒業制作・研究	三上 いずみ	後期集中	・	・	・	267
7390091	卒業制作・研究	(9月期卒用) 林 春生	前期集中	・	・	・	269
7390094	卒業制作・研究	(9月期卒用) 安田 祐造	前期集中	・	・	・	271
7390098	卒業制作・研究	(9月期卒用) 三上 いずみ	前期集中	・	・	・	273

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	美術学概論 (科目ナンバリング: AEA211001)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
社会や文化における美術作品の意義、日本の美術の個性、今後のあり方などを模索する。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)と(2)」、「2(1)と(2)と(4)」に対応する。

到達目標
読誦ができる。レジムの作成方法、および発表ができる。現代の美術の在り方、作品と造形思想との関連を考え、今後の動向を理解できる。

授業全体の内容と概要
村上隆の著作を読むことで、現代美術における概念的な枠組みの構築の重要性を考えます。

授業の方法
各章、各節を個別の学生(複数名)に割り当て、その各節を要約、重要な論点を提示するレジムを書いてもらいます。各学生は割り当てられたレジムをOneNoteに掲載してください。資料を元に、各学生に担当節をみんなの前で発表してもらいます。質問は随時受け付けます。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、特定の画家、美術概念について、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の理由がない限り、不可とします。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジム作成を2時間以内に1できた。	各章のレジム作成3時間以内でできた。	レジムの作成の仕方が理解できた。	レジムの意義を理解できた。	レジムの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理ができた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識の習得ができなかった。
自主性	発表回数多数回達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『芸術家起業論』	村上隆	幻冬舎	2006年		
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	美術学概論 (科目ナンバリング: AEA211001)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 芸術には、世界基準の戦略が必要である。	シラバスを読んでおくこと(90分)	レジメの作り方の確認(90分)
2	芸術には、世界基準の戦略が必要である。 なぜ私の作品は1億円で売れたのか。	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
3	なぜ私の作品は1億円で売れたのか、 芸術作品の価値は、発言で高めるべき	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
4	芸術作品の価値は、発言で高めるべき 芸術は、想像力をふくらませる商売である	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
5	芸術は、想像力をふくらませる商売である 芸術の顧客は、栄耀栄華を極めた大金持ち	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
6	芸術の顧客は、栄耀栄華を極めた大金持ち 業界を味方につけて重圧をかけるべき	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
7	業界を味方につけて重圧をかけるべき 業界の構造を知らなければ生き残れない	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
8	業界の構造を知らなければ生き残れない 経済的自立がないと、駒の一つになる	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
9	経済的自立がないと、駒の一つになる 「金さえあれば」が言いわけならダメだ	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
10	「金さえあれば」が言いわけならダメだ 芸術家は、技術より発想に力を注ぐべき	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
11	芸術家は、技術より発想に力を注ぐべき 世界で評価されない作品は、意味がない	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
12	世界で評価されない作品は、意味がない 個人の歴史の蓄積をブランド化する方法	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
13	個人の歴史の蓄積をブランド化する方法 価値を生むのは、才能よりサブタイトル	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
14	価値を生むのは、才能よりサブタイトル 現代の芸術作品制作は集団でやるべきだ	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
15	現代の芸術作品制作は集団でやるべきだ 世界基準の「文脈」を理解するべきである	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
16	まとめ「フィードバック」	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	美術学概論 (科目ナンバリング: AEA211002)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 光悦(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 光悦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学・大学の美術教育、画家として制作活動をしてきた経験を活かし、美術的能力の向上、美術文化の充実した共生社会の実現を目指す態度を育成する。		

概要

履修目標
<ul style="list-style-type: none"> 日本の美術教育の変遷と現状を理解し、世界の特徴的な美術教育と比較しながら課題意識を持つ。 美術の物の見方や感じ方、表現行為が人間の生きる力に大きな役割を持っていることを理解し、自分の決めた進路に自信と誇りをもって取り組むことができる。 表現活動に不可欠な創造力について洞察し、その意味や高める方法を様々な芸術分野から学び考察する。 様々な美術作品を資料や映像で鑑賞し、その発見や感じ方を言葉で表しよりイメージを深める。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(2)、(3)」、「2(2)、(4)」に対応する。

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> 世界の特徴的な美術教育のあり方を調べ、自分の体験と比較して違いを説明することができる。 ものを見たり感じたりしながら表現する美術的行為が人間活動のあらゆる活動に共通することを推論し、生きる力につながることを関係づけることができる。 創造力の意味や発達段階を理解し、それを高めるための様々な工夫を具体的に述べる。 日本の伝統的な美術文化、現代美術やサブカルチャーを調べ、その特質を説明する。

授業全体の内容と概要
<ul style="list-style-type: none"> 各回のテーマに基づき、必要な事項を提示資料や視聴覚メディアを用いて講義するとともに、テーマに関連したアイデアスケッチや小論文を書いてより具体性を高め、それらの発表や交流により理解を深める。

授業の方法
<ul style="list-style-type: none"> 講義提示資料により課題を把握する。課題・資料に沿いながら思考を深め、ミニレポートや軽度な表現活動で自分の考えをより深める。レポート、アイデアスケッチ等にはコメントにてフィードバックする。 テーマによっては視聴覚メディアを利用し、映像で表現方法の工夫や作品鑑賞により作者の意図や変遷、時代背景を理解する。 講義内容によっては対立項を設定してディスカッションを行ったり、作品鑑賞では作品のプレゼンテーションを行うなどアクティブラーニングを行う。

アクティブラーニングの実施方法															
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL		模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	○	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL											
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業											
○	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)											

履修上の注意事項
<ul style="list-style-type: none"> A4程度の記録、ラフスケッチ可能なノートを準備する。 各授業の最終段階で理解度を確かめるミニレポート、軽度な表現活動を行い、提出してもらう。それが出欠確認のカードとなり評価資料となる。積み重ねを重視するので遅刻、欠席については連絡を密にすること。

資格指定科目
教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	30%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	30%	0%	40%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鑑賞能力</td> <td>観点に対して、作品鑑賞でその作品を特徴づける構成美の要素の観点から、作者の造形的な意図を類推し的確な言葉で作品解説することが出来る。</td> <td>観点に対して、作品鑑賞でその作品を特徴づける複数の構成美の要素の観点から、その作品の思想的観点を述べることが出来る。</td> <td>観点に対して、作品鑑賞で複数の構成美の要素から作品を鑑賞し(2つ以上)作品の感想を述べる事が出来る。</td> <td>作品鑑賞で、自分の感想を述べる事が出来る。</td> <td>作品鑑賞で、感想を述べる事が出来なかった。</td> </tr> <tr> <td>技法の理解と活用</td> <td>観点に対して、異質なものを衝突させて新たな空間を作るデベイズマン技法をよく理解し、的確な選択と技法で魅力ある新たな絵画空間を描写した。</td> <td>観点に対して、デベイズマン技法を理解し、組み合わせが面白く、アイデアに満ちていたが、表現にさらに手数をいれて説得力を高めたかった。</td> <td>観点に対して、デベイズマン技法に興味を持ち、組み合わせやそれに見合った表現が不十分になったが、政策努力が伝わった。</td> <td>デベイズマン技法の理解が深くなり、繰り上げが不足して意図が伝わりにくい作品になった。</td> <td>デベイズマン技法を理解せず、作品を制作することが出来なかった。</td> </tr> <tr> <td>レポート(表現力)</td> <td>観点に対して、ある芸術家の生涯を鑑賞し、作者の生涯の人生や芸術への深い愛情と洞察を理解し、作品と関連付けて的確な言葉でレポートを書いた。</td> <td>観点に対して、ある芸術家の生涯を鑑賞し、彼の作品の変遷を理解することが出来る。作品と人生・個性を関連付けてレポートを書いた。</td> <td>観点に対して、ある芸術家の生涯に興味を持って鑑賞した。彼の年齢と作品制作の年数について感想レポートを書いた。</td> <td>ある芸術家の生涯の映像に興味深く見た。知っている作品が数点あり、その作品について感想レポートを作成した。</td> <td>ある芸術家の生涯の映像に興味を持って見たが、何故あのような作品を描いたのかその作品を多くの人が好む理由も分からず、レポートを書けなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	鑑賞能力	観点に対して、作品鑑賞でその作品を特徴づける構成美の要素の観点から、作者の造形的な意図を類推し的確な言葉で作品解説することが出来る。	観点に対して、作品鑑賞でその作品を特徴づける複数の構成美の要素の観点から、その作品の思想的観点を述べることが出来る。	観点に対して、作品鑑賞で複数の構成美の要素から作品を鑑賞し(2つ以上)作品の感想を述べる事が出来る。	作品鑑賞で、自分の感想を述べる事が出来る。	作品鑑賞で、感想を述べる事が出来なかった。	技法の理解と活用	観点に対して、異質なものを衝突させて新たな空間を作るデベイズマン技法をよく理解し、的確な選択と技法で魅力ある新たな絵画空間を描写した。	観点に対して、デベイズマン技法を理解し、組み合わせが面白く、アイデアに満ちていたが、表現にさらに手数をいれて説得力を高めたかった。	観点に対して、デベイズマン技法に興味を持ち、組み合わせやそれに見合った表現が不十分になったが、政策努力が伝わった。	デベイズマン技法の理解が深くなり、繰り上げが不足して意図が伝わりにくい作品になった。	デベイズマン技法を理解せず、作品を制作することが出来なかった。	レポート(表現力)	観点に対して、ある芸術家の生涯を鑑賞し、作者の生涯の人生や芸術への深い愛情と洞察を理解し、作品と関連付けて的確な言葉でレポートを書いた。	観点に対して、ある芸術家の生涯を鑑賞し、彼の作品の変遷を理解することが出来る。作品と人生・個性を関連付けてレポートを書いた。	観点に対して、ある芸術家の生涯に興味を持って鑑賞した。彼の年齢と作品制作の年数について感想レポートを書いた。	ある芸術家の生涯の映像に興味深く見た。知っている作品が数点あり、その作品について感想レポートを作成した。	ある芸術家の生涯の映像に興味を持って見たが、何故あのような作品を描いたのかその作品を多くの人が好む理由も分からず、レポートを書けなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
鑑賞能力	観点に対して、作品鑑賞でその作品を特徴づける構成美の要素の観点から、作者の造形的な意図を類推し的確な言葉で作品解説することが出来る。	観点に対して、作品鑑賞でその作品を特徴づける複数の構成美の要素の観点から、その作品の思想的観点を述べることが出来る。	観点に対して、作品鑑賞で複数の構成美の要素から作品を鑑賞し(2つ以上)作品の感想を述べる事が出来る。	作品鑑賞で、自分の感想を述べる事が出来る。	作品鑑賞で、感想を述べる事が出来なかった。																																				
技法の理解と活用	観点に対して、異質なものを衝突させて新たな空間を作るデベイズマン技法をよく理解し、的確な選択と技法で魅力ある新たな絵画空間を描写した。	観点に対して、デベイズマン技法を理解し、組み合わせが面白く、アイデアに満ちていたが、表現にさらに手数をいれて説得力を高めたかった。	観点に対して、デベイズマン技法に興味を持ち、組み合わせやそれに見合った表現が不十分になったが、政策努力が伝わった。	デベイズマン技法の理解が深くなり、繰り上げが不足して意図が伝わりにくい作品になった。	デベイズマン技法を理解せず、作品を制作することが出来なかった。																																				
レポート(表現力)	観点に対して、ある芸術家の生涯を鑑賞し、作者の生涯の人生や芸術への深い愛情と洞察を理解し、作品と関連付けて的確な言葉でレポートを書いた。	観点に対して、ある芸術家の生涯を鑑賞し、彼の作品の変遷を理解することが出来る。作品と人生・個性を関連付けてレポートを書いた。	観点に対して、ある芸術家の生涯に興味を持って鑑賞した。彼の年齢と作品制作の年数について感想レポートを書いた。	ある芸術家の生涯の映像に興味深く見た。知っている作品が数点あり、その作品について感想レポートを作成した。	ある芸術家の生涯の映像に興味を持って見たが、何故あのような作品を描いたのかその作品を多くの人が好む理由も分からず、レポートを書けなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『図工・美術で豊かな暮らし』</td> <td>佐々木秀樹</td> <td>日本文芸出版社</td> <td>2019年</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『感性は感動しない』</td> <td>榎木野衣</td> <td>世界思想社</td> <td>2019年</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『図工・美術で豊かな暮らし』	佐々木秀樹	日本文芸出版社	2019年			2	『感性は感動しない』	榎木野衣	世界思想社	2019年			3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『図工・美術で豊かな暮らし』	佐々木秀樹	日本文芸出版社	2019年																																						
2	『感性は感動しない』	榎木野衣	世界思想社	2019年																																						
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	美術学概論 (科目ナンバリング: AEA211002)				
授業担当者(所属・職名)	伊藤 光悦(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 伊藤 光悦)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	中学・大学の美術教育、画家として制作活動をしてきた経験を活かし、美術的能力の向上、美術文化の充実した共生社会の実現を目指す態度を育成する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、授業についてのオリエンテーション。日本の美術教育の変遷と現状と世界的特徴的な美術教育のあり方。	小中高時代の美術授業の確認(90分)	各国の美術教育の現状調査(90分)
2	美術によって身に着く力(物の見方や感じ方、イメージする、選択と決断、空間把握能力等)について	美術体験で得た力について確認(90分)	創作活動での特徴や弱点的自覚(90分)
3	美しく見える事の普遍的な原点(リズムやバランス等の構成美の要素)について	好きな作品の惹かれる要素確認(90分)	構成美の要素から作品分析(90分)
4	廊下展示されている先輩の作品を鑑賞し、構成美の要素から作品を分析・評価して作品のプレゼンテーションを行う。	作品の魅力とその要素を分析(90分)	世界観や独自性からの作品鑑賞(90分)
5	美術活動と脳の働きの関連について	脳の働きの基礎的な知識の確認(90分)	子供の成長と表現力の発達確認(90分)
6	美的感性と右脳の働きについて	右脳・左脳の機能の違い調査(90分)	授業で行った実技の復習(90分)
7	子供の成長段階における色や形の表現活動を分析する。また、子供成長と人類の進化の過程での表現力を比較し、表現における概念の在り方を分析する。	幼児の絵画の特徴を調べる(90分)	自分の作品の成長過程を分析(90分)
8	表現活動における個性と創造力について	自分の個性を振り返る(90分)	創造性と自分の個性を確認(90分)
9	創造力を高める様々な表現方を考える。異質な物や空間の出会いによる新たな感覚の発想(デベイズマン)を試みる。	創造力を高める方法を探求する(90分)	デベイズマン作品の制作(90分)
10	表現活動におけるオリジナリティと、作品制作におけるコピーの是非を討論し、より豊かな表現活動の在り方を考える。	表現力を高める方法を考える(90分)	他からの学びと獨創性を考える(90分)
11	アレンジメント能力を高める。エッシャーの不可能な形への挑戦。	エッシャー作品の模写をする(90分)	自分なりの不可能な形の制作(90分)
12	サブカルチャー(アニメ、漫画等)への考察と、それぞれの個性的表現や語り口、キャラクターなどの魅力の要素を分析し、作者の創造性を学ぶ。	好みのアニメについてプレゼン(90分)	作者の工夫と努力を確認(90分)
13	近代絵画の潮流を把握し、代表的な作家の現代につながる表現を把握する(印象派の画家達、セザンヌ、ピカソ、マチス、タリ、抽象、現代アートの作	自分の知っている作家の調査(90分)	アートの概念の変遷を確認(90分)
14	世界に影響を与えた日本の美術(琳派と浮世絵)を鑑賞し、その独自性や世界に与えた影響を考察する。	代表的な日本の作家の予備知識(90分)	近代絵画に与えた影響を確認。(90分)
15	「ある芸術家の生涯」のスライドを鑑賞し、感想・意見交流をする。美術と人間形成、時代との関わりを探求する。	ゴッホの作品を調べる(90分)	ゴッホの生涯に感じた事の確認(90分)
16	美術と人間形成について、レポート内容によるフィードバックをする。	美術と「生きる力」のまとめ(90分)	美術と人間形成の小論文完成(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング: AEA211003)				
授業担当者(所属・職名)	中島 義博(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 中島 義博)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	デザインのための自由な発想と方法、効果的な作業の基礎を身につける。																								
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)、(2)」、「2(2)、(4)」に対応する。																								
到達目標	目的のための発想ができる。 発想を制作に結びつける感覚を修得する。 デザインのための基礎的な造形ができる。																								
授業全体の内容と概要	いくつかの課題を通して、構想する、デッサンをする、カットイングする、構成する、配色する、着色するといった基礎的な作業の確認と補強をする。																								
授業の方法	板書、作例を通して課題説明をし、各自の構想による制作の中で基礎的な作業ができているか確認をする実技科目である。課題ごとに作品発表と講評会を設ける。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	課題提出と出席を重視する。卒業・各ゼミ展等の学内展・美術館の企画展・ギャラリーの個展・グループ展等の一般の展示会等、折にふれて街に出て美術に触れる。イベントごとにレポート出題。																								
資格指定科目	教職課程(美術・工芸)必修科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
20回以上の出席と全課題作の完成、提出を求める。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
目的のための発想ができる。	目的のための斬新かつ個性的な発想ができる。	目的のための優れた発想ができる。	目的のための発想ができる。	目的が何かをわかっている。	目的が何かわからない。
発想を制作に結びつけることができる。	発想を効果的に制作に結びつけ優れた計画をたてられる。	発想を効果的に制作に結びつけられる。	発想を制作に結びつけられる。	発想がある。	発想がない。
デザインのための基礎的な造形ができる。	デザインのための優れた造形ができる。	デザインのための優れた造形がややできる。	デザインのための基礎的な造形ができる。	デザインのための基礎的な造形ができないが導入としての造形感覚がある。	デザインのための基礎的な造形ができず造形感覚も無い。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング: AEA211003)				
授業担当者(所属・職名)	中島 義博(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 中島 義博)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明をする オリエンテーション、学科、授業、用具について	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	セルフプロモーションポスター 課題説明		指定された課題制作を行うこと(45分)
3	構想、アイデアスケッチ	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
4	構想、アイデアスケッチ		指定された課題制作を行うこと(45分)
5	ポスター制作	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
6	ポスター制作		指定された課題制作を行うこと(45分)
7	中間発表	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
8	ポスター制作		指定された課題制作を行うこと(45分)
9	ポスター制作	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
10	発表、講評		指定された課題制作を行うこと(45分)
11	コラージュと描画による構成課題説明	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
12	資料整理、構想		指定された課題制作を行うこと(45分)
13	資料整理、構想	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
14	構成、描画着彩		指定された課題制作を行うこと(45分)
15	構成、描画着彩	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
16	構成、描画着彩		指定された課題制作を行うこと(45分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	仕上げ、修正	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
18	発表、講評		指定された課題制作を行うこと(45分)
19	シンメトリー入門、スタンピングによる単位形の構成	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
20	構想、アイデアスケッチ		指定された課題制作を行うこと(45分)
21	転写、スタンプ作整	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
22	スタンピング 埋め尽し 10パターン		指定された課題制作を行うこと(45分)
23	スタンピング 埋め尽し 10パターン	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
24	スタンピング 飛地利用 10パターン		指定された課題制作を行うこと(45分)
25	スタンピング 飛地利用 10パターン	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
26	発表、講評		指定された課題制作を行うこと(45分)
27	美術館巡り ヴィジュアルレポート 課題説明	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
28	北海道の美術館、ギャラリーガイド		指定された課題制作を行うこと(45分)
29	発表	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
30	講評		指定された課題制作を行うこと(45分)
31	総括	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(45分)	
32	課題に対する解説・フィードバック		解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	平面構成 (B) (科目ナンバリング: AEA211003)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	2 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	平面構成 (B) (科目ナンバリング: AEA211003)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	2 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング: AEA211004)				
授業担当者(所属・職名)	中島 義博(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 中島 義博)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
デザインのための自由な発想と方法、効果的な作業の基礎を身につける。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)と(4)」に対応する。																								
到達目標																								
目的のために発想することができる。 発想を制作に結びつけることができる。 デザインのための基礎的な造形ができる。																								
授業全体の内容と概要																								
いくつかの課題を通して、構想する、デッサンをする、カッティングする、構成する、配色する、着色するといった基礎的な作業の確認と補強をする。																								
授業の方法																								
板書、作例を通して課題説明をし、各自の構想による制作の中で基礎的な作業ができているか確認をする実技科目である。課題ごとに作品発表と講評の機会を設ける。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
課題提出と出席を重視する。卒業・各ゼミ展等の学内展・美術館の企画展・ギャラリーの個展・グループ展等の一般の展示会等、折にふれて街に出て美術に触れる。イベントごとにレポート出題。																								
資格指定科目																								
教職課程(美術・工芸)必修科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
20回以上の出席と全課題作の完成、提出を求める。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
目的のための発想ができる。	目的のための斬新かつ個性的な発想ができる。	目的のための優れた発想ができる。	目的のための発想ができる。	発想がある。	発想がない。
発想を制作に結びつけることができる。	発想を効果的に制作に結びつけ優れた計画をたてられる。	発想を効果的に制作に結びつけることができる。	発想を制作に結びつけることができる。	発想と制作に関連性がある。	発想と制作に関連性がない。
デザインのための基礎的な造形ができる。	デザインのための優れた造形ができる。	デザインのための優れた造形がややできる。	デザインのための基礎的な造形ができる。	デザインのための基礎的な造形ができないが造形感覚はある。	デザインのための基礎的な造形ができず造形感覚もない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	平面構成 (科目ナンバリング: AEA211004)				
授業担当者(所属・職名)	中島 義博(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	アトリエ棟2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 中島 義博)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 コンクリートポエトリー 課題説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	コンクリートポエトリー 構想, アイデアスケッチ		指定された課題制作を行うこと(45分)
3	コンクリートポエトリー 構想, アイデアスケッチ	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
4	コンクリートポエトリー 構想, アイデアスケッチ		指定された課題制作を行うこと(45分)
5	コンクリートポエトリー 制作	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
6	コンクリートポエトリー 制作		指定された課題制作を行うこと(45分)
7	コンクリートポエトリー 制作	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
8	コンクリートポエトリー 発表, 講評		指定された課題制作を行うこと(45分)
9	線と点と面の構成 課題説明	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
10	線と点と面の構成 線の構成		指定された課題制作を行うこと(45分)
11	線と点と面の構成 線の構成	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
12	線と点と面の構成 点の構成		指定された課題制作を行うこと(45分)
13	線と点と面の構成 点の構成	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
14	線と点と面の構成 面の構成		指定された課題制作を行うこと(45分)
15	線と点と面の構成 面の構成	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
16	線と点と面の構成 発表, 講評		指定された課題制作を行うこと(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	表現の六態(自画像をモチーフとして) 課題説明	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
18	表現の六態(自画像をモチーフとして) 自画像, 精密デッサン		指定された課題制作を行うこと(45分)
19	表現の六態(自画像をモチーフとして) トレース, 面取り	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
20	表現の六態(自画像をモチーフとして) モノトーン+1(同系色とワンポイント)		指定された課題制作を行うこと(45分)
21	表現の六態(自画像をモチーフとして) モノトーン+1(同系色とワンポイント)	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
22	表現の六態(自画像をモチーフとして) ドット(個点)		指定された課題制作を行うこと(45分)
23	表現の六態(自画像をモチーフとして) ドット(個点)	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
24	表現の六態(自画像をモチーフとして) 万線		指定された課題制作を行うこと(45分)
25	表現の六態(自画像をモチーフとして) 万線	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
26	表現の六態(自画像をモチーフとして) デフォルメ, キャラクター		指定された課題制作を行うこと(45分)
27	表現の六態(自画像をモチーフとして) デフォルメ, キャラクター	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
28	表現の六態(自画像をモチーフとして) タイトル, ロゴ(氏名から)		指定された課題制作を行うこと(45分)
29	表現の六態(自画像をモチーフとして) タイトル, ロゴ(氏名から)	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
30	表現の六態(自画像をモチーフとして) 発表, 講評		指定された課題制作を行うこと(45分)
31	総括	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(45分)	
32	課題に対する解説・フィードバック		解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	平面構成 (B) (科目ナンバリング: AEA211004)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	2 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	平面構成 (B) (科目ナンバリング: AEA211004)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	2 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	色彩環境論(D) (科目ナンバリング: DES211005, AEA321061)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な色彩論を指導する。		

概要

履修目標																								
色彩の基礎知識や基礎理論を系統的に学び、デザインにおける制作工程で有効に活用し応用できる力を身につける。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP「1(1)」、「2(4)」に対応する。																								
到達目標																								
授業の内容をよく理解し、制作に活かすことが出来るようにすること。受験希望者以外も含めて、カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス合格者と同程度の知識を獲得することができる。																								
授業全体の内容と概要																								
色に関する物理学的な概念、もの見え方に関する医学的概念、色の表示、配色、色の心理的效果、色と環境などについて知識だけではなく、色に関する感覚を育む。																								
授業の方法																								
PowerPointを用い、色彩の理論を教科書(カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス公式テキスト)の掲載順に合わせて解説する。PowerPointの内容について理解した後、調査学習として教科書本文の掲載内容について検証し、その要点の整理を各自に行わせる。その際、質問には随時対応する。理解度の確認は中間テストや定期試験に於いて行われるが、答案の採点確認後に誤答箇所の訂正作業を推奨する。さらに課題制作として色彩構成の実技を行い、これを理論の実践とする。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
知識の修得だけにとどまらず、色彩感覚を伸張させるための訓練に積極的に取り組むこと。テキストや講義内容についての予習・復習を行なうことは勿論、身の回りの色彩について積極的に学修を行い、制作にそれを反映させること。また、知識のみならず感覚的な面についても十分に強化をはかること。																								
資格指定科目																								
教職課程(工芸)選択科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
25%	0%	30%	25%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識を身につけている」	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が60以上である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が55-60である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が45-55である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が40-45である。	中間テスト及び定期試験にて受講者偏差値が40未満である。
思考力・判断力・表現力 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識をもとにして課題制作が行える」	色彩について学んだ知識をもとにして、論理的でデザインの的に優れた課題制作を行った。	色彩について学んだ知識をもとにして、論理的な課題制作を行った。	色彩について学んだ知識の一部に應用して、課題制作を行った。	色彩について学んだ知識の應用は不十分だが、課題の完成には至った。	課題の完成には至らなかった。
主体性・多様性・協働性 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識を用いて、色彩のメカニズムやシステムについて考察し、論理的な説明を以てプレゼンテーションが行える」	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションが行え、今後の應用や展開に役立つレベルに到達した。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、求められるレベルに到達している。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、求められるレベルには到達できなかった。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、最低限のレベルに留まった。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、評価できるレベルに達していない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス公式テキスト』	東京商工会議所	東京商工会議所検定センター	2020	978-4502330018	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	色彩環境論(D) (科目ナンバリング: DES211005, AEA321061)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン現場において実務経験者である教員が、その経験に基づき実践的な色彩論を指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバスの説明 授業の流れとカラーコーディネーター検定について	シラバスを一読しておくこと(90分)	検定の必要性を感じた者は日程など確認し、受験勉強の計画を立てること(90分)
2	Chapter 1 「生活と色の効用」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
3	Chapter 1 「生活と色の効用」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
4	Chapter 2 「色を自在に操る方法」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
5	Chapter 2 「色を自在に操る方法」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	採点後の答案を基にし、特に誤答した箇所について再確認する(90分)
6	Chapter 3 「きれいな配色をつくる」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
7	Chapter 3 「きれいな配色をつくる」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
8	中間テスト Chapter 1 - Chapter 3	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	誤答箇所について再確認する(90分)
9	Chapter 4 「色を美しく見せる光のマジック」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
10	Chapter 4 「色を美しく見せる光のマジック」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
11	Chapter 5 「背景色を上手に使うって色の見えを変えてみよう」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
12	Chapter 5 「背景色を上手に使うって色の見えを変えてみよう」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
13	Chapter 6 「色で売り上げをアップするために」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
14	実技課題 「配色計画」	事前配布された課題を確認し計画を立てる(90分)	次回の授業終了時までに課題の完成提出を目指すための工程確認(90分)
15	実技課題 「配色計画」	期間内の提出が可能ないように補充作業を行う(90分)	配色に於ける応用力と実戦力の確認(90分)
16	定期試験 Chapter 4 - 6	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	誤答箇所について再確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論(A) (科目ナンバリング: DES211005, AEA321061)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な色彩論を指導する。		

概要

履修目標																								
色彩の基礎知識や基礎理論を系統的に学び、デザインにおける制作工程で有効に活用し応用できる力を身につける。																								
授業の位置づけ																								
建築学科のDP「1(1)」、「2(3)」に対応する。																								
到達目標																								
授業の内容をよく理解し、制作に活かすことが出来るようにすること。受験希望者以外も含めて、カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス合格者と同程度の知識を獲得することができる。																								
授業全体の内容と概要																								
色に関する物理学的な概念、もの見え方に関する医学的概念、色の表示、配色、色の心理的效果、色と環境などについて知識だけではなく、色に関する感覚を育む。																								
授業の方法																								
PowerPointを用い、色彩の理論を教科書(カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス公式テキスト)の掲載順に合わせて解説する。PowerPointの内容について理解した後、調査学習として教科書本文の掲載内容について検証し、その要点の整理を各自に行わせる。その際、質問には随時対応する。理解度の確認は中間テストや定期試験に於いて行われるが、答案の採点確認後に誤答箇所の訂正作業を推奨する。さらに課題制作として色彩構成の実技を行い、これを理論の実践とする。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
知識の修得だけにとどまらず、色彩感覚を伸張させるための訓練に積極的に取り組むこと。テキストや講義内容についての予習・復習を行なうことは勿論、身の回りの色彩について積極的に学修を行い、制作にそれを反映させること。また、知識のみならず感覚的な面についても十分に強化をはかること。																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
25%	0%	30%	25%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識を身につけている」	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が60以上である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が55-60である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が45-55である。	中間テスト及び定期試験にて、受講者偏差値が40-45である。	中間テスト及び定期試験にて受講者偏差値が40未満である。
思考力・判断力・表現力 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識をもとにして課題制作が行える」	色彩について学んだ知識をもとにして、論理的でデザインの的に優れた課題制作を行った。	色彩について学んだ知識をもとにして、論理的な課題制作を行った。	色彩について学んだ知識の一部に應用して、課題制作を行った。	色彩について学んだ知識の應用は不十分だが、課題の完成には至った。	課題の完成には至らなかった。
主体性・多様性・協働性 「色彩に関するカラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス相当の基本的な知識を用いて、色彩のメカニズムやシステムについて考察し、論理的な説明を以てプレゼンテーションが行える」	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションが行え、今後への應用や展開に役立つレベルに到達した。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、求められるレベルに到達している。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、求められるレベルには到達できなかった。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、最低限のレベルに留まった。	色彩のメカニズムやシステムについての適切なプレゼンテーションについて、評価できるレベルに達していない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『カラーコーディネーター検定試験 スタンダードクラス公式テキスト』	東京商工会議所	東京商工会議所検定センター	2020	978-4502330018	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	色彩環境論(A) (科目ナンバリング: DES211005, AEA321061)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な色彩論を指導する		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバスの説明 授業の流れとカラーコーディネーター検定について	シラバスを一読しておくこと(90分)	検定の必要性を感じた者は日程など確認し、受験勉強の計画を立てること(90分)
2	Chapter 1 「生活と色の効用」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
3	Chapter 1 「生活と色の効用」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
4	Chapter 2 「色を自在に操る方法」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
5	Chapter 2 「色を自在に操る方法」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	採点後の答案を基にし、特に誤答した箇所について再確認する(90分)
6	Chapter 3 「きれいな配色をつくる」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
7	Chapter 3 「きれいな配色をつくる」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
8	中間テスト Chapter 1 - Chapter 3	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	誤答箇所について再確認する(90分)
9	Chapter 4 「色を美しく見せる光のマジック」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
10	Chapter 4 「色を美しく見せる光のマジック」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
11	Chapter 5 「背景色を上手に使うって色の見えを変えてみよう」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
12	Chapter 5 「背景色を上手に使うって色の見えを変えてみよう」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
13	Chapter 6 「色で売り上げをアップするために」	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	授業内容を理解した上での応用力の確保を心掛ける(90分)
14	実技課題 「配色計画」	事前配布された課題を確認し計画を立てる(90分)	次回の授業終了時までに課題の完成提出を目指すための工程確認(90分)
15	実技課題 「配色計画」	期間内の提出が可能ないように補充作業を行う(90分)	配色に於ける応用力と実戦力の確認(90分)
16	定期試験 Chapter 4 - 6	テキストの当該範囲を一読すること(90分)	誤答箇所について再確認する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (A) (科目ナンバリング: AEA211006)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		

概要

履修目標	<p>本科目は、デザイン学科のディプロマ・ポリシー1.(1)2.(1)(2), 3.(2)に対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 質感・量感の描き方を理解する。 陰影と固有色の描き分けを理解する。 																					
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)と(2)」と(3)、「2(2)と(4)」に対応する。																					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 基本形体の描法を身につけることができる。 細部表現を身につけることができる。 																					
授業全体の内容と概要	立方体・円柱・円錐・球体などの基本形体を基に正確な描写を行った後、石膏像頭像を描く。																					
授業の方法	プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。																					
資格指定科目	教職課程(美術) 選択必修科目																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられ、ことを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの区分が出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしようとして言えた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (A) (科目ナンバリング: AEA211006)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館 7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション デッサンのための用具の説明や目的について授業の流れについての説明	シラバスを読んでおくこと (45分)	
2	立方体 (幾何形体) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	立方体 (幾何形体) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
4	立方体の箱を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	レンガとブロックを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
6	レンガとブロックを描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	円柱 (幾何形体) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
8	焼き丸太を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	バケツとタオルを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
10	バケツとタオルを描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	ビール瓶とグラスを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
12	ビール瓶とグラスを描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	球体 (幾何形体) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
14	紙風船を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	サッカーボール (白と黒) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
16	サッカーボール (赤と黒) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (白い布で覆う) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
18	石膏像 (白い布で覆う) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (白い布で覆う) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
20	石膏像 (頭像) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
22	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
24	石膏像 (頭像) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
26	石膏像 (頭像) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
28	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
30	石膏像 (頭像) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと (45分)
32	採点及び講評会を行う (解説・フィードバック)	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (B) (科目ナンバリング: AEA211006)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		

概要

履修目標	<p>本科目は、デザイン学科のディプロマ・ポリシー1.(1)2.(1)(2), 3.(2)に対応する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 質感・量感の描き方を理解する。 陰影と固有色の描き分けを理解する。 												
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)と(4)」に対応する。												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 基本形体の描法を身につけることができる。 細部表現を身につけることができる。 												
授業全体の内容と概要	立方体・円柱・円錐・球体などの基本形体を基に正確な描写を行った後、石膏像頭像を描く。												
授業の方法	プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。												
資格指定科目	教職課程(美術) 選択必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えらるることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられている	ほぼバランスよく配置されている	大きさ等が大体捉えられている	左右上下にバランスよく配置されている	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ている	ほぼ光の方向が表現出来ている	明るい、暗いの区分が出来ている	明暗で表現している	輪郭線等で囲って色を付けている
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ている	陰で立体表現が出来ている	光の流れで立体表現をしようと言える	色の濃淡で表現している	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいる

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (B) (科目ナンバリング: AEA211006)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション デッサンのための用具の説明や目的について授業の流れについての説明	シラバスを読んでおくこと (45分)	
2	立方体 (幾何形体) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	立方体 (幾何形体) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
4	立方体の箱を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	レンガとブロックを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
6	レンガとブロックを描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	円柱 (幾何形体) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
8	焼き丸太を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	バケツとタオルを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
10	バケツとタオルを描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	ビール瓶とグラスを描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
12	ビール瓶とグラスを描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	球体 (幾何形体) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
14	紙風船を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	サッカーボール (白と黒) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
16	サッカーボール (赤と黒) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (白い布で覆う) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
18	石膏像 (白い布で覆う) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (白い布で覆う) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
20	石膏像 (頭像) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
22	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
24	石膏像 (頭像) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
26	石膏像 (頭像) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
28	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (頭像) を描く	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	
30	石膏像 (頭像) を描く		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (頭像) を描く 作品画像を保存	題材となるモチーフの構想を練っておくこと (45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと (45分)
32	採点及び講評会を行う (解説・フィードバック)	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (A) (科目ナンバリング: AEA211007)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		

概要

履修目標
デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)と(4)」に対応する。

到達目標
モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度の養成をする。

授業全体の内容と概要
デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。

資格指定科目
教職課程(美術) 選択必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (A) (科目ナンバリング: AEA211007)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館 7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと (45分)	
2	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
4	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
6	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像を保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
8	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
10	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
12	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
14	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
16	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
18	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
20	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
22	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
24	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
26	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
28	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
30	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
32	採点及び講評会 (解説・フィードバック)	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (B) (科目ナンバリング: AEA211007)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		

概要

履修目標
デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)と(4)」に対応する。

到達目標
モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度の養成をする。

授業全体の内容と概要
デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。

資格指定科目
教職課程(美術) 選択必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられ、大きさを基準とする</td> <td>バランスよく配置や大きさが捉えられていた</td> <td>ほぼバランスよく配置されていた</td> <td>大きさ等が大体捉えられていた</td> <td>左右上下にバランスよく配置されていた</td> <td>左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等</td> </tr> <tr> <td>光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする</td> <td>自然な光の流れが表現出来ていた</td> <td>ほぼ光の方向が表現出来ていた</td> <td>明るい、暗いの描き分けが出来ていた</td> <td>明暗で表現していた</td> <td>輪郭線で囲って色を付けていた</td> </tr> <tr> <td>陰影法を正しく理解できているかを基準とする</td> <td>陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた</td> <td>陰で立体表現が出来ていた</td> <td>光の流れで立体表現をしていた</td> <td>色の濃淡で表現していた</td> <td>輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられ、大きさを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等	光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線で囲って色を付けていた	陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられ、大きさを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等																								
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現していた	輪郭線で囲って色を付けていた																								
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (B) (科目ナンバリング: AEA211007)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館 7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと (45分)	
2	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
4	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
6	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像を保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
8	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
10	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
12	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
14	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
16	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
18	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
20	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
22	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
24	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
26	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
28	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (首像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
30	石膏像 (首像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (首像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
32	採点及び講評会 (解説・フィードバック)	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA212008)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		

概要

履修目標
デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)と(4)」に対応する。

到達目標
モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。

授業全体の内容と概要
デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた	ほぼバランスよく配置されていた	大きさ等が大体捉えられていた	左右上下にバランスよく配置されていた	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ていた	ほぼ光の方向が表現出来ていた	明るい、暗いの描き分けが出来ていた	明暗で表現しているた	輪郭線で囲って色を付けていた
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ていた	陰で立体表現が出来ていた	光の流れで立体表現をしていた	色の濃淡で表現していた	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいた

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA212008)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館 7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーションー シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと (45分)	
2	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
4	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
6	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
8	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
10	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
12	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
14	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
16	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
18	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
20	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
22	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
24	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
26	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
28	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
30	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
32	採点及び講評会 (解説・フィードバック)	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA212009)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。		

概要

履修目標
デザイナーとして、アーティストとして、美術の教員として「デッサン」が全ての基礎基本であることを十分に認識させ、単に技能や知識の向上にとどまらず、美術を愛好し積極的に、学生がそれぞれの専門分野に活かそうとする態度を養うこと。

授業の位置づけ
デザイン学科DP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)と(4)」に対応する。

到達目標
モチーフのかたちを客観的に把握できるようにすること。素描の楽しさや重要性について理解できる。卒業後の社会での生活を想定した専門性に関する意識の高揚と実践的態度を養成する。

授業全体の内容と概要
デッサンの材料・用具・その要素としてのプロポーション・明暗・質感・空間表現などについての実習。

授業の方法
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	80%	0%	0%	20%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	80%	0%	0%	20%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする</td> <td>バランスよく配置や大きさが捉えられている</td> <td>ほぼバランスよく配置されている</td> <td>大きさ等が大体捉えられている</td> <td>左右上下にバランスよく配置されている</td> <td>左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等</td> </tr> <tr> <td>光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする</td> <td>自然な光の流れが表現出来ている</td> <td>ほぼ光の方向が表現出来ている</td> <td>明るい、暗いの描き分けが出来ている</td> <td>明暗で表現している</td> <td>輪郭線等で囲って色を付けている</td> </tr> <tr> <td>陰影法を正しく理解できているかを基準とする</td> <td>陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ている</td> <td>陰で立体表現が出来ている</td> <td>光の流れで立体表現をしている</td> <td>色の濃淡で表現している</td> <td>輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられている	ほぼバランスよく配置されている	大きさ等が大体捉えられている	左右上下にバランスよく配置されている	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等	光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ている	ほぼ光の方向が表現出来ている	明るい、暗いの描き分けが出来ている	明暗で表現している	輪郭線等で囲って色を付けている	陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ている	陰で立体表現が出来ている	光の流れで立体表現をしている	色の濃淡で表現している	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいる												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられていることを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられている	ほぼバランスよく配置されている	大きさ等が大体捉えられている	左右上下にバランスよく配置されている	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等																																				
光の方向や陰影の濃淡等が分かりやすく表現できているかを基準とする	自然な光の流れが表現出来ている	ほぼ光の方向が表現出来ている	明るい、暗いの描き分けが出来ている	明暗で表現している	輪郭線等で囲って色を付けている																																				
陰影法を正しく理解できているかを基準とする	陰と投影を正しく理解し描き分けられている。質感の表現も出来ている	陰で立体表現が出来ている	光の流れで立体表現をしている	色の濃淡で表現している	輪郭の中に単色の調子を塗り込んでいる																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	デッサン (科目ナンバリング: AEA212009)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館 7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即してデッサンについて教授する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	オリエンテーションー シラバスの説明 デッサンのための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと (45分)	
2	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
3	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
4	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
5	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
6	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
7	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
8	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
9	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
10	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
11	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
12	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
13	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
14	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
15	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
16	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
18	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
19	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
20	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
21	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
22	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
23	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
24	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
25	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
26	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
27	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
28	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
29	石膏像 (胸像) のデッサン	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	
30	石膏像 (胸像) のデッサン		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
31	石膏像 (胸像) のデッサン 作品画像の保存	作品集等の書籍・資料を参考に構想を練っておくこと (45分)	作品提出へ向けて取り組み準備を始めること (45分)
32	採点及び講評会 (解説・フィードバック)	講評会の準備を行うこと (45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング: FAH211010)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
美術作品はその育まれた社会思想に絶大な影響を受けてきた。絵画の理念がどのような変遷を遂げ発展してきたかを理解し、自らの新しい概念を打ち立てる可能性を考える。学んだことを自らの制作にどのように生かすかを考える。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)」、「2(1)と(2)と(4)」に対応する。

到達目標
速読ができる。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築できる。正しい本の読み方さえ身につけば、知識はそれについてくることを実感する。近代絵画がどのような理念のもとに生まれたかを理解できる。美術史を題材として、論述ができるようになる。

授業全体の内容と概要
西洋美術の大きな流れや個々の美術の特徴の理解、知識と共に、鑑賞力や観察力など感性の構築を目指す。レジメを初めとする、レポート作成の能力の強化を目指す。

授業の方法
数人の学生に各章の内容を要約したレジメ(書かれた内容で重要だと思われる箇所を1ページから2ページにまとめたもの)を書いてもらいます。誰が作成するかは事前に指名することとします(ボランティア制)。各学生は割り当てられたレジメをE-mailで送ってください。この時、Wordのファイルが望ましいです。レジメはコピーされ、受講者全員に配布されます。配布資料を元に、各学生に担当前をみん前の前で発表してもらいます。人前での発表が苦手の人に強制することはありません。レジメには最初に各章のテーマと結論を書き、次に著者がいかなる事実を根拠として、テーマを解説しているか書き、最後に、上記の内容についての皆さんの感想、意見、反論などをまとめてください。質問は随時受け付けます。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、特定の画家、美術概念について、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の事由がない限り、不可とします。デザイン科の学生は職入肌の人が多く、完璧を求める傾向が強いようです。レジメの作成では、必要最少限の労力で最大限の効果を上げることを目指してください。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にてきた。	各章のレジメ作成3時間以内にてきた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理がー応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着た。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識の修得が出来なかった。
自主性	発表回数多数回達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『近代絵画史(上)』	高階 秀爾	中央公論新社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	2Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング: FAH211010)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、今後の授業の指針の説明と成績評定に関する質疑	シラバスを読む。(90分)	レジメの作り方の確認(90分)
2	近代絵画の始まり	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
3	ロマン派の風景画	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
4	新古典主義とロマン主義	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
5	写実主義の擡頭	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
6	近代性の追求	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
7	印象派の登場	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
8	印象派の画家たち	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
9	印象派の超克	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
10	新印象派	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
11	象徴主義と総合主義	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
12	ゴッホの時代	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
13	モンマルトルの画家たちとナビ派	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
14	各章のレジメを前提としたレポートの書き方 その1	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
15	各章のレジメを前提としたレポートの書き方 その2	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
16	自由課題発表日、「レポートの解説、フィードバック」	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング: FAH211011)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	速読術の習得とレジメ作成能力の構築する。現代にいたる様々な美術を感じ取り、理解できるようになる。美術様式の歴史の流れを理解する。
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)」、「2(1)と(2)と(4)」に対応する。

到達目標	速読ができる。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築できる。正しい本の読み方さえ身につけば、知識はそれについてくることを実感する。近代絵画がどのような理念のもとに生まれたかを理解できる。美術史を題材として、論述ができるようになる。
授業全体の内容と概要	後期印象派以降のヨーロッパの絵画運動の動向を見ていきます。

授業の方法	本講義の注意事項は西洋美術史1の内容と同じです。板書等を活用し講義形式で行います。学生の皆さんには西洋美術を学ぶだけでなく、自らが考える姿勢、自らの美術観を身に付けてもらいたく思います。質問は随時受け付け、フィードバックします。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																		

履修上の注意事項	出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、特定の画家、美術概念について、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の理由がない限り、不可とします。
資格指定科目	

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にてきた。	各章のレジメ作成3時間以内にてきた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理が一応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識を習得できなかった。
自主性	発表回数多数回達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『近代絵画史(下)』	高階 秀爾	中央公論新社			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	4Q	授業形態	講義	必修・選択	必修
科目名称	西洋美術史 (科目ナンバリング: FAH211011)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	レジメの作り方の確認(90分)
2	世紀末絵画	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
3	ドイツ表現主義	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
4	マティスとフォーヴィズム	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
5	フォーヴの擡頭	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
6	ピカソとキュビズム	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
7	キュビズムの画家たち	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
8	幻想の系譜	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
9	エコール・ド・パリ	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
10	機械文明への賛美と反撥	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
11	シュールレアリスム	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
12	パウハウスとその周辺	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
13	抽象絵画への道	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
14	自由課題発表日	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
15	各章のレジメを前提としたレポートの書き方(その1)	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)
16	まとめ・復習 そしてレポートの作成法(その2)	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	レジメの検証(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング: AEA211012)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践的な指導を行う。		

概要

履修目標	立体の構成原理を活用し、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。												
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。												
授業全体の内容と概要	授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方学ぶ。												
授業の方法	スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。												
資格指定科目	教職課程(美術・工芸)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
2.4回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。評価は作品点(40%)、ポートフォリオ点(30%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形である。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、活用している。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を活用しようと試みている。	作品が自立し、構造的にも安定している。	作品が自立せず、立体として成立していない。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品に加え、スケッチや文章等も取り入れたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協調性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美の構成学』バウハウスからフラクタルまで	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	1Q	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング: AEA211012)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	彫刻家として国内外で活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践的な指導を行う。 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	
2	立体構成とは何か		ポートフォリオ作成(45分)
3	立体構成基礎1 四角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事(45分)	
4	立体構成基礎1 四角形		ポートフォリオ作成(45分)
5	立体構成基礎2 三角形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事(45分)	
6	立体構成基礎2 三角形		ポートフォリオ作成(45分)
7	立体構成基礎3 円形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事(45分)	
8	立体構成基礎3 円形		ポートフォリオ作成(45分)
9	立体構成基礎4 不定形	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事(45分)	
10	立体構成基礎4 不定形		ポートフォリオ作成(45分)
11	紙の加工法1 切る・組み合わせる	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
12	紙の加工法1 切る・組み立てる		ポートフォリオ作成(45分)
13	紙の加工法2 折る・貼る・組み合わせる	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
14	紙の加工法2 折る・貼る・組み合わせる		ポートフォリオ作成(45分)
15	構成原理より1 リビテーション	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
16	構成原理より1 リビテーション		ポートフォリオ作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	構成原理より2 シンメトリー	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
18	構成原理より2 シンメトリー		ポートフォリオ作成(45分)
19	構成原理より3 アシンメトリー	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
20	構成原理より3 アシンメトリー		ポートフォリオ作成(45分)
21	構成原理より4 アクセント	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
22	構成原理より4 アクセント		ポートフォリオ作成(45分)
23	構成原理より5 ハーモニー	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
24	構成原理より7 ハーモニー		ポートフォリオ作成(45分)
25	構成原理より8 ハーモニー	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
26	構成原理より8 ハーモニー		ポートフォリオ作成(45分)
27	構成原理の活用1	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
28	構成原理の活用1		ポートフォリオ作成(45分)
29	構成原理の活用2	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
30	構成原理の活用2		ポートフォリオ作成(45分)
31	ポートフォリオ展	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	
32	ポートフォリオ展		講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング: AEA211013)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践的な指導を行う。		

概要

履修目標												
立体の構成原理を活用し、構造的にも安定した美しい作品を制作することが出来る。												
授業の位置づけ												
デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標												
立体の基本的な構成原理を活用し、作品を制作することが出来る。												
授業全体の内容と概要												
授業毎に設定された課題を基に、立体作品の制作を行いながら実践的に立体の構成原理を学ぶ。また、作品の見せ方、発表の仕方学ぶ。												
授業の方法												
スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポートフォリオを作成し提出する。また自由制作「音を形に」では、作品プレゼンテーションも行う。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
制作した作品は毎回撮影して保存し、最終的にはポートフォリオにまとめて提出すること。必要な材料、用具を事前に指示するので、各自忘れずに用意すること。 「立体構成」の展開講座のため、立体構成を履修済みの者が対象。												
資格指定科目												
教職課程(美術・工芸)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
2.4回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポートフォリオが提出されない場合は評価の対象としない。評価は作品点(40%)、ポートフォリオ点(30%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。また遅刻3回で欠席1回と見做す。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
立体の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、上手く活用しており、美しい造形である。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、デザイン原理を理解し、活用している。	作品が自立し、構造的にも安定している。またデザイン原理を活用しようとしている。	作品が自立し、構造的にも安定している。	作品が自立せず、立体として成立していない。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポートフォリオを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めたポートフォリオを作成した。	制作した作品を収めずポートフォリオを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『美の構成学 パウハウスからフラクタルまで』	三井秀樹	中公新書	1996	4121012968	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	立体構成 (科目ナンバリング: AEA211013)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	彫刻家として国内外で活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践的な指導を行う。 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	
2	素材について		ポートフォリオ作成(45分)
3	素材研究1 線材1	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事(45分)	
4	素材研究1 線材1		ポートフォリオ作成(45分)
5	素材研究2 線材2	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事(45分)	
6	素材研究2 線材2		ポートフォリオ作成(45分)
7	素材研究3 線材3	課題に関連するドローイングやスケッチ、エスキース等を描いてくる事(45分)	
8	素材研究3 線材3		ポートフォリオ作成(45分)
9	素材研究4 面1	構成原理について調べてくる事(45分)	
10	素材研究4 面1		ポートフォリオ作成(45分)
11	素材研究5 塊1 彫像	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
12	素材研究5 塊1 彫像		ポートフォリオ作成(45分)
13	素材研究6 塊2 塑像1	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
14	素材研究6 塊2 塑像1		ポートフォリオ作成(45分)
15	素材研究7 塊3 塑像2	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
16	素材研究7 塊3 塑像2		ポートフォリオ作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	構成の応用1 (課題説明)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
18	構成の応用1 (課題説明)		ポートフォリオ作成(45分)
19	構成の応用2	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
20	構成の応用2		ポートフォリオ作成(45分)
21	構成の応用3	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
22	構成の応用3		ポートフォリオ作成(45分)
23	構成の応用4	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
24	構成の応用4		ポートフォリオ作成(45分)
25	構成の応用5	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
26	構成の応用5		ポートフォリオ作成(45分)
27	構成の応用6	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
28	構成の応用6		ポートフォリオ作成(45分)
29	応用作品 作品プレゼンテーション	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
30	応用作品 作品プレゼンテーション		ポートフォリオ作成(45分)
31	ポートフォリオ展	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	
32	ポートフォリオ展		講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	デザイン概論 (D) (科目ナンバリング: DES211014)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校に勤務し、学校のデザイン業務全般を担当した実務経験。またフリーランスで行ったグラフィックデザインの実務経験を元に、デザインの概論について講義を行う。		

概要

履修目標	デザインにおける基礎的な知識・技術の概要を修得し、デザインへの見識を深める。												
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、表現することができる。 デザインの基礎的な知識を元に、デザインについて考察を述べることができる。												
授業全体の内容と概要	グラフィックデザインを中心に、課題を通して手を動かしながら学ぶ。												
授業の方法	授業はパワーポイント及び配布物資料で講義を行った後、講義内容の理解を深めるために課題制作の時間を設け、課題発表及び講評会を実施する。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	出席を重視し、レポート・課題作品において評価する。												
資格指定科目	教職課程科目(美術・工芸)の選択必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	20%	40%	0%	0%	40%

ルーブリック	評価基準					
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
デザインの基礎的な知識・技術の理解	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組み、完成度の高い作品を仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組み、良質な作品を仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組み、作品を仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組んだ。	デザインの基礎的な知識・技術を理解できず、課題ができなかった。	
課題発表	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を論理的かつ明確に述べることができた。	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を論理的に述べることができた。	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を適切に述べることができた。	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を大まかに述べることができた。	課題について、制作意図を述べることができなかった。	
デザインについての考察(レポート)	デザインについて、知識を元に自分の考えを理論立てて、多様な観点から記述することができた。	デザインについて、知識を元に自分の考えを理論立てて記述することができた。	デザインについて、知識を元にある程度自分の考えを記述することができた。	デザインについて自分の考えを記述することができた。	デザインについて記述できなかった。	

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	デザイン概論 (D) (科目ナンバリング: DES211014)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 高等学校に勤務し、学校のデザイン業務全般を担当した実務経験、またフリーランスで行ったグラフィックデザインの実務経験を元に、デザインの概論について講義を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読んでもらうこと(90分)	デザインの定義について調べておくこと(90分)
2	デザインとは何か	デザインとは何かについて考察しておくこと(90分)	デザインとは何かについて理解を深めておくこと(90分)
3	タイポグラフィ	タイポグラフィとは何か調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
4	タイポグラフィ	タイポグラフィとは何か調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
5	タイポグラフィ	タイポグラフィの作品コンセプトをまとめておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
6	タイポグラフィ	書体について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
7	タイポグラフィ	書体について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
8	タイポグラフィ	タイポグラフィの知識をまとめておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
9	タイポグラフィ	タイポグラフィの知識をまとめておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
10	印刷とデザイン	印刷について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
11	印刷とデザイン	印刷について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
12	紙とデザイン	紙とデザインの関連性を調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
13	紙とデザイン	紙とデザインの関連性を調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
14	本とデザイン	本とデザインの関連性を調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
15	本とデザイン	本のデザインについて調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
16	レポートに対するフィードバック	レポート発表の準備をしておくこと(90分)	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎デザイン (科目ナンバリング: DES221016)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		

概要

履修目標	デザイナーになる為に必要な基礎デザインの技術を習得する。頭の中に形を形成出来るようにして、そのイメージを第三者へ伝達、表現出来るようにする。また、自己レベル認識を持てるようにする。																								
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)」、「(3)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	モノの形を正確に認識出来、脳内に形を形成出来るようにして、自分のイメージや意図を第三者に伝えられる事を習得する。																								
授業全体の内容と概要	学生の脳内に形が形成出来るように、色々な製品の鉛筆スケッチを行う。既製品をモチーフにスケッチするが、後半は自分の想像(脳内のイメージ)スケッチを行う。完成した作品は自分の意図したポイントを発表して第三者と意見交流をする。																								
授業の方法	身の回りにある製品やイメージしたものを鉛筆を使ってデザインスケッチする。自分の作品の意図したところをプレゼンテーションして第三者の意見を考察する。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。三菱鉛筆のハイユニのA4-B4を使って、A3ケント紙に鉛筆スケッチする。課題を持ち帰る為にカルトンが必要。鉛筆とカルトンを用意してください。一回目の授業時にトイレットペーパーロールを用意してください。																								
資格指定科目	教職課程(美術・工芸)必修科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上 課題提出は全点必ず。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
形を正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現できる事。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	モノの形を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として表現できる。	モノの形を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として幸うじて表現できる。	モノの形を捉えられない。頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
材質を正確に捉え、頭の中に形成出来て、それを紙に表現できる事。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	材質感を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。	材質感を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として幸うじて表現できる。	材質感を捉えられない。頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。
架空のモノを頭の中に塗り上げ、手を通して紙に表現出来る事。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として完璧に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、完全に頭の中に描くことができる。それを絵として上手に表現できる。	想像物を正確に捉えられ、頭の中に描くことができる。	想像物を捉えられ、頭の中に描くことができる。それを絵として幸うじて表現できる。	想像物を捉えられない。頭の中に描くことが出来ない。それを絵として表現出来ない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	2Q	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎デザイン (科目ナンバリング: DES221016)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業でデザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義です。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 デザインとは? 基本形1 鉛筆デザインスケッチ	シラバスを読んでおく。(90分)、トイレットペーパーロールを持参する。	要求された課題を作成する。(90分)
2	基本形1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
3	想像形1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
4	想像形1 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
5	基本形2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
6	基本形2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
7	想像形2 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
8	想像形2 鉛筆デザインスケッチプレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
9	基本形3 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
10	基本形3 鉛筆デザインスケッチ、想像形3 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
11	想像形3 鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
12	基本形4 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
13	基本形4 鉛筆デザインスケッチ、想像形4 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
14	想像形4 鉛筆デザインスケッチ	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
15	想像形4 鉛筆デザインスケッチ、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
16	デザイン概念 総評 改善アンケート	要求された課題を作成する。(90分)	全授業を俯瞰して、今後の行動計画を建てる。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎デザイン (科目ナンバリング: DES221017)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義である。		

概要

履修目標
モノ、コト、商品等をデザインするデザイナーになる為に必要な基礎デザインの技術を平面構成しながら学び、習得する。 又、第三者との意思疎通方法を習得する。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(2)」、「(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
デザインの原点たる、色彩、構成、可視化を理解し、第三者に自分の意志を伝達する技術を習得する。

授業全体の内容と概要
平面構成を通して人間が感じるメッセージを発想する力、表現力を習得し色彩、形、モノが発する力や印象を勉強し、想像力を習得する。

授業の方法
平面構成を通して、モノの成り立ちを理解する。自分の脳内に映像や立体が組み立てられるようにする。創造したイメージを手を使って可視化し、第三者に自分の意図をプレゼンテーションして意思疎通技術を学ぶ。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
積み重ねの学習になる為、欠席しないように。ついていけなくなる。10回以上、受講するように。5回以上休むと、履修不可。 平面構成ではアクリル絵の具24色と面相筆、平筆、パレット、ペンチングナイフ、ケント紙A3を用意。またはマックブックプロPC、アドビ社のイラストレーター、フォトショップをインストール。 画材を使用するか、PCを使用するかは選択。アナログを選択する場合はカルトンも用意の事。(課題の持ち帰りの為)

資格指定科目
教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
色彩心理学を取得する。	色彩を使って課題を完璧に表現出来ていた。	色彩を使って課題を上手に表現出来ていた。	色彩を使って課題を表現出来ていた。	色彩を使って課題を辛うじて表現出来ていた。	色彩を使って課題を表現出来ていなかった。
構成心理学を取得する。	構成を使って課題を完璧に表現出来ていた。	構成を使って課題を上手に表現出来ていた。	構成を使って課題を表現出来ていた。	構成を使って課題を辛うじて表現出来ていた。	構成を使って課題を表現出来ていなかった。
課題をイメージ構築出来て、手を通して可視化できる。	イメージを構築出来て、可視化も完璧に出来ていた。	イメージを構築出来て、可視化も上手に出来ていた。	イメージを構築出来て、可視化も出来ていた。	イメージを辛うじて構築出来て、可視化も辛うじて出来ていた。	イメージを構築出来ない、可視化も出来ていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	4Q	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	基礎デザイン (科目ナンバリング: DES221017)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 デザイン実務40年間の実績を活かした基礎デザイン講義である。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 デザインとは 平面構成、課題1 テーマ発表 着想	シラバスを読んでおくこと。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
2	課題1 作成	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
3	平面構成1 作成プレゼンテーション 課題2 発表	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
4	課題2 作成	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
5	課題2 作成、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
6	課題3 発表 課題3 作成	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
7	課題3 作成	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
8	課題3 作成、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
9	課題4 発表 作成	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
10	課題4 作成	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
11	課題4 作成、プレゼンテーション	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
12	課題5 発表	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
13	課題5 作成	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
14	課題5 作成、プレゼンテーション、ポートフォリオ作成	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
15	課題5 プレゼンテーション、ポートフォリオ作成	要求された課題を作成する。(90分)	要求された課題を作成する。(90分)
16	まとめ 総評 改善アンケート	要求された課題を作成する。(90分)	全体を俯瞰して今後の行動計画を考える。(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デジタルデザイン (科目ナンバリング: DES222020)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

概要

履修目標	コンピュータを用いてデザインの基礎の学び、表現手法を修得する。							
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)」、「(3)」、「2(2)」に対応する。							
到達目標	Adobe社Illustratorを使用し、学生が作品制作のスキルを修得できる。							
授業全体の内容と概要	基本機能からレイヤー、グラデーション、テキスト処理など、演習を通して学ぶ。							
授業の方法	授業では、各ステップに渡った内容のプリントを配布し、PCの操作によりプロジェクターに投影し解説する。ステップごとの課題に対してそれぞれを解決しながら学習する。提出された課題をプレゼンテーションを通して評価しフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	デザイン学科デザイン専攻は推奨し、アート専攻のみ選択履修可能である。積み重ねの学習となるため、欠席しないようにすること。							
資格指定科目	教職課程(美術) 選択科目							

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
PCの基本的操作スキル	パーソナルコンピュータ(PC)を、十分適切に使うことができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を、適切に使うことができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を概ね使うことができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を最低限使うことができた。	パーソナルコンピュータ(PC)を使うことができなかった。
ソフトウェアの操作スキル	学習したコンピュータソフトを十分使うことができた。	学習したコンピュータソフトを適切に使うことができた。	学習したコンピュータソフトを概ね使うことができた。	学習したコンピュータソフトを最低限使うことができた。	学習したコンピュータソフトを使うことができなかった。
学習したソフトを利用した作品の制作	自分が表現したい作品を十分制作できた。	自分が表現したい作品を制作できた。	自分が表現したい作品を概ね制作できた。	自分が表現したい作品を最低限制作できた。	自分が表現したい作品を制作できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『オリジナルプリントを配布』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『入門CGデザイン』					
2	『Adobe Illustrator CC解説書』					
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デジタルデザイン (科目ナンバリング: DES222020)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館 7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	シラバスの説明 PC (Macintosh) の基本操作及びPCの構造について	PCについての語句を調べておくこと (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
2	ペンツールとベジェ曲線の解説と操作	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
3	メニューの解説と描画、オブジェクトの拡大、縮小、回転などの基本操作	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
4	パスの連結、ブレンドツールの修得	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
5	線画の描画1の修得	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
6	線画の描画2の修得及びパスファインダの操作	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
7	レイヤーを利用したマップのデザイン	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
8	テキスト処理の基本	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
9	紙面のデザイン制作	プリントを予習すること (90分)	授業の内容を復習すること (90分)
10	下絵の取り込みと配置	下絵を完成させること (90分)	デジタル作品の制作を行うこと (90分)
11	デジタル作品の制作1	デジタル作品の制作を行うこと (90分)	デジタル作品の制作を行うこと (90分)
12	デジタル作品の制作2	デジタル作品の制作を行うこと (90分)	デジタル作品の制作を行うこと (90分)
13	デジタル作品の制作3	デジタル作品の制作を行うこと (90分)	デジタル作品の制作を行うこと (90分)
14	デジタル作品の制作4	デジタル作品の制作を行うこと (90分)	デジタル作品の制作を行うこと (90分)
15	プレゼンテーション	レジュメの準備をすること (90分)	フィードバックするので、自己評価をすること (90分)
16	作品返却 講評 まとめ	全授業の振り返りを行う (90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デジタルデザイン (科目ナンバリング: DES222021)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

概要

履修目標																								
コンピュータを用いたデザインの基礎の学び、表現手法を修得し、オリジナルの作品を制作できる。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP「1(2)」、「(3)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標																								
画像処理ソフトAdobe社Photoshopを使用し、学生が画像処理及び作品制作のスキルを修得できる。																								
授業全体の内容と概要																								
基本機能からフォトレタッチ、色調補正、テキスト処理などの画像処理の方法を学ぶ。																								
授業の方法																								
授業では、各ステップに渡った内容のプリントを配布し、PCの操作によりプロジェクターに投影し解説する。ステップごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、その評価をフィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
デザイン学科のデザイン専攻・アート専攻のみ履修可能である。積み重ねの学習となるため、欠席しないようにすること。																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	30%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ソフトウェアの理解	各種機能を十分理解している。	各種機能を理解している。	各種機能を概ね理解している。	各種機能を最低限理解している。	各種機能を理解していない。
ソフトウェアの操作スキル	学習したコンピュータソフトを適切に使うことができる。	学習したコンピュータソフトを使うことができる。	学習したコンピュータソフトを概ね使うことができる。	学習したコンピュータソフトを最低限使うことができる。	学習したコンピュータソフトを使うことができない。
学習したソフトを利用した作品の制作	自分が表現したい作品を十分制作できる。	自分が表現したい作品を制作できる。	自分が表現したい作品を概ね制作できる。	自分が表現したい作品を最低限制作できる。	自分が表現したい作品を制作できない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『入門CGデザイン』					
2	『Adobe Photoshop CC解説書』					
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デジタルデザイン (科目ナンバリング: DES222021)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 画像処理の基本について	シラバスを読み、画像処理を調べておくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
2	画像解像度、ファイル形式について	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
3	選択範囲について	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
4	イラストレータとの統合処理	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
5	フォトタッチ	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
6	色調補正(レベル補正, トーンカーブ)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
7	テキスト処理	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
8	レイヤーアニメーション	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
9	チャンネル、マスク処理の応用	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
10	フィルター処理の応用	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
11	課題作品制作1	課題作品のラフを完成すること(90分)	課題作品の制作を行うこと(90分)
12	課題作品制作2	課題作品のラフを完成すること(90分)	課題作品の制作を行うこと(90分)
13	課題作品制作3	課題作品のラフを完成すること(90分)	課題作品の制作を行うこと(90分)
14	課題作品制作4	課題作品のラフを完成すること(90分)	課題作品の制作を行うこと(90分)
15	プレゼンテーション	レジユメの準備をすること(90分)	フィードバックするので、自己評価をすること(90分)
16	作品返却 講評	全授業の振り返りを行う(90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング: AEA221032)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。		

概要

履修目標																					
イラスト制作に必要なさまざまな画材の使い方、表現方法などを基礎から学び習得する。																					
授業の位置づけ																					
デザイン学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。																					
到達目標																					
各画材の性質、多様な表現方法を習得して更なる独自のイラスト制作の技術向上に繋げることができる。																					
授業全体の内容と概要																					
透明水彩、アクリル絵の具を使用して各課題を製作しながら様々なイラスト表現を身につける。																					
授業の方法																					
各課題ごとに課題説明書記載の画材類を毎回持参して授業内で作業を行い、作品提出がある。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
遅刻3回で欠席1回とみなす。																					
資格指定科目																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲及び授業態度	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度である。	授業の事前事後学習を進め真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいる。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいる。	授業課題に取り組みながらも制作意欲が乏しい。	授業に対する意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けている。
イラスト表現に於ける画材の知識及び理解	授業内容に積極的に真実に取り組み、知識の習得と理解度を深めている。	授業内容に真実に取り組み、授業内容を充分理解している。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解している。	授業内容への最低限の理解のみがみられる。	授業内容を理解していない。
イラスト表現への研究及び習得	授業内容を深く理解して研究心、習得への向上心が著しくあり実践的にも優れている。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっている。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得している。	授業内容への最低限の理解のみがみられる。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠ける。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マイワーク31』	北海道イラストレーターズクラブアルファ		2019年		
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング: AEA221032)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 デザイン業界で長年に携わる実務経験者が実践に促した実務を行う。			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(イラストについての全般的な講義、イラストレーターの仕事、画材類について)。シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	
2	オリエンテーション(イラストについての全般的な講義、イラストレーターの仕事、画材類について)。シラバスの説明。		講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。	配布資料を読み画材の特性を理解しておくこと。(45分)	
4	各画材の実践的使用をイラスト見本に合わせて実技を披露することで画材の使い方や特徴を習得。		各画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
5	透明水彩絵具を使用して色の作製、画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。	課題説明書を読み学習内容をイメージしておくこと。(45分)	
6	透明水彩絵具を使用して色の作製、画材の特徴を体験しながら描き方を研究。イラストラフ制作。		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
7	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業 1	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	
8	ラフ完成後トレースして透明水彩で着色作業 1		作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
9	透明水彩で着色作業 2。作品提出。	透明水彩による着色作業の準備をしておくこと。(45分)	
10	透明水彩で着色作業 2。作品提出。		実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
11	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色作業 1。	課題説明書を読み線画イラストの構想を練っておくこと。(45分)	
12	線画イラストの下絵制作。ラフ制作後に透明水彩で着色作業 1。		作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 2。	イラストラフ制作を進めておくこと。(45分)	
14	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 2。		作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 3。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出	作品のプレゼンテーションに向けて準備をしておくこと。(45分)	
16	線画イラストを制作して透明水彩で着色作業 3。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出		実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。	教科書・参考文献等を活用し、アクリル絵具について調べておくこと。(45分)	
18	アクリル絵具の画材の特性や使用方法を描写し画材研究。		アクリル絵具の画材の特性や使い方を復習しておくこと。(45分)
19	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 1	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	
20	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 1		実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
21	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 2	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと(45分)	
22	アクリル絵具による様々なタッチ表現実習 2		実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
23	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。	参考文献等を活用し、アクリル絵具による表現方法を調べておくこと。(45分)	
24	課題に沿ってアクリル絵具を使用して作品制作過程を習得。		実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。(45分)
25	アクリル画制作・1	制作作業の準備を行い道具の準備をしておくこと。(45分)	
26	アクリル画制作・1		作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
27	アクリル画制作・2	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	
28	アクリル画制作・2		作品提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	アクリル画制作・3	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと。(45分)	
30	アクリル画制作・3		作品最終提出へ向けて取り組みを進めること。(45分)
31	アクリル画制作・4。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。	作品の完成、プレゼンテーションに向けて準備をしておくこと。(45分)	
32	アクリル画制作・4。コンセプトシートを記載してプレゼン後に作品提出。		講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング: AEA221033)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。		

概要

履修目標																								
前期で学んだ画材の特性を活かして、更にイラスト表現の多様性を意識したイラスト制作を目的とする。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP「1(1)(2)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標																								
発想力、デザイン感性、積極的な探究心、研究心を養いクオリティの高い作品を制作できるようになる。																								
授業全体の内容と概要																								
各テーマを意識した制作意図、制作過程に沿ってイラスト表現の多様性を学ぶ。																								
授業の方法																								
各課題に合わせて様々なイラスト表現を研究して、イラストレーションの多様性を実習制作することを通して学ぶ。各課題ごとプレゼン実施、作品提出。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
前期に開講する「イラストレーション基礎」の修得を前提とする。遅刻3回で欠席1回とみなす。																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め、意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度である。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいる	授業課題、内容に真面目に取り組んでいる。	授業課題へ取り組みながらも、制作意欲が乏しい。	授業に対する意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠ける。
イラスト表現における画材の知識および理解。	授業内容に積極的に真実に取り組み、知識の習得と理解度を深めている。	授業内容に真実に取り組み、授業内容を充分理解している。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解している。	授業内容への最低限の理解が見られる。	授業内容を理解していない。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れている。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっている。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得している。	授業内容への最低限の理解が見られる。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠ける。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『マイワーク31』	北海道イラストレーターズクラブアルファ				
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション基礎 (科目ナンバリング: AEA221033)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に促した実習を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 イラストレーションタッチ, 表現研究・1。 コラージュ手法実習・1	シラバスを読んでおくこと。 (45分)	
2	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。 コラージュ手法実習・1		講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
3	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。 コラージュ手法実習・2	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。 (45分)	
4	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。 コラージュ手法実習・2		実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
5	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。 コラージュ手法実習・3	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。 (45分)	
6	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。 コラージュ手法実習・3		作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
7	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。 コラージュ手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	
8	イラストレーションタッチ, 表現研究・1。 ペインティング手法実習・1。		講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
9	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。 ペインティング手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。 (45分)	
10	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。 ペインティング手法実習・1。		実習内容の理解を深めて要点をまとめておくこと。 (45分)
11	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。 ペインティング手法実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。 (45分)	
12	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。 ペインティング手法実習・2。		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。 ペインティング手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	
14	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。 ペインティング手法実習・3。		作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。 ペインティング手法実習・4。作品提出。	作品完成へ向けて準備をしておくこと。(45分)	
16	イラストレーションタッチ, 表現研究・2。 ペインティング手法実習・4。作品提出。		講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。 その他の描写手法実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	
18	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。 その他の描写手法実習・1。		実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
19	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。 その他の描写手法実習・2。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	
20	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。 その他の描写手法実習・2。		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。 その他の描写手法実習・3。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	
22	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。 その他の描写手法実習・3。		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
23	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。 その他の描写手法実習・4。作品提出。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	
24	イラストレーションタッチ, 表現研究・3。 その他の描写手法実習・4。作品提出。		講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
25	オリジナルイラストレーション制作・1 様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	
26	オリジナルイラストレーション制作・1 様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。		実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
27	オリジナルイラストレーション制作・2 様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	
28	オリジナルイラストレーション制作・2 様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。		実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
29	オリジナルイラストレーション制作・3 様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。	作品制作へ向けて準備をしておくこと。(45分)	
30	オリジナルイラストレーション制作・3 様々な画材を使って画材の併用, 多様性の併用を研究。		実習内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)
31	総合プレゼンテーション(各作品についてのプレゼン実施), 作品講評, 作品提出。	作品の完成, プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	
32	総合プレゼンテーション(各作品についてのプレゼン実施), 作品講評, 作品提出。		講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。 (45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	デザイン概論 (科目ナンバリング: DES211015)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	高等学校に勤務し、学校のデザイン業務全般を担当した実務経験。またフリーランスで行ったグラフィックデザインの実務経験を元に、デザインの概論について講義を行う。		

概要

履修目標	デザインにおける基礎的な知識・技術の概要を修得し、デザインへの見識を深める。												
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、表現することができる。 デザインの基礎的な知識を元に、デザインについて考察を述べることができる。												
授業全体の内容と概要	グラフィックデザインを中心に、課題を通して手を動かしながら学ぶ。												
授業の方法	授業はパワーポイント及び配布物資料で講義を行った後、講義内容の理解を深めるために課題制作の時間を設け、課題発表及び講評会を実施する。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	出席を重視し、レポート・課題作品において評価する。 「デザイン概論」の知識が必要であるので、履修・修得を履修の前提とする。												
資格指定科目	教職課程科目(美術・工芸)の選択必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	20%	40%	0%	0%	40%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザインの基礎的な知識・技術の理解	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組み、完成度の高い作品を仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組み、良質な作品を仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組み、作品を仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組んだ。	デザインの基礎的な知識・技術を理解できず、課題ができなかった。
課題発表	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を論理的かつ明確に述べることができた。	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を論理的に述べることができた。	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を適切に述べることができた。	課題について、デザインの知識・技術を元に制作意図を大まかに述べることができた。	課題について、制作意図を述べることができなかった。
デザインについての考察(レポート)	デザインについて、知識を元に自分の考えを理論立てて、多様な観点から記述することができた。	デザインについて、知識を元に自分の考えを理論立てて記述することができた。	デザインについて、知識を元にある程度自分の考えを記述することができた。	デザインについて自分の考えを記述することができた。	デザインについて記述できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	デザイン概論 (科目ナンバリング: DES211015)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 高等学校に勤務し、学校のデザイン業務全般を担当した実務経験、またフリーランスで行ったグラフィックデザインの実務経験を元に、デザインの概論について講義を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 デザインのレイアウト	シラバスを読んでもらうこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
2	デザインのレイアウト	デザインのレイアウトについて調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
3	デザインのレイアウト	デザインのレイアウトについて調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
4	デザインのレイアウト	デザインのレイアウトについて調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
5	デザインのレイアウト	デザインのレイアウトについて調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
6	デザインのレイアウト	レイアウトの作品立案をしておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
7	デザインのレイアウト	作品のコンセプトをまとめておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
8	イラストレーションとデザイン	イラストレーションについて調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
9	イラストレーションとデザイン	イラストレーションについて調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
10	写真とデザイン	写真について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
11	写真とデザイン	写真について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
12	動きとグラフィックデザイン	動きとデザインの関連性を調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
13	動きとグラフィックデザイン	動きとデザインの関連性を調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
14	デザインと企業	企業とデザインの関連性を調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
15	広告デザイン	広告について調べておくこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
16	レポートに対するフィードバック	レポート発表の準備をしておくこと(90分)	フィードバックの内容を受けて、講義全体のふりかえりを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（統合版）（科目ナンバリング：AEA222066）				
授業担当者（所属・職名）	梅田 力（デザイン学科・准教授）	研究室所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：梅田 力）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p>履修目標</p> <p>（金属）：金属（鍍金）の特性を活かした美しい作品を制作することが出来る。 （染色）：広大な染色の世界の一端としての型染めを知る。技法の特質と道具、材料の名称、使用方法を知る。型の連続によるデザインの可能性を知る。 （織）：人間生活に不可欠な「布」の大半が、「織物」であることから「織」についての知識と技術を修得すると同時に、自己のデザイン表現と発想の可能性を広げる。</p>																								
<p>授業の位置づけ</p> <p>デザイン学科のDP「1（1）と（2）」、「2（1）と（2）」に対応する。</p>																								
<p>到達目標</p> <p>（金属）：金属（鍍金）の特性を理解して作品を制作することが出来る。 （染色）：型染めの歴史と特性を知り説明できる。型染めの道具、材料の使用方法和技法の基礎を知り制作ができる。型染め特有のデザインの方法を知り実践できる。 （織）：織という技法について説明できる。数点の作品を完成させる。</p>																								
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>（金属）では、「鍍金」を行う。道具の名称や使用方法を実践を通して学ぶ。制作した作品はポスター（プレゼンテーションボード）にまとめて提出する。 （染色）では、型染めの歴史と技法を学び、自身のデザインで制作に取り組む授業である。オムニバスの少ない授業時間であるが型彫から水元までの型染め全行程を体験する。 （織）では、基本的な織技術を習得する。織機の種類（織技術の工程と技法）（仕上げ法）などを実習する。織の歴史を学ぶ。</p>																								
<p>授業の方法</p> <p>（金属）スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポスターを作成し提出する。 （染色）板書、作例によって歴史と作業の基礎を学び、各自の構想による原画をもとに型染めの制作を行う実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。ここで学ぶ型染めは四方送りの技法である。 （織）指導書と織サンプルを提示、説明の後に実技指導を行う。基本的な織技法の中から学生本人の希望に応じた作品を製作することを原則とする。織機、道具の説明、材料の選択、作業工程説明の後作業中に入る。作業中の説明や質問、要望等には個別に対応、指導に当たる。</p>																								
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他（授業の方法参照）</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）																	
<p>履修上の注意事項</p> <p>（金属）制作した作品は撮影して保存し、最終的にはポスターにまとめて提出すること。 （染色）限られた時数の中で工程数が多いので遅刻、欠席は極力避けることが肝要である。 染料と水を使う作業なので対応する服装を心がける。 （織）・授業時間内で作品が完成しない場合は授業時間外で完成させ提出期限を守る事。・期限に遅れた場合、特別な場合を除き減点の対象となる。・関連する作品展を紹介するので可能な限り見学すること。・見学を授業外学習と認め、見学後のレポート提出で加点の対象とする。</p>																								
<p>資格指定科目</p> <p>教職課程（美術・工芸）必修科目</p>																								

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>（金属）（オムニバス全体で）20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポスターが提出されない場合は評価の対象としない。評価は作品点（40%）、ポスター点（30%）及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」（30%）の基準で行う。講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。 （染色）（オムニバス全体で）20回以上の出席と課題作品の完成、提出を求める。 （織）単位認定に必要な最低出席数は7回以上。</p>																	
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>						定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他												
0%	0%	70%	0%	30%	0%												

<p>ルーブリック</p>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
<p>鍍金の基本的な特性の理解（知識・理解）</p>	<p>金属における道具の使い方を理解し、鍍金技法の特性を活用して美しい作品を制作した。</p>	<p>金属における道具の使い方を理解し、鍍金技法の特性を活用した作品を制作した。</p>	<p>金属における道具の使い方を理解し、鍍金技法による制作した。</p>	<p>鍍金技法を使って作品を制作した。</p>	<p>技法が理解できず、作品を制作できなかった。</p>
<p>編集と発表の能力（思考力・表現力・判断力等）</p>	<p>制作した作品・スケッチ等を秩序立てて編集し、美しくデザインされたポスターを作成した。</p>	<p>制作した作品・スケッチ等を秩序立てて編集し、ポスターを作成した。</p>	<p>制作した作品・スケッチ等を全て取めたポスターを作成した。</p>	<p>制作した作品・スケッチ等のほとんどを取めたポスターを作成した。</p>	<p>制作した作品・スケッチ等を収めずポスターを作成しなかった。</p>
<p>主体的に学習に取り組む態度（主体性・多様性・協働性）</p>	<p>課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。</p>	<p>課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。</p>	<p>課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。</p>	<p>授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。</p>	<p>授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。</p>

教科書・参考文献・資料等

<p>教科書</p>						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

<p>参考文献・資料等</p>						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（統合版）（科目ナンバリング：AEA222066）				
授業担当者（所属・職名）	梅田 力（デザイン学科・准教授）	研究室所在	2号館7階		
単位数	2（単位認定責任者：梅田 力）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	オリエンテーション-シラバスの説明（金属）	シラバスをよく読んでおくこと（45分）	
2	鍛金について		ポスター作成（45分）
3	アイススプーン デザイン案（鍛金）	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（45分）	
4	アイススプーン デザイン案（鍛金）		ポスター作成（45分）
5	アイススプーン （鍛金）	課題に関連するドローイング等を描いてくる事（45分）	
6	アイススプーン （鍛金）		ポスター作成（45分）
7	アイススプーン （鍛金）仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事（45分）	
8	アイススプーン （鍛金）仕上げ		ポスター作成（45分）
9	ポスターセッション （講評）	事前に質問したい事をまとめておく（45分）	
10	ポスターセッション （講評）		講評を再考し、理解を深めること（45分）
11	シラバスの説明（染色）	シラバスをよく読んでおくこと	
12	型染めの歴史、特性、技法の説明 型の図案作成		各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
13	型の図案作成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	
14	型彫り 洋型紙に図案を彫る		各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
15	型彫り	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	
16	型彫り 糊を作り生地に置く		各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	染色 色糊を作り、型の上から引く	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	
18	染色		各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
19	蒸し、水元、定着	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	
20	完成作品発表・講評		作品を持ち帰り、鑑賞、使用、反省すること
21	シラバスの説明 ・織物概論（歴史・現状） ・織機、道具の説明	シラバスを読んでどんな作品を織るか考えておくこと（45分）。	
22	作品No.1 ・平織群の中から1種類選択（例：ベルト、テーブルマット、シャギーマット等）		関連する作品集や作品展を参考にしながら作品No.1の作業遅れを取り戻す（45分）。
23	作品No.1 ・ウィーヴィングレポート作成、整理、機上げ	関連する作品集や作品展で学ぶ（45分）。	
24	作品No.1 製織作業		作品No.1の作業遅れを取り戻す（45分）。
25	作品No.1 製織作業	関連する作品集や作品展で学びつつ、作品No.2について考える（45分）。	
26	作品No.1 仕上げ作業		作品No.2の素材準備（45分）。
27	作品No.2 ・ウィーヴィングレポート作成、整理、機上げ	関連する作品集や作品展で学ぶ（45分）。	
28	作品No.2 製織作業		作品No.2の作業遅れを取り戻す（45分）。
29	作品No.2 製織作業	関連する作品集や作品展で学ぶ（45分）。	
30	作品No.2 製織作業		作品No.2の作業遅れを取り戻す（45分）。
31	作品No.2 仕上げ作業	関連する作品集や作品展で学ぶ（45分）。	
32	作品No.2 仕上げ作業		作品を持ち帰り、鑑賞、使用、反省する

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（統合版）（科目ナンバリング：）				
授業担当者（所属・職名）	島田 晶夫・星 信彦・中島 知之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	（単位認定責任者：上坂 恒章）		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		

概要

履修目標
<p>“物”を作るには必ずその物に最も適切な「構造」を考えなければならない。それが出来て初めてデザインするという事になる。デザイン 制作の過程を学び、あわせて、使用する木材の性質、木工の道具と機械類の操作、着色、塗装等も学ぶ。表現したいテーマや目標に対し、発想を展開しデザインする。安全で効率良い制作作業を行う。作品の説明まで一つの作品制作として行うように制作する。素材知識を身につけ、段取りをして物づくりの基本的な効率の良い作業の進め方を身につける。日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。</p>

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(2)」、「3」 「2(2)」に対応する。

到達目標
<p>使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方（手工具の使い方）を身につける。ガラスの素材知識を理解する。ガラス工芸の手法を修得する。テーマを持ってデザイン表現が出来ている。作業を安全に効率よく行える。作品的確かな言葉で説明出来る。陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを学ぶ。あわせて、刃物の危険性も学ぶ。素材特性を理解するよう、作業と素材感の異なる3つの技法を行う。ハード・ド・ヴェールでは原型・型取りを行い、ガラスを型に流し小皿またはオーナメントを製作する。高温のガラス特性を理解する為にパーナーワーク/吹きガラスを実技する。パーナーワークではガラス棒を溶かしとんぼ玉等を製作。吹きガラスはグラス等を製作する。基本的な焼き物の知識や技術を身につけてもらうため、茶碗・鉢・皿といった身近な物を課題にして成形技術の実習を中心に進める。「土ねり」「装飾」「釉掛け」「窯詰め」「窯焚き」なども作品の制作経過に沿って学ぶ。それと同時に全国の焼き物・各窯業地などの特色なども学ぶ。</p>

授業の方法
<p>実際に作業を見せて説明し、実技を行う。パート・ド・ヴェールは粘土原型を制作し、耐火石膏で型取りした後ガラスカレットを詰め焼成する。作業日数を考え、段取りをしながら進める。パーナーワークは交代で作業する。吹きガラスはパート・ド・ヴェールのスケジュールに照らし合わせ行う。講師による作業のチェックは適宜行う。講評会を行い、作品のプレゼンテーションを行う。課題作品の説明、実演のうちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。</p>

アクティブラーニングの実施方法					
○	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク		PBL
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習		反転授業
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項
<p>出席を重視する。作業に適した服装を用意する。安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要点のメモを取る事。成績を主に作品で評価するため必ず作品提出する事。課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。</p>

資格指定科目
教職課程（美術・工芸）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度である。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や取り組みをこなしている。また、理解を深めるため内容を真実に聞いている。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真実に聞いている。	授業中の課題や作業をこなしている。	授業中着席するものの課題や作業をしていない。
知識、理解	授業内容を越える学習を積極的にすすめる理解度を深めている。	授業内容をほぼすべて理解している。	授業内容の概ねを理解している。	最低限の授業内容を理解している。	授業内容を理解できていない。
展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を発展させ、より良い提案ができる。また、安全な作業を展開できる。	授業内容をほぼすべて理解し、安全な作業を展開できる。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できる。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけている。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができない。
技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組む。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させる。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題を完成させる。	課題を完成できない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習（統合版）（科目ナンバリング： ）				
授業担当者（所属・職名）	島田 晶夫・星 信彦・中島 知之（デザイン学科・非常勤講師）	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	（単位認定責任者： 上坂 恒章 ）		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	授業説明 第一課題「象嵌」シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。（45分）	
2	第一課題のデザイン、制作		制作状況、完成までの確認。（45分）
3	第二課題「カトラリー」 デザイン	完成までの計画を立てる事。（45分）	
4	第二課題の制作		手工具の使い方の把握。（45分）
5	第三課題「枡」 「組み」部	完成までの計画を立てる事。（45分）	
6	第三課題の練習		制作状況、完成までの確認。（45分）
7	第三課題の本番材での加工	完成までの計画を立てる事。（45分）	
8	第三課題の本番材での加工		制作状況、完成までの確認。（45分）
9	第三課題の本番材での加工	完成までの計画を立てる事。（45分）	
10	第三課題の細部手直し、組み立て、仕上げ、解説、フィードバック		指摘事項を確認すること。（45分）
11	シラバスの説明・技法説明を行う。 [パート・ド・ヴェール] 小皿・オーナメント 課題説明の後デザイン	シラバスを読んでおくこと。 アイデアの素材収集する。（45分）	
12	[パート・ド・ヴェール] 小皿・オーナメント デザイン [とんぼ玉] 交代で作業		アイデアの検証する。（45分）
13	[パート・ド・ヴェール] 小皿・オーナメント 原型制作 [とんぼ玉] 交代で作業	作業の段取りをする。（45分）	
14	[パート・ド・ヴェール] 小皿・オーナメント 原型制作 [とんぼ玉] 交代で作業		原型の修正を行う。（45分）
15	[パート・ド・ヴェール] 小皿・オーナメント 耐火石膏型取り [とんぼ玉] 交代で作業	原型の修正をする。（45分）	
16	[パート・ド・ヴェール] 小皿・オーナメント 耐火石膏型取り [とんぼ玉] 交代で作業		石膏型の点検と修正を行う。（45分）

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	[パート・ド・ヴェール] 小皿・オーナメント 焼成準備 [吹きガラス] グラス制作	ガラスのデザインをする。（45分）	
18	[パート・ド・ヴェール] 小皿・オーナメント 焼成準備 [吹きガラス] グラス制作		石膏型・カレットの点検を行う。（45分）
19	[パート・ド・ヴェール] 小皿・オーナメント 仕上げ	作業の段取りをする。（45分）	
20	[パート・ド・ヴェール] 小皿・オーナメント 講評会		自他者の発表を考察する。（45分）
21	シラバス説明	シラバスを読んでおくこと（45分）	
22	基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導（荒ねり・菊ねり）		各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
23	手びねりによる作品制作 カップ（手回しロクロによる粘土成型）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	
24	手びねりによる作品制作 カップ（手回しロクロによる粘土成型）		各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
25	手びねりによる作品制作 カップ（装飾、仕上げ）	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	
26	手びねりによる作品制作 カップ（装飾、仕上げ）		各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
27	釉かけ・窯詰め・電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと（45分）	
28	釉かけ・窯詰め・電気窯による焼成		各自必要などころまで制作作業を進めること（45分）
29	課題作品の批評会	質問事項を考えておく（45分）	
30	総講評会・解説		講義全体をふりかえり、まとめを行うこと（45分）
31	全体的な講評を行う。	これまで学んだ技法等についてまとめておくこと（45分）	
32	各自の振り返りの発表		他の発表も参考に更に振り返りをおこなうこと（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング: DES222022)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザイン的基础から応用までを指導する。		

概要

履修目標	デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。
------	--

授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。
---------	------------------------------

到達目標	広告、出版、WEB、映像、各種アプリケーションなど、現代の視覚伝達メディアにおけるデザイン制作業務に携わるために必要な知識と技術を身に付けることができる。
------	---

授業全体の内容と概要	特定の情報を市場に提供する手段として適切なメディアを選択し、それを効果的に運用できるよう企画・設計段階を重視した課題制作を行う。但し、制作内容は単体のメディアコンテンツが中心となる。
------------	---

授業の方法	始めにグラフィックデザインを正しく認識させるためのワークを行う。 次に単体のメディアによる用途に合わせたバリエーションを制作する実技課題に続く。 後半ではオリジナルメディア広告企画をプレゼンテーションするためのツール(フリップ又はPowerPoint)を制作し発表する。 各種メディアや情報形態に関する調査・取材は必要に応じて必ず行い企画内で報告させる。 制作中における技術的な指導は個別に行う。 質問については随時対応する。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。 中でも情報メディアにおけるデザインとビジネスを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート系分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。 課題の制作はAdobe IllustratorとPhotoshopを用いるので、その基本的な操作を身につけていなければならない。 授業内でアプリケーションの操作講習などは一切しないということにも留意しなければならない。
----------	--

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	70%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「グラフィックデザインを分野として正しく認識できている」	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下が必要な知識と技能を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持ち、適切なメディアへ効果的な情報の投下が必要であることを認識した。	グラフィックデザインに対する正しい認識を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分である。	グラフィックデザインに対する認識が曖昧で、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインを認識できていない。
思考力・判断力・表現力「グラフィックデザインの分野としての特性を踏まえた作品制作が行える」	グラフィックデザインの特性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を基に、完成度の高い作品制作が行えた。	グラフィックデザインの特性を理解し、適切なメディアの選択や表現を行うための技能を作品制作に反映させることができた。	グラフィックデザインの特性を理解したが、メディアの選択や表現について、適切に反映させられていない。	グラフィックデザインの特性を理解できていないが、メディアの選択や表現が不適切である。	グラフィックデザインの特性が理解できず、メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性「グラフィックデザインの分野としての特性を基にしたメディアの構築を行い、プレゼンテーションを行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、メディアの特性に準じた完成度の高いプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組んだが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的でなく、プレゼンテーションも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング: DES222022)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にしてデザインの基礎から応用までを指導する。		

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバスの説明 「伝統的なグラフィックデザインの捉え方」	シラバスを一読しておく・グラフィックデザインの意味を調べておく(90分)	
2	「伝統的なグラフィックデザインの捉え方」 現行分野と制作工程について		分野への理解を深めるためのノート整理(90分)
3	「情報の視覚化」 イラストレーションと写真 -イラストレーションの作画	使用する画材と機材の準備・整理(90分)	
4	「情報の視覚化」 イラストレーションの作画		課題の継続作業(90分)
5	「情報の視覚化」 写真撮影実習	使用する画材と機材の準備・整理(90分)	
6	「情報の視覚化」 写真撮影実習		課題の継続作業(90分)
7	「情報の視覚化」 講評と展開の可能性について	提出データの確認メディアとは何か?予習する(90分)	
8	様々な情報メディアの特性について		分野への理解を深めるためのノート整理(90分)
9	情報メディアデザイン “小” 「パナ-広告デザイン」 企画・立案	事前に課題一覧に目を通す(90分)	
10	情報メディアデザイン “小” 「パナ-広告デザイン」 情報の取捨選択・統合		課題の選択(90分)
11	情報メディアデザイン “小” 「パナ-広告デザイン」 デザインラフ・フォーマット作成	材料のダウンロード(90分)	
12	情報メディアデザイン “小” 「パナ-広告デザイン」 デザインラフ・フォーマット作成		デザイン案の継続(90分)
13	情報メディアデザイン “小” 「パナ-広告デザイン」 制作・アップロード		デザイン案の継続(90分)
14	情報メディアデザイン “小” 「パナ-広告デザイン」 制作・アップロード		データ制作の継続(90分)
15	情報メディアデザイン “小” 「パナ-広告デザイン」 制作・アップロード		データ制作の継続(90分)
16	情報メディアデザイン “小” 「パナ-広告デザイン」 講評		アップロードの確認(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	情報メディアデザイン “中” 「UIデザイン」 企画立案	UIとは何か?(90分)	
18	情報メディアデザイン “中” 「UIデザイン」 ラフデザイン		分野への理解を深めるためのノート整理(90分)
19	情報メディアデザイン “中” 「UIデザイン」 ラフデザイン		デザイン案作成(90分)
20	情報メディアデザイン “中” 「UIデザイン」 ラフデザイン		デザイン案の継続(90分)
21	情報メディアデザイン “中” 「UIデザイン」 ラフデザイン		デザイン案の継続(90分)
22	情報メディアデザイン “中” 「UIデザイン」 制作		決定案の制作継続(90分)
23	情報メディアデザイン “中” 「UIデザイン」 制作		決定案の制作継続(90分)
24	情報メディアデザイン “中” 「UIデザイン」 講評		完成データの整理(90分)
25	情報メディアデザイン “大” 「新聞広告デザイン」 課題選択・広告とは何か?	課題一覧に目を通しておくこと(90分)	
26	情報メディアデザイン “大” 「新聞広告デザイン」 コピーライティング		分野への理解を深めるためのノート整理(90分)
27	情報メディアデザイン “大” 「新聞広告デザイン」 コピーライティング		コピーライティングの資料収集(90分)
28	情報メディアデザイン “大” 「新聞広告デザイン」 コピーライティング		コピーの試案(90分)
29	情報メディアデザイン “大” 「新聞広告デザイン」 コピーライティング		コピーの試案(90分)
30	情報メディアデザイン “大” 「新聞広告デザイン」 ラフデザイン		ビジュアルの構想(90分)
31	情報メディアデザイン “大” 「新聞広告デザイン」 ラフデザイン		ビジュアルの構想(90分)
32	全体講評とグラフィックデザインの展開について		完成シミュレーション(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES222024)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。		

概要

履修目標	モノ、コト、商品等をデザインするプロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、プロセスを習得する。																								
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)」、「(3)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術を習得する。																								
授業全体の内容と概要	デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形、ポスター等、表現方法を考察、可視化しプレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。																								
授業の方法	課題に沿ってマーケットリサーチをグループで行い、現状とモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	積み重ねの授業ですので、欠席するとついていけなくなる。欠席しないように。 履修者は鉛筆(ハイユニA3-B4)、PM-PAD A3(マーカー用紙)、コピックマーカー(クールグレイC1-C8,黒)用意の事。																								
資格指定科目																									

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は24回以上					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック	評価基準					
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、新しい価値を創造出来た。	モノの本質を上手く捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を創造出来た。	モノの本質を捉え、価値を創造出来た。	モノの本質を捉えられず、価値を創造出来なかった。	
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出し、従来の価値以上のものを創造することに繋がられた。	問題解決のアイデアを上手く出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを出し、従来の価値以上のものを創造できた。	問題解決のアイデアを幸うじて出し、従来の価値以上のものを発想できた。	問題解決のアイデアが出せない、従来の価値以上のものを作ることが出来なかった。	
新デザインを提案することが出来る。	自分のアイデアを完璧に可視化出来て、造形力やアプローチも完璧である。周りを巻き込む力があった。	自分のアイデアを上手に可視化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを可視化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うじて可視化出来て、造形力やアプローチも幸うじて出来た。	自分のアイデアを可視化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。	

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES222024)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義である。		

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出		プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
4	マーケットチャート作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
8	アイデアスケッチまとめ1		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
10	アイデアスケッチ2		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
14	デザイン作業		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
16	デザイン作業		世の中の製品を良く調べておく。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
18	デザイン再考		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
20	デザイン完成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レダリング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
22	レダリング		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レダリング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
24	レダリング		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レダリング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
26	レダリング		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レダリング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
28	ポスター作成 プレゼンボード作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
30	ポスター作成 プレゼンボード作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
32	総評 改善アンケート		授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES222026)				
授業担当者(所属・職名)	近澤 潤 (経営学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
Webデザインの基本的なルールや工程・手法を理解し、単にグラフィックデザインの観点でデザインをするのではなく、UI(ユーザインタフェース)の視点や、現在の主流のデザイン・技術を踏まえ、「課題を解決するWebサイトをデザイン(創造)する力」を身につける。 また、画像編集ソフトウェア(Adobe PhotoshopおよびIllustrator)の基礎知識・基本操作を習得する。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
Webデザインにおける基本的なルールや工程・手法について理解し、画像編集ソフトウェアを用いて、課題を解決できるWebサイトをデザインできる。 Webデザインについての知見を広げ、履修者間でWebデザインに関する議論を行うことができる。

授業全体の内容と概要
本科目の前半部分では、Webサイト制作事例を紹介し、Webデザインにおける基本的なルールや工程・手法を解説する。また、知識の定着化を図るため、履修者間の意見交換の場(グループディスカッション)を適宜設ける。後半部分では、提示した要件を満たすWebサイトのデザインを、画像編集ソフトウェアを用いて制作する。従って、Webサイトのデザイン制作を通じて、PhotoshopおよびIllustratorの基礎知識・基本操作の習得も可能である。

授業の方法
本科目では、Webサイトの制作事例やスライド資料等を、スクリーンに提示または配布し、解説を行う。Webサイトの制作事例を紹介するには、履修者がより多くの気づきを得られるよう、主体的に分析させることを目的として、履修生間でグループディスカッションを適宜実施する。 なお、知識面での習熟度を測定するため、第7回授業において中間試験(筆記)を実施し、フィードバックを行う。実技面では、複数回にわたり制作課題の提出を求め、各課題に対してフィードバックを行う。最終課題については、プレゼンテーションを行い、履修生間で共有する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
当日欠席により課題提出ができない場合は、事前に受け付けるので申し出ること。 「参考文献・資料等」に定めている書籍については、購入する必要はない。 自身が所有するパソコンに、Adobe PhotoshopおよびIllustratorがインストールされている場合は、持ち込んで受講しても構わない(それ以外の画像編集ソフトウェアの利用は不可とする)。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。 30分以上の遅刻・早退は、欠席とみなす。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	20%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	20%	10%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Webデザインの基礎知識</td> <td>Webデザインの基礎知識に関する事柄について、十分に説明でき、応用的な議論に発展することができた。</td> <td>Webデザインの基礎知識に関する事柄について、十分に説明することができた。</td> <td>Webデザインの基礎知識に関する事柄について、80%程度説明することができた。</td> <td>Webデザインの基礎知識に関する事柄について、60%程度説明することができた。</td> <td>Webデザインの基礎知識に関する事柄について、ほとんど説明することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>Webデザインの基礎技術</td> <td>Webデザインの基本的なルールに則り、UI(ユーザインタフェース)や主流のデザインや技術を盛り込んで、デザインを制作することができた。</td> <td>Webデザインの基本的なルールに十分に則って、デザインを制作することができた。</td> <td>Webデザインの基本的なルールに概ね則って、デザインを制作することができた。</td> <td>Webサイトのデザインを制作することができた。</td> <td>Webサイトのデザインを制作することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>Webデザインでの課題解決</td> <td>提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作し、自分で見つけた課題点についてもWebデザインに反映させることができた。</td> <td>提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作し、かつ自分で課題点を見つけたことができた。</td> <td>提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作することができた。</td> <td>提示した制作要件を概ね満たしたWebデザインを制作することができた。</td> <td>提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>画像編集ソフトウェアの基本操作</td> <td>Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を十分に習得した上で、自ら進んで更なる学習に取り組み、習得することができた。</td> <td>Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を十分に習得した上で、自ら進んで更なる学習に取り組みすることができた。</td> <td>Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を十分に習得することができた。</td> <td>Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を習得することができた。</td> <td>Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を習得することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>学習意欲および意見の表明</td> <td>質問を積極的に行う等、積極的にディスカッションの場を生み出し、他の履修生の意見を傾聴した上で、自主的に意見を表明することができた。</td> <td>積極的にディスカッション等に参入し、他の履修生の意見を傾聴した上で、自主的に意見を表明することができた。</td> <td>発言を求められなくても、自分自主的に意見を表明することができた。</td> <td>発言を求められると、自分自主的に意見を表明することができた。</td> <td>全く意欲がなく、発言を求められても意見を表明することができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	Webデザインの基礎知識	Webデザインの基礎知識に関する事柄について、十分に説明でき、応用的な議論に発展することができた。	Webデザインの基礎知識に関する事柄について、十分に説明することができた。	Webデザインの基礎知識に関する事柄について、80%程度説明することができた。	Webデザインの基礎知識に関する事柄について、60%程度説明することができた。	Webデザインの基礎知識に関する事柄について、ほとんど説明することができなかった。	Webデザインの基礎技術	Webデザインの基本的なルールに則り、UI(ユーザインタフェース)や主流のデザインや技術を盛り込んで、デザインを制作することができた。	Webデザインの基本的なルールに十分に則って、デザインを制作することができた。	Webデザインの基本的なルールに概ね則って、デザインを制作することができた。	Webサイトのデザインを制作することができた。	Webサイトのデザインを制作することができなかった。	Webデザインでの課題解決	提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作し、自分で見つけた課題点についてもWebデザインに反映させることができた。	提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作し、かつ自分で課題点を見つけたことができた。	提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作することができた。	提示した制作要件を概ね満たしたWebデザインを制作することができた。	提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作することができなかった。	画像編集ソフトウェアの基本操作	Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を十分に習得した上で、自ら進んで更なる学習に取り組み、習得することができた。	Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を十分に習得した上で、自ら進んで更なる学習に取り組みすることができた。	Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を十分に習得することができた。	Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を習得することができた。	Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を習得することができなかった。	学習意欲および意見の表明	質問を積極的に行う等、積極的にディスカッションの場を生み出し、他の履修生の意見を傾聴した上で、自主的に意見を表明することができた。	積極的にディスカッション等に参入し、他の履修生の意見を傾聴した上で、自主的に意見を表明することができた。	発言を求められなくても、自分自主的に意見を表明することができた。	発言を求められると、自分自主的に意見を表明することができた。	全く意欲がなく、発言を求められても意見を表明することができなかった。
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
Webデザインの基礎知識	Webデザインの基礎知識に関する事柄について、十分に説明でき、応用的な議論に発展することができた。	Webデザインの基礎知識に関する事柄について、十分に説明することができた。	Webデザインの基礎知識に関する事柄について、80%程度説明することができた。	Webデザインの基礎知識に関する事柄について、60%程度説明することができた。	Webデザインの基礎知識に関する事柄について、ほとんど説明することができなかった。																																				
Webデザインの基礎技術	Webデザインの基本的なルールに則り、UI(ユーザインタフェース)や主流のデザインや技術を盛り込んで、デザインを制作することができた。	Webデザインの基本的なルールに十分に則って、デザインを制作することができた。	Webデザインの基本的なルールに概ね則って、デザインを制作することができた。	Webサイトのデザインを制作することができた。	Webサイトのデザインを制作することができなかった。																																				
Webデザインでの課題解決	提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作し、自分で見つけた課題点についてもWebデザインに反映させることができた。	提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作し、かつ自分で課題点を見つけたことができた。	提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作することができた。	提示した制作要件を概ね満たしたWebデザインを制作することができた。	提示した制作要件を満たしたWebデザインを制作することができなかった。																																				
画像編集ソフトウェアの基本操作	Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を十分に習得した上で、自ら進んで更なる学習に取り組み、習得することができた。	Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を十分に習得した上で、自ら進んで更なる学習に取り組みすることができた。	Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を十分に習得することができた。	Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を習得することができた。	Webデザインに必要な画像編集ソフトウェアの基礎知識・基本操作を習得することができなかった。																																				
学習意欲および意見の表明	質問を積極的に行う等、積極的にディスカッションの場を生み出し、他の履修生の意見を傾聴した上で、自主的に意見を表明することができた。	積極的にディスカッション等に参入し、他の履修生の意見を傾聴した上で、自主的に意見を表明することができた。	発言を求められなくても、自分自主的に意見を表明することができた。	発言を求められると、自分自主的に意見を表明することができた。	全く意欲がなく、発言を求められても意見を表明することができなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『Webデザイン・スタンダード 伝わるビジュアルづくりとクリエイティブの最新技法』</td> <td>境 祐司、小浜 聖香、森本 友里、野田 一輝、北村 篤志</td> <td>エムティエヌコーポレーション</td> <td>2019年</td> <td>978-4-8443-6777-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『きちんと入門 いちばんよくわかるWebデザインの基本きちんと入門』</td> <td>伊藤 庄平、益子 貴寛、久保 己、宮田 優希、伊藤 由暁</td> <td>SBCクリエイティブ</td> <td>2017年</td> <td>978-4-7973-8965-4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『Webデザイン・スタンダード 伝わるビジュアルづくりとクリエイティブの最新技法』	境 祐司、小浜 聖香、森本 友里、野田 一輝、北村 篤志	エムティエヌコーポレーション	2019年	978-4-8443-6777-2		2	『きちんと入門 いちばんよくわかるWebデザインの基本きちんと入門』	伊藤 庄平、益子 貴寛、久保 己、宮田 優希、伊藤 由暁	SBCクリエイティブ	2017年	978-4-7973-8965-4		3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『Webデザイン・スタンダード 伝わるビジュアルづくりとクリエイティブの最新技法』	境 祐司、小浜 聖香、森本 友里、野田 一輝、北村 篤志	エムティエヌコーポレーション	2019年	978-4-8443-6777-2																																					
2	『きちんと入門 いちばんよくわかるWebデザインの基本きちんと入門』	伊藤 庄平、益子 貴寛、久保 己、宮田 優希、伊藤 由暁	SBCクリエイティブ	2017年	978-4-7973-8965-4																																					
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES222026)				
授業担当者(所属・職名)	近澤 潤(経営学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション】 シラバスを中心に、授業の目的や進め方を説明する。	シラバスを確認する(90分)	説明事項について再度確認する(90分)
2	【Webサイトデザイン基礎】 ルールや工程・仕組み・手法等を解説する。適宜、グループディスカッションを行う。	好きなWebサイトを1つ見つける(90分)	事後学習用教材に取り組む(90分)
3	【Webサイトデザイン基礎】 ルールや工程・仕組み・手法等を解説する。適宜、グループディスカッションを行う。	配布資料を再度読む(90分)	事後学習用教材に取り組む(90分)
4	【Webサイトデザイン基礎】 ルールや工程・仕組み・手法等を解説する。適宜、グループディスカッションを行う。	配布資料を再度読む(90分)	事後学習用教材に取り組む(90分)
5	【画像編集ソフトウェア基礎】 提示したWebデザインに倣って制作する。	PhotoshopとIllustratorの違いを調べる(90分)	事後学習用教材に取り組む(90分)
6	【画像編集ソフトウェア基礎】 提示したWebデザインに倣って制作する。	Illustratorの基本操作を調べる(90分)	事後学習用教材に取り組む(90分)
7	【画像編集ソフトウェア基礎・中間試験】 提示したWebデザインに倣って制作する。ここまでの授業内容に関する中間試験を実施する。	ここまでの授業内容を整理し復習する(90分)	中間試験の内容を復習する(90分)
8	【課題解決ができるWebデザイン】 提示された制作要件を満たすWebデザインを制作する。	「課題を解決する」とは何か調べる(90分)	提示された制作要件を確認し、戦略を立てる(90分)
9	【課題解決ができるWebデザイン】 提示された制作要件を満たすWebデザインを制作する。	提示された制作要件を確認し、戦略を立てる(90分)	次回の制作手順について確認し、操作に関する不明点を調べる(90分)
10	【課題解決ができるWebデザイン】 提示された制作要件を満たすWebデザインを制作する。	操作に関する不明点を調べる(90分)	「課題を解決する」意義や理由についてまとめる(90分)
11	【自由課題制作】 提示された制作要件を満たすWebデザインを制作する。	Webデザインの構想を練る(90分)	Webデザインの構想を練る(90分)
12	【自由課題制作】 提示された制作要件を満たすWebデザインを制作する。	Webデザインの構想を練る(90分)	Webデザインの改良点を見つける(90分)
13	【自由課題制作】 提示された制作要件を満たすWebデザインを制作する。	Webデザインの改良点を見つける(90分)	Webデザインの改良点を見つける(90分)
14	【自由課題制作】 提示された制作要件を満たすWebデザインを制作する。	Webデザインの改良点を見つける(90分)	Webデザインの改良点を見つける(90分)
15	【自由課題制作・成果発表会】 各自制作したWebデザインを全体に対しプレゼンテーションを行い、フィードバックする。	プレゼンテーションの準備を行う(90分)	フィードバックに対して自分の意見をまとめる(90分)
16	【授業の総復習・まとめ】	ここまでの授業内容を整理し復習する(90分)	ここまでの授業内容を整理し復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング: DES222023)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験に基づき実践的なグラフィックデザインを指導する。		

概要

履修目標	デザインにおけるグラフィックデザインについて正しい認識を持ち、その可能性と将来の展望ができる知識と技術を身につける。							
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)、(2)」、「2(2)」に対応する。							
到達目標	デザインの基本工程を理解し、各メディアのコンテンツを制作する際に必要とされる知識や技術を身に付ける。そして、一つのプロジェクトを俯瞰し、全体の指揮をシミュレーションすることができる。							
授業全体の内容と概要	日常生活や社会生活において必要とされる様々な情報の中から一つを選び、それを公開するための全体計画を立案する。その後、自らが志向とするグラフィックデザイン系メディアコンテンツの制作を行う。							
授業の方法	グラフィックデザインで制作した課題作品を例にとり、情報メディアをデザインすることの意義を再確認するための指導を行う。その後情報を公開するための全体計画を「効果的な視覚メディアを用いてプレゼンテーション」するための制作をデジタル環境で行う。後半においては自ら強く志向するメディアを選択し、そこに投下するためのコンテンツを制作する。メディアの取材や情報の選定は、フィールドワークによる現地取材、他媒体に公開される内容の調査・整理を行うことを前提とする。制作に必要なアプリケーション等の指導は個別に行う。質問には随時対応する。							
アクティブラーニングの実施方法	○	プレゼンテーション		グループワーク	○	フィールドワーク		PBL
		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	主として商業美術を志向する者のための演習が中心の授業である。中でも情報メディアにおけるデザインとビジネスを前提とした内容であるから、そのスタンスがアート系分野とは相反することを理解し、それを前提として履修しなければならない。グラフィックデザインと同様にAdobe IllustratorとPhotoshopによる課題制作を行うので、履修者は基本操作を身につけていなければならない。							
資格指定科目								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	70%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「グラフィックデザインを情報メディアとして捉え、適切な情報形態を整えることができる」	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ、その特性を理解した上で効果的な情報の投下が可能となる能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持ち、適切なメディアへ情報投下ができる能力を身につけた。	グラフィックデザインに対する正しい知識と技術を持つことはできたが、適切なメディアの選択と情報の処理が不十分である。	グラフィックデザインに対する知識と技術が不十分であり、メディアと情報の関連性を捉え切れていない。	グラフィックデザインの知識と技術が身につけなかった。
思考力・判断力・表現力 「グラフィックデザインのメディアにおいて、質の高い視覚情報の構築ができる」	適切なメディアの選択や完成度の高い表現を行う技能を身につけ、質の高い実践ができるレベルに到達した。	適切なメディアの選択や表現を行うための技能を身につけ、実践が可能となるレベルに到達した。	メディアの選択や表現を行う技能は身につけているが、それを適切に応用することができていない。	適切なメディアの選択や表現を行う技能が不完全なため、メディアの選択や表現が不十分である。	メディアの選択や表現ができなかった。
主体性・多様性・協働性 「社会性・公共性に配慮しつつ、適切な情報形態を以てのプレゼンテーションが行える」	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、完成度の高いメディアの特性を理解した適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的に取り組み、適切なプレゼンテーションを行った。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的な取り組みを行ったが、適切なプレゼンテーションには至っていない。	グラフィックデザインにおける問題解決に対し、積極的な取り組みも不完全であった。	グラフィックデザインにおける問題解決ができず、プレゼンテーションが行えなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	グラフィックデザイン (科目ナンバリング: DES222023)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基に実践的なグラフィックデザインを指導する。		

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバスの説明「情報とは何か?」	商品企画・広報宣伝企画について研究しておく(90分)	
2	「視覚化すべき情報の選択」		次週までに「情報の選択」を終えておく(90分)
3	「企画立案」情報の分析とメディア計画	選択した情報の幅広い知識を得ておくこと(90分)	
4	「企画立案」コンセプトシートの作成		コンセプトシートは次週授業開始時まで完成(90分)
5	「企画立案」企画書の作成	企画書に必要な素材の収集を行っておく(90分)	
6	「企画立案」企画書の作成		期間内に完成提出できるよう進度調整を行う(90分)
7	「企画立案」企画書の作成	企画書完成に必要な準備を終えておく(90分)	
8	「企画立案」企画書の完成		次週授業開始時までに完成提出できるよう進度の調整を行う(90分)
9	制作工程の確認と制作にあたっての留意点について	企画内容を基にしてコピーやビジュアルの発想をしておく(90分)	
10	視覚化が可能なメディアの選択とビジュアル計画		ラフ案(3案)を計画しておく(90分)
11	「コピーとビジュアルの作成」ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく(90分)	
12	「コピーとビジュアルの作成」再ラフ案		期間内に完成提出できるよう進度調整を行う(90分)
13	「コピーとビジュアルの作成」再々ラフ案	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(90分)	
14	「コピーとビジュアルの作成」最終ラフ作成		期間内に完成提出できるよう進度調整を行う(90分)
15	「コピーとビジュアルの作成」最終ラフ作成	時間内にラフ案を完成させ制作工程に入れるよう準備をする(90分)	
16	「コピーとビジュアルの作成」最終ラフ作成-提出		期間内に完成提出できるよう進度調整を行う(90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	「コピーとビジュアルの作成」プレゼンテーションと講評	プレゼンテーションの準備(90分)	
18	「コピーとビジュアルの作成」プレゼンテーションと講評-今後の展開		他者の作例を研究する(90分)
19	メディア化にあたっての留意点について	制作すべきメディアを決めておく(90分)	
20	コピーとビジュアルの用法の試案		デザイン計画(90分)
21	「メディアコンテンツの制作」ラフ案	ラフ案作成に必要な準備を終えておく(90分)	
22	「メディアコンテンツの制作」修正作業		期間内に完成提出できるよう進度調整を行う(90分)
23	「メディアコンテンツの制作」再ラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(90分)	
24	「メディアコンテンツの制作」修正作業		期間内に完成提出できるよう進度調整を行う(90分)
25	「メディアコンテンツの制作」再々ラフ案	ラフ案に沿って、コピーとビジュアルの修正作業を行っておく(90分)	
26	「メディアコンテンツの制作」制作		期間内に完成提出できるよう進度調整を行う(90分)
27	「メディアコンテンツの制作」制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく(90分)	
28	「メディアコンテンツの制作」制作		期間内に完成提出できるよう進度調整を行う(90分)
29	「メディアコンテンツの制作」制作	完成に向けての作業効率を上げるための準備をしておく(90分)	
30	「メディアコンテンツの制作」完成		次週授業開始時までに完成提出できるよう進度の調整を行う(90分)
31	メディアコンテンツの発表	自分以外の者の制作物についても事前に知識を得ておく(90分)	
32	講評		グラフィックデザインについて正しい認識を持ってたかを確認(90分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES222025)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

概要

履修目標	モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。							
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)」、「(3)」、「2(2)」に対応する。							
到達目標	プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。							
授業全体の内容と概要	デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形ボスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。							
授業の方法	課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。							
アクティブラーニングの実施方法	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。							
資格指定科目								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は24回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を幸うじて捉え、今まで以上の価値を幸うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うじて具現化出来て、造形力やアプローチも幸うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザイン提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うじて具現化出来て、造形力やアプローチも幸うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング: DES222025)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
4	マーケットチャート作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
8	アイデアスケッチまとめ1		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
10	アイデアスケッチ2		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
14	デザイン作業		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
16	デザイン作業		世の中の製品を良く調べておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
20	デザイン修正		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
22	レンダリング		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング サブモックを作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
24	レンダリング サブモックを作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング サブモックを作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
26	レンダリング サブモックを作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリング サブモックを作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
28	ポスター作成 プレゼンボード作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
30	ポスター作成 プレゼンボード作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
32	総評 改善アンケート		授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES222027)				
授業担当者(所属・職名)	近澤 潤(経営学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
We b制作の基本的なルールや工程・手法を理解し、We b制作の主な工程のうち「企画」・「デザイン」・「構築(コーディング)」の全般的な基礎知識・技術の習得することで、単に「デザイン」に留まらず「We bサイト全体のデザインを考える力」を身につける。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)」、「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
提示された制作要件を分析し、課題解決に向けて効果的なWe bサイトの企画立案ができる。 企画立案(戦略)を基に、効果的なWe bデザインを考えることができる。 We bサイトにおける基本的なルールや工程・手法を踏まえ、書籍や資料を参照しながらHTMLとCSSを用いた簡単なWe bサイトを構築することができる。

授業全体の内容と概要
本科目の前半部分では、We b制作の基本的なルールや工程・手法をはじめ、We b制作のワークフロー(全体像)や、携わる職種について全般的に解説する。また、知識の定着化を図るため、履修者間の意見交流の場(グループディスカッション)を適宜設ける。後半部分では、We bサイトを構築するためのHTMLとCSSの基本について、実技を交えながら解説する。最終課題では、We bサイトの企画・デザイン・構築の一連の工程を経てWe bサイトの制作を行う。

授業の方法
本科目では、教材(教科書やWe bサイトの制作事例、スライド資料等)を、スクリーンに提示または配布し、解説を行う。We bサイトの制作事例を紹介する際には、履修者がより多くの気づきを得られるよう、主体的に分析させることを目的として、履修生間でのグループディスカッションなどを適宜実施する。なお、知識面での習熟度を測定するため、第7回授業において中間試験(筆記)を実施し、フィードバックを行う。実技面では、複数回にわたり制作課題の提出を求め、各課題に対してフィードバックを行う。最終課題については、プレゼンテーションを行い、履修生間で共有する。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
本科目は「WEBデザイン」の内容を踏まえたものとなるため、同科目を履修していることが望ましいし、当日欠席により課題提出ができない場合は、事前に受け付けるので申し出ること。 「参考文献・資料等」に定めている書籍については、購入する必要はない。 自身が所有するパソコンに、Adobe PhotoshopおよびIllustratorがインストールされている場合は、持ち込んで受講しても構わない(それ以外の画像編集ソフトウェアの利用は不可とする)。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上とする。 30分以上の遅刻・早退は、欠席とみなす。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	20%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
We b制作の基礎知識	We b制作の基礎知識に関する事柄について、十分に説明でき、応用的な議論に発展することができた。	We b制作の基礎知識に関する事柄について、十分に説明することができた。	We b制作の基礎知識に関する事柄について、80%程度説明することができた。	We b制作の基礎知識に関する事柄について、60%と説明することができた。	We b制作の基礎知識に関する事柄について、ほとんど説明することができなかった。
We bサイトの企画立案	提示された制作要件を様々な分析手法を使って多角的に分析し、課題解決に向けて十分な効果的なWe bサイトの企画を立案することができた。	提示された制作要件を分析し、課題解決に向けて十分な効果的なWe bサイトの企画を立案することができた。	提示された制作要件を分析し、課題解決に向けて概ね十分な効果的なWe bサイトの企画を立案することができた。	提示された制作要件を分析し、最低限の課題解決に向けて効果的なWe bサイトの企画を立案することができた。	提示された制作要件を分析し、課題解決に向けて効果的なWe bサイトの企画を立案することができなかった。
We bデザインの実用技術	提示した要件どおりにより正しくデザインすることができ、更に良いデザインを着想し、アレンジする中で自身で制作した素材を使用し、完成度の高い独創的なデザインをすることができた。	提示した要件どおりにより正しくデザインすることができ、更に良いデザインを着想し、アレンジすることができた。	提示した要件どおり、正しくデザインすることができた。	提示した要件どおり、正しくデザインすることができた。	提示した要件どおり、正しくデザインすることができなかった。
We bコーディング(構築)の基礎技術	教科書や資料等を参照しなくても、提示した要件どおり、正しく構築することができ、授業で扱わなかったコードやタグについて自分で調べ、実装することができた。	教科書や資料等を参照しなくても、提示した要件どおり、すべて正しく構築することができた。	教科書や資料等を参照しながら、提示した要件どおり、ある程度構築することができた。	教科書や資料等を参照しながら、提示した要件どおり、正しく構築することができた。	教科書や資料等を参照しなくても、提示した要件どおり、正しく構築することができなかった。
学習意欲および意見の表明	質問を積極的に行う等、積極的にディスカッションやディスカッションの議題を生み出し、他の履修生の意見を傾聴した上で、自主的に意見を表明することができた。	積極的にディスカッションやディスカッションの議題に参入し、他の履修生の意見を傾聴した上で、自主的に意見を表明することができた。	発言を求められなくても、自主的に意見を表明することができた。	発言を求められると、自分の意見を表明することができた。	全く意欲がなく、発言を求められても意見を表明することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『1冊ですべて身につくHTML&CSSとWe bデザイン入門講座』	Mana	SBCクリエイティブ	2019年	978-4-7973-9889-2	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『ほんの一手間で劇的に変わるHTML&CSSとWe bデザイン実践講座』	Mana	SBCクリエイティブ	2021年	978-4-8156-0614-5	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES222027)				
授業担当者(所属・職名)	近澤 潤(経営学科・専任講師)	研究室所在	1号館2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 近澤 潤)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	【オリエンテーション・Web制作基礎】 シラバスを説明する。Web制作のルールや工程・仕組み・手法などについて解説する。	シラバスを確認する(90分)	説明事項について再度確認する(90分)
2	【Web制作基礎】 ルールや工程・仕組み・手法などについて解説する。	教科書CHAPTER1を読む(90分)	事後学習用教材に取り組み(90分)
3	【HTML&CSS入門】 HTMLの基礎知識・ファイル作成・骨組み・基本の書き方について解説する。	教科書CHAPTER2を読む(90分)	事後学習用教材に取り組み(90分)
4	【HTML&CSS入門】 見出し・文章・画像の挿入・リンク・リスト・表について解説する。	教科書CHAPTER2を読む(90分)	事後学習用教材に取り組み(90分)
5	【HTML&CSS入門】 CSSの基礎知識・ファイル作成・基本の書き方について解説する。	教科書CHAPTER3を読む(90分)	事後学習用教材に取り組み(90分)
6	【HTML&CSS入門】 文字や文章の装飾・色の指定・背景・余白について解説する。	教科書CHAPTER3を読む(90分)	事後学習用教材に取り組み(90分)
7	【HTML&CSS入門】・中間試験 HTML・CSSについて総合的なまとめを行い、ここまでの授業内容に関する中間試験を実施する。	ここまでの授業内容を整理し復習する(90分)	中間試験の内容を復習する(90分)
8	【Web制作】 提示された制作要件を満たすWeb制作を行う。	教科書CHAPTER4を読む(90分)	授業内容を復習し、不明点をまとめる(90分)
9	【Web制作】 提示された制作要件を満たすWeb制作を行う。	教科書CHAPTER4を読む(90分)	授業内容を復習し、不明点をまとめる(90分)
10	【Web制作】 提示された制作要件を満たすWeb制作を行う。	教科書CHAPTER5を読む(90分)	授業内容を復習し、不明点をまとめる(90分)
11	【Web制作】 提示された制作要件を満たすWeb制作を行う。	教科書CHAPTER5を読む(90分)	授業内容を復習し、不明点をまとめる(90分)
12	【Web制作】 提示された制作要件を満たすWeb制作を行う。	教科書CHAPTER6を読む(90分)	授業内容を復習し、不明点をまとめる(90分)
13	【Web制作】 提示された制作要件を満たすWeb制作を行う。	教科書CHAPTER6を読む(90分)	授業内容を復習し、不明点をまとめる(90分)
14	【Web制作】 提示された制作要件を満たすWeb制作を行う。	教科書CHAPTER7を読む(90分)	授業内容を復習し、不明点をまとめる(90分)
15	【Web制作】・成果発表会 各自制作したWebデザインを全体に対しプレゼンテーションを行い、フィードバックする。	教科書CHAPTER7を読む(90分)	フィードバックに対して自分の意見をまとめる(90分)
16	【授業の総復習・まとめ】	ここまでの授業内容を整理し復習する(90分)	ここまでの授業内容を整理し復習する(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES223028)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		

概要

履修目標
WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法を理解し、制作現場に即した基本的な知識・技術を習得する。

授業全体の内容と概要
制作現場でよく活用される制作環境をベースにHTMLやCSS、jQuery等の基礎的な知識・技術について演習を通して習得し、就職活動でも活用できるポートフォリオサイトを制作する。

授業の方法
授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い(必要があれば資料を配布)演習を行う。また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
Adobe CCライセンス必須。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES223028)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 環境構築(xampp環境)・概要説明 一般的な制作環境・ツールを理解する	シラバスを読んでおくこと(90分)	PCを持っている場合は環境構築を試しておくこと(90分)
2	HTMLの基本 HTML5の基本構造やタグについて理解する	一般的なタグの種類を確認しておくこと(90分)	HTML構造やタグの意味を理解しておくこと(90分)
3	CSSの基本 CSSの基本構造やセレクタ、メディアクエリについて理解する	CSSの意義について確認しておくこと(90分)	CSSの記法やレスポンシブについて理解しておくこと(90分)
4	マークアップ演習 使用頻度の高いレイアウトパーツのHTML構造、CSS設計について理解する	WEB上で公開されているサイトのレイアウトをいくつか確認しておくこと(90分)	CSSの記法やレスポンシブについて理解しておくこと(90分)
5	マークアップ演習 使用頻度の高いレイアウトパーツのHTML構造、CSS設計について理解する	WEB上で公開されているサイトのレイアウトをいくつか確認しておくこと(90分)	レイアウトパーツの構造・設計について理解しておくこと(90分)
6	jQueryの基本 jQueryの基本構造やセレクタの扱い、制御構文について理解する	CSSのセレクタについて再確認しておくこと(90分)	WEB上の文献にらってjQueryを記述し実践しておくこと(90分)
7	PHPの基本 PHPの基本構造や制御構文について理解する	PHPの役割について確認しておくこと(90分)	WEB上の文献にらってPHPを記述し実践しておくこと(90分)
8	コンテンツページ制作 サンプルデザインを元にコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	画像抽出・タグ記述・画像表示まで行えるよう理解しておくこと(90分)
9	コンテンツページ制作 サンプルデザインを元にコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・CSS設計手法について理解しておくこと(90分)
10	コンテンツページ制作 サンプルデザインを元にコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・CSS設計手法について理解しておくこと(90分)
11	コンテンツページ制作 レスポンシブ手法について演習を通して理解する	レスポンシブの概要について確認しておくこと(90分)	レスポンシブ設計手法について理解しておくこと(90分)
12	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元に枠組みの構築を行う	HTML5の構造について再確認しておくこと(90分)	枠組みの設計手法やインクルードについて理解しておくこと(90分)
13	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元にページの基本構築を行う	jQueryについて再確認しておくこと(90分)	主にjQueryの技術的箇所について理解しておくこと(90分)
14	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元にページの基本構築を行う	自身のプロフィールと掲載できる写真画像(数枚)をまとめておくこと(90分)	デバイスフォント・WEBフォントについて理解しておくこと(90分)
15	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元に詳細表示の設計を行う1	自身の制作物(電子データ)と紹介文をまとめておくこと(90分)	制作したポートフォリオサイトを見直し、適宜調整を行うこと(90分)
16	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元に詳細表示の設計を行う2-講評	自身の制作物(電子データ)と紹介文をまとめておくこと(90分)	制作したポートフォリオサイトを見直し、適宜調整を行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES223029)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		

概要

履修目標	WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。
------	---

授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。
---------	------------------------------

到達目標	WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法をより深く理解し、就職後のスタートアップから役立つ実践的な知識・技術を習得する。
------	--

授業全体の内容と概要	制作現場でよく活用されるより効率的な制作環境をベースに、HTMLやCSS、jQuery等の実践的な知識・技術について演習を通して習得すると共に、多くの企業で活用されているCMSについての理解を深め、代表的なwordpress構築技術を習得する。
------------	--

授業の方法	授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い(必要があれば資料を配布)演習を行う。また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	Adobe CCライセンス必須。
----------	------------------

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイトでデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。
コンテンツマネジメントの知識・技能	コンテンツマネジメントの基本概念を理解し、代表的なCMSを利用した構造を適切に組み立て、動的なWEBサイトを構成することができた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解し、代表的なCMSを利用した構造を組み立てることができた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解し、代表的なCMSに必要なツールを入手し、設定することができた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解できた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	WEBデザイン (科目ナンバリング: DES223029)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 環境構築(gulp/sass環境)・概要説明 タスクランナー・CSSの拡張メタ言語を理解する	シラバスを読んでおくこと(90分)	PCを持っている場合は環境構築を試しておくこと(90分)
2	sassの基本 scssの基本構造や記法について理解する	拡張メタ言語(sass)について確認しておくこと(90分)	scssの記法について理解しておくこと(90分)
3	gulpの基本 タスクランナーを用いたコンパイル環境について理解する	タスクランナーの役割について確認しておくこと(90分)	gulpタスクについて理解しておくこと(90分)
4	マークアップ演習 gulp, sassを用いたレスポンシブコンテンツ制作演習を行う	メディアクエリについて確認しておくこと(90分)	レスポンシブ設計手法を理解しておくこと(90分)
5	マークアップ演習 gulp, sassを用いたレスポンシブコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	レスポンシブ設計手法を理解しておくこと(90分)
6	マークアップ演習 gulp, sassを用いたレスポンシブコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	レスポンシブ設計手法を理解しておくこと(90分)
7	マークアップ演習 gulp, sassを用いたレスポンシブコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	レスポンシブ設計手法を理解しておくこと(90分)
8	wordpressの基本 wordpressの構造, コンテンツ管理について理解する	CMS(コンテンツマネジメントシステム)について確認しておくこと(90分)	wordpressの基本構造について理解しておくこと(90分)
9	wordpress演習 基本デザインを元にブログページの基本構築を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	制作したブログページを見直し, 適宜調整を行うこと(90分)
10	wordpress演習 基本デザインを元にブログページの基本構築を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	制作したブログページを見直し, 適宜調整を行うこと(90分)
11	wordpress演習 基本デザインを元にブログページの基本構築を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	制作したブログページを見直し, 適宜調整を行うこと(90分)
12	wordpress演習 ブログ構築演習を行う	WEB上で公開されているブログサイトをいくつか確認しておくこと(90分)	ブログ構造について理解しておくこと(90分)
13	wordpress演習 ブログ構築演習 - 制作したブログページの組み込みを行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	ブログ組み込みに必要な構造・関数について理解しておくこと(90分)
14	wordpress演習 ブログ構築演習 - 制作したブログページの組み込みを行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	組み込んだページを見直し, 適宜調整を行うこと(90分)
15	wordpress演習 ブログ構築演習 - 制作したブログページの組み込みを行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	組み込んだページを見直し, 適宜調整を行うこと(90分)
16	wordpress応用 CMSとしてのwordpress活用事例について理解する - 講評	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	CMSとしてのwordpress活用について理解しておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	アニメーション (科目ナンバリング: PIP223042)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		

概要

履修目標	アニメーション制作の基礎、およびアニメーションにおいて生き生きとした動きを描くための基本原則や表現方法を修得する。												
授業の位置づけ	デザイン学科OP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	アニメーションにおける動画の基本原則を理解し、動画を作成できる。												
授業全体の内容と概要	ウォルト・ディズニー・スタジオのアニメーターであるフランク・トーマスとオリバー・ジョストンが共著書『Disney Animation / The Illusion of Life』(1981)にまとめたアニメーションの12の基本原則を元に、物理原則に沿った動きを理解し、キャラクターを生き生きと動かす表現力を修得する。動画は、紙と鉛筆による手描きで行う。												
授業の方法	授業は動画の基本原則について映像で参考作品を鑑賞し、配布資料で説明した後、課題制作に取り組む。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	出席を重視し、課題作品において評価する。授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてください。制作に必要な画材(ライトボックス・アニメーションタックなど)は、各自で準備すること。												
資格指定科目													

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
動画の基本技術	動画作成における原画(キーフレーム)と中割り、フレームレート等。動画の基本・本質を理解して、手で描く作画力を身につけた。	動画作成における原画(キーフレーム)と中割り、フレームレート等。動画の基本を理解して、手で描く作画力を身につけた。	動画作成における原画(キーフレーム)と中割り、フレームレート等。動画の基本を理解して、作画することができた。	動画作成の基本を理解して、作画することができた。	動画作成の基本を理解せず、作画ができなかった。
基本原則の表現力	アニメーションの各基本原則を理解し、生き生きとした動画を描く豊かな表現力を身につけた。	アニメーションの各基本原則を理解し、生き生きとした動画を描く表現力を身につけた。	アニメーションの各基本原則を理解し、それに適した動画を描くことができた。	アニメーションの各基本原則を学び、動画を描くことができた。	アニメーションの各基本原則を元に、動画を描くことができなかった。
動画撮影と編集	すべての課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成し、パソコンに取り込んでデータを整理して編集できた。シヨールールとしても通用する完成度に達した。	すべての課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成し、パソコンに取り込んでデータを整理して編集できた。	課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成し、パソコンに取り込んでデータを整理して編集できた。	課題において、手描きの作画をカメラで撮影して動画を作成し、パソコンに取り込んで編集できた。	動画の撮影ができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	The Animators Survival Kit: A Manual of Methods, Principles and Formulas for	Richard Williams	Faber and Faber	2001	0571202284	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	アニメーション (科目ナンバリング: PIP223042)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 アニメーションとは何か	シラバスを読むこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
2	アニメーションの基本原則1 Squash and Stretch	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
3	アニメーションの基本原則2 Anticipation	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
4	アニメーションの基本原則3 Staging	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
5	アニメーションの基本原則4 Straight Ahead and Pose to Pose	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
6	アニメーションの基本原則5 Follow Through and Overlapping Action	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
7	アニメーションの基本原則6 Slow In and Slow Out	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
8	アニメーションの基本原則7 Arcs	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
9	アニメーションの基本原則8 Secondary Action	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
10	アニメーションの基本原則9 Timing	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
11	アニメーションの基本原則10 Exaggeration	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
12	アニメーションの基本原則11 Solid Drawing	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
13	アニメーションの基本原則12 Appeal	学習内容に関連する動きを観察すること(90分)	動画を描く(90分)
14	動画編集1	動画を整理しておくこと(90分)	動画編集を進める(90分)
15	動画編集2	動画を整理しておくこと(90分)	動画編集を進める(90分)
16	講評 課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	アニメーション (科目ナンバリング: PIP223043)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。		

概要

履修目標

自主制作におけるアニメーションの制作工程を学び、制作技術および表現力を身につける。

授業の位置づけ

この科目はデザイン学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

自分のアイデアに基づいて、アニメーション作品を完成させる。

授業全体の内容と概要

作品の企画から最終的な書き出しまで、アニメーションの制作工程を実習を通して学ぶ。作品を制作する技法(デジタル、手描きなど)については、各自のアイデアに基づいて、選択すること。完成作品は、コンペティション応募を目指す。

授業の方法

授業は、制作過程の進捗状況についてチュートリアルを行った後、パワーポイント及び配布物資料で次の工程の説明する。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視し、課題作品において評価する。授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてくること。授業は主に制作工程のフォローである。デジタルの場合、ソフトウェア等は各自で選択する点に注意。「アニメーション」を履修・修得していることが望ましい。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
制作過程	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、できる限り表現を追求し、洗練させた。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、できる限り表現を追求した。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。それぞれの過程で、努力した。	プロセスに沿って、制作を進めることができた。	プロセスに沿った制作がほとんどできなかった。
授業外学習(準備学習・事後学習)の取り組み	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題をひとつひとつ仕上げて、授業に臨み、授業のアドバイスを受けて、改善することができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題をひとつひとつ仕上げて、授業に臨むことができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題にある程度取り組みることができた。	毎回の準備学習、事後学習に課せられた課題に取り組む努力をした。	準備学習、事後学習に全く取り組むことができなかった。
完成作品	アニメーションの技術力・表現力が認められる完成度の高い作品を仕上げた。	アニメーションの技術力・表現力が認められる完成度の作品を仕上げた。	アニメーションの技術や表現を活かした作品を完成させた。	作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	アニメーション (科目ナンバリング: PIP223043)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 アニメーターとして実務経験を有する教員が、その経験を活かしてアニメーション制作を指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 アニメーション制作について	シラバスを読んでもらうこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
2	プリプロダクション 企画・テーマ・コンセプト	作品の企画を考える(90分)	作品の企画をまとめる(90分)
3	プリプロダクション あらすじ	作品の企画をまとめる(90分)	あらすじを考える(90分)
4	プリプロダクション 脚本	あらすじを仕上げる(90分)	脚本を進める(90分)
5	プリプロダクション 絵コンテ	脚本を仕上げる(90分)	絵コンテを進める(90分)
6	プリプロダクション アニマティック	絵コンテを仕上げる(90分)	アニマティックを進める(90分)
7	プリプロダクション キャラクターデザイン	アニマティックを仕上げる(90分)	キャラクターデザインを進める(90分)
8	プロダクション 背景デザイン	キャラクターデザインを仕上げる(90分)	背景デザインを進める(90分)
9	プロダクション レイアウト	背景デザインを仕上げる(90分)	レイアウトを進める(90分)
10	プロダクション 動画	レイアウトを仕上げる(90分)	動画を進める(90分)
11	プロダクション 動画	動画を進める(90分)	動画を進める(90分)
12	ポストプロダクション 撮影	動画を仕上げる(90分)	撮影を進める(90分)
13	ポストプロダクション 編集	撮影を仕上げる(90分)	編集を進める(90分)
14	ポストプロダクション 録音	編集を仕上げる(90分)	録音を進める(90分)
15	ポストプロダクション 書き出し	録音を仕上げる(90分)	作品を完成させる(90分)
16	講評 課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項を(90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (科目ナンバリング: PIP223030)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
デザインに於ける3DCG技術の習得。モデリング、シェーディング、レンダリング、アニメーション、シミュレーションを網羅し、制作のための基礎を身につけるためのアクティブラーニングである。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)、(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
ビジュアル制作に於ける表現の幅を広げるための、3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作を身に付ける。「自らが学ぶ力」と「汎用的能力」を養うことで、実践力と社会性の伴った専門性を身に付ける。

授業全体の内容と概要
3DCGの制作工程を理解した後、モデリング-レンダリングの基礎、アニメーションの基礎について、アプリケーション(Maya)の基本操作を含めて系統的に学ぶための教材が配信される。これを基にして、受講者各自が、「体験」、「調査」、「発見」、「課題解決」などの学習を能動的に行う。

授業の方法
専門講師によるオンデマンドでの講義と実技指導の配信を教材として、受講生各自が主体的に学ぶ。受講生は指定されたアプリケーション(Maya)を用いることが可能な環境と、オンデマンドの受信が可能な環境の構築を事前に行う。操作講習から課題制作まで、全てを自学自習の形式で行う内容であり、環境の整備以外は全て教員の手を借りない自己解決を常とする。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
3DCGはデザインに於ける表現分野の一つであるが、自らの制作活動に於いてその表現技法を必要とする者のための内容である。前講授業ではなく自学自習を原則とした授業であり、基本操作から課題制作まで自主的に積極的に取り組む姿勢が重要である。オンデマンドの受信から課題の制作まで全授業内容でコンピュータを用いることになるので、受講者はコンピュータに関する知識と技術に習熟しており、ある程度のトラブルには自己対応が可能でなければならない。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	20%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「3DCGをデザインの表現分野として正しく認識できている」	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を90%以上理解し、可能性をシミュレーションできた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を80%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を70%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を60%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性の理解が60%未満であった。
思考力・表現力・判断力「デザイン的な志向の基に3DCGを用いた作品制作が行える」	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を効果的に用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作して、その特性を用いた作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作し、作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)の操作が不十分であり、作品制作には至らなかった。
主体性・多様性・協調性「3DCGの基本操作から課題制作までの流れを通して、主体的に学ぶ姿勢が身に着いている」	与えられた教材の習得と課題提出を90%以上完了している。授業の内容を十分に理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を80%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を70%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用する意識は育っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出を60%以上完了している。授業の内容を理解しているが、今後の制作活動に於いて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出が60%未満である。授業の内容理解が不十分であり、今後の制作活動に向けて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	前期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (科目ナンバリング: PIP223030)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス-シラバスの説明 教材と受講環境の確認	シラバスの確認 (90分)	受講環境整備 (90分)
2	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	第1章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
3	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
4	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
5	第1章 3DCGのワークフローと基本操作	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
6	第2章 基本操作とモデリング基礎	第2章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
7	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
8	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
9	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
10	第2章 基本操作とモデリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
11	第3章 シェーディング・UV・基礎	第3章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
12	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
13	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
14	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
15	第3章 シェーディング・UV・基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
16	各章課題の確認 CG技法研究 のガイダンス	各章課題の最終確認 (90分)	CG技法研究 のシラバス確認 (90分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (科目ナンバリング: PIP223031)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																					
デザインに於ける3DCG技術の習得。モデリング、シェーディング、レンダリング、アニメーション、シミュレーションを網羅し、制作のための基礎を身につけるためのアクティブラーニングである。																					
授業の位置づけ																					
デザイン学科のDP「1(1)、(2)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標																					
ビジュアル制作に於ける表現の幅を広げるための、3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作を身に付ける。「自らが学ぶ力」と「汎用的能力」を養うことで、実践力と社会性の伴った専門性を身に付ける。																					
授業全体の内容と概要																					
CG技法研究 で学んだ内容を踏まえた次の段階であり、3DCGのモデリング-レンダリングの基礎、アニメーションの基礎について、アプリケーション(Maya)の基本操作を含めて系統的に学ぶための教材が配信される。これを基にして、受講者各自が、「体験」、「調査」、「発見」、「課題解決」などの学習を能動的に行う。																					
授業の方法																					
専門講師によるオンデマンドでの講義と実技指導の配信を教材として、受講生各自が主体的に学ぶ。受講生は指定されたアプリケーション(Maya)を用いることが可能な環境と、オンデマンドの受信が可能な環境の構築を事前に行う。操作講習から課題制作まで、全てを自学自習の形式で行う内容であり、環境の整備以外は全て教員の手を借りない自己解決を常とする。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
CG技法研究 からの連続した内容であり、自らの制作活動に於いて3DCGの表現技法を必要とする者のための内容である。習う授業ではなく自学自習を原則とした授業であり、基本操作から課題制作まで自主的に積極的に取り組む姿勢が重要である。オンデマンドの受信から課題の制作まで全授業内容でコンピュータを用いることになるので、受講者はコンピュータに関する知識と技術に習熟しており、ある程度のトラブルには自己対応が可能でなければならない。																					
資格指定科目																					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	20%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能「3DCGをデザインの表現分野として正しく認識できている」	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作と、その表現特性を90%以上理解し、可能性をシミュレーションできた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作とその表現特性を80%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作とその表現特性を70%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作とその表現特性を60%以上理解していた。	3DCGアプリケーション(Maya)の基本操作とその表現特性の理解が60%未満であった。
思考力・表現力・判断力「デザインの志向の基に3DCGを用いた作品制作が行える」	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を効果的に用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を適切に操作し、その特性を用いた完成度の高い作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作して、その特性を用いた作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)を操作し、作品制作が行えた。	3DCGアプリケーション(Maya)の操作が不十分であり、作品制作には至らなかった。
主体性・多様性・協調性「3DCGの基本操作から課題制作までの流れを通して、主体的に学ぶ姿勢が身に着いている」	与えられた教材の習得と課題提出を90%以上完了している。授業の内容を十分に理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を80%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用することが可能な姿勢を身に付けていた。	与えられた教材の習得と課題提出を70%以上完了している。授業の内容を理解しており、今後の制作活動に於いて自主的に応用する意識は育っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出を60%以上完了している。授業の内容を理解しているが、今後の制作活動に於いて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。	与えられた教材の習得と課題提出が60%未満である。授業の内容理解が不十分であり、今後の制作活動に向けて自主的に学び応用しようとする意思を持っていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	CG技法研究 (科目ナンバリング: PIP223031)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
1	ガイダンス-シラバスの説明 受講環境の再確認と教材の確認	第1・2・3章の講義内容を復習しておく (90分)	教材と環境の再確認 (90分)
2	第4章 レンダリング基礎	第4章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
3	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
4	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
5	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
6	第4章 レンダリング基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
7	第5章 アニメーション基礎	第5章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
8	第5章 アニメーション基礎	課題確認と制作 (90分)	課題確認と制作 (90分)
9	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
10	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
11	第5章 アニメーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
12	第6章 シミュレーション基礎	第6章の講義内容を確認しておく (90分)	課題制作の継続 (90分)
13	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
14	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題制作の継続 (90分)
15	第6章 シミュレーション基礎	課題制作の継続 (90分)	課題の完成 (90分)
16	各章課題の確認-講評	各章課題の最終確認 (90分)	第1-6章の全内容を復習する (90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習 (所要時間)	事後学習 (所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	図学 (科目ナンバリング: AEA221046)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての表現である、空間における物体の表現を理解するために、基本的な図形の切断をテーマとした作図ができる。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
学生が、コンパスや三角定規を使い基本的な幾何学図形を正確に作図できる。

授業全体の内容と概要
美術、デザインにおける基本的素養としての表現について習熟するために、正六面体の切断についてCADも含めた作図を通して空間における線分と平面の投影と実長・形実と展開図と立体について学ぶ。進度に応じて漸次、課題を更新しながら進めてゆく。

授業の方法
板書と配付資料で授業を実施し、講義形式で授業をすすめる。各回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、各自が毎回の手書き、または、アプリケーションソフトを用いて課題を制作する。図的なプレゼンテーションとして各課題を制作する。実験・実習・実技として各自が制作した課題の確認・評価を双方向授業としておこなう。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
指定した用具等、自筆ノート、配布した参考資料、各自が作図した課題を持ってくること。

資格指定科目
教職課程(工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。出席をとった後は、欠席とする。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	40%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カルテシアン空間において図形が如何に存在するのかを理解し表現できる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>カルテシアン空間における平面図形を理解し作図によって表現できる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>基本的な平面図形の作図を理解し正しく表現できる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	カルテシアン空間において図形が如何に存在するのかを理解し表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	カルテシアン空間における平面図形を理解し作図によって表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	基本的な平面図形の作図を理解し正しく表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
カルテシアン空間において図形が如何に存在するのかを理解し表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				
カルテシアン空間における平面図形を理解し作図によって表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				
基本的な平面図形の作図を理解し正しく表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	図学 (科目ナンバリング: AEA221046)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンスーシラバスの説明 用具の使い方	シラバスと準備する用具等の確認(90分)	ガイダンス, 用具の使い方 (90分)
2	線の種類と描き方	用具の使い方と使用する用具等の確認(90分)	線の種類と描き方(90分)
3	正六面体とその回転と正投影	線の種類と描き方と使用する用具等の確認(90分)	正六面体とその回転と正投影(90分)
4	正六面体の展開図	正六面体とその回転と正投影と使用する用具等の確認(90分)	正六面体の展開図(90分)
5	正六面体の紙模型	正六面体の展開図と使用する用具等の確認(90分)	正六面体の紙模型(90分)
6	CADを用いた正六面体の展開図	正六面体の紙模型と使用する用具等の確認(90分)	CADを用いた正六面体の展開図(90分)
7	正六面体の切断面と切断線	CADを用いた正六面体の展開図と使用する用具等の確認(90分)	正六面体の切断面と切断線(90分)
8	正六面体の側面の切断線	正六面体の切断面と切断線と使用する用具等の確認(90分)	正六面体の側面の切断線(90分)
9	正六面体の側面を切断した紙模型	正六面体の側面の切断線と使用する用具等の確認(90分)	正六面体の側面を切断した紙模型(90分)
10	正四角錐の切断と断面実形	正六面体の側面を切断した紙模型と使用する用具等の確認(90分)	正四角錐の切断と断面実形(90分)
11	正六面体の切断と断面実形	正四角錐の切断と断面実形と使用する用具等の確認(90分)	正六面体の切断と断面実形(90分)
12	切断面と断面実形	正六面体の切断と断面実形と使用する用具等の確認(90分)	切断面と断面実形(90分)
13	切断した正六面体の下部分の展開図	切断面と断面実形と使用する用具等の確認(90分)	切断した正六面体の下部分の展開図(90分)
14	切断した正六面体の上部分の展開図	切断した正六面体の下部分の展開図と使用する用具等の確認(90分)	切断した正六面体の上部分の展開図(90分)
15	切断した正六面体の紙模型	切断した正六面体の上部分の展開図と使用する用具等の確認(90分)	切断した正六面体の紙模型(90分)
16	講評 課題返却	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価についてフィードバックを受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	図学 (科目ナンバリング: AEA221047)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての表現である、空間における物体の表現を理解するために、基本的な図形の切断をテーマとした作図ができる。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
学生が、空間における平面図形をイメージできる。

授業全体の内容と概要
美術、デザインにおける基本的素養としての表現について熟練するために、正六面体の切断などについてCADを中心とした作図を通して空間における線分と平面の投影と実長・形実と展開図と立体について学ぶ。進度に応じて漸次、課題を更新しながら進めてゆく。

授業の方法
板書と配付資料で授業を実施し、講義形式で授業をすすめ各回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、各自が毎回の手書き、または、アプリケーションソフトを用いて課題を制作する。図的なプレゼンテーションとして各課題を制作する。実験・実習・実技として各自が制作した課題の確認・評価を双方向授業としておこなう。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
指定した用具等、自筆ノート、配布した参考資料、各自が作図した課題を持ってくること。出席を取り終わったあとは欠席とする。図学の単位を必ず修得していること。

資格指定科目
教職課程(工芸)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	40%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>カルテシアン空間において図形が如何に存在するのかを理解しそれを平面図形に還元して表現できる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>立体や断面図形を持つ形態的な特徴を理解し作図によって表現できる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>アプリケーション・ソフトによる基本的な立体や平面図形の作図を理解し正しく表現できる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	カルテシアン空間において図形が如何に存在するのかを理解しそれを平面図形に還元して表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	立体や断面図形を持つ形態的な特徴を理解し作図によって表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	アプリケーション・ソフトによる基本的な立体や平面図形の作図を理解し正しく表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
カルテシアン空間において図形が如何に存在するのかを理解しそれを平面図形に還元して表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																								
立体や断面図形を持つ形態的な特徴を理解し作図によって表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																								
アプリケーション・ソフトによる基本的な立体や平面図形の作図を理解し正しく表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	図学 (科目ナンバリング: AEA221047)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, 用具の使い方 シラバスの説明	シラバスと準備する用具等の確認(90分)	ガイダンス, 用具の使い方 (90分)
2	CADを用いた正六面体の展開図	ガイダンス, CADの使い方と自筆ノート等の確認(90分)	CADを用いた正六面体の展開図(90分)
3	正六面体の紙模型	CADを用いた正六面体の展開図と自筆ノート等の確認(90分)	正六面体の紙模型(90分)
4	CADを用いた正六面体とその回転と正投影	正六面体の紙模型と自筆ノート等の確認(90分)	CADを用いた正六面体とその回転と正投影(90分)
5	CADを用いた正六面体の切断面と側面の切断線	CADを用いた正六面体とその回転と正投影と自筆ノート等の確認(90分)	CADを用いた正六面体の切断面と側面の切断線(90分)
6	正六面体の側面を切断した紙模型	CADを用いた正六面体の切断面と側面の切断線と自筆ノート等の確認(90分)	正六面体の側面を切断した紙模型(90分)
7	CADを用いた正六面体の切断と断面実形	正六面体の側面を切断した紙模型と自筆ノート等の確認(90分)	CADを用いた正六面体の切断と断面実形(90分)
8	CADを用いた切断した正六面体の下部分の展開図	CADを用いた正六面体の切断と断面実形と自筆ノート等の確認(90分)	CADを用いた切断した正六面体の下部分の展開図(90分)
9	CADを用いた切断した正六面体の上部分の展開図	CADを用いた切断した正六面体の下部分の展開図と自筆ノート等の確認(90分)	CADを用いた切断した正六面体の上部分の展開図(90分)
10	切断した正六面体の紙模型	CADを用いた切断した正六面体の上部分の展開図と自筆ノート等の確認(90分)	切断した正六面体の紙模型(90分)
11	正四面体の切断と断面実形	正四面体の切断と断面実形と自筆ノート等の確認(90分)	正四面体の切断と断面実形(90分)
12	多角錐の切断と断面実形	正四面体の切断と断面実形と自筆ノート等の確認(90分)	多角錐の切断と断面実形(90分)
13	多角錐の切断と側面の展開図	多角錐の切断と断面実形と自筆ノート等の確認(90分)	多角錐の切断と側面の展開図(90分)
14	多角錐の展開図	多角錐の切断と側面の展開図と自筆ノート等の確認(90分)	多角錐の展開図(90分)
15	切断した多角錐の紙模型	多角錐の展開図と自筆ノート等の確認(90分)	切断した多角錐の紙模型(90分)
16	講評 課題返却	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価についてフィードバックを受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	インテリア表現基礎 (科目ナンバリング: HLS321056)				
授業担当者(所属・職名)	木下泰男(建築学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 木下 泰男)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所や専門学校における教員経験と海外デザイン研究経験を通して空間概念の室内表現技術を講義する。		

概要

履修目標
<p>インテリアデザインのコンセプト(意図)を的確に相手に伝えるために視覚的表現伝達の手法を学ぶ。家具形態寸法・人体寸法・動線等の基本を確認し、室内空間や家具をイメージ把握するための簡易パース表現技術を理解し身につける。今日、表現手段はCGが主流だが、イメージとCGを繋ぐ重要な過程が手描きの表現といえる。本講義では、「伝える」ための基礎的な描写表現力を養う。</p>

授業の位置づけ
<p>建築学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>室内空間や家具のデザインイメージを自由に描け、相手に伝えられる描写訓練を実施する。透視略略図法や等角投影図法の表現ができるように理解させ実施する。本講義で身につけた技能が次以降のインテリアデザイン関連専門科目を履修する上での基本的スキルになる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>室内空間や家具をイメージするためのコミュニケーションツールとしての簡易パース表現技術を理解し身につける。室内空間や家具のデザインイメージを自由に描け、相手に伝えられる透視略略図法や等角投影図法の表現ができるように理解させ、描写訓練を実施する。</p>

授業の方法
<p>講義ごとに資料を配布し、インテリアエレメントのタイプや寸法など講義する。また、家具図版や作図資料を参考にスケッチパースの制作を板書とプリントにて解説し講義と表現演習に対応して進める。授業ではイラストマーカー、色鉛筆、パステル、デザインペンなどの画材を使いこなし、室内空間のイメージを描きプレゼン表現する。できるだけ数多くの作品を手掛けることで特徴と表現力を身につける。演習課題をプレゼンし、演習作品にはコメントしてフィードバックする。</p>

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
<p>単位認定に必要な最低出席回数を守ること。授業で行う表現演習の取り組みが過半を占めるので、欠席や演習未提出などは単位認定されない。本講義はインテリアコーディネーター資格試験の二次試験対策に有効である。</p>

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。授業で行う表現演習の取り組みが過半を占めるので、欠席や演習未提出などは不合格に直結することとなる。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>10%</td> <td>10%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	10%	10%	70%	0%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
10%	10%	70%	0%	10%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インテリアエレメント(要素)の基本認識・確認と空間構成と人体工学</td> <td>資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴を理解し組み合わせなどの連続で多様な空間構成の表現ができた。</td> <td>資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴を理解し組み合わせなどの空間構成をまとめることができた。</td> <td>資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴を理解し単純な空間構成をまとめることができた。</td> <td>資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴が理解できた。</td> <td>資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴が理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>作図手順・手法(基本技術)の理解と作図表現(等角投影図法・点描図法・簡易透視図法)</td> <td>等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解し、作図表現の活用が柔軟に特徴あるバリエーション化ができた。</td> <td>等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解し、作図表現の活用が柔軟にできた。</td> <td>等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解し、作図表現の活用ができた。</td> <td>等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解できた。</td> <td>等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>室内空間伝達イメージの表現描写力(点書・着彩・陰影・反射・省略・印象、伝達力など)</td> <td>思考性を持って室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現に加えて、点書などの配置や空間と家具とのバランス表現と色彩表現が秀逸であった。</td> <td>思考性を持って室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現に加えて、点書などの配置や空間と家具とのバランス表現に優れていた。</td> <td>思考性を持って室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現に加えて、点書などの配置や空間と家具とのバランス表現がとれていた。</td> <td>室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現ができなかった。</td> <td>室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現ができなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	インテリアエレメント(要素)の基本認識・確認と空間構成と人体工学	資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴を理解し組み合わせなどの連続で多様な空間構成の表現ができた。	資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴を理解し組み合わせなどの空間構成をまとめることができた。	資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴を理解し単純な空間構成をまとめることができた。	資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴が理解できた。	資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴が理解できなかった。	作図手順・手法(基本技術)の理解と作図表現(等角投影図法・点描図法・簡易透視図法)	等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解し、作図表現の活用が柔軟に特徴あるバリエーション化ができた。	等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解し、作図表現の活用が柔軟にできた。	等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解し、作図表現の活用ができた。	等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解できた。	等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解できなかった。	室内空間伝達イメージの表現描写力(点書・着彩・陰影・反射・省略・印象、伝達力など)	思考性を持って室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現に加えて、点書などの配置や空間と家具とのバランス表現と色彩表現が秀逸であった。	思考性を持って室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現に加えて、点書などの配置や空間と家具とのバランス表現に優れていた。	思考性を持って室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現に加えて、点書などの配置や空間と家具とのバランス表現がとれていた。	室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現ができなかった。	室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現ができなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
インテリアエレメント(要素)の基本認識・確認と空間構成と人体工学	資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴を理解し組み合わせなどの連続で多様な空間構成の表現ができた。	資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴を理解し組み合わせなどの空間構成をまとめることができた。	資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴を理解し単純な空間構成をまとめることができた。	資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴が理解できた。	資料等からインテリア要素の種類と形態と役割と寸法等の特徴が理解できなかった。																																				
作図手順・手法(基本技術)の理解と作図表現(等角投影図法・点描図法・簡易透視図法)	等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解し、作図表現の活用が柔軟に特徴あるバリエーション化ができた。	等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解し、作図表現の活用が柔軟にできた。	等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解し、作図表現の活用ができた。	等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解できた。	等角投影図法・簡易透視図法の作図特徴と用途の違いによる作図手順を理解できなかった。																																				
室内空間伝達イメージの表現描写力(点書・着彩・陰影・反射・省略・印象、伝達力など)	思考性を持って室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現に加えて、点書などの配置や空間と家具とのバランス表現と色彩表現が秀逸であった。	思考性を持って室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現に加えて、点書などの配置や空間と家具とのバランス表現に優れていた。	思考性を持って室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現に加えて、点書などの配置や空間と家具とのバランス表現がとれていた。	室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現ができなかった。	室内空間表現や家具表現に特徴ある描写や印象性を内包した表現ができなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	インテリア表現基礎 (科目ナンバリング:HLS321056)				
授業担当者(所属・職名)	木下泰男(建築学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 木下 泰男)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	設計事務所や専門学校における教員経験と海外デザイン研究経験を通して空間概念の室内表現技術を講義する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、室内空間の概念と空間認識の理解演習と室内の基本図面分類の説明。目録の構成要素実測調査手法の研究。	シラバスを予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、自室を実測(90分)
2	インテリア空間表現1:等角投影図法による「マイルーム」空間の立体概念研究1。 *空間(建築要素)下書き作図	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、作図取り組(90分)
3	インテリア空間表現1:等角投影図法による「マイルーム」空間の立体概念研究2。 *家具等エレメント(要素)作図	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、作図取り組(90分)
4	インテリア空間表現1:等角投影図法による「マイルーム」空間の立体概念研究3。 *家具等エレメント(要素)作図	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、作図取り組(90分)
5	インテリア空間表現1:等角投影図法による「マイルーム」空間の立体概念研究4。 *プレゼンテーション:タイトル等レタリング	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、作図取り組(90分)
6	インテリア空間表現1:等角投影図法による「マイルーム」空間の立体概念研究5。 *プレゼンテーション:仕上げ描写	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	等角投影図表現、作図仕上げ提出(90分)
7	インテリア空間表現2:断面展開図の点描図法による歴史建築空間デザインの研究1。*空間のイメージ把握	点描表現の講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、作図取り組(90分)
8	インテリア空間表現2:展開断面の点描図法による歴史建築空間デザインの研究2。*空間表現描写	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を確認し、作図に取り組(90分)
9	インテリア空間表現2:展開断面の点描図法による歴史建築空間デザインの研究3。*素材表情の表現描写	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、作図取り組(90分)
10	インテリア空間表現2:展開断面の点描図法による歴史建築空間デザインの研究4。*仕上げ描写	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	点描空間の作図:仕上げ提出(90分)
11	インテリア空間表現3:一点透視(パース)図法(測線法/簡易図法)図面描写板書解説:「マイルーム」空間の作図1*下書き描写(A2製図版使用)	遠近表現の講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、作図に取り組(90分)
12	インテリア空間表現3:一点透視(パース)図法(測線法/簡易図法):「マイルーム」空間の作図2*建築要素(床・壁・天井・開口部)描写(A2製図版使用)	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、作図に取り組(90分)
13	インテリア空間表現3:一点透視(パース)図法(測線法/簡易図法):「マイルーム」空間の作図3*家具等エレメント描写(A2製図版使用)	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、作図に取り組(90分)
14	インテリア空間表現3:一点透視(パース)図法(測線法/簡易図法):「マイルーム」空間の作図4*清書トレス描写(A2製図版使用)	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	講義内容を復習し、作図に取り組(90分)
15	インテリア空間表現3:一点透視(パース)図法(測線法/簡易図法):「マイルーム」空間の作図5*点景・着色仕上げ描写(A2製図版使用)	講義範囲を予習し、講義用語の意味を把握(90分)	パースの作図:仕上げに取り組み提出(90分)
16	定期試験(後期):室内空間基礎表現の試験(60分)と残りの時間で解説・フィードバック(30分)を行います。	後期講義指定の試験範囲の予習に取組む(90分)	解説を受け授業全体の復習に取組む(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。			

概要

履修目標																								
モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。																								
授業の位置づけ																								
デザイン学科のDP「1(2)、(3)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標																								
プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。																								
授業全体の内容と概要																								
デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形ボスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。																								
授業の方法																								
課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は24回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を幸うじて捉え、今まで以上の価値を幸うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うじて具現化出来て、造形力やアプローチも幸うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うじて具現化出来て、造形力やアプローチも幸うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
4	マーケットチャート作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
8	アイデアスケッチまとめ1		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
10	アイデアスケッチ2		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
14	デザイン作業		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
16	デザイン作業		世の中の製品を良く調べておく。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
18	デザイン再考		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
20	デザイン修正		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
22	レンダリング		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
24	レンダリング		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
26	レンダリング		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
28	ポスター作成 プレゼンボード作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
30	ポスター作成 プレゼンボード作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
32	総評 改善アンケート		授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。			

概要

履修目標	モノ、コト、商品をデザインする、プロダクトデザイナーになる為に必要な知識、技術、人間力を習得する。				
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)、(3)」、「2(2)」に対応する。				
到達目標	プロダクトデザイナーとしてモノの見方、考え方、問題解決の為のアイデア展開、造形力、表現技術、プレゼンテーション技術、デザイナーとしての人間力を習得する。				
授業全体の内容と概要	デザインするテーマをマーケットリサーチし、現状を把握、問題点抽出、アイデア展開、造形ボスター等、表現方法を考察、プレゼンテーションして第三者の意見を考察し、自分の力量を認識する。				
授業の方法	課題に沿ってマーケットリサーチをグループでしてモノの潜在価値を把握する。問題点を抽出しアイデアを発想し、デザインして第三者にプレゼンテーションする。ディスカッションをして自分の考察し、デザインの深さを認識する。				
アクティブラーニングの実施方法	○	○	○	○	○
	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	○	○	○	○
	ディスカッション	○	○	○	○
		実験・実習・実技	○	○	○
履修上の注意事項	授業は積み重ねの学習となる為、欠席しないようにすること。				
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は24回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
モノの本質を捉え、新しい価値を創り出せる。	モノの本質を完璧に捉え、今まで以上の価値を完璧に創造出来た。	モノの本質を上手に捉え、今まで以上の価値を高められた。	モノの本質を捉え、今まで以上の価値を出せた。	モノの本質を幸うじて捉え、今まで以上の価値を幸うじて出せた。	モノの本質を捉えられない、今まで以上の価値を出せなかった。
問題解決のアイデアを出せる。	問題解決のアイデアを完璧に出せる。従来の価値以上のものを創造出来た。	自分のアイデアを上手く具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うじて具現化出来て、造形力やアプローチも幸うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。
新デザインを提案出来る	自分のアイデアを完璧に具現化出来て、造形力やアプローチも完璧であった。	自分のアイデアを上手に具現化出来て、造形力やアプローチも上手であった。	自分のアイデアを具現化出来て、造形力やアプローチも出来た。	自分のアイデアを幸うじて具現化出来て、造形力やアプローチも幸うじて出来た。	自分のアイデアを具現化出来ない、造形力やアプローチも出来なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	プロダクトデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	林 春生(デザイン学科・教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 林 春生)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン実務経験40年間を活かしたプロダクトデザイン講義です。		

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 プロダクトデザインとは デザインテーマ発表	プロダクトデザインとは?調べておく、シラバスを読む。(45分)	
2	マーケットリサーチ 潜在意識探求、問題点抽出		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
3	グループに分かれてブレインストーミング	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
4	マーケットチャート作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
5	まとめ グループごとに見解を発表	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
6	問題定義から解決アイデアを展開 アイデアスケッチスタート		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
7	アイデアスケッチ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
8	アイデアスケッチまとめ1		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
9	アイデアスケッチ1プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
10	アイデアスケッチ2		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
11	アイデアスケッチ2まとめ	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
12	アイデアスケッチ2プレゼンテーション デザイン審議会		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
13	デザイン方向決定 デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
14	デザイン作業		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
15	デザイン作業	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
16	デザイン作業		世の中の製品を良く調べておく。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	デザイン審査		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
18	デザイン再考		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
19	デザイン修正	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
20	デザイン修正		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
21	レンダリング モック作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
22	レンダリング モック作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
23	レンダリング モック作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
24	レンダリング モック作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
25	レンダリング モック作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
26	レンダリング モック作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
27	レンダリング モック作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
28	ポスター作成 プレゼンボード作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
29	ポスター作成 プレゼンボード作成	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
30	ポスター作成 プレゼンボード作成		世の中の製品を良く調べておく。(45分)
31	プレゼンテーション	世の中の製品を良く調べておく。(45分)	
32	総評 改善アンケート		授業全体を俯瞰して、今後の計画を考察する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	イディリアルデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		

概要

履修目標	エディトリアルデザインにおける基礎的な知識・技術を修得し、紙面全体の構成を考えて編集して、効果的なデザインを行うことができる。												
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	エディトリアルデザインの基礎的な知識・技術を理解し、制作することができる。												
授業全体の内容と概要	印刷物の制作を通して、エディトリアルデザインに必要な知識・技術の修得を目指す。												
授業の方法	授業は、制作過程の進捗状況についてチュートリアルを行った後、パワーポイント及び配布物資料等で次の工程の説明をする。 Adobe Illustrator, InDesign, Photoshopを使用する。 制作物は、各自で印刷すること。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	出席を重視し、課題作品において評価する。 授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてくること。												
資格指定科目													

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザインにおける基礎的な知識・技術	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらに基づき、効果的で納得のあるデザインに仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらに基づき効果的なデザインができた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらに基づき制作できた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組んだ。	デザインの基礎的な知識・技術を理解できず、課題ができなかった。
構成力・編集力	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成・編集できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、分かりやすい紙面を作ることができた。	文字・図・写真などを整理して配置できた。	情報を文字・図・写真などに整理することができなかった。
制作過程と完成作品	デザインコンセプトに沿って、読み手のことを考慮しながら各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げる事ができた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で努力し、印刷・製本まで仕上げる事ができた。	アイデアに基づいて、作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	エディトリアルデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 エディトリアルデザインとは	シラバスを読むこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
2	小冊子制作1 課題について	身の周りのエディトリアルデザインを観察する(90分)	課題について構想をまとめる(90分)
3	小冊子制作2 ラフ制作	課題について構想をまとめる(90分)	ラフ制作を進める(90分)
4	小冊子制作3 ページネーション(ページ割り)	ラフを仕上げる(90分)	ページ割りを進める(90分)
5	小冊子制作4 ページネーション(ページ割り)	ページ割りを進める(90分)	ページ割りを仕上げる(90分)
6	小冊子制作5 イラストレーション制作	イラストレーションの準備をする(90分)	イラストレーションを進める(90分)
7	小冊子制作6 イラストレーション制作	イラストレーションを進める(90分)	イラストレーションを進める(90分)
8	小冊子制作7 イラストレーション制作	イラストレーションを進める(90分)	イラストレーションを仕上げる(90分)
9	小冊子制作8 タイポグラフィ・レイアウト・配色	デザインエレメントについて構想する(90分)	デザインエレメントについて検討する(90分)
10	小冊子制作9 タイポグラフィ・レイアウト・配色	デザインエレメントについて検討する(90分)	デザインエレメントについて検討する(90分)
11	小冊子制作10 表紙	表紙制作の準備をする(90分)	表紙制作を進める(90分)
12	小冊子制作11 表紙	表紙制作を進める(90分)	表紙を仕上げる(90分)
13	小冊子制作12 試し刷り	試し刷りの準備をする(90分)	ブラッシュアップに取り組む(90分)
14	小冊子制作13 ブラッシュアップ	ブラッシュアップに取り組む(90分)	データを完成させる(90分)
15	小冊子制作14 印刷・製本	印刷の準備をする(90分)	講評に向けて準備をする(90分)
16	講評 課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	エディトリアルデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。		

概要

履修目標	エディトリアルデザインにおける基礎的な知識・技術を修得し、編集内容の考察を深め、視覚的效果に配慮してデザインを行うことができる。												
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	エディトリアルデザインの基礎的な知識・技術を理解し、制作することができる。												
授業全体の内容と概要	印刷物の制作を通して、エディトリアルデザインに必要な知識・技術の修得を目指す。												
授業の方法	授業は、制作過程の進捗状況についてチュートリアルを行った後、パワーポイント及び配布資料等で次の工程の説明をする。 Adobe Illustrator, InDesign, Photoshopを使用する。 制作物は、各自で印刷すること。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	出席を重視し、課題作品において評価する。 授業内で提示された課題は次の授業までに仕上げてください。 「エディトリアルデザイン」を履修・修得していることが望ましい。												
資格指定科目													

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
デザインにおける基礎的な知識・技術	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に、効果的で納得のあるデザインに仕上げた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に効果的なデザインができた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、それらを基に制作できた。	デザインの基礎的な知識・技術を理解し、課題に取り組んだ。	デザインの基礎的な知識・技術を理解できず、課題ができなかった。
構成力・編集力	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成・編集できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、美しく効果的な紙面を構成できた。	文字・図・写真などを整理して配置し、分かりやすい紙面を作ることができた。	文字・図・写真などを整理して配置できた。	情報を文字・図・写真などに整理することができなかった。
制作過程と完成作品	デザインコンセプトに沿って、読み手のことを考慮しながら各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で検討を重ねて、印刷・製本までを美しく仕上げる事ができた。	デザインコンセプトに沿って、各過程で努力し、印刷・製本まで仕上げる事ができた。	アイデアに基づいて、作品を完成させた。	作品が完成しなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	エディトリアルデザイン (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 真紀(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 真紀)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 <small>フリーランスのグラフィックデザイナーとしての実務経験を元に、エディトリアルデザイン制作を指導する。</small>			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 エディトリアルデザイン制作について	シラバスを読むこと(90分)	授業をふりかえり理解を深めておくこと(90分)
2	フリーペーパー制作1 課題について	エディトリアルデザインについて理解を深める(90分)	課題について構想をまとめる(90分)
3	フリーペーパー制作2 アイデア・コンセプト	課題について構想をまとめる(90分)	課題について構想をまとめる(90分)
4	フリーペーパー制作3 サイズ・ページネーション	サイズ・ページネーションを検討する(90分)	サイズ・ページネーションを検討する(90分)
5	フリーペーパー制作4 デザインコンセプト	デザインコンセプトを検討する(90分)	デザインコンセプトを検討する(90分)
6	フリーペーパー制作5 サムネイル	デザインコンセプトを決定する(90分)	サムネイルを仕上げる(90分)
7	フリーペーパー制作6 取材	取材の準備をする(90分)	取材を行う(90分)
8	フリーペーパー制作7 インタビューの文字起こし	取材を行う(90分)	文字起こしを仕上げる(90分)
9	フリーペーパー制作8 写真加工	写真の準備をする(90分)	写真加工を仕上げる(90分)
10	フリーペーパー制作9 タイポグラフィ・レイアウト・配色	デザインエレメントについて構想する(90分)	デザインエレメントについて検討する(90分)
11	フリーペーパー制作10 タイポグラフィ・レイアウト・配色	デザインエレメントについて検討する(90分)	デザインエレメントについて検討する(90分)
12	フリーペーパー制作11 表紙	表紙制作の準備をする(90分)	表紙制作を進める(90分)
13	フリーペーパー制作12 試し刷り	表紙を仕上げる(90分)	ブラッシュアップに取り組む(90分)
14	フリーペーパー制作13 ブラッシュアップ	ブラッシュアップに取り組む(90分)	データを完成させる(90分)
15	フリーペーパー制作14 印刷・製本	印刷の準備をする(90分)	講評に向けて準備をする(90分)
16	講評 課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(90分)	講評・フィードバックをふりかえり講義全体の理解を深めること(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	絵画 (科目ナンバリング: AEA222050)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		

概要

履修目標												
絵画を完成させることで、手順を理解し自ら作品を制作できる。												
授業の位置づけ												
デザイン学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)と(4)」に対応する。												
到達目標												
アカデミックな技法により、基礎的な絵画技術の向上と基本的な混色を理解する。												
授業全体の内容と概要												
人物(顔)を中心にオーソドックスな手法を使い絵画で表現することで基本的なものの見方や技術をマスターする。												
授業の方法												
プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
知性と感性を十分に発揮し、根気強くたゆまなく努力すること。作品の質・課題に取り組む姿勢・鑑賞力などを重視する。												
資格指定科目												
教職課程(美術)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
適正な構図、形のバランス(比例)が正しく捉えられ、ことを基準とする	バランスよく配置や大きさが捉えられていた。	ほぼバランスよく配置されていた。	大きさが大体捉えられていた。	左右上下にバランスよく配置されていた。	左右により過ぎや、極端に大きい、小さい等があった。
陰影を利用して人物の顔(解剖学的に)をひよぶ減出することを基準とする	自然な光の流れが顔の表現が出来ていた。	ほぼ光の方向が表現出来ていた。	明るい、暗いの描き分けが出来ていた。	明暗で表現していた。	固有色にとらわれ、顔の立体表現が出来なかった。
色の混色について正しくコントロール出来ているかを基準とする	画面上での混色が出来ると、彩度の違いを理解していた。	混色による色相の違いが理解できていた。	適正な分量の混色が出来た。	明度の違いをコントロール出来た。	明度、色相を理解出来ていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	絵画 (科目ナンバリング: AEA222050)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明 油彩画のための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	オリエンテーション 油彩画のための用具野説明、授業の流れと目的などについて。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
3	自画像を描く(F10号)3色(青,赤,黄)の混色によって出来る色(暗灰色)で自分の顔をデッサンする。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
4	自画像を描く(F10号)3色(青,赤,黄)の混色によって出来る色(暗灰色)で自分の顔をデッサンする。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
5	ホワイトを盛り上げて塗り、マチエール(絵肌)を作る。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
6	ホワイトを盛り上げて塗り、マチエール(絵肌)を作る。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
7	3色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い、グレージング(薄塗り)によって描き進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
8	3色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い、グレージング(薄塗り)によって描き進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
9	の作業にホワイトによる形などの修正を加え、さらにグレージングの手法を使い描き進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
10	の作業にホワイトによる形などの修正を加え、さらにグレージングの手法を使い描き進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
11	描き込みを進める。	布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
12	描き込みを進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
13	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)	布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
14	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
15	細部を描き込み作品を完成させる。作品評価	布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
16	細部を描き込み作品を完成させる。作品評価		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	人物画の模写を描く(F10号)3色(青,赤,黄)の混色によって出来る色(暗灰色)で自分の顔をデッサンする。	布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
18	人物画の模写を描く(F10号)3色(青,赤,黄)の混色によって出来る色(暗灰色)で自分の顔をデッサンする。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
19	ホワイトを盛り上げて塗り、マチエール(絵肌)を作る。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
20	ホワイトを盛り上げて塗り、マチエール(絵肌)を作る。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
21	3色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い、グレージング(薄塗り)によって描き進める。	布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
22	3色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い、グレージング(薄塗り)によって描き進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
23	の作業にホワイトによる形などの修正を加え、さらにグレージングの手法を使い描き進める。	布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
24	の作業にホワイトによる形などの修正を加え、さらにグレージングの手法を使い描き進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
25	描き込みを進める。	布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
26	描き込みを進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
27	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)	布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
28	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
29	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)	布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
30	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
31	細部を描き込み作品を完成させる。作品評価	提出課題の完成へ向けて準備をしておくこと(45分)	講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと(45分)
32	採点及び講評会(解説・フィードバック)	評会の準備を行うこと(45分)	解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 (科目ナンバリング: AEA223052)				
授業担当者 (所属・職名)	安田 祐造 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

概要

履修目標
洋画の技法は、今日の我が国では油彩が一般的だが、欧州における長い洋画の歴史を顧みれば、油彩技法が確立される以前のエッグテンペラの技法は欠かせない。この授業では油彩とエッグテンペラによる絵画制作に用いる用材についての基本を学び、それぞれの技法の特長を活かすことにより、各々の履修生の表現の幅を広げるための道を拓くことを目的とするものである。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。

到達目標
油彩やエッグテンペラの技法、それらの用材の特徴や使用方法と管理の仕方などの基本を理解し、それぞれの特徴を活かした絵画制作を行えるようにすることや自分に相応しい表現方法を探究する態度を養成することを目標とする。

授業全体の内容と概要
油彩のみならず、エッグテンペラなどに関する様々な技法や材料について、支持体の種類とそれぞれの作り方と特徴、顔料の種類と性質、展色剤の種類と特徴、様々な用具の使用方法や管理の仕方などについての基本を学修し表現の幅を広げるための科目である。

授業の方法
油彩とエッグテンペラによる「混合技法」で小品を2点制作する実技形式の授業である。履修者各自が設定したテーマに則り、それを有効に表現した作品を創り上げることを課題とする。実習のみならず視聴覚機器を十分に活用し参考資料等の紹介や説明を行い、普段の授業や合評会においては、適切なコメントによりフィードバックに寄与させようとするものである。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
この授業を履修するに当たっては、芸術文化の素晴らしさを追求するばかりか、自然環境やものを大切にすることを意識し、環境にやさしい人への配慮を促すことを目的とする。自然環境やものを大切にすることを意識し、環境にやさしい人への配慮を促すことを目的とする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について十分に身に付いた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について身に付いた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本についてほぼ身に付いた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本についてある程度身に付いた。	基底材の裁断と組み立て、地塗り、研磨などの基本について身に付かなかった。
彩色材料について	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が十分に身に付いた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が身に付いた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本がほぼ身に付いた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本がある程度身に付いた。	エッグテンペラの展色剤の処方と管理の仕方、油彩の材料の特性などについての基本が身に付かなかった。
描写について	モチーフの面やパルレルなどを十分的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やパルレルなどを的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やパルレルなどをほぼ的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やパルレルなどをある程度的確にとらえた描写が行えた。	モチーフの面やパルレルなどを的確にとらえた描写が行えなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 (科目ナンバリング: AEA223052)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスについての解説と古今の作品鑑賞等	予めシラバスに目を通す。(45分)	
2	洋画作品の構造と用材		本時の内容についての復習と自らの作品に相応しい支持体の形状について検討する。(45分)
3	支持体製作 - 材料の裁断 (サイズは6号)	作品のテーマとモチーフを検討する。(45分)	
4	支持体製作 - 材料の組み立て		本時の内容についての復習と地塗り材についての予習を行う。(45分)
5	支持体製作 - 地塗り材の処方	まとめた構想に沿った地塗りの仕方について予習しておく。(45分)	
6	支持体製作 - 地塗り作業		作品の構想に照らし本日の地塗り作業について振り返る。(45分)
7	支持体の研磨と下絵の転写方法と転写作業	構想を具体化した下絵を完成させておく。(45分)	
8	下描き材料と下描き作業		他者の描き方に照らし自らの描写の仕方について検証する。(45分)
9	下描きの完成	作品削りに不足している用材等を補充しておく。(45分)	
10	油彩並びにエッグテンペラ用展色剤の処方		古今のエッグテンペラを用いた作品を分析する。(45分)
11	混合技法(油彩とエッグテンペラ)による本制作A	制作が遅れている場合自ら制作を進めておく。(45分)	
12	混合技法による本制作B		特にエッグテンペラによる描写に不足がある場合は、自らそれを補っておく。(45分)
13	混合技法による本制作C	完成に時間を要する場合自ら制作を進めておく。(45分)	
14	混合技法による本制作D		進捗状況を点検し、足りない部分を補う。(45分)
15	混合技法による本制作E	進捗状況を点検し、必要に応じて制作を行う。(45分)	
16	混合技法による本制作F		より良いものを求め不足している部分を補う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	混合技法による本制作G 完成	合評と作品提出を前に完成度を点検する。(45分)	
18	合評		合評会での他者の感想や意見を顧みる。(45分)
19	支持体製作 - 矩形に拘らないかたち (サイズは6号)	事前に構想を練り上げ支持体のかたちに反映させる。(45分)	
20	支持体製作 - 材料の組み立て		作品の構想と表現方法を検討する。(45分)
21	支持体製作 - 表現の意図に合った地塗り材料の処方	作品の構想と表現方法をまとめておく。(45分)	
22	支持体製作 - 表現の意図に合った地塗り作業		まとめた構想に沿って、参考資料等を準備しておく。(45分)
23	下絵の支持体への転写方法と転写作業	構想したものをより確かなものとして下絵を作成しておく。(45分)	
24	下描き材料と下描き作業		作品削りに不足している用材等の有無を確認する。(45分)
25	下描きの完成	下描きの点検をし、制作に不足している用材等を補充しておく。(45分)	
26	混合技法(油彩とエッグテンペラ)による本制作A		本日の制作を省みて加筆修正が必要な場合はそれを行うこと。(45分)
27	混合技法による本制作B	制作が遅れている場合自ら制作を進めておく。(45分)	
28	混合技法による本制作C		本日の制作を省みて加筆修正が必要な場合はそれを行う。(45分)
29	混合技法による本制作D	作品提出を前に完成度を点検する。(45分)	
30	混合技法による本制作E		足りない点を中心に仕上げを行う。(45分)
31	合評A	これまでの制作活動を振り返り良い点や足りない点等について検討する。(45分)	
32	合評B		合評会での他者の意見や助言を参考に今後の制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	絵画 (科目ナンバリング: AEA222051)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する。		

概要

履修目標	絵画を完成させることで、手順を理解し自ら作品を制作できる。
------	-------------------------------

授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)と(4)」に対応する。
---------	--

到達目標	アカデミックな技法により、基礎的な絵画技術の向上と基本的な混色の理解をする。
------	--

授業全体の内容と概要	人物(顔)を中心にオーソドックスな手法を使い絵画で表現することで基本的なものの見方や技術をマスターする。
------------	--

授業の方法	プレゼンテーションは板書にて行う。授業形態は実技を行う。
-------	------------------------------

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	絵画用具等の材料は各自が用意する。
----------	-------------------

資格指定科目	教職課程(美術) 選択科目
--------	---------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
解剖学的な顔の表現が出来るかを基準とする	固有色にとられない表現が出来た。	自然な形態感が出来ていた。	自然なバランスで表現出来ていた。	大きな調子の流れが出来た。	一部のみが強調されバランスを崩していた。
3原色に夜混色が正しく理解できている	彩度のコントロールが出来た。	色相のコントロールが出来た。	明度のコントロールが出来た。	大きな調子の流れが出来た。	一部の調子が破綻していても理解出来なかった。
自分が目標とした画風を最後まで表現出来るかを基準とする	作風の狙い等の確に表現されていた。	雰囲気のある表現が出来た。	個性的な表現を追及出来た。	無理のない画風を選択表現出来た。	思いっただけの画風で表現しようとした。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	絵画 (科目ナンバリング: AEA222051)				
授業担当者(所属・職名)	西田 陽二 (デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 西田 陽二)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	画家として活動経験を有する教員が、その経験を活かし実践に即して絵画の基礎を教授する		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション=シラバスの説明 油彩画のための用具野説明、授業の流れと目的などについて。	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	オリエンテーション 油彩画のための用具野説明、授業の流れと目的などについて。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
3	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
4	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
5	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
6	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
7	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
8	個人的に構想(コンセプト)等の確認とアドバイス 資料づくり		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
9	(自画像創作)を描く(F12号)3色(青,赤,黄)の混色によって出来る色(暗灰色)で自分の顔をデッサンする。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
10	(自画像創作)を描く(F12号)3色(青,赤,黄)の混色によって出来る色(暗灰色)で自分の顔をデッサンする。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
11	ホワイトを盛り上げて塗り、マチエール(絵肌)を作る。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
12	ホワイトを盛り上げて塗り、マチエール(絵肌)を作る。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
13	3色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い、グレージング(薄塗り)によって描き進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
14	3色のみの混色によって出来る様々な色とホワイトを使い、グレージング(薄塗り)によって描き進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
15	の作業にホワイトによる形などの修正を加え、さらにグレージングの手法を使い描き進める	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
16	の作業にホワイトによる形などの修正を加え、さらにグレージングの手法を使い描き進める		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
18	描き込みを進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
19	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
20	描き込みを進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
21	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
22	描き込みを進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
23	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
24	描き込みを進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
25	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
26	描き込みを進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
27	描き込みを進める。	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
28	描き込みを進める。		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
29	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)	配布された参考作品及び資料を読み、道具の手入れをしておくこと(45分)	
30	描き込みを進める。(油の層が出来ていくことを確認する)		作品提出へ向けて取り組み準備を始めること(45分)
31	細部を描き込み作品を完成させる。	提出課題の完成へ向けて準備をしておくこと(45分)	
32	採点及び講評会を行う(解説・フィードバック)		解説・フィードバックを受けて講義内容のふりかえりを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 (科目ナンバリング: AEA223053)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

概要

履修目標

洋画と同様に、油彩とエッグテンペラによる混合技法について学ぶ。中身は洋画とほとんど変わりはないが、繰り返すことにより、洋画で修得した知識や技術をより深化させることを目標としている。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP1(1)、2(1)に対応する。

到達目標

油彩やエッグテンペラの技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などをより深く理解し、それぞれの特徴を活かした絵画制作を行えるようにすることや自分に相応しい表現方法を探究する態度を確立させることを目標とする。

授業全体の内容と概要

油彩のみならず、エッグテンペラに関する様々な技法や材料について、支持体の種類とそれぞれの作り方と特徴、顔料の種類と性質、展色剤の種類と特徴、様々な用具の使用法や管理の仕方などについてさらに学修し表現の幅を一層広げるための科目である。かつ公募展での第三者による評価を受けるために大作創りに挑む。

授業の方法

油彩とエッグテンペラによる「混合技法」で自己表現する実技形式の授業である。履修者各自が主体的に設定したテーマに則り、それを有効に表現した作品を創り上げることを課題とする。実習のみならず視聴覚機器を十分に活用し参考資料等の紹介や説明を行い、普段の授業や合評会においては、適切なコメントによりフィードバックさせ、自己実現に寄与させようとするものである。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

この授業を履修するに当たっては、芸術文化の素晴らしさを追求するばかりか、自らの表現が他者の目にとどるかに意識しながら、より良い社会の構築に貢献しようとする態度等も身につける意欲を持ち合わせた人を対象とした授業であることを十分に認識したうえで履修すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	基底材の裁断や組み立て、地塗りや研磨についての知識や技術が十分に深化し、制作に十分奏功した。	基底材の裁断や組み立て、地塗りや研磨についての知識や技術が深化し、制作に奏功した。	基底材の裁断や組み立て、地塗りや研磨についての知識や技術が備わり、制作にやや奏功した。	基底材の裁断や組み立て、地塗りや研磨についての知識や技術がある程度備わり、制作にある程度奏功した。	基底材の裁断や組み立て、地塗りや研磨についての知識や技術に足りない点が多く、制作に活かせなかった。
彩色材料について	エッグテンペラや油彩に用いる展色剤や絵の具についての知識が十分に深化し、表現の幅も十分に広がった。	エッグテンペラや油彩に用いる展色剤や絵の具についての知識が深化し、表現の幅も広がった。	エッグテンペラや油彩に用いる展色剤や絵の具についての知識が備わり、表現の幅の広がりも感じられた。	エッグテンペラや油彩に用いる展色剤や絵の具についての知識がほぼ備わり、表現の幅にもある程度広がりを感じられた。	エッグテンペラや油彩に用いる展色剤や絵の具についての知識が不十分で表現力も乏しかった。
描写について	モチーフの面やパルルルなどをとらえることについて十分に深化し、表現の幅も十分に広がった。	モチーフの面やパルルルなどをとらえることについて深化し、表現の幅も広がった。	モチーフの面やパルルルなどをとらえることについての深化が感じられ、表現の幅の広がりも感じられた。	モチーフの面やパルルルなどをとらえることについてある程度深化が感じられた。	モチーフの面やパルルルなどをとらえることについて不十分であり、表現の幅の広がりも感じられなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	洋画 (科目ナンバリング: AEA223053)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスについての解説、出品を目指す公募展について	出品予定の公募展について下調べをしておく。(45分)	
2	支持体製作・材料の裁断(サイズは50号)		新作のテーマやモチーフについての構想を練る。(45分)
3	支持体製作・材料の組み立て	テーマやモチーフについての構想をまとめる。(45分)	
4	支持体製作・地塗り材の処方		構想を具体的に下絵として取りまとめる。(45分)
5	支持体製作・地塗り作業 下絵の支持体への転写方法と転写作業	表現するに当たり必要とする資料等の収集を始める。(45分)	
6	下絵の支持体への転写方法と転写作業		必要とする資料等の収集を取りまとめる。(45分)
7	下描き材料と下描き作業	新作創りを行うに当たり必要とする用材を準備しておく。(45分)	
8	下描きの完成		下描きの点検を行い、不十分な場合加筆修正を行う。(45分)
9	混合技法による本制作A	これまでの自らの制作を省みて長短それぞれについて整理する。(45分)	
10	混合技法による本制作B		本日の制作を省みて次回の制作について計画を立てる。(45分)
11	混合技法による本制作C	制作が遅れている場合自ら制作を進めておく。(45分)	
12	混合技法による本制作D		本日の制作を省み、必要に応じて加筆修正を行う。(45分)
13	混合技法による本制作E	進捗状況を確認し、完成に時間を要する場合自ら制作を進めておく。(45分)	
14	混合技法による本制作F		本日の制作を省みて、必要に応じて加筆修正を行う。(45分)
15	混合技法による本制作G	中間発表を前に自らの表現が反映されているかを確認する。(45分)	
16	中間発表		中間発表会で寄せられた他者の意見や助言を整理する。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	混合技法による本制作H	中間発表で得られた情報をさらに吟味し制作に反映させる。(45分)	
18	混合技法による本制作I		本日の制作について省みて、必要に応じて加筆修正を行う。(45分)
19	混合技法による本制作J	出品締め切りが近いため完成度を高めるための描き込みを行う。(45分)	
20	混合技法による本制作K		表現の意図が十分に表れているかを念頭に根気強く制作する。(45分)
21	混合技法による本制作L	他者の助言も仰ぎながら完成度を高める。(45分)	
22	混合技法による本制作M		細部について加筆修正を行う。(45分)
23	混合技法による本制作N	細部についてさらに加筆修正を行う。(45分)	
24	合評		この度の制作を省み長短それぞれについて整理し、次作の構想を練る。(45分)
25	エッグテンペラでの小品制作・支持体の制作	テーマやモチーフについての構想をまとめる。(45分)	
26	支持体への地塗り		下絵や参考資料を取りそろえる。(45分)
27	下絵の支持体への転写	テンペラの技法と材料の特性について復習し、綿密に計画を立てる。(45分)	
28	エッグテンペラでの本制作A		本日の制作を省み、必要に応じて加筆修正を行う。(45分)
29	エッグテンペラでの本制作B	細部についてさらに加筆修正を行う。(45分)	
30	エッグテンペラでの本制作C		足りない点を中心に仕上げを行う。(45分)
31	合評A	これまでの制作活動を振り返り良い点や足りない点等について検討する。(45分)	
32	合評B		合評会での他者の意見や助言を参考に今後の制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA222058)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験あり。その経験を活かして漫画の描き方を指導する。		

概要

履修目標	漫画の形式・特徴・使用道具について説明できる。 漫画を描くための基礎技術を利用できる。 漫画の仕組みを踏まえて描くことができる。																					
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)(3)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	漫画の形式・特徴・使用道具について述べることができる。 漫画を描くための基礎技術を使用できる。 漫画を描くことができる。																					
授業全体の内容と概要	漫画に関する知識を高め、漫画を描くための技法(アナログ表現)を学ぶ。またデッサン力向上のためクロッキーを行う。「北海道」をテーマに4コマ漫画あるいはストーリー漫画を作成する。完成作品は「北のマンガ大賞」に応募する。また、その作品をコピー製本し、発表する。																					
授業の方法	学習内容は板書し、資料を配布し、目の前で実際にやって見せる。クロッキーは毎時間ごとに行う。また、漫画の技法ごとに課題を設定し授業内で練習し提出する。漫画を作成するときはネーム、下描き、ペン入れの段階を踏み、個別に対応する。課題は添削、講評にてフィードバックする。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	必要な漫画道具を購入すること。 授業開始から30分間で学習内容の説明を行うので遅刻しないこと。																					
資格指定科目																						

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数20回以上。 課題を期日までに提出すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画に関する知識	漫画の形式・特徴・使用道具について詳しく説明することができた。	漫画の形式・特徴・使用道具について説明することができた。	漫画の形式・特徴・使用道具についてある程度説明することができた。	漫画の形式・特徴・使用道具について述べることもできた。	漫画の形式・特徴・使用道具について述べることができなかった。
漫画を描く技術	漫画を描くための基礎技術を活用することができた。	漫画を描くための基礎技術を利用することができた。	漫画を描くための基礎技術のある程度利用することができた。	漫画を描くための基礎技術を使用することができた。	漫画を描くための基礎技術を使用することができなかった。
漫画のルールと表現力	漫画の仕組みを踏まえておもしろく描くことができた。	漫画の仕組みを踏まえて描くことができた。	漫画の仕組みのある程度踏まえて描くことができた。	漫画を描くことができた。	漫画を描くことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA222058)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 漫画家として出版経験あり。その経験を活かして漫画の描き方を指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 漫画道具の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	自己紹介イラスト 下描き		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
3	自己紹介イラスト 完成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
4	自己紹介イラスト 冊子作成		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
5	クロッキー つけペンの練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
6	顔を描く		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
7	クロッキー カケアミの練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
8	全身を描く		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	クロッキー 効果線の練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
10	背景を描く		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	クロッキー 4コマ漫画 ネームの描き方	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
12	4コマ漫画 ネーム		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	クロッキー 4コマ漫画 下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
14	4コマ漫画 ペン入れ		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	クロッキー 4コマ漫画 スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
16	4コマ漫画 仕上げ		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	クロッキー ストーリー漫画 プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
18	ストーリー漫画 ネーム		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
19	クロッキー ストーリー漫画 ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
20	ストーリー漫画 ネーム		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
21	クロッキー ストーリー漫画 下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
22	ストーリー漫画 下描き		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
23	クロッキー ストーリー漫画 下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
24	ストーリー漫画 下描き		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
25	クロッキー ストーリー漫画 ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
26	ストーリー漫画 ペン入れ		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
27	クロッキー ストーリー漫画 スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
28	ストーリー漫画 スクリーントーン		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
29	ストーリー漫画 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
30	ストーリー漫画 仕上げ		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
31	製本	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
32	講評		講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング: DES222018)				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		

概要

履修目標	1.グラフィックレイアウトの基本ルールを理解する。 2.アートディレクションの位置づけを理解する。 3.グラフィックデザイン実務の概念を理解する。												
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)」、「2(1)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	レイアウトパターンを分類し、試行を重ねてグラフィックデザインとして実施制作ができる。												
授業全体の内容と概要	デザイン業界の仕組みを、概説を含め、広告・出版に関する基本レイアウト(サムネール主体)とプレゼンテーションシステムを理解する。												
授業の方法	板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、プレゼンテーションに耐えうる内容を吟味し、デザイン要素のフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。												
資格指定科目	教職課程(美術・工芸)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要となる最低出席回数は20回以上。完成度の高い作品を合格とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	60%	0%	0%	40%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
グラフィックレイアウトの基本ルール	レイアウトパターンの分類ができ、その2つ以上で、基本ルールにのっとったオリジナリティを発揮できた。	レイアウトパターンの分類ができ、その2つ以上でデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができ、その1つでデザインができた。	レイアウトパターンの分類ができた。	レイアウトパターンの分類ができなかった。
アートディレクションの位置づけ	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアルとコピーを駆使して応用・展開できるデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を1つ以上とコピーレイアウトを含めたデザインができた。	アートディレクションの意味を理解でき、ビジュアル要素を1つ以上含んだデザインができた。	アートディレクションの意味が理解できた。	アートディレクションの意味が理解できなかった。
グラフィックデザイン実務の概念	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルなデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、複数の実例を参考にしたオリジナルなデザインパターン演習ができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を2つ以上(異種)提示することができた。	グラフィックデザインの実務を理解し、その実例を1つ提示することができた。	グラフィックデザインの実務の現状が理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング: DES222018)				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの実場において実務経験者である教員が、その経験を基に実践的な授業を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスについての説明 アートデザインについて	「ビジュアルデザイン」語句の認識(45分)	
2	"ことばと物"ゲーム演習		「ことば」の自己復習(45分)
3	ビジュアルデザインの歴史(DTPまで)	「DTP」語句の認識(45分)	
4	JIS用紙、テキストポイントについて		「用紙サイズの使用事例について」(45分)
5	レタリングとフォントの現状	「フォントバリエーション」の認識(45分)	
6	レタリング演習と基本形態		レタリング演習 下書き(45分)
7	レイアウトの基本パターンについて	「レイアウト例の資料収集」(45分)	
8	フォーマット用紙のレタリング演習		レタリング演習 仕上げ(45分)
9	素材(イラスト、写真)とテキストの役割	「レイアウトのサムネール体験」(45分)	
10	基本レイアウト演習(サムネール)		「レイアウトのサムネール演習」(45分)
11	広告デザインと編集デザイン	「広告・編集」語句の認識(45分)	
12	メディアに対応した企画デザイン		アイデアフラッシュ(メディアに対応)(45分)
13	RGB&CMYK及び印刷技術	「意見広告」語句の認識(45分)	
14	広告デザイン演習 "意見広告"		サムネール演習(45分)
15	SNSと企業戦略	「企業広告」語句の認識(45分)	
16	広告デザイン演習 "企業広告"		サムネール演習(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	広告・出版・印刷業界の現状	「フライヤーの資料収集」(45分)	
18	編集デザイン演習 "フライヤー編"		サムネール演習(45分)
19	コミュニケーションツールとしての役割と現状	「雑誌類資料収集」(45分)	
20	編集デザイン演習 "雑誌編"		サムネール演習(45分)
21	最終課題のためのオリエンテーション	アイデアフラッシュ準備(45分)	
22	アイデアフラッシュと方向性の決定		「方向性の決定」(45分)
23	課題演習 -1 ・サムネール制作	サムネール制作(45分)	
24	課題演習 -2 ・レイアウトの決定		サムネール制作-完成(45分)
25	課題演習 -1 ・レタリング制作	レイアウト及びレタリング準備(45分)	
26	課題演習 -1 ・レイアウト修正		レタリング完成(45分)
27	課題演習 -1 ・カラーリング制作	カラーリング準備(45分)	
28	課題演習 -2 ・カラーリング修正		カラーリング完成(45分)
29	課題演習 ・仕上げ	仕上げに向けて準備(45分)	
30	課題提出		講義全体の振り返りを行う(45分)
31	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておく(45分)	
32	課題に対する解説・フィードバック		解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング: AEA222038)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	キャラクターデザインとは何かを知り、説明できる。 魅力的なオリジナルキャラクターを発想できる。 思い描くキャラクターを魅力的に具現化できる。																					
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)(3)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	キャラクターデザインとは何かを知り、述べることができる。 オリジナルキャラクターを発想できる。 思い描くキャラクターを具現化できる。																					
授業全体の内容と概要	テーマ別にキャラクターをデザインレジュアル化する。独自のキャラクターを発想し、世界観を設定し、魅力的に具現化する力を鍛える。課題ごとに発表する。また、いくつかの公募から一つ以上選択し、公募に向けてのキャラクターデザインを行い、応募する。																					
授業の方法	要点は板書し、資料を配布する。課題・公募ごとに個別に打合せして進める。完成作品は発表し学生同士で評価しあう。また、添削、講評にてフィードバックする。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	デジタルで課題制作を行う場合はノートパソコンかタブレットを持参すること。 アナログで課題制作を行う場合は画材を持参すること。																					
資格指定科目																						

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数10回以上。 課題は期日までに提出すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
キャラクターデザインの知識	キャラクターデザインとは何かを知り、詳しく説明することができた。	キャラクターデザインとは何かを知り、説明することができた。	キャラクターデザインとは何かを知り、ある程度説明することができた。	キャラクターデザインとは何かを知り、述べることができた。	キャラクターデザインとは何かを知り、述べることができなかった。
発想力	魅力的で独創的なオリジナルキャラクターを発想することができた。	魅力的なオリジナルキャラクターを発想することができた。	独創的なオリジナルキャラクターを発想することができた。	オリジナルキャラクターを発想することができた。	オリジナルキャラクターを発想することができなかった。
表現力	思い描くキャラクターを魅力的で個性的に具現化することができた。	思い描くキャラクターを魅力的に具現化することができた。	思い描くキャラクターを個性的に具現化することができた。	思い描くキャラクターを具現化することができた。	思い描くキャラクターを具現化することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング: AEA222038)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 キャラクターデザインとは何か	シラバスを読んでおくこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
2	オリジナルキャラクターを描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
3	キャラクターデザイン(人物)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
4	公募を選ぶ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
5	キャラクターデザイン(人物) 発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
6	公募に向けてキャラクターデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
7	キャラクターデザイン(動物)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
8	公募に向けてキャラクターデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
9	キャラクターデザイン(動物) 発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
10	公募に向けてキャラクターデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
11	キャラクターデザイン(クリーチャー)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
12	公募に向けてキャラクターデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
13	キャラクターデザイン(クリーチャー) 発表	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
14	公募に向けてキャラクターデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
15	公募に向けての応募準備 課題作品印刷	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
16	講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA222059)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	漫画家として出版経験あり。その経験を活かして漫画の描き方を指導する。		

概要

履修目標	ストーリー漫画の特徴・構成を学び、作品に活かすことができる。 漫画を描くための技術を利用できる。 オリジナリティのある作品を完成させることができる。
------	--

授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)(3)」、「2(2)」に対応する。
---------	---------------------------------

到達目標	ストーリー漫画の特徴・構成を学ぶことができる。 漫画を描くための技術を使用できる。 作品を完成させることができる。
------	---

授業全体の内容と概要	起承転結に従って描きたいストーリーを構成する。ネームはよりよくなるように何度も書き直し、制作の段階ごとに確認しながら完成させる。作画はアナログ・デジタルどちらにも対応。読み物として成立しているストーリーを、4-16程度のページ数で描く。
------------	--

授業の方法	要点を板書し、資料を配布する。制作の段階ごとに個別に話し合いをし、よりよくなるよう改善させながら進める。完成作品は製本し、発表。また、添削、講評してフィードバックする。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	授業開始から30分間で学習内容の説明を行うので遅刻しないこと。 デジタルで描く場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。
----------	--

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数20回以上。 課題は期日までに提出すること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
ストーリー漫画を描くための知識	ストーリー漫画の特徴・構成を学び、作品に十分に活かすことができた。	ストーリー漫画の特徴・構成を学び、作品に活かすことができた。	ストーリー漫画の特徴・構成を学び、ある程度作品に活かすことができた。	ストーリー漫画の特徴・構成を学ぶことができた。	ストーリー漫画の特徴・構成を学ぶことができなかった。
漫画を描くための技術	漫画を描くための技術を利用することができた。	漫画を描くための技術を利用することができた。	漫画を描くための技術を利用する程度利用することができた。	漫画を描くための技術を使用することができた。	漫画を描くための技術を使用することができなかった。
作品の表現力	オリジナリティがあってもしるい作品を完成させることができた。	オリジナリティのある作品を完成させることができた。	ある程度オリジナリティのある作品を完成させることができた。	作品を完成させることができた。	作品を完成させることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・1年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA222059)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)		研究室所在	2号館8階	
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 漫画家として出版経験あり。その経験を活かして漫画の描き方を指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 使用道具の説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	どんな漫画を描きたいのか		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
3	ネームの練習	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
4	ネームの練習		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
5	キャラクター設定と世界観	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
6	キャラクター設定と世界観		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
7	プロット	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
8	プロット		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
9	ネーム	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
10	ネーム		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
11	ネーム直し	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
12	ネーム直し		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
13	下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
14	下描き		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
15	下描き	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
16	下描き		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	ペン入れ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
18	ペン入れ		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
19	背景	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
20	背景		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
21	ベタぬり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
22	ベタぬり		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
23	スクリーントーン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
24	スクリーントーン		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
25	仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
26	仕上げ		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
27	表紙(カラー)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
28	表紙(カラー)		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
29	表紙(カラー)	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
30	表紙(カラー)		各自必要などころまで制作作業を進める(45分)
31	製本	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
32	講評		講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング: AEA222039)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p>履修目標</p> <p>表現したいことを理想に近づけて具現化することができる。 デザインを二次元から三次元に変換し試行錯誤して形づくることできる。 魅力的なキャラクターを生み出すことができる。</p>																					
<p>授業の位置づけ</p> <p>デザイン学科のDP「1(2)(3)」、「2(2)」に対応する。</p>																					
<p>到達目標</p> <p>表現したいことを具現化することができる。 デザインを二次元から三次元に変換し形づくることできる。 キャラクターを生み出すことができる。</p>																					
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>自由な発想で独創的で魅力的なキャラクターを生み出し、立体化する。立体造形物は張り子で行い、実際に頭から被れるサイズで作る。完成後、キャラクター設定とともに発表する。また、テーマに沿って作品を撮影し、提出する。作品は講評にてフィードバックする。</p>																					
<p>授業の方法</p> <p>要点を板書し、資料を配布する。また、実際にやり方を見せて説明する。</p>																					
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															
<p>履修上の注意事項</p> <p>必要な道具を準備すること。 授業開始から30分で作業の説明をするので遅刻しないこと。</p>																					
<p>資格指定科目</p>																					

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数10回以上。 作品が期日までに完成していること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
思考力	表現したいことを理想通りに具現化することができた。	表現したいことを理想に近づけて具現化することができた。	表現したいことをある程度理想に近づけて具現化することができた。	表現したいことを具現化することができた。	表現したいことを具現化することができなかった。
技術力	デザインを二次元から三次元に変換し自由自在に形づくることできた。	デザインを二次元から三次元に変換し試行錯誤して形づくることできた。	デザインを二次元から三次元に変換しある程度試行錯誤して形づくることできた。	デザインを二次元から三次元に変換し形づくることできた。	デザインを二次元から三次元に変換し形づくることできなかった。
表現力	魅力的なキャラクターを生み出し、愛着を持つことができた。	魅力的なキャラクターを生み出すことができた。	ある程度魅力的なキャラクターを生み出すことができた。	キャラクターを生み出すことができた。	キャラクターを生み出すことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	キャラクターデザイン (科目ナンバリング: AEA222039)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 道具の説明	シラバスを読んでおくこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
2	コンセプト・資料収集・アイデア出し ラフデザイン・作画	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
3	立体造形 芯づくり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
4	立体造形 芯づくり	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
5	立体造形 成形	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
6	立体造形 成形	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
7	立体造形 補強	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
8	立体造形 補強	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
9	立体造形 着色	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
10	立体造形 着色	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
11	立体造形 表面加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
12	立体造形 表面加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
13	立体造形 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
14	立体造形 仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
15	撮影	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	各自必要などころまで制作作業を進めること(90分)
16	講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと(90分)	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング: DES222019)				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザインの現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。		

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. C I の理念及びその中核となる V I システムを理解する。 2. C I の基本要素であるシンボルマーク等のデザイン演習を行うことによって、その成り立ちを理解する。 3. C I のデザイン(形・色)演習を通して、その展開デザインの拡がりを理解する。

授業の位置づけ
デザイン学科の D P 「1(1)、(2)、(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
C I の主体を類別し、シンボルマーク等の形・色のデザインを実施し、V I の基本形をレイアウトすることができる。

授業全体の内容と概要
C I の概要と V I システムの全体を把握し、その目的と機能・運用に関して理解し、テーマ選択後にデザイン演習を行う。

授業の方法
板書とオリジナルプリント配布を併用し実技形式で行う。また、クライアントにプレゼンすることを前提としたデザイン内容となるよう多角的に確認し、さらにフィードバックを繰り返したのち、演習課題を完成させ提出する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	P B L									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
サムネールやスケッチの実技が重要なため、ノート・筆記具を常備すること。

資格指定科目
教職課程(美術・工芸)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要となる最低出席回数は20回以上。完成度の高い作品を合格とする。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	0%	40%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	0%	40%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C I の理念とその中核の V I システム</td> <td>C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ以上分類・提示し、コメントと改善案をラフスケッチ等で提示できた。</td> <td>C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ提示し、客観的なコメントを含め改善案も提示できた。</td> <td>C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ提示し、デザインに対して客観的なコメントを提示できた。</td> <td>C I 理念と V I システムを理解し、実例を1つ以上提示できた。</td> <td>C I 理念と V I システムを理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>シンボルマークのデザイン演習とその成り立ち</td> <td>シンボルマークのサムネール(1.5以上)を基本として、フィードバックの繰り返しと、類似パターンを調査の上、オリジナルなデザインを1点仕上げた。</td> <td>シンボルマークのサムネール(1.5以上)を基本として、客観的なフィードバックを繰り返し、1点に仕上げることができた。</td> <td>シンボルマークのサムネール(1.0以上)を基本として、1点に仕上げることができた。</td> <td>シンボルマークデザインのためのサムネールが複数(1.0以上)できた。</td> <td>シンボルマークのデザインができなかった。</td> </tr> <tr> <td>デザイン(形・色)演習と展開デザイン</td> <td>ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)及び展開デザインを3つ以上含め、類似パターンを調査の上、オリジナルなレイアウト後に提出できた。</td> <td>ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)及び展開デザインを2つ以上含め、レイアウト後に提出できた。</td> <td>ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)をフィードバックを繰り返し、レイアウト後に提出できた。</td> <td>ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)をレイアウトし提出できた。</td> <td>ベーシックデザインの演習が完成しなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	C I の理念とその中核の V I システム	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ以上分類・提示し、コメントと改善案をラフスケッチ等で提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ提示し、客観的なコメントを含め改善案も提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ提示し、デザインに対して客観的なコメントを提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を1つ以上提示できた。	C I 理念と V I システムを理解できなかった。	シンボルマークのデザイン演習とその成り立ち	シンボルマークのサムネール(1.5以上)を基本として、フィードバックの繰り返しと、類似パターンを調査の上、オリジナルなデザインを1点仕上げた。	シンボルマークのサムネール(1.5以上)を基本として、客観的なフィードバックを繰り返し、1点に仕上げることができた。	シンボルマークのサムネール(1.0以上)を基本として、1点に仕上げることができた。	シンボルマークデザインのためのサムネールが複数(1.0以上)できた。	シンボルマークのデザインができなかった。	デザイン(形・色)演習と展開デザイン	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)及び展開デザインを3つ以上含め、類似パターンを調査の上、オリジナルなレイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)及び展開デザインを2つ以上含め、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)をフィードバックを繰り返し、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)をレイアウトし提出できた。	ベーシックデザインの演習が完成しなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
C I の理念とその中核の V I システム	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ以上分類・提示し、コメントと改善案をラフスケッチ等で提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ提示し、客観的なコメントを含め改善案も提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を3つ提示し、デザインに対して客観的なコメントを提示できた。	C I 理念と V I システムを理解し、実例を1つ以上提示できた。	C I 理念と V I システムを理解できなかった。																								
シンボルマークのデザイン演習とその成り立ち	シンボルマークのサムネール(1.5以上)を基本として、フィードバックの繰り返しと、類似パターンを調査の上、オリジナルなデザインを1点仕上げた。	シンボルマークのサムネール(1.5以上)を基本として、客観的なフィードバックを繰り返し、1点に仕上げることができた。	シンボルマークのサムネール(1.0以上)を基本として、1点に仕上げることができた。	シンボルマークデザインのためのサムネールが複数(1.0以上)できた。	シンボルマークのデザインができなかった。																								
デザイン(形・色)演習と展開デザイン	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)及び展開デザインを3つ以上含め、類似パターンを調査の上、オリジナルなレイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)及び展開デザインを2つ以上含め、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)をフィードバックを繰り返し、レイアウト後に提出できた。	ベーシックデザインの要素(マーク・文字・色)をレイアウトし提出できた。	ベーシックデザインの演習が完成しなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	ビジュアルデザイン (科目ナンバリング: DES222019)				
授業担当者(所属・職名)	田中 靖之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 田中 靖之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 デザイン現場において、実務経験者である教員がその経験を基に実践的な授業を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 CIの歴史について	「CI」語句としての認識(45分)	
2	CIデザインの事例収集		CIデザイン、具体例の収集(45分)
3	CIS(VIS)の例・ベーシックとアプリケーション	「ベーシック・アプリケーション」語句としての認識(45分)	
4	マークデザインのサムネール作成		サムネール補足演習(45分)
5	商標登録と企業戦略	「商標登録」語句としての認識(45分)	
6	マークデザインのサムネール作成		サムネール補足演習(45分)
7	シンボルマークとピクトグラム	「ピクトグラム」語句としての認識(45分)	
8	ピクトグラムのアイデア制作		アイデア制作補足演習(45分)
9	VIとベーシックカラー	ベーシックカラー事例収集(45分)	
10	カラーリング演習		カラーリング演習(45分)
11	CISアプリケーション、3つのポイント	「アイデアフラッシュ」語句としての認識(45分)	
12	CIS企画のためのアイデアフラッシュ		アイデアフラッシュ補足(45分)
13	CIS課題演習 - 1 ・シンボルマークの位置づけ	「シンボルマーク」事例収集(45分)	
14	CIS課題演習 - 2 ・シンボルマークのサムネール演習		演習補足(45分)
15	CIS課題演習 - 1 ・シンボルカラーの位置づけ	「シンボルカラー」事例収集(45分)	
16	CIS課題演習 - 2 ・シンボルカラーリング演習		演習補足(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	CIS課題演習 - 1 ・セットロゴ位置づけ	「セットロゴ」事例収集(45分)	
18	CIS課題演習 - 2 ・セットデザイン演習		演習補足(45分)
19	CIS課題演習 - 1 ・タイプフェイスの位置づけ	「タイプフェイス」事例収集(45分)	
20	CIS課題演習 - 2 ・タイプフェイス演習		演習補足(45分)
21	CIS課題演習 - 1 ・ロゴタイプの位置づけ	「ロゴタイプ」事例収集(45分)	
22	CIS課題演習 - 2 ・ロゴタイプ演習		演習補足(45分)
23	CIS課題演習 - 1 ・ベーシックカラーの設定	企業例としてのカラー事例収集(45分)	
24	CIS課題演習 - 2 ・ベーシックカラーの選択		演習補足(45分)
25	CIS課題演習 - 1 ・フォーマット&レイアウトの意義	レイアウト事例収集(45分)	
26	CIS課題演習 - 2 ・フォーマット&レイアウト演習		演習補足(45分)
27	CIS課題演習 - 1 ・レイアウトバリエーション	アドバイス項目のチェック(45分)	
28	CIS課題演習 - 2 ・レイアウト調整		演習補足(45分)
29	CIS今後の課題	アドバイス項目のチェック(45分)	
30	課題作品の提出		演習補足(45分)
31	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておく(45分)	
32	課題に対する解説・フィードバック	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深める(45分)	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA222034)				
授業担当者(所属・職名)	森迫 暁夫(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 森迫 暁夫)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーターとしての実務経験を有する教員が、その経験を活かして条件のある「仕事」の中で個性的な表現について実習を通して指導する。		

概要

履修目標	各課題についてしっかり考えることができる。技術を学ぶことができる。イラストレーションの可能性について考えることができる。自分の個性を知り、それを磨くことができる。
------	---

授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)(3)」、「2(2)」に対応する。
---------	---------------------------------

到達目標	条件のある「仕事」の中で個性的な表現を目指すことができる。
------	-------------------------------

授業全体の内容と概要	講師がやってきたイラストの仕事をもとに課題を設定し、イラストレーションの現場を体験する。イラストレーションの可能性について考える力を養う。
------------	---

授業の方法	各課題の説明の後、実技制作にあたる。各回のテーマごとに課題提出を行い、課題ごとにプレゼンテーションを行う。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮するが、しっかりと授業受けるという意識は持つこと。筆記用具を持ってこなかったり、ボンボンと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらう場合もあり。場合によってはオンラインでの授業になることもあり。シラバス通りに進まないことあり。
----------	---

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件					
全ての課題提出が単位認定の条件。最低出席回数は11回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	自ら進んで取り組み、授業の内容を理解した。	授業の内容を十分理解した。	授業の内容を概ね理解した。	授業の内容を最低限理解した。	授業の内容を理解できなかった。
課題	各課題に対してきちんと考えて制作した。	課題は全部出していて、十分考えて制作した。	課題を全部出していて、ある程度考えて制作した。	課題を全部出した。	課題を出さなかった。
オリジナリティーの追求	自分のオリジナリティーを追求できた。	自分のオリジナリティーをある程度追求できた。	自分のオリジナリティーを向かえることができた。	自分のオリジナリティーをある程度考えることができた。	自分のオリジナリティーを考えるとできなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA222034)				
授業担当者(所属・職名)	森迫 暁夫 (デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 森迫 暁夫)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	イラストレーターとしての実務経験を有する教員が、その経験を活かして条件のある「仕事」の中での個性的な表現について実習を通して指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 授業概要について。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	
2	シラバスの説明 オリエンテーション 授業概要について。		オリジナリティーについて考えておくこと。(45分)
3	面白クロッキー 色々な条件でクロッキーをします。	筆記用具以外に何か画材を準備。(45分)	
4	面白クロッキー 色々な条件でクロッキーをします。		自宅でも課題を進める。(45分)
5	イラストのいろいろ。基本を学び基本を壊す。点、線、面などの基本からそれを応用、自分の形に置き換えるデキストをこなします。	各自資料を用意。(45分)	
6	イラストのいろいろ。基本を学び基本を壊す。点、線、面などの基本からそれを応用、自分の形に置き換えるデキストをこなします。		自宅でも課題を進める。(45分)
7	ルポルタージュ イラスト付きのレポート(ルポルタージュ)を作ります。各々が好きなことについて考える	各自資料を用意。(45分)	
8	ルポルタージュ		自宅でも課題を進める。(45分)
9	ルポルタージュ	各自資料を用意。(45分)	
10	ルポルタージュ		自宅でも課題を進める。(45分)
11	ルポルタージュ	各自資料を用意。(45分)	
12	ルポルタージュ		自宅でも課題を進める。(45分)
13	ルポルタージュ	各自資料を用意。(45分)	
14	ルポルタージュ、プレゼンテーション。		授業内容を復習する。(45分)
15	模写 美術史の中から一つ絵を選んで模写します。	各自資料を用意。絵の具など、必要な画材を用意。(45分)	
16	模写		自宅でも課題を進める。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	模写	各自資料を用意。(45分)	
18	模写		自宅でも課題を進める。(45分)
19	模写	各自資料を用意。(45分)	
20	模写		自宅でも課題を進める。(45分)
21	模写	各自資料を用意。(45分)	
22	模写 プレゼンテーション。何を描いて、どんなことを感じたか。		授業内容を復習する。(45分)
23	オリジナルイラスト 好きに絵を描く。	各自資料を用意。絵の具など、必要な画材を用意。(45分)	
24	オリジナルイラスト		自宅でも課題を進める。(45分)
25	オリジナルイラスト	各自資料を用意。(45分)	
26	オリジナルイラスト		自宅でも課題を進める。(45分)
27	オリジナルイラスト	各自資料を用意。(45分)	
28	オリジナルイラスト		自宅でも課題を進める。(45分)
29	オリジナルイラスト	各自資料を用意。(45分)	
30	オリジナルイラスト		自宅でも課題を進める。(45分)
31	オリジナルイラスト	各自資料を用意。(45分)	
32	オリジナルイラスト・プレゼンテーション。何を、どんなことを考えて描いたか？		授業内容を復習する。(45分)

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA222035)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	2 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
授業の位置づけ												
到達目標												
授業全体の内容と概要												
授業の方法												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
資格指定科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA222035)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	2 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA223036)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		

概要

履修目標
本科目は、デザイン現場に於けるイラスト制作やイラストの多様性、表現方法を学び、イラストレーターの役割を実践形式で学び習得する。イラスト、デザイン、アートのみならず様々なものから積極的な探求心、研究心を養う。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)(2)(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
アドバタイジング、エディトリアル各媒体目的を意識して完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し、独自のイラスト表現を確立できる。

授業全体の内容と概要
マチエール、下地と画材表現の研究。また各課題のテーマ、コンセプトに合わせて個々の表現を模索して、オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で実践的製作過程を学び、画材表現、イラスト表現を習得する。

授業の方法
各課題説明書に沿って各テーマに合ったアイデア発想、表現を考え、その後実技にてイラスト作品制作を行っていく。作品提出ごとにプレゼンを実施する。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
遅刻3回で欠席1回とみなす。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。</td> <td>授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ積極的な授業態度である。</td> <td>授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいる。</td> <td>授業課題、内容に真面目に取り組んでいる。</td> <td>授業課題へ取り組みながらも制作意欲が乏しい。</td> <td>授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠ける。</td> </tr> <tr> <td>イラスト表現における表現・描法への知識および理解。</td> <td>授業内容に積極的に真実に取り組み、知識の習得と理解度を深めている。</td> <td>授業内容に真実に取り組み授業内容を充分理解している。</td> <td>授業内容を真面目に取り組み概ね理解している。</td> <td>授業内容への最低限の理解が見られる。</td> <td>授業内容を理解していない。</td> </tr> <tr> <td>イラスト表現への研究および習得。</td> <td>授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れている。</td> <td>授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっている。</td> <td>授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得している。</td> <td>授業内容への最低限の理解が見られる。</td> <td>授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠ける。</td> </tr> <tr> <td>イラストの多様性・実践的製作への理解。</td> <td>授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れている。</td> <td>授業内容を充分理解して実践的製作、多様性を習得して表現している。</td> <td>授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的製作をしている。</td> <td>授業内容への最低限の理解が見られる。</td> <td>授業内容を理解せず制作意欲に欠ける。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ積極的な授業態度である。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいる。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいる。	授業課題へ取り組みながらも制作意欲が乏しい。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠ける。	イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真実に取り組み、知識の習得と理解度を深めている。	授業内容に真実に取り組み授業内容を充分理解している。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解している。	授業内容への最低限の理解が見られる。	授業内容を理解していない。	イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れている。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっている。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得している。	授業内容への最低限の理解が見られる。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠ける。	イラストの多様性・実践的製作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れている。	授業内容を充分理解して実践的製作、多様性を習得して表現している。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的製作をしている。	授業内容への最低限の理解が見られる。	授業内容を理解せず制作意欲に欠ける。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ積極的な授業態度である。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいる。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいる。	授業課題へ取り組みながらも制作意欲が乏しい。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠ける。																														
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真実に取り組み、知識の習得と理解度を深めている。	授業内容に真実に取り組み授業内容を充分理解している。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解している。	授業内容への最低限の理解が見られる。	授業内容を理解していない。																														
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れている。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形になっている。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得している。	授業内容への最低限の理解が見られる。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠ける。																														
イラストの多様性・実践的製作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れている。	授業内容を充分理解して実践的製作、多様性を習得して表現している。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的製作をしている。	授業内容への最低限の理解が見られる。	授業内容を理解せず制作意欲に欠ける。																														

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『マイワーク31』</td> <td>北海道イラストレーターズクラブアルファ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『雑誌イラストレーション』</td> <td></td> <td>玄光社</td> <td></td> <td></td> <td>バックナンバー</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>『イラストノート』</td> <td></td> <td>誠文堂新光社</td> <td></td> <td></td> <td>バックナンバー</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『マイワーク31』	北海道イラストレーターズクラブアルファ					2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー	3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー	4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『マイワーク31』	北海道イラストレーターズクラブアルファ																																								
2	『雑誌イラストレーション』		玄光社			バックナンバー																																				
3	『イラストノート』		誠文堂新光社			バックナンバー																																				
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA223036)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション(イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性、イラスト制作過程の注意点などについて講義)、シラバスの説明。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	
2	オリエンテーション(イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性、イラスト制作過程の注意点などについて講義)、シラバスの説明。		講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	マチエール、下地の研究1。ジェツソを中心に各メディアウムの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。(45分)	
4	マチエール、下地の研究1。ジェツソを中心に各メディアウムの特性を実技して行く。		各マチエール、メディアウムの特性の理解を深めておくこと。(45分)
5	マチエール、下地の研究2。ジェツソを中心に各メディアウムの特性を実技して行く。	制作作業に使用する道具の準備を行っておくこと。(45分)	
6	マチエール、下地の研究2。ジェツソを中心に各メディアウムの特性を実技して行く。		各マチエール、メディアウムの特性の理解を深めておくこと。(45分)
7	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	
8	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・1。		講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
9	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	
10	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・2。		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
11	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	
12	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・3。		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	
14	アドバタイジングイラストレーションの研究、実習・4。		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	アドバタイジングイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	
16	アドバタイジングイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。		講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	エディトリアルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	
18	エディトリアルイラストレーション研究、実習・1。		講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
19	エディトリアルイラストレーション研究、実習・2。	課題説明書を読みイラストラフを完成しておくこと。(45分)	
20	エディトリアルイラストレーション研究、実習・2。		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	エディトリアルイラストレーション研究、実習・3。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	
22	エディトリアルイラストレーション研究、実習・3。		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
23	エディトリアルイラストレーション研究、実習・4。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	
24	エディトリアルイラストレーション研究、実習・4。		作品完成へ向けて取り組みを進めること。(45分)
25	エディトリアルイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	
26	エディトリアルイラストレーション研究、実習・5。コンセプトシート記載後にプレゼン実施。作品提出。		講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
27	オリジナルイラストレーション研究、実習・1。	課題説明書を読みイラスト制作の構想を練っておくこと。(45分)	
28	オリジナルイラストレーション研究、実習・1。		講義内容を理解して作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	オリジナルイラストレーション研究、実習・2。	作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)	
30	オリジナルイラストレーション研究、実習・2。		作品制作へ向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
31	オリジナルイラストレーション研究、実習・3。総合プレゼンテーション&全体講評会。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	
32	オリジナルイラストレーション研究、実習・3。総合プレゼンテーション&全体講評会。		講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA223037)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。		

概要

履修目標
大型オリジナルイラストのためのイラストの多様性、表現方法を学び、完成度の高い作品作りを目指す。イラスト、デザイン、アートのみならず様々なものから積極的な探求心、研究心を養う。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)(2)(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
完成度の高いオリジナル作品の完成を目指し、独自のイラスト表現を確立。各自に合うコンペなどへの応募も検討する。

授業全体の内容と概要
個々のイラスト表現を模索して、オリジナルの方向性を確立。作品制作の中で画材表現、イラスト表現を身につける。ビジュアル本制作に於いて各自のイラストの方向性の研究。

授業の方法
イラストレーターの仕事について、イラスト表現の多様性等について講義を行った後、各自の過去のイラスト作品の研究を行う。その後で、実技にて作品制作を行っていく。また各自作品ビジュアル本を制作する。

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
遅刻3回で欠席1回とみなす。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
イラストレーションに対する制作意欲および授業態度。	授業の事前事後学習を進め意欲的な制作態度、取り組みがなされ模範的な授業態度であった。	授業の事前事後学習を進め、真面目に授業課題の作品制作に取り組んでいた。	授業課題、内容に真面目に取り組んでいた。	授業課題へ取り組みながらも、制作意欲が乏しかった。	授業に対しての意欲が感じられず制作態度の取り組みに欠けていた。
イラスト表現における表現・描法への知識および理解。	授業内容に積極的に真実に取り組み、知識の習得と理解度を深めていた。	授業内容に真実に取り組み、授業内容を充分理解していた。	授業内容を真面目に取り組み概ね理解していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解していなかった。
イラスト表現への研究および習得。	授業内容を深く理解して研究心、習得の向上心が著しくあり実践的にも優れていた。	授業内容を充分理解して研究心があり習得して形にしていた。	授業内容を概ね理解して真面目に研究、習得していた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず研究心、習得への意欲に欠けた。
イラストの多様性・実践的創作への理解。	授業内容を深く理解して実践的応用や表現の多様性にも優れ、完成度にも著しく優れていた。	授業内容を充分理解して実践的創作、多様性を習得して表現していた。	授業内容を概ね理解して真面目に多様性・実践的創作をしていた。	授業内容への最低限の理解が見られた。	授業内容を理解せず制作意欲に欠けた。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	イラストレーション (科目ナンバリング: AEA223037)				
授業担当者(所属・職名)	佐藤 正人(デザイン学科・客員教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 佐藤 正人)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 デザイン業界で長年携わる実務経験者が実践に即した実習を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション(イラストレーターの仕事について、制作への心構え、制作意識について、イラスト	シラバスを読んでおくこと。(45分)	
2	制作への心構え、制作意識について、イラスト表現の多様性についてなど講義)		講義内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
3	各自過去のイラスト作品を持参して、各自のオリジナリティを探索。テーマ性、イラスト表現の研究。	持参する各自の過去のイラスト作品を用意しておくこと。(45分)	
4	各自過去のイラスト作品を持参して、各自のオリジナリティを探索。テーマ性、イラスト表現の研究。		各自のイラスト表現の方向性を固めて制作への取り組みを進めること。(45分)
5	オリジナルイラストのコンセプト確定(テーマ性、媒体など)。画材、タッチ表現の決定。	イラストの構想、テーマ、コンセプトなどを練っておくこと。(45分)	
6	オリジナルイラストのコンセプト確定(テーマ性、媒体など)。画材、タッチ表現の決定。		作品制作に向けて具体的な作品イメージを固めておくこと。(45分)
7	大型作品への取り組みについて。水張り作業、下地作業。ラフ制作。	制作作業の道具準備を行っておくこと。(45分)	
8	大型作品への取り組みについて。水張り作業、下地作業。ラフ制作。		アイデア出し、ラフ作業制作に向けて取り組みを進めておくこと。(45分)
9	着色作業1。下地作業終了後にトレース作業。	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	
10	着色作業1。下地作業終了後にトレース作業。		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
11	着色作業2	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	
12	着色作業2		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
13	着色作業3	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	
14	着色作業3		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
15	着色作業4	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	
16	着色作業4		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	着色作業5	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	
18	着色作業5		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
19	着色作業6	制作作業の準備を行っておくこと。(45分)	
20	着色作業6		作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
21	プレゼンテーション、作品講評、コンセプトシート & 作品提出。	作品制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)	
22	プレゼンテーション、作品講評、コンセプトシート & 作品提出。		講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)
23	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作(絵本的表現の習得)。	制作へ向けて課題説明書を読み作品の構想を練っておくこと。(45分)	
24	イラストレーションを使ったビジュアル本の制作(絵本的表現の習得)。		作品資料をまとめて完成品のイメージを固めておくこと。(45分)
25	ビジュアル本制作-1。絵コンテ、ページの構成。	制作作業に必要な作品準備を行っておくこと。(45分)	
26	ビジュアル本制作-1。絵コンテ、ページの構成。		作品資料をまとめて作品プリントの準備を進めておくこと。(45分)
27	ビジュアル本制作-2。製本作業1	製本作業に必要な作品、道具の準備を行っておくこと。(45分)	
28	ビジュアル本制作-2。製本作業1		製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
29	ビジュアル本制作-3。製本作業2	製本作業に必要な作品、道具の準備を行っておくこと。(45分)	
30	ビジュアル本制作-3。製本作業2		製本制作へ向けて取り組みを進めること。(45分)
31	ビジュアル本制作-4。製本完成。プレゼンテーション、作品講評、コンセプトシート & 作品提出。	作品完成、プレゼンテーションへ向けて準備をしておくこと。(45分)	
32	ビジュアル本制作-4。製本完成。プレゼンテーション、作品講評、コンセプトシート & 作品提出。		講評内容の理解を深め要点をまとめておくこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 (科目ナンバリング: DES222048)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての表現である、製図の作図の基本である線、文字、数字の描き方、スケールを練習問題と実測した椅子の図面の作図を通して理解し展開図と紙模型を作ること図面と物体の関係を表現する作図ができる。</p>

授業の位置づけ
<p>デザイン学科のDP「1(1)、(2)、(3)」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>学生が、製図機を使い基本的な製図表現が正確にできる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>美術、デザインにおける基本的素養としての表現について熟練するために、製図の作図の練習問題と椅子の製図についてCADも含めた作図を通して製図の表現の基本である三面図、断面図について学ぶ。進度に応じて漸次、課題を更新しながら進める。</p>

授業の方法
<p>板書と配付資料で授業を実施し、講義形式で授業をすすめ各回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、各自が毎回の手書き、または、アプリケーションソフトを用いて課題を制作する。図的なプレゼンテーションとして各課題を制作する。実験・実習・実技として各自が制作した課題の確認・評価を双方向授業としておこなう。</p>

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<p>自筆ノートやスケッチ、データ、各自が制作し課題、および用具等を持ってくる。出席を取り終わったあとは欠席とする。図学 の単位を修得している。</p>

資格指定科目
<p>教職課程(工芸)必修科目</p>

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	40%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>製図の基本となる図表現について理解し表現できる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>テクニカル・ドローイングの意味合いも含めた製図表現について理解し表現できる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>各自が意図したものを製図表現することができる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	製図の基本となる図表現について理解し表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	テクニカル・ドローイングの意味合いも含めた製図表現について理解し表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	各自が意図したものを製図表現することができる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
製図の基本となる図表現について理解し表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				
テクニカル・ドローイングの意味合いも含めた製図表現について理解し表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				
各自が意図したものを製図表現することができる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 (科目ナンバリング: DES222048)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, デザイン製図の概要 シラバスの説明	シラバスの確認(90分)	ガイダンス, デザイン製図の概要 (90分)
2	製図機の使い方と横線の描き方の練習	ガイダンス, デザイン製図の概要の確認(90分)	製図機の使い方と横線の描き方の練習(90分)
3	製図機の使い方と縦線の描き方の練習	製図機の使い方と横線の描き方の練習(90分)	製図機の使い方と縦線の描き方の練習(90分)
4	100分の1, 200分の1, 300分の1の寸法記入の練習	製図機の使い方と縦線の描き方の練習(90分)	100分の1, 200分の1, 300分の1の寸法記入の練習(90分)
5	400分の1, 500分の1, 600分の1の寸法記入の練習	100分の1, 200分の1, 300分の1の寸法記入の練習(90分)	400分の1, 500分の1, 600分の1の寸法記入の練習(90分)
6	製図機の使い方と格子線の描き方の練習	400分の1, 500分の1, 600分の1の寸法記入の練習(90分)	製図機の使い方と格子線の描き方の練習(90分)
7	10分の1, 20分の1, 30分の1の寸法記入の練習	製図機の使い方と格子線の描き方の練習(90分)	10分の1, 20分の1, 30分の1の寸法記入の練習(90分)
8	椅子の正面図, 上面図, 断面図のスケッチ	10分の1, 20分の1, 30分の1の寸法記入の練習(90分)	椅子の正面図, 上面図, 断面図のスケッチ(90分)
9	椅子の正面図, 上面図, 断面図の実測	椅子の正面図, 上面図, 断面図のスケッチ(90分)	椅子の正面図, 上面図, 断面図の確認(90分)
10	椅子の正面図	椅子の正面図, 上面図, 断面図の確認(90分)	椅子の正面図(90分)
11	椅子の上面図	椅子の正面図(90分)	椅子の上面図(90分)
12	椅子の断面図	椅子の上面図(90分)	椅子の断面図(90分)
13	CADを用いた椅子の正面図	椅子の断面図と正面図の確認(90分)	CADを用いた椅子の正面図(90分)
14	椅子の展開図	CADを用いた椅子の正面図(90分)	椅子の展開図(90分)
15	椅子の紙模型	椅子の紙模型(90分)	椅子の紙模型(90分)
16	講評 課題返却	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価を受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: HLS322057)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての表現である、インテリアデザインの基本となるインテリア製図を表現する作図に熟練する。1年次の建築設計製図の総合的な内容であるが、特に建築家的な創作や、アトリエ系設計事務所を目指す学生のための製図表現の基本となる内容となることを目標としている。</p>

授業の位置づけ
<p>建築学科のDP「1(1)」、「3」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>学生がインテリア製図表現としての、(最低限の)平面図、室内断面図、室内展開図等の基本の表現を身につけることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>美術、デザインにおける基本的素養としての表現について熟練するために、インテリアデザインの基本となるインテリア製図について自室の作図を通して学ぶ。最初に平面図、室内断面図、室内展開図を手書きで完成させる。手書き図面が完成したらCADで3Dモデリング出来る精度の2次元データの図面と紙模型を完成させる。進度に応じて漸次、課題を更新しながら進めてゆく。</p>

授業の方法
<p>板書や図による解説で授業を実施し、各自が自筆ノートや自筆のスケッチや作図によって課題をまとめる。調査学習として自室の実測をおこなう。アプリケーション・ソフトを含めた図的なプレゼンテーションとして各課題を制作する。実験・実習・実技として各自が制作した課題の確認・評価を双方向授業としておこなう。</p>

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
<p>自筆ノート、スケッチ、各自が制作した課題、および用具等を持ってこよう。出席を取り終わった後は欠席とする。</p>

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	40%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>プロフェッショナルとしての図的なプレゼンテーションとして完成していること</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>正しい手順、正しい表現方法によって図面が高いレベルで完成されているか</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>図表現として簡潔、曖昧さ、間違いはないか</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	プロフェッショナルとしての図的なプレゼンテーションとして完成していること	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	正しい手順、正しい表現方法によって図面が高いレベルで完成されているか	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	図表現として簡潔、曖昧さ、間違いはないか	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
プロフェッショナルとしての図的なプレゼンテーションとして完成していること	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				
正しい手順、正しい表現方法によって図面が高いレベルで完成されているか	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				
図表現として簡潔、曖昧さ、間違いはないか	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: HLS322057)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス、インテリア製図の概要 シラバスの説明	シラバスの確認(90分)	自室のスケッチ(90分)
2	インテリア製図の基本についての解説 自室のスケッチの確認	自室のスケッチ(90分)	自室のスケッチ(90分)
3	インテリア製図の基本についての解説 自室のスケッチの確認	自室のスケッチ(90分)	自室のスケッチ(90分)
4	インテリア製図の基本についての解説 自室のスケッチの確認	自室のスケッチ(90分)	自室のスケッチ(90分)
5	「自室を実測する課題」 平面図の下書き	自室のスケッチ(90分)	平面図の下書き(90分)
6	「自室を実測する課題」 平面図の完成	平面図の下書き(90分)	平面図の作成(90分)
7	「自室を実測する課題」 断面図の下書き	断面図の下書き(90分)	断面図の下書き(90分)
8	「自室を実測する課題」 断面図の作成	断面図の下書き(90分)	断面図の作成(90分)
9	「自室を実測する課題」 室内展開図(1面目,2面目)の作成	室内展開図の作成(90分)	室内展開図の作成(90分)
10	「自室を実測する課題」 室内展開図(3面目,4面目)の作成	室内展開図の作成(90分)	室内展開図の作成(90分)
11	「自室を実測する課題」 天井伏図の作成	天井伏図の作成(90分)	天井伏図の作成(90分)
12	「自室を実測する課題」 室内紙模型の作成	室内紙模型の作成(90分)	室内紙模型の作成(90分)
13	「自室を実測する課題」 室内紙模型の撮影	室内紙模型の作成(90分)	プレゼンテーション・パネル(90分)
14	「自室を実測する課題」 プレゼンテーション・パネル	プレゼンテーション・パネル(90分)	プレゼンテーション・パネル(90分)
15	「自室を実測する課題」完成(含むCAD製図)	プレゼンテーション・パネル(90分)	プレゼンテーション・パネル(90分)
16	講評 課題返却	課題の総括(90分)	課題の総括(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: HLS322058)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一(建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
インテリアデザインは、建築の専門科目のなかでも、自分の生活からみて身近な対象である。自分の部屋の設えはその基本であるからだ。しかし、その見聞には限界がある。学生はインテリアデザインに関する知識を豊富に習得すること、また人間の生活行動やそれぞれの機能、人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解することを習得する。

授業の位置づけ
建築学DP「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
一にセンスアップ、二にセンスアップ、三に優しい心を育むことができる。

授業全体の内容と概要
実務と現物に触れることによって、インテリアデザインの現状を把握する。また、内部空間、野外家具(ストリートファニチャー)、店舗ファサードなどについて解説する。それらの空間計画と思想を学ぶと共に、実際の製作を通して発想とプレゼンテーションのトレーニングを行う。

授業の方法
前半は、講義によるインテリアデザインの計画的側面を中心にPPを用いて解説をおこなう。受講時に授業ノート(演習1)をとり授業終了後提出、演習2は自宅学習課題として次週の開始時に提出し、コメントを記したものを後日返却する。後半は、インテリア関係メーカーのショールームの見学(フィールドワーク)を行い、商品や実作に触れインテリアデザインの実感を体験し、そこから得た知見をレポートとしてまとめる。レポート提出後、講評を記述して返却する。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
出席して、講義を聴かなければ意味がない。旅行、外出の際は、スケール・カメラまたはクローキープを所持し、参考になるものを記録する。ショールームなどの視察と調査後は、各自のテーマについての研修事項をレポートとして提出する。作品は模型による提出とする。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
原則毎回出席すること(最低出席回数10回以上)、授業内で行う演習評価点(平常点 授業成果)と見学会レポートが単位認定(成績評価)の過半を占めるので、授業欠席や演習未提出は不合格に直結する。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>15%</td> <td>0%</td> <td>45%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	40%	15%	0%	45%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	40%	15%	0%	45%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>ショールームの見学を通じ本物を見て触ってみることで見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。</td> <td>レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。</td> <td>レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。</td> <td>レポートがすべて提出され見学からおおた示唆を受けたことが判断できた。</td> <td>レポートがすべて提出できた。</td> <td>見学に参加またはレポートが提出できなかった。</td> </tr> <tr> <td>インテリアデザインに関する知識を豊富に習得する。</td> <td>対象インテリアとそれ以外の視点からグローバルに捉えた成果が演習から確認できた。</td> <td>インテリアを複数の視点で捉えたことが作成された演習から確認できた。</td> <td>インテリアをひとつのテーマや視点で捉えた演習を作成できた。</td> <td>演習を作成し提出できた。</td> <td>演習が提出されなかったため、知識を修得したことが確認することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>人間の生活行動やそれぞれの機能、人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解する。</td> <td>十分に条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。</td> <td>条件を理解し優れた表現の課題をが作成することができた。</td> <td>条件を理解した課題を作成することができた。</td> <td>条件理解に多少の問題があるが課題を作成することができた。</td> <td>課題を作成することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	ショールームの見学を通じ本物を見て触ってみることで見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学からおおた示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出できた。	見学に参加またはレポートが提出できなかった。	インテリアデザインに関する知識を豊富に習得する。	対象インテリアとそれ以外の視点からグローバルに捉えた成果が演習から確認できた。	インテリアを複数の視点で捉えたことが作成された演習から確認できた。	インテリアをひとつのテーマや視点で捉えた演習を作成できた。	演習を作成し提出できた。	演習が提出されなかったため、知識を修得したことが確認することができなかった。	人間の生活行動やそれぞれの機能、人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解する。	十分に条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。	条件を理解し優れた表現の課題をが作成することができた。	条件を理解した課題を作成することができた。	条件理解に多少の問題があるが課題を作成することができた。	課題を作成することができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
ショールームの見学を通じ本物を見て触ってみることで見学から多くの示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学から示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出され見学からおおた示唆を受けたことが判断できた。	レポートがすべて提出できた。	見学に参加またはレポートが提出できなかった。																								
インテリアデザインに関する知識を豊富に習得する。	対象インテリアとそれ以外の視点からグローバルに捉えた成果が演習から確認できた。	インテリアを複数の視点で捉えたことが作成された演習から確認できた。	インテリアをひとつのテーマや視点で捉えた演習を作成できた。	演習を作成し提出できた。	演習が提出されなかったため、知識を修得したことが確認することができなかった。																								
人間の生活行動やそれぞれの機能、人それぞれの身体状況に対しどのような計画が必要かを認識し理解する。	十分に条件を理解し優れた表現の課題を作成することができた。	条件を理解し優れた表現の課題をが作成することができた。	条件を理解した課題を作成することができた。	条件理解に多少の問題があるが課題を作成することができた。	課題を作成することができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『適宜配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『適宜配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『適宜配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	建築学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	インテリアデザイン (科目ナンバリング: HLS322058)				
授業担当者(所属・職名)	安藤 淳一 (建築学科・教授)	研究室所在	2号館3階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安藤 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス シラバスの説明 インテリアデザインで学ぶこと	シラバス事前確認(90分)	授業内容の確認(90分)
2	人間工学 家具への応用	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
3	人間工学 行動・動作	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
4	光と色	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
5	内装材・塗装	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
6	構法と納まり	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
7	家具デザイン	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
8	建具・金物	予習(教科書確認)(90分)	演習2作成(90分)
9	ショールーム見学会の説明と模型課題出題	予習(教科書確認)(90分)	模型作成(90分)
10	見学会1 家具メーカー ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
11	見学会2 テキスタイルメーカー ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
12	見学会3 住宅総合メーカー ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
13	見学会4 家具卸会社 ショールーム	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
14	見学会5 住宅設備メーカー 工場	見学場所と道具の確認(90分)	レポート作成(90分)
15	模型課題 提出・発表	発表準備(90分)	発表内容の振り返り(90分)
16	総評(提出課題・レポートの確認と講評)	提出作品の最終確認(90分)	総評の振り返り(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	テキスタイルデザイン (科目ナンバリング: DES222070)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p>履修目標</p> <p>テキスタイルデザインとは何かを知り、スクリーンプリント技法について説明・利用することができる。 課題作品で技法を踏まえたデザインを考え、表現することができる。 技法についてのレポートを他人にもわかりやすく作成することができる。</p>																					
<p>授業の位置づけ</p> <p>デザイン学科のDP「1(2)(3)」、「2(2)」に対応する。</p>																					
<p>到達目標</p> <p>テキスタイルデザインやスクリーンプリント技法について述べることができ、且つ、実践することができる。 課題作品を完成させることができる。 技法についてのレポートを作成することができる。</p>																					
<p>授業全体の内容と概要</p> <p>身の回りにあふれるテキスタイルデザインに興味を持ち、その知識を深める。また、テキスタイルデザインにおいて代表的な技法であるスクリーンプリント技法について知り実践する。手ぬぐい制作を課題とし、技法に則したデザインを考える。実践後に作業工程をレポートとして提出する。</p>																					
<p>授業の方法</p> <p>技法の作業工程を板書で説明する。説明後、実践し、課題制作は個人で行い、作業計画に沿って進める。作品完成後、作業工程のレポートを提出。課題作品は合評にて、レポートは添削にてフィードバックする。</p>																					
<p>アクティブラーニングの実施方法</p> <table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)															
<p>履修上の注意事項</p> <p>授業開始から30分間で作業工程の説明を行うので遅刻しないこと。 作業計画のスケジュールは変更できないので必ず出席すること。</p>																					
<p>資格指定科目</p>																					

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <p>最低出席回数は20回以上。 自分の作業日は必ず出席して作業を行うこと。 課題の作品ができあがっていること。</p>																	
<p>評価方法</p> <table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> </tr> </table>						定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	30%	0%	50%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他												
0%	20%	30%	0%	50%	0%												

<p>ルーブリック</p>					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法についての知識	スクリーンプリント技法について詳しく説明できた。	スクリーンプリント技法について説明できた。	スクリーンプリント技法についてある程度説明することができた。	スクリーンプリント技法について述べることができた。	スクリーンプリント技法について述べることができなかった。
技法の習得	スクリーンプリント技法を利用することができ、他人にアドバイスができた。	スクリーンプリント技法を利用することができた。	スクリーンプリント技法のある程度利用することができた。	スクリーンプリント技法を実践することができた。	スクリーンプリント技法を実践することができなかった。
技法を踏まえた表現力	課題作品で技法を踏まえた上で、個性的なデザインを考え、自由に表現することができた。	課題作品で技法を踏まえたデザインを考え、表現することができた。	課題作品でデザインを考え、表現することができた。	課題作品を完成させることができた。	課題作品を完成させることができなかった。
レポートの作成	技法についてのレポートを他人にもわかりやすく、独自の視点を含んで作成することができた。	技法についてのレポートを他人にもわかりやすく作成することができた。	技法についてのレポートをある程度他人にもわかりやすく作成することができた。	技法についてのレポートを作成することができた。	技法についてのレポートを作成することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

<p>教科書</p>						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

<p>参考文献・資料等</p>						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	テキストデザイン (科目ナンバリング: DES222070)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	テキストデザインとスクリーンプリント技法について全体の作業計画を立てる		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
3	リポートするデザインを考える	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
4	ラフデザイン		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
5	リポートとバランス	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
6	リポートラインの決定		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
7	デザインの決定	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
8	配色の計画		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
9	原画を作成する	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
10	原画を作成する		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
11	リポートラインの処理	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
12	リポートラインの処理		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
13	版下作成 フィルムに描く	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
14	版下作成 フィルムに描く		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
15	版下作成 カットニングする	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
16	版下作成 カットニングする		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	製版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
18	製版		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
19	染料と顔料について	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
20	色糊をつくる		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
21	刷り	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
22	刷り		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
23	落版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
24	落版		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
25	定着	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
26	定着		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
27	仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
28	仕上げ		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
29	レポート作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
30	レポート作成		レポート作成作業を進めること(45分)
31	講評	課題作品の準備しておくこと(45分)	
32	講評	講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	テキスタイルデザイン (科目ナンバリング: DES222071)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	テキスタイルデザインとその技法についての知識を深め、述べるができる。技法の特徴を理解した上で、利用することができる。技法の制約を踏まえて独自のデザインができる。																					
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)(3)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	テキスタイルデザインとその技法についての知識を深めることができる。技法を使用することができる。独自のデザインができる。																					
授業全体の内容と概要	テキスタイルデザイン で学んだスクリーンプリント技法の知識を踏まえて創意工夫のあるテキスタイル作品を制作する。作品制作の目的を設定し、各自で作業計画を立て、技法を活用して制作する。完成後、作品を発表する。																					
授業の方法	学生個人ごとに制作の目的、デザイン案を教員と打合せし、構想を練る。作業は個人ごとに行い、作品完成後、発表し、提出する。完成作品の講評を行いフィードバックする。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>○</td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション	○	実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	テキスタイルデザイン の履修者が望ましい。生地は各自で用意する。																					
資格指定科目																						

評価方法・基準

評価前提条件					
最低出席回数は20回以上。自分の作業日は必ず出席すること。作品ができあがっていること。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
技法に関する知識	テキスタイルデザインとその技法についての知識を深め、自ら調べたことまで述べる事ができた。	テキスタイルデザインとその技法についての知識を深め、述べる事ができた。	テキスタイルデザインとその技法についての知識を深め、ある程度述べる事ができた。	テキスタイルデザインとその技法についての知識を深める事ができた。	テキスタイルデザインとその技法についての知識を深める事ができなかった。
技法の習得	技法の特徴を理解した上で、活用することができた。	技法の特徴をある程度理解した上で、利用することができた。	技法の特徴をある程度理解した上で、多少利用することができた。	技法を使用することができた。	技法を使用することができなかった。
表現力	技法の制約を踏まえて発想力豊かに独自のデザインができた。	技法の制約を踏まえて独自のデザインができた。	ある程度、技法の制約を踏まえて独自のデザインができた。	独自のデザインができた。	独自のデザインができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	テキストデザイン (科目ナンバリング: DES222071)				
授業担当者(所属・職名)	三上 いずみ(デザイン学科・専任講師)	研究室所在	2号館8階		
単位数	2 (単位認定責任者: 三上 いずみ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 作品制作の目的を設定する	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	各自作業計画を立てる		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
3	ラフデザイン	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
4	ラフデザイン		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
5	表現方法を考える	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
6	表現方法を考える		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
7	素材研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
8	素材研究		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
9	技法研究	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
10	技法研究		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
11	デザイン決定	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
12	デザイン決定		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
13	原画作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
14	原画作成		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
15	版下作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
16	版下作成		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	版下作成	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
18	版下作成		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
19	製版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
20	製版		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
21	刷り	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
22	刷り		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
23	落版	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
24	落版		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
25	定着	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
26	定着		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
27	作品加工	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
28	作品加工		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
29	仕上げ	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
30	仕上げ		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
31	講評	学習内容に沿って事前準備を行うこと(45分)	
32	講評		講義全体をふりかえり、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	版表現 (科目ナンバリング: AEA222072)				
授業担当者(所属・職名)	森迫 暁夫(デザイン学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者: 森迫 暁夫)	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が、その経験を活かして実践において活用できる様々な版表現の実習を行う。		

概要

履修目標	各課題について考える事を大事に扱う。技術を学ぶ事と版の可能性について考える事、自分の個性を知り、それを磨いていく事。				
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)と(3)」、「2(2)」に対応する。				
到達目標	版という制約を知り、制約による美を発見して自己の制作につなげる。				
授業全体の内容と概要	間接的な表現や直接的表現など、様々な版を体験する。				
授業の方法	授業においては、各課題の説明の後に、実技制作にあたる。各回のテーマごとに課題提出を行い、課題ごとにプレゼンテーションをしてもらう。授業の始めに必ず、主に札幌市で行われている展覧会やイベントの告知をしています。自分にとっての制作の立ち位置や、可能性について考えるためのフィールドワークとして、定期的に展示を見に行くことを目標としたい。そこから自ら調査、個人の制作につなげられるようにしていけると望ましい。				
アクティブラーニングの実施方法	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	
	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	
	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)	
履修上の注意事項	自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮しますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらった場合もあります。授業時間以外では、原画、版下などの制作が必要となる。				
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
自由度の高い授業形態で遅刻や欠席についても理由を聞き配慮しますが、しっかりと授業受けるという意識は持ってきてください。筆記用具を持ってこなかったり、ポツポツと欠席、遅刻があったりする場合はこちらから履修を取り消してもらった場合もあります。課題は多くありませんので全て提出が単位認定の条件となります。単位に必要な最低出席回数は、22回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
理解度	自ら進んで取り組み、授業の内容を理解した。	授業の内容を十分理解した。	授業の内容を概ね理解した。	授業の内容を最低限理解した。	授業の内容を理解できなかった。
課題	各課題に対して率先し、きちんと考えて制作している。	課題は全部出していて、十分考えている。	課題を全部出している。そこそこ考えて制作している。	課題を全部出している。	課題を出していない。
オリジナリティーの追求	自分のオリジナリティーを追求できている。	自分のオリジナリティーをそこそこ追求できている。	自分のオリジナリティーが向かを考えられる。	自分のオリジナリティーが最低限考えられている。	何も考えていない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	版表現 (科目ナンバリング: AEA222072)				
授業担当者(所属・職名)	森迫 暁夫(デザイン学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階 非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 森迫 暁夫)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	版画家として活動している教員が、その経験を活かして実践において活用できる様々な版表現の実習を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション 授業概要について。	シラバスを見ておく(45分)	
2	オリエンテーションと4版式についての講義。		四版式について復習する(45分)
3	消しゴムスタンプで遊ぶ。簡単なスタンプを作り、遊ぶ。	デザインカッター用意。四半式について復習。(45分)	
4	消しゴムスタンプで遊ぶ。簡単なスタンプを作り、遊ぶ。		自宅でも課題を進める。(45分)
5	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。(45分)	
6	消しゴムスタンプで名刺を作る。		自宅でも課題を進める。(45分)
7	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。(45分)	
8	消しゴムスタンプで名刺を作る。		自宅でも課題を進める。(45分)
9	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。(45分)	
10	消しゴムスタンプで名刺を作る。		自宅でも課題を進める。(45分)
11	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。(45分)	
12	消しゴムスタンプで名刺を作る。		自宅でも課題を進める。(45分)
13	消しゴムスタンプで名刺を作る。	各自資料を用意。(45分)	
14	消しゴムスタンプで名刺を作る。名刺交換の基本を学ぶ。プレゼンテーション。		ケシ版について考える(45分)
15	マーブリング	汚れても良い格好。四版式について復習。(45分)	
16	マーブリング		楽しかったことを思い出す。四版式について復習。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	手形		自分の手について考える。(45分)
18	手形		押されたものについて考える。(45分)
19	フロッターージュ	B2鉛筆用意。学校内を探検しておく。(45分)	
20	フロッターージュ		課題の意図について考える。(45分)
21	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画描き。		彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。(45分)
22	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。原画描き。		自宅でも課題を進める。(45分)
23	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。		彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。(45分)
24	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。		自宅でも課題を進める。(45分)
25	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。		彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。(45分)
26	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。		自宅でも課題を進める。(45分)
27	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。		彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。(45分)
28	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。		自宅でも課題を進める。(45分)
29	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。		彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。(45分)
30	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。		自宅でも課題を進める。(45分)
31	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。		彫刻刀と絵の具準備。四版式について復習。資料準備。(45分)
32	木版 アウトラインをどらないことを意識して作品を作る。紙だけでなくフィルムなどにも印刷。彫り。プレゼンテーション。		課題から。版画について考える。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	版表現 (科目ナンバリング: AEA222073)				
授業担当者(所属・職名)	鳴海 伸一 (デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 鳴海 伸一)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家として実践に即した実習を行う。		

概要

履修目標	銅版画、リトグラフの基本的な制作工程を理解し、自主的かつ安全に制作できる技術を習得することができる。
------	--

授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)(3)」、「2(2)」に対応する。
---------	---------------------------------

到達目標	版画の制作を通じて、複製と間接表現の元になる“版”について知識と技術を深め、デザインの発想や美術表現の幅を広げ、自己の才能と可能性を発掘する事ができる。
------	--

授業全体の内容と概要	本講では主要4版種の中から、リトグラフと銅版画を中心に小作品を制作する。美術家やグラフィックデザイナーを目指す方々の印刷技術理解にも有意義な実技となる。作品づくりの喜びと楽しさ、そして新たな絵画表現領域を探索する。
------------	---

授業の方法	銅版画ではその代表となる腐蝕法(エッチング)を、リトグラフでは、現在一般的に普及しているアルミ板を版として用い、プレス機にて作品を完成させる。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	制作の特性上、汚れてもよい服装やエプロンを着用すること。版の特性を知り、自己のオリジナル作品を用意するよう心がける。個人によって進行状況に差異、乾燥時間が発生するため、各自スキルに応じた時間確保と資料を参照すること。
----------	--

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
銅版画(エッチング)の作品制作について	自主的に銅版画作品の追加または応用作品を制作できた。	銅版の製版、本刷りが終了していること。またエディション・タイトル、サインが記入され、仕上げ裁断ができた。	腐蝕製版が完成し、試刷またはそれに準じた作品の完成。工程を理解し、自主的に安全な制作が進められることができた。	下絵を銅板に転写し、製版が完成。さらに試刷りができた。	画として下書きに表すことができなかった。
リトグラフの作品制作について	自主的にリトグラフ作品の追加または応用作品を制作できた。	リトグラフの製版、本刷りが終了し、エディション・タイトル、サインが記入され、仕上げ裁断ができた。	アラビアゴムによる第1製版が完成し、試刷またはそれに準じた作品の完成。工程を理解し、自主的に刷りを進める事ができた。	下絵をアルミ版に転写し、製版が完成。さらに試刷りが行われた段階で平版の特長を理解できた。	画として下書きに表すことができなかった。
講義全体をとおした実技および取り組みについて	描画・製版・印刷の原理を理解し、自主的に安全かつ発展作品を制作できた。	美術館などで作品鑑賞時に版表現であるかを判別でき、制作版画または複製版画であるかの審美眼を習得できた。	版画の原理と版表現の魅力を理解し、製版状態に反映できた。	版画による絵画表現に魅力を感じ、新たな絵画表現に可能性を見出し好奇心を持つことができた。	下絵は描きだしているが、版への描画が進められなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	版表現 (科目ナンバリング: AEA222073)				
授業担当者(所属・職名)	鳴海 伸一 (デザイン学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 鳴海 伸一)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 作家として実践に即した実習を行う。			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 ガイダンス/版画について	シラバスを読んでおくこと。(45分)	
2	ガイダンス/版画の魅力と可能性		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
3	制作1 銅版画(エッチング) 下絵作成	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
4	制作1 銅版画(エッチング) 下絵作成		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
5	制作2 銅版画(エッチング) 下絵と製版	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
6	制作2 銅版画(エッチング) 下絵と製版		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
7	制作3 銅版画(エッチング) 腐蝕製版	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
8	制作3 銅版画(エッチング) 腐蝕製版		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
9	制作4 銅版画(エッチング) 製版・アクアチント	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
10	制作4 銅版画(エッチング) 製版・アクアチント		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
11	制作5 銅版画(エッチング) 製版と印刷準備	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
12	制作5 銅版画(エッチング) 製版と印刷準備		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
13	制作6 銅版画(エッチング) 製版と印刷	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
14	制作6 銅版画(エッチング) 製版と印刷		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
15	制作7 銅版画(エッチング) 印刷と裁断	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
16	制作7 銅版画(エッチング) 印刷と裁断		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	制作8 銅版画 仕上げ	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
18	制作8 銅版画 課題提出		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
19	制作9 リトグラフ 下絵づくり	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
20	制作9 リトグラフ 下絵づくり		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
21	制作10 リトグラフ 描画と製版	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
22	制作10 リトグラフ 描画と製版		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
23	制作11 リトグラフ 製版	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
24	制作11 リトグラフ 製版		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
25	制作12 リトグラフ 印刷	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
26	制作12 リトグラフ 印刷		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
27	制作13 リトグラフ 印刷と裁断	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
28	制作13 リトグラフ 印刷と裁断		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
29	制作14 リトグラフ 仕上げ	学習内容に応じた事前学習をしておくこと。(45分)	
30	制作14 リトグラフ 課題提出		講義内容をふりかえり、まとめを行うこと。(45分)
31	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと。(45分)	
32	課題に対する解説・フィードバック		解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深めること。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 (科目ナンバリング: AEA223056)				
授業担当者(所属・職名)	岡 恵子(デザイン学科・非常勤講師)		研究室所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2 (単位認定責任者: 岡 恵子)		CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動経歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		

概要

履修目標					
1. 身近な自然物をよく観察し日本画の表現に欠かせない基礎的な描写力を身に付けることができる。 2. 写生から下絵、本画の制作と進め、日本画制作の基本的な手順を知ることができる。 3. 水干絵の具・膠・箔・筆・絵絹などの日本画素材と用具を知り、基本的な扱い方を知ることができる。					
授業の位置づけ					
デザイン学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。					
到達目標					
1. 写生を通して対象を的確に描写することができる。 2. 写生から下絵の制作そして本画へと、日本画制作の手順を知り制作を進めることができる。 3. 日本画素材と用具についての基礎的な知識と扱い方を身につけている。					
授業全体の内容と概要					
季節の自然物(草花や虫など)を観察し写生をする。色鉛筆で彩色する。木枠に絵絹を貼り込む。碧水を引く。写生した対象を画面の中に配置し具墨で骨描きする。膠・胡粉・水干絵の具の特徴を知り、これらを使った日本画の表現技法の基礎を学ぶ。希望に応じて箔表現も扱う。絵絹という基底材の特性を生かして塗りを重ねる。					
授業の方法					
授業は、パワーポイントまたは授業担当者作成のテキストによる日本画の基礎知識についての講義と、日本画の画材の扱いや表現についての実技指導によって構成される。日本画の基礎知識を問う筆記テストを授業内で二回行う。作品の構想段階と制作の終盤で、作品についての個人発表(プレゼンテーション)と相互講評を行う。作品完成時に提出する作者のコメントには講評を添え、作品と共に学内に掲示する。実技では写生を重視する。戸外(大学構内)での写生を行う(フィールドワーク)。					
アクティブラーニングの実施方法					
	プレゼンテーション		グループワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項					
使用する絹枠・絵絹は各自で購入するものとする。制作スペースと用具の関係から履修人数を20名程度に制限する。					
資格指定科目					

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上とする。 以下の2点が期日までに提出されていること ① 自然物の写生、絹本に着色した日本画作品1点 ② 日本画についての基礎知識を持っていること(基礎知識を問うテストを授業内で2回実施する)					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	70%	10%	0%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
写生力	対象の色と形をよく対象の色と形をよく観察した上で的確に描写し、筆圧と筆勢を意図した描線であらゆる対象の質感と量感を豊かに表現することができる。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意図した描線であらゆる対象の質感と量感を表現することができる。	対象の色と形を的確に描写し、筆勢と筆圧を意図した描線での表現を試みることができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。
構成力	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上的に的確に構成し、独創的な表現を目指すことができた。	写生を通して自らの感性に触れた対象を選択し、作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上的に的確に構成することができた。	写生を通して作品の主題を定め、主題に沿って取材した写生を画面上的に構成することができた。	取材した写生を画面の上に配置し画面構成することができた。	取材した写生を画面の上に構成することができなかった。
表現力	絵絹と水干し絵の具の特徴・日本画の塗りの技法を熟知し、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴・日本画の塗りの技法を熟知し、その美しさを生かした独創的な表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴・日本画の塗りの技法を知り、その美しさを生かした表現を実現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴・日本画の塗りの技法を知り、表現することができた。	絵絹と水干し絵の具の特徴・日本画の塗りの技法を知り、表現することができなかった。
知識	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を完全に習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識をほぼ習得することができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識の習得が目指すことができた。	日本画の素材・用具の名称と特徴、扱い方の基本、塗りの技法など、作品制作に必要な基礎知識を習得できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						
参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 (科目ナンバリング: AEA223056)				
授業担当者(所属・職名)	岡 恵子(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡 恵子)		CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動履歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・「日本画とは」 ・シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	作品鑑賞 ・木枠を組む、捨て糊を施す		掲示してある先輩の作品を鑑賞し興味を抱いた点を記録する。捨て糊の意味確認(45分)
3	日本画の画材と用具の紹介	テキストの用具と画材の欄を事前学習すること、写生に必要な筆記具の準備(45分)	
4	自然物を写生する		泥・筆・刷毛など形状、名称、用途、特徴などテキストを見て復習すること(45分)
5	基底材としての絵絹の特性を知る ・掛け軸の鑑賞	テキストの絵絹の欄を事前学習すること、写生に必要な筆記具の準備(45分)	
6	自然物を写生する ・木枠に絵絹を貼る		絹の性質と貼り方、表現の可能性を復習する。描きたいものを選択すること(45分)
7	膠、明礬、ドウサを知る ・絵絹に湯引き、ドウサをひく	テキストの膠と礬水の欄を事前学習すること、写生に必要な筆記具の準備(45分)	
8	自然物を写生する ・大学構内に出て写生しよう		湯引きの目的、礬水と礬水刷毛の役割を復習すること。描きたい対象を絞り意欲を深めること(45分)
9	日本画基礎知識ドリルテスト	日本画基礎知識ドリルを学習しておくこと、写生に必要な筆記具の準備(45分)	
10	自然物を写生する ・大学構内に出て写生しよう		基礎ドリルの復習を通して知識の定着を確認すること(45分)
11	墨を知る、墨を摺る ・墨による線描模写演習	墨の濃淡について資料等を閲覧しイメージしておくこと(45分)	
12	の写生を使って筆で画面を構成し絹に骨描きをする		墨の種類、摺り方、粉本を用いた運筆演習を通して線描の多彩さを知る(45分)
13	胡粉を知る ・胡粉を溶いてみる	授業テキストの胡粉団子の作り方を事前学習する。(45分)	
14	絹に胡粉を塗る		胡粉の原料、溶き方、塗り方と目的を復習すること(45分)
15	水干絵の具を知る ・水干絵の具を美しく溜く	授業テキストの水干絵具の欄を事前学習すること(45分)	
16	日本画の塗りの技法演習・絵具の処理と筆の手入れ方法		水干絵具の美しい溶き方、表現技法を繰り返し演習する。授業外での演習も可(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	相互鑑賞		作品の背景色と塗りの方法を決定しておく(45分)
18	絵絹作品の彩色 ・表彩色と裏彩色の違い		作品の相互鑑賞を通して表現の多彩さに気付き互いに技法を学び合うこと(45分)
19	絵絹作品の彩色		絹の透ける性質を利用した裏箔表現を取り入れるか想定しておく(45分)
20	絵絹作品の彩色 ・箔を使った表現、裏箔と砂子		写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認すること(45分)
21	絵絹作品の彩色	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
22	絵絹作品の彩色		写生での観察をもとに水干絵具での表現を深めて行くことを確認すること(45分)
23	絵絹作品の彩色	学習内容に必要な事前準備を行うこと。裏装丁を工夫した表現を考える(45分)	
24	絵絹作品の彩色 ・絹の透け感を生かし表現を考える		次週までの課題として復習テスト問題を考えること(45分)
25	絵絹作品の彩色	作品の裏装丁を施す(45分)	
26	絵絹作品の彩色		復習テスト問題を集約する(45分)
27	*画印を考える ・画印を描く*		*画印のデザインを考える 相互鑑賞で自作を語る準備(45分)*
28	相互鑑賞		日本画の基礎知識復習テストのために学習すること(45分)
29	相互鑑賞 ・画印を描く 日本画基礎テスト	日本画の事前学習(手濃き和紙の制作ガイダンス)(45分)	
30	作品完成と鑑賞作品の完成と鑑賞		講義内容全体を振り返り自己評価表を記入すること
31	課題に対する解説・課題に対する解説・フィードバック		講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(45分)
32	課題課題に対する解説・フィードバック 解説・フィードバック		解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 (科目ナンバリング: AEA223057)				
授業担当者(所属・職名)	岡 恵子(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡 恵子)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動経歴を有する教員が、実践に即した実習を行う。		

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> 身近な対象をよく観察し日本画の表現に欠かせない基礎的な描写力を伸ばすことができる。 日本画の内容を発展させ、手漉き和紙の制作を通して日本画の基底材としての和紙の特徴と表現の多様性を知ることができる。 筆・岩絵の具などの画材の扱いの基本を知り、日本画で扱った絵筆や水干絵の具との違いと表現の多様性を知ることができる。 各自の構想に沿って画材と基底材を選択し、独自の日本画表現へと発展させることができる。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP1(1)と(2)、「2(2)」に対応する。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 手漉き和紙の制作を通して、日本画の基底材としての和紙の特性に気付く。 植物・静物・小動物の写生を通して、対象から受けた感動を独自の表現に近づけようとしている。 岩絵の具や筆の表現技法を習得し、各自の構想に沿った表現に生かすことができる。

授業全体の内容と概要
楮とトロアオイを使って手漉き和紙を作成する。揉み紙技法と裏打ち技法の習得を通して和紙の特性と可能性に気付く。膠・筆・墨水・岩絵の具の特徴を知る。自然物(植物・小動物)や静物を写生する。基底材研究を通して技法を選択し作品の構想を練る。写生をもとに下絵を作る。主に岩絵の具を使って制作を進める。

授業の方法
授業は、日本画の基礎知識についての講義と、日本画の画材や表現についての実技によって構成される。日本画における基礎的な知識と技法を応用し、より積極的に日本画制作に関わって行こうとする姿勢が望まれる。学外(円山動物園爬虫類館)と学内(大学構内)での写生を行う(フィールドワーク)。制作の構想時と完成時に作品についての発表(プレゼンテーション)と相互批評を行う。手漉き和紙の制作は全員で協力して行う(グループワーク)。受講創作ノートに作品完成までの構想や技法を記録し提出することを課す。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
使用する木製パネル、楮紙素、裏打ち紙等は各自で購入するものとする。日本画履修者を対象にする。制作スペースと用具の関係から履修人数を20名程度に制限する。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は20回以上とする。</p> <p>以下、3点が期日までに提出されていること</p> <p>自然物の写生 日本画紙本作品1点 受講創作ノート</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	80%	0%	0%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	80%	0%	0%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にレベルを達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>写生力</td> <td>対象の色と形をよく観察した上で的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。</td> <td>対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。</td> <td>対象の色と形を的確に描写し、筆勢と筆圧を意識した描線で表現を試みることができた。</td> <td>対象の色と形を描写することができた。</td> <td>対象の色と形を描写できなかった。</td> </tr> <tr> <td>構成力</td> <td>手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地肌打ち、揉み紙などの技法を摂取しつつ独自の表現へと高めることができた。</td> <td>手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地肌打ち、揉み紙などの技法を摂取して独自の表現に生かすことができた。</td> <td>手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地肌打ち、揉み紙など和紙の特性を生かした技法を試みることができた。</td> <td>手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉くことができた。</td> <td>手漉き和紙の材料と作成工程を知った上で和紙を漉くことができなかった。和紙の特性を生かした技法を知ることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>岩絵の具の色、質感、粒子の特徴を熟知できた。岩絵の具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面に確実に定着させることができた。</td> <td>岩絵の具の色、質感、粒子の特徴を理解できた。岩絵の具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面に確実に定着させることができた。</td> <td>岩絵の具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、岩絵の具を画面に確実に定着させることができた。</td> <td>岩絵の具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、岩絵の具を画面に確実に定着させることができた。</td> <td>岩絵の具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、岩絵の具を画面に確実に定着させることができなかった。</td> </tr> <tr> <td>構想力</td> <td>受講創作ノートの記録を通して、自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講創作ノートを活用することができた。</td> <td>自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講創作ノートを活用することができた。</td> <td>自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講創作ノートを活用することができた。</td> <td>自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講創作ノートの記録を活用することができた。</td> <td>自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講創作ノートの記録を活用することができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	写生力	対象の色と形をよく観察した上で的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆勢と筆圧を意識した描線で表現を試みることができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。	構成力	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地肌打ち、揉み紙などの技法を摂取しつつ独自の表現へと高めることができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地肌打ち、揉み紙などの技法を摂取して独自の表現に生かすことができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地肌打ち、揉み紙など和紙の特性を生かした技法を試みることができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉くことができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知った上で和紙を漉くことができなかった。和紙の特性を生かした技法を知ることができなかった。	表現力	岩絵の具の色、質感、粒子の特徴を熟知できた。岩絵の具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面に確実に定着させることができた。	岩絵の具の色、質感、粒子の特徴を理解できた。岩絵の具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面に確実に定着させることができた。	岩絵の具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、岩絵の具を画面に確実に定着させることができた。	岩絵の具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、岩絵の具を画面に確実に定着させることができた。	岩絵の具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、岩絵の具を画面に確実に定着させることができなかった。	構想力	受講創作ノートの記録を通して、自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講創作ノートを活用することができた。	自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講創作ノートを活用することができた。	自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講創作ノートを活用することができた。	自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講創作ノートの記録を活用することができた。	自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講創作ノートの記録を活用することができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
写生力	対象の色と形をよく観察した上で的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を豊かに表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆圧と筆勢を意識した描線で対象の質感と量感を表現することができた。	対象の色と形を的確に描写し、筆勢と筆圧を意識した描線で表現を試みることができた。	対象の色と形を描写することができた。	対象の色と形を描写できなかった。																														
構成力	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地肌打ち、揉み紙などの技法を摂取しつつ独自の表現へと高めることができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地肌打ち、揉み紙などの技法を摂取して独自の表現に生かすことができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉き、さらに、裏打ちや地肌打ち、揉み紙など和紙の特性を生かした技法を試みることができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知り、その特性を生かして和紙を漉くことができた。	手漉き和紙の材料と作成工程を知った上で和紙を漉くことができなかった。和紙の特性を生かした技法を知ることができなかった。																														
表現力	岩絵の具の色、質感、粒子の特徴を熟知できた。岩絵の具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面に確実に定着させることができた。	岩絵の具の色、質感、粒子の特徴を理解できた。岩絵の具の粒子の密度を考慮し発色良く表現するための技法を工夫し、絵の具を画面に確実に定着させることができた。	岩絵の具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、岩絵の具を画面に確実に定着させることができた。	岩絵の具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、岩絵の具を画面に確実に定着させることができた。	岩絵の具の色、質感、粒子の特徴があることを知り、岩絵の具を画面に確実に定着させることができなかった。																														
構想力	受講創作ノートの記録を通して、自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講創作ノートを活用することができた。	自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講創作ノートを活用することができた。	自己の表現目的、主題の決定、綿密な取材と制作と、独自の作品の完成に向けて受講創作ノートを活用することができた。	自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講創作ノートの記録を活用することができた。	自己の表現目的に沿って独自の表現を実現すべく受講創作ノートの記録を活用することができなかった。																														

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	日本画 (科目ナンバリング: AEA223057)				
授業担当者(所属・職名)	岡 恵子(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 岡 恵子)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり 左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	日本画家としての活動経験を有する教員が、実践に即した実習を行う。			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	*オリエンテーション ・シラバスの説明 ・手漉き和紙の制作工程を知る	シラバスを読んでおくこと授業テキストの和紙の欄を読んでおくこと(45分)	
2	自然物などの写生	手漉き和紙制作の用具・工程など予備知識を持ち役割分担を決めること(45分)	
3	*基底材研究演習 ・楕とトロロアオイで和紙を漉く	作業の役割に沿って準備を進めること、糊の排和紙の構想準備をすること(45分)	
4	*基底材研究演習 ・楕とトロロアオイで和紙を漉く	手漉き和紙の工程を理解し各自の工夫や研究の成果を受講創作ノートに記録すること(45分)	
5	*自然物などの写生 ・校外写生授業(円山動物園)	描きたい動物を選択し取材準備しておくこと(45分)	
6	*自然物などの写生 ・校外写生授業(円山動物園)	現地での写生を補筆し、作品制作に利用できる内容に整えること。和紙の乾燥(45分)	
7	*自然物などの写生 ・大学構内に出て写生しよう	手漉き和紙に墨水を施す意図と方法を知ること。作品の構想を練る。受講創作ノート(45分)	
8	*自然物などの写生 ・大学構内に出て写生しよう	手漉き和紙に墨水を施す意図と方法を知ること。作品の構想を練る。受講創作ノート(45分)	
9	基底材から発想する・揉み紙技法を知る	授業テキストの揉み紙の欄を読んでおくこと(45分)	
10	自然物などの写生	揉み紙の方法と効果を受講創作ノートにまとめること(45分)	
11	*作品の構想 ・裏打ち技法を知る	授業テキストの裏打ちの欄を読んでおくこと(45分)	
12	*自然物などの写生 ・岩絵の具のマチエールを知る	裏打ち(補強のための迎え打ちと地獄打ち)の内容を受講創作ノートにまとめること(45分)	
13	作品の構想に沿って技法を選択する	作品の構想をまとめ、基底材に施す技法の選択をすること(45分)	
14	*相互鑑賞 ・下図の完成	作品の構想を決定し、それに添った技法を選択して受講創作ノートにまとめること(45分)	
15	*岩絵の具を知る ・下地を作る	テキストの岩絵の具の欄を読んでおくこと。使いたい絵具を選択すること(45分)	
16	*岩絵の具を知る ・岩絵の具の粒子を知る	岩絵の具の粒子と岩絵の具を使った下地作りを受講創作ノートにまとめること(45分)	

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	*岩絵の具を知る ・下図を転写する、念紙を知る	トルソグ `ハ` `ハ` に下図が転写出来ていること(45分)	
18	*岩絵の具を知る ・岩絵の具の粒子の特徴を知る		制作の進捗状況と技術技法の気付きを受講創作ノートにまとめること(45分)
19	着色	本紙に下図が転写出来ていること(45分)	
20	*着色 ・岩絵の具の保管方法を知る		制作の進捗状況と技術技法の気付きを受講創作ノートにまとめること(45分)
21	*着色 ・岩絵の具の塗りの技法を知る	膠、膠鍋、筆洗、布、筆など彩色に必要な準備が出来ていること(45分)	
22	着色		制作の進捗状況と技術技法の気付きを受講創作ノートにまとめること(45分)
23	*着色 ・岩絵の具の塗りの密度を知る	膠、膠鍋、筆洗、布、筆など彩色に必要な準備が出来ていること(45分)	
24	着色		制作の進捗状況と技術技法の気付きを受講創作ノートにまとめること(45分)
25	*着色 ・箔を生かす	膠、膠鍋、筆洗、布、筆など彩色に必要な準備が出来ていること(45分)	
26	着色		制作の進捗状況と技術技法の気付きを受講創作ノートにまとめること(45分)
27	着色	膠、膠鍋、筆洗、布、筆など彩色に必要な準備が出来ていること(45分)	
28	着色		制作の進捗状況と技術技法の気付きを受講創作ノートにまとめること(45分)
29	*相互鑑賞 ・画印を描く	相互鑑賞で自作を語る準備が出来ていること(45分)	
30	作品完成と鑑賞		作品の装幀、受講創作ノートの整備、提出物の準備が出来ていること(45分)
31	課題に対する解説・フィードバック	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(45分)	
32	課題に対する解説・フィードバック		解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング: AEA223040)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験に基づいて映像制作の基礎から応用までを指導する。		

概要

履修目標
映像分野について、そのメディアも含めて知識を深め、設計作業を通じて、そのデザイン工程を正しく理解する。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
映像制作を行う上で、一般的な作業工程と既成の作品を分析し、必要な業務内容やスタッフの役割分担を認識して、作品の完成度を上げるための基本的な方法論を用いることができる。

授業全体の内容と概要
映像史を絡めた作品研究を行い、様々な技術の成り立ちや演出法の発達にふれることで基本から応用までの流れを吸収する。さらに、シナリオやストーリーボードの作成を通じて適切な情報提供が行える映像作品の設計と制作工程を学ぶ。

授業の方法
1～10回までは様々な過去の映像作品を資料としたPowerPointを用いて講義形式の授業を行う。毎回のレポートは、其々の注目すべき点を取り上げて調査・分析し、映像制作に必要な知識を積み上げることを目的として作成する。質問に対しては随時対応し、レポートについては次回授業の導入に於いて講評を行う。11～15回は、それまでに得た知識を基にして、実際に映像作品を構想し、設計する。その際に、専用の用紙を必要枚数配布し、それを用いて映像の設計(ストーリーボードの作成)を行う。完成したストーリーボードは各自のプレゼンテーションとする。質問には随時対応し、作画やト書きなどの表現の指導は個別に行う。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td>○</td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業																	
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
授業内で提示される資料映像は、授業時間の関係もあるため、断片での紹介になる。よって、時間外では可能な限り全編を観る努力をしなければならない。

資格指定科目
教職課程(美術)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	60%	20%	0%	20%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	60%	20%	0%	20%	0%							

ルーブリック																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知識・技能 「映像史を基にした映像の表現や技法を系統的に理解できている」</td> <td>映像の成り立ちや理論を正しく理解し、設計作業に於いては、それを反映させ充実した表現を思案することができた。</td> <td>映像の成り立ちや理論を理解し、設計作業に於いては、それを表現に反映させ、内容の充実を図ることができた。</td> <td>映像の成り立ちや理論を理解したが、設計作業との関係付けが不十分であり、内容が不完全だった。</td> <td>映像の成り立ちや理論の理解が不十分であり、関連付けが不十分であり、内容が不十分である。</td> <td>映像の成り立ちや理論の理解ができず、設計作業ができなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力 「参考資料によって提示された様々な知識を基にして映像作品の設計が行える」</td> <td>与えられた参考資料を徹底して読み解き、そこから自らの表現を編み出すことができた。</td> <td>与えられた参考資料の分析は適切である。それを自らの表現に応用しようとする意識は見えた。</td> <td>与えられた参考資料の分析は行えているが、自らの表現に応用する意識は低かった。</td> <td>与えられた参考資料を理解が不十分なため、自らの表現に応用する意識が持てなかった。</td> <td>与えられた参考資料を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体性・多様性・協働性 「映像によって提供される情報の形態を理解し、適切な情報の構築が行える」</td> <td>映像による情報提供や問題解決のために必要な対応ができており、表現や技法の実験に積極的であった。</td> <td>映像による情報提供や問題解決に努力し、表現や技法の実験に取り組む必要性も理解していた。</td> <td>映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験に積極的ではなかった。</td> <td>映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験が適切に行えていなかった。</td> <td>映像による情報提供や問題解決ができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能 「映像史を基にした映像の表現や技法を系統的に理解できている」	映像の成り立ちや理論を正しく理解し、設計作業に於いては、それを反映させ充実した表現を思案することができた。	映像の成り立ちや理論を理解し、設計作業に於いては、それを表現に反映させ、内容の充実を図ることができた。	映像の成り立ちや理論を理解したが、設計作業との関係付けが不十分であり、内容が不完全だった。	映像の成り立ちや理論の理解が不十分であり、関連付けが不十分であり、内容が不十分である。	映像の成り立ちや理論の理解ができず、設計作業ができなかった。	思考力・判断力・表現力 「参考資料によって提示された様々な知識を基にして映像作品の設計が行える」	与えられた参考資料を徹底して読み解き、そこから自らの表現を編み出すことができた。	与えられた参考資料の分析は適切である。それを自らの表現に応用しようとする意識は見えた。	与えられた参考資料の分析は行えているが、自らの表現に応用する意識は低かった。	与えられた参考資料を理解が不十分なため、自らの表現に応用する意識が持てなかった。	与えられた参考資料を理解できなかった。	主体性・多様性・協働性 「映像によって提供される情報の形態を理解し、適切な情報の構築が行える」	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応ができており、表現や技法の実験に積極的であった。	映像による情報提供や問題解決に努力し、表現や技法の実験に取り組む必要性も理解していた。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験に積極的ではなかった。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験が適切に行えていなかった。	映像による情報提供や問題解決ができなかった。
評価項目		評価基準																											
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																								
知識・技能 「映像史を基にした映像の表現や技法を系統的に理解できている」	映像の成り立ちや理論を正しく理解し、設計作業に於いては、それを反映させ充実した表現を思案することができた。	映像の成り立ちや理論を理解し、設計作業に於いては、それを表現に反映させ、内容の充実を図ることができた。	映像の成り立ちや理論を理解したが、設計作業との関係付けが不十分であり、内容が不完全だった。	映像の成り立ちや理論の理解が不十分であり、関連付けが不十分であり、内容が不十分である。	映像の成り立ちや理論の理解ができず、設計作業ができなかった。																								
思考力・判断力・表現力 「参考資料によって提示された様々な知識を基にして映像作品の設計が行える」	与えられた参考資料を徹底して読み解き、そこから自らの表現を編み出すことができた。	与えられた参考資料の分析は適切である。それを自らの表現に応用しようとする意識は見えた。	与えられた参考資料の分析は行えているが、自らの表現に応用する意識は低かった。	与えられた参考資料を理解が不十分なため、自らの表現に応用する意識が持てなかった。	与えられた参考資料を理解できなかった。																								
主体性・多様性・協働性 「映像によって提供される情報の形態を理解し、適切な情報の構築が行える」	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応ができており、表現や技法の実験に積極的であった。	映像による情報提供や問題解決に努力し、表現や技法の実験に取り組む必要性も理解していた。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験に積極的ではなかった。	映像による情報提供や問題解決のために必要な対応が不十分で、表現や技法の実験が適切に行えていなかった。	映像による情報提供や問題解決ができなかった。																								

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング: AEA223040)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス～シラバスの説明 映像の学び方 映像史の見方	シラバスを一読しておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
2	「サイレントピクチャー」 完成形とは何か?	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
3	「トニキソグピクチャー」 新旧技術の対比 総合芸術としての映像	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
4	「SFX(特殊効果撮影)の誕生」 カメラ技術によるトリック映像撮影	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
5	「VFX(特殊効果撮影)の効果」 リアルから誇張表現	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
6	「アニメーションの進化」 作画+合成による進化	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
7	「サウンド表現」 音響作家の仕事	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
8	「感情操作」 観客の喜怒哀楽を操作する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
9	「シナリオ、演出、撮影」 著名な監督の演出方法を分析する	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
10	ストーリーボード(絵コンテ) 用紙の使い方	次週の授業内容を確認し、自身の志向や考えを持っておくこと(45分)	レポート作成 資料の再確認(45分)
11	映像の設計 ストーリーボードの作成	前週に配布された用紙の複製をおこなっておくこと(45分)	構想-ラフ作成(45分)
12	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと(45分)
13	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと(45分)
14	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと(45分)
15	映像の設計 ストーリーボードの作成	作業進捗の確認と調整。資料映像の再確認(45分)	期間内に課題提出可能なスケジュール設定で、時間外制作を行うこと(45分)
16	映像の設計 ストーリーボードの講評	完成したストーリーボードの自己評価(45分)	ストーリーボードの映像化をシミュレーションする(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング: AEA223041)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験に基づいて映像制作の基礎から応用までを指導する。		

概要

履修目標	デザインやアートのコンテンツとして映像を捉え、その基本的な撮影・編集技術を学び、制作工程に携わることで、その表現の可能性を知ることができる。
------	--

授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)、(2)」、「2(2)」に対応する。
---------	----------------------------------

到達目標	映像制作の過程を通じて、作品の完成度を高めるために必要な要素は何か? に気付かせ、それを実践できる。 映像メディアの必要性、映像ならではの表現を用いることができる。
------	---

授業全体の内容と概要	映像表現 の内容を踏まえ、映像の制作工程とチームワークについて学ぶ。同時に、映像制作のアプリケーションとしてAfterEffectsの操作講習を行い、履修者全員に必要最低限の技術を身に付けさせる。
------------	--

授業の方法	映像表現 で用いたPowerPointと提出されたストーリーボードを用いて、知識の再確認を行う。 その後実技として、作品制作のためのグループを編成し、役割分担を行い、映像制作の工程に沿ったスケジュールを作成し作品の制作を進行する。 毎週、グループ毎に進行確認のミーティングやディスカッションを行い、その報告はメールにて提出する。 ロケハンやロケのための現地調査・取材は時間外でも良しとする。 これと並行して、前半の3週を目標にAfterEffectsの操作講習を行う。 質問には随時対応し、技術的な指導も随時行う。 制作完了後は上映会にてプレゼンテーションし、意見交換を行わせて後に全体講評を行う。
-------	---

アクティブラーニングの実施方法						
○	プレゼンテーション	○	グループワーク	○	フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習	反転授業
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	映像制作の実技になるので、全授業を通してチームワークとなる。もちろん、完成作品についての評価はチーム毎になるので、役割分担の際には公平な仕事量を心掛けることが重要。
----------	--

資格指定科目	教職課程(美術)必修科目
--------	--------------

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	20%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能 「映像の撮影・編集に関する基本的な技術を身に付けている」	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が十分に修得できており、制作時に効果的な応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得できており、制作時に応用作業が行えた。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術は修得できているが、制作時に応用するまでには至らなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が不完全であり、制作時に用いることができなかった。	映像の撮影・編集に於ける基本的な技術が修得できなかった。
思考力・判断力・表現力 「映像制作において、グループ内の役割について、その必然性を理解し、自らに与えられた役割を果たすことができる」	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を活用することができた。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解し、十分な知識と技術を活用するよう努力した。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解していたが、知識と技術の活用は十分ではなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を正しく理解できず、知識と技術の活用がなかった。	作品制作に於いて、自らの役割を果たすことができず、携わることができなかった。
主体性・多様性・協働性 「グループ制作作業における全工程を把握し、その中で与えられた工程に積極的に意見交換をしながら、作品の質を高めるよう心掛けることができる」	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルを超えて活動していた。	制作グループ内で、積極的に作業に取り組み、協働性に於いては求められるレベルに達していた。	制作グループ内で、与えられた作業には取り組んでいたが、積極性や協働性に於いては求められるレベルには達していなかった。	制作グループ内で、作業への取り組みが消極的であり、協働性については極めて限定的であった。	制作グループ内で、全ての作業に対し取り組みが不十分であり、責任感に乏しかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	映像表現 (科目ナンバリング: AEA223041)				
授業担当者(所属・職名)	北嶋 洋一 (デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館5階		
単位数	2 (単位認定責任者: 北嶋 洋一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	映像制作の実務経験と研究実績のある教員が、その経験を基にして映像制作の基礎から応用までを指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス～シラバスの説明 「ストーリーメイク」「リアリズム、オポチュニズム、デウス・エクス・マキナ」など	シラバスを一読しておくこと(45分)	グループ設定について代表者を取り纏め、次週の授業開始時までに提出(45分)
2	After Effects の操作講習 「入力-出力」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
3	After Effects の操作講習 「編集」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
4	After Effects の操作講習 「エフェクト」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
5	After Effects の操作講習 「試作」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
6	After Effects の操作講習 「試作」	授業用素材のダウンロードと確認(45分)	授業内容の反復(45分)
7	映像制作(180sec-) テーマ - コンセプト	グループ内での役割分担と仕事内容について、明確にしておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
8	映像制作(180sec-) シナリオ - 設計	映像表現 の授業内容を再確認すること(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
9	映像制作(180sec-) 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
10	映像制作(180sec-) 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
11	映像制作(180sec-) 素材制作	撮影など素材収集は事前に終わらせておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
12	映像制作(180sec-) 編集	設計図の再確認と修正(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
13	映像制作(180sec-) 編集	設計図の再確認と修正(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
14	映像制作(180sec-) 編集	設計図の再確認と修正(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
15	映像制作(180sec-)	微調整や修正のためのミーティングをしておくこと(45分)	期間内に提出が可能なように時間外の作業ボリュームを考える(45分)
16	映像制作(180sec-) 発表	プレゼン用のコンセプトシートを纏めておくこと(45分)	他のグループへの意見や感想を纏めて、既定の日時までに提出する(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング: DES223044)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

概要

履修目標	学生がコンピュータを用いたWebデザインの基礎の学び、表現手法を修得する。																								
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)」、「(3)」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	Webプログラミングの基礎とコンテンツデザインの手法をマスターし、実際のコンテンツ制作の基礎、応用まで可能なスキルを修得することができる。																								
授業全体の内容と概要	コンセプト設定、情報の構造化、ページデザイン、インターフェース、画像処理手法等の講義とHTML、CSSのコーディングを学び、その成果を作品として制作し発表する。																								
授業の方法	授業では、テキスト及び配布したプリントの内容をプロジェクターにより投影し解説する。各項目ごとの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	コンピュータを利用するため、遅刻・欠席すると次の授業の理解が難しくなるので注意すること。 「デジタルデザイン」の知識が必要なので履修済みであること。 WEBデザイナー検定(CG-ARTS)の受験を推奨する。																								
資格指定科目																									

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	50%	20%	30%	0%

ルーブリック	評価基準					
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	
インターネットやWebデザインに関する知識の理解	学習した内容から範囲を広げて、自ら学び、理解を深めていた。	学習した内容を理解していた。	学習した内容を概ね理解していた。	学習した内容を最低限理解していた。	学習した内容を理解していなかった。	
Webコーディングの理解	HTML5やCSS3を理解し、自ら更に理解を深めていた。	HTML5やCSS3を理解していた。	HTML5やCSS3をお概ね理解していた。	HTML5やCSS3を最低限理解していた。	HTML5やCSS3の理解できていなかった。	
Webサイトの制作	学んだ知識、技術を更に深めて、Webサイトを制作することができた。	Webサイトを制作することができた。	Webサイトを概ね制作することができた。	Webサイトを最低限制作することができた。	Webサイトを制作することができなかった。	

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『入門デザイン 改訂第三版』	画像情報教育振興協会		2020	9784903474526	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング: DES223044)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション -シラバスの説明, コンテンツデザインとは	シラバスを読み、コンテンツの意味を調べておくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
2	インターネットとWeb	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
3	Webサイトのしくみ	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
4	情報の構造化とアクセラート, 画面構成	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
5	Webページを実現する技術の基礎 (HTMLの基本構成)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
6	Webページを実現する技術の基礎 (画像表示、リンク処理)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
7	Webページを実現する技術の基礎 (表組処理)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
8	Webページを実現する技術の基礎 (文字の装飾)	プリントを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
9	コンセプトメイキング	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
10	レイアウトデザイン	テキストの該当部分読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
11	オリジナルWeb制作 1	レイアウトのラフを完成させること(90分)	Web制作(90分)
12	オリジナルWeb制作 2	Web制作(90分)	Web制作(90分)
13	オリジナルWeb制作 3	Web制作(90分)	Web制作(90分)
14	オリジナルWeb制作 4	Web制作(90分)	Web制作(90分)
15	プレゼンテーション	プレゼン用レジユメの準備をすること(90分)	フィードバックするので、自己評価をすること(90分)
16	作品講評	全授業の振り返りを行う(90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング: DES223045)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。		

概要

履修目標	コンピュータプログラムを用いメディアアート制作の基礎の学び、表現手法を修得する。							
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)」、「(3)」、「2(2)」に対応する。							
到達目標	メディアアート作品を制作するための基礎技術を修得することができる。							
授業全体の内容と概要	メディアアートの現状を紹介し、実施にプログラム(Processing)を学び、各自のメディアアート作品を制作する。							
授業の方法	授業では、各ステップの課題に対してそれぞれが解決しながら学習する。提出された課題のプレゼンテーションを行い、評価をフィードバックする。							
アクティブラーニングの実施方法	○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
履修上の注意事項	コンテンツデザインを履修済みであること。 遅刻・欠席すると次の授業の理解が厳しくなるので注意すること。							
資格指定科目								

評価方法・基準

評価前提条件	単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	50%	20%	30%	0%

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
プログラムのコーディングの理解	学んだコーディングを理解し、自ら学習して、更に理解の向上に努めていた。	学んだコーディングを理解していた。	学んだコーディングを概ね理解していた。	学んだコーディングを最低限理解していた。	学んだコーディングを理解できなかった。
プログラムの操作スキル	学習したプログラムを適切に使うことができ、応用できた。	学習したプログラムを使うことができた。	学習したプログラムを概ね使うことができた。	学習したプログラムを最低限使うことができた。	学習したプログラム使うことができなかった。
メディアアート作品の制作	オリジナルのメディアアート作品を制作することができた。	学習した内容を応用してメディアアート作品を制作することができた。	学習した内容の知識でメディアアート作品を制作することができた。	非常に簡単なメディアアート作品を制作することができた。	メディアアート作品を制作することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『「Processingをはじめよう 第2版」』	Casey Reas, Ben Fry	オライリー・ジャパン	2016	9784873117737	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	コンテンツデザイン (科目ナンバリング: DES223045)				
授業担当者(所属・職名)	上坂 恒章(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 上坂 恒章)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 企業におけるコンピュータスキルの実務経験を活かし、実践的な授業に取り組む。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明 メディアアートとは	シラバスを読んでおくこと。メディアアートについて調べておくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
2	Processingの基礎	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
3	計算と変数について	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
4	繰り返しとランダムについて	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
5	条件分岐命令について	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
6	データの読み込みと画像の取り扱い	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
7	変換について	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
8	閉関数について	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
9	アニメーション	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
10	配列	指定部分のテキストを予習すること(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
11	オリジナルメディアアート作品の制作 1	作品の構想を完成させること(90分)	メディアアート作品の制作(90分)
12	オリジナルメディアアート作品の制作 2	メディアアート作品の制作(90分)	メディアアート作品の制作(90分)
13	オリジナルメディアアート作品の制作 3	メディアアート作品の制作(90分)	メディアアート作品の制作(90分)
14	オリジナルメディアアート作品の制作 4	メディアアート作品の制作(90分)	メディアアート作品の制作(90分)
15	プレゼンテーション	プレゼン用レジユメの準備をすること(90分)	フィードバックするので、自己評価をすること(90分)
16	作品講評	全授業の振り返りを行う(90分)	作品講評の内容を振り返り自己評価を行う(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 (科目ナンバリング: DES222049)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての表現である、各自が実測した椅子のCADを用いた作図を通してより実用的な製図の基本を学び平行投象と透視投象による立体表現することができる。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)、(2)、(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
学生が、製図機やアプリケーション・ソフトを使い基本的な製図表現が正確にできる。

授業全体の内容と概要
美術、デザインにおける基本的素養としての表現を習得するために、各自が実測した椅子のCADを用いた作図を通してより有用となる製図の基本を学び平行投象と透視投象による立体表現を理解する。進度に応じて漸次、課題を更新しながら進めてゆく。

授業の方法
板書と配付資料で授業を実施し、講義形式で授業をすすめ各回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、各自が毎回の手書き、または、アプリケーションソフトを用いて課題を制作する。図的なプレゼンテーションとして各課題を制作する。実験・実習・実技として各自が制作した課題の確認・評価を双方向授業としておこなう。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
自筆ノート、各自が制作し課題、および用具等を持ってくること。出席を取り終わったあとは欠席とする。デザイン製図の単位を修得していること。

資格指定科目
教職課程(工芸)選択科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>60%</td> <td>0%</td> <td>40%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	60%	0%	40%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	60%	0%	40%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>製図の基本となる図表現について十分に理解し表現できる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>テクニカル・ドローイングの意味合いも含めた製図表現について十分に理解し表現できる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td>各自が意図したものをアプリケーション・ソフトを用いた表現を含めて製図表現することができる。</td> <td>十分に目標に達成していた。</td> <td>概ね出来ていた。</td> <td>不十分ではあるが出来ていた。</td> <td>最低限出来ていた。</td> <td>全く出来ていなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	製図の基本となる図表現について十分に理解し表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	テクニカル・ドローイングの意味合いも含めた製図表現について十分に理解し表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。	各自が意図したものをアプリケーション・ソフトを用いた表現を含めて製図表現することができる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
製図の基本となる図表現について十分に理解し表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				
テクニカル・ドローイングの意味合いも含めた製図表現について十分に理解し表現できる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				
各自が意図したものをアプリケーション・ソフトを用いた表現を含めて製図表現することができる。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	デザイン製図 (科目ナンバリング: DES222049)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, デザイン製図, CADの概要, シラバスの説明	シラバスの確認(90分)	デザイン製図, CADの概要 (90分)
2	CADを用いた椅子の上面図	CADを用いた椅子の上面図(90分)	CADを用いた椅子の上面図(90分)
3	CADを用いた椅子の側面図	CADを用いた椅子の側面図(90分)	CADを用いた椅子の側面図(90分)
4	CADを用いた椅子の断面図	CADを用いた椅子の断面図(90分)	CADを用いた椅子の断面図(90分)
5	アイソメトリック図の練習課題	CADを用いた椅子の三面図(90分)	CADを用いた椅子の三面図(90分)
6	椅子のアイソメトリック図の下書き	CADを用いた椅子の三面図(90分)	CADを用いた椅子の三面図(90分)
7	椅子のアイソメトリック図の作図	椅子のアイソメトリック図の下書き(90分)	椅子のアイソメトリック図の下書き(90分)
8	CADを用いた椅子のモデリング	CADを用いた椅子の三面図(90分)	CADを用いた椅子の三面図(90分)
9	等角図の練習課題	CADを用いた椅子の三面図(90分)	等角図の練習(90分)
10	椅子の等角図の下書き	椅子の正面図, 上面図, 断面図の確認(90分)	椅子の正面図, 上面図, 断面図の確認(90分)
11	椅子の等角図の作図	椅子の正面図, 上面図, 断面図の確認(90分)	椅子の等角図の作図(90分)
12	三面図法による立体図の練習問題	三面図法による立体図の練習問題(90分)	三面図法による立体図の練習問題(90分)
13	三面図法による椅子の立体図の解説	三面図法による立体図の練習問題(90分)	三面図法による椅子の立体図(90分)
14	三面図法による椅子の立体図の下書き	三面図法による椅子の立体図(90分)	三面図法による椅子の立体図の下書き(90分)
15	三平面法による椅子の立体図の作図	三平面法による椅子の立体図の作図(90分)	三平面法による椅子の立体図の作図(90分)
16	講評 課題返却	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価を受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング: AEA223054)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

概要

履修目標
<p>洋画の技法として、油彩やエッグテンペラのみにとどまらず、この授業では他のテンペラや水彩などについても学修する。さらに支持体についてもより高度なもの製作方法を身につける。それぞれの技法や材料及び支持体製作についての知識や技術を身につけることにより、各々の履修生の感性や個性をより一層的確に表現することを目標とする。</p>

授業の位置づけ
<p>デザイン学科のDP1(3)、2(2)に対応する。</p>

到達目標
<p>油彩やエッグテンペラ、その他のテンペラ、水彩等の技法、それらの用材の特徴や使用法と管理の仕方などに習熟すること。また、新たな支持体づくりについても関心を高めること。そして各々の履修生が絵画制作をとおして自らを見つめる態度を養成することを目標とする。</p>

授業全体の内容と概要
<p>油彩やエッグテンペラとそれ以外の様々な技法や材料、新たな支持体について学修し、個々の履修者の判断で、表現の意図に照らし最も相応しい技法や絵具や展色剤などを用意し、それらの特徴を活かした制作を行えるようにする。また、客観的評価を得て自らの表現力を検証する意味で公募展にも挑む。</p>

授業の方法
<p>自らが選択した技法で自己表現する実技形式の授業で、自らが主体的に設定したテーマに則り表現した作品を創り上げることを課題とする。実習や視聴覚機器を活用するだけでなく、美術館や公募展の作品鑑賞等にも積極的に取り組む。授業担当者や他の履修生のみならず外部の人々からも批評や助言を得られるように環境を整え、より確かな自己実現に寄与させようとするものである。</p>

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模範授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
<p>この授業を履修するに当たっては、間もなく卒業し社会に出ることを前提として、以後美術をとおして何ができるかを模索するものであることを十分に認識したうえで履修すること。</p>

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
<p>単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。</p>												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>70%</td> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	70%	0%	30%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	70%	0%	30%	0%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支持体について</td> <td>様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解し製作することができた。</td> <td>様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し製作することができた。</td> <td>様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をほぼ理解し製作することができた。</td> <td>様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をある程度理解し製作することができた。</td> <td>様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解することなくし、制作にそれを製作することができなかった。</td> </tr> <tr> <td>彩色材料について</td> <td>様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解し、制作にそれを十分に活かすことができた。</td> <td>様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、制作にそれを活かすことができた。</td> <td>様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をほぼ活かすことができた。</td> <td>様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をある程度活かすことができた。</td> <td>様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解することなくし、制作にそれを活かすことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>描写について</td> <td>モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を十分に取り入れられた。</td> <td>モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられた。</td> <td>モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ取り入れられた。</td> <td>モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度取り入れられた。</td> <td>モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられなかった。</td> </tr> <tr> <td>自らについて</td> <td>自らの感性や個性について十分に意識した制作を行えた。</td> <td>自らの感性や個性について意識した制作を行えた。</td> <td>自らの感性や個性についてほぼ意識した制作を行えた。</td> <td>自らの感性や個性についてある程度意識した制作を行えた。</td> <td>自らの感性や個性について意識した制作を行えなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	支持体について	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をほぼ理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をある程度理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解することなくし、制作にそれを製作することができなかった。	彩色材料について	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解し、制作にそれを十分に活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、制作にそれを活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をほぼ活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をある程度活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解することなくし、制作にそれを活かすことができなかった。	描写について	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を十分に取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられなかった。	自らについて	自らの感性や個性について十分に意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてほぼ意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてある程度意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
支持体について	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をほぼ理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴をある程度理解し製作することができた。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解することなくし、制作にそれを製作することができなかった。																														
彩色材料について	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解し、制作にそれを十分に活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、制作にそれを活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をほぼ活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴をある程度活かすことができた。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解することなくし、制作にそれを活かすことができなかった。																														
描写について	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を十分に取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度取り入れられた。	モチーフの面やパルルールをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を取り入れられなかった。																														
自らについて	自らの感性や個性について十分に意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてほぼ意識した制作を行えた。	自らの感性や個性についてある程度意識した制作を行えた。	自らの感性や個性について意識した制作を行えなかった。																														

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング: AEA223054)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	60年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスを参照した本講の目的や進め方についての説明	テーマやモチーフについての構想をまとめる。(45分)	
2	「自然と人」をテーマとした作品創りについて		構想を具体的に下絵として取りまとめる。(45分)
3	支持体製作 - 材料の裁断 (サイズは15号)	表現するに当たり必要とする資料等の収集を始める。(45分)	
4	支持体製作 - 材料の組み立て		必要とする資料等の収集を取りまとめる。(45分)
5	支持体製作 - 布や紙などの貼り方	新作創りを行うに当たり必要とする用材を準備しておく。(45分)	
6	支持体製作 - 白垂とカゼイン、二水石膏と膠などの地塗り作業		下描きを点検し不十分な場合加筆修正を行っておく。(45分)
7	下絵の支持体への転写方法及び転写作業	これまでの創作を省みて長短それぞれについて改めて整理する。(45分)	
8	下描き材料と下描き作業		本日の制作を省みて次回の制作について計画を立てる。(45分)
9	下描きの完成	制作が遅れている場合自ら制作を進めておく。(45分)	
10	混合技法又は他の技法による本制作A		本日の制作を省みて加筆修正を行う。(45分)
11	本制作B	完成に時間を要する場合自ら制作を進めておく。(45分)	
12	本制作C		本日の制作を省みて加筆修正を行う。(45分)
13	本制作D	採用した技法や材料が適当かを吟味する。(45分)	
14	本制作E		本日の制作を省みて加筆修正を行う。(45分)
15	本制作F	遅れている点や改めるべき点を冷静に見極める。(45分)	
16	本制作G		遅れている点や改めるべき点をさらに加筆修正する。(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	本制作H	中間発表を前に自らの表現の意図が伝達されるかを確認する。(45分)	
18	本制作I		中間発表会で寄せられた他者の意見や助言について取りまとめる。(45分)
19	中間発表会	中間発表会で得られた情報をさらに吟味し制作に反映させる。(45分)	
20	本制作J		本日の制作について省みて加筆修正を行う。(45分)
21	本制作K	完成度を高めるための描き込みを行う。(45分)	
22	本制作L		表現の意図が十分に表れているか見極めて制作する。(45分)
23	本制作M	他者の助言も仰ぎながら完成度を高める。(45分)	
24	本制作N		細部について加筆修正を行う。(45分)
25	本制作O	細部についてさらに加筆修正を行う。(45分)	
26	本制作P		全体を見渡して、部分と全体とのバランスや調和について点検する。(45分)
27	本制作Q	さらに全体を見渡して、部分と全体とのバランスや調和について点検する。(45分)	
28	本制作R		他者からの助言等も得ながら最終的な制作を行う。(45分)
29	本制作S	自らの表現の意図が作品に反映しているか検討を行う。(45分)	
30	本制作T		仕上げに向けた制作に取り組む。(45分)
31	合評A	これまでの制作活動を振り返り良い点や足りない点等について検討する。(45分)	
32	合評B		合評会での他者の意見や助言を参考に今後の制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング: AEA223055)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

概要

履修目標
油彩やエッグテンペラだけでなく、その他のものについてもより深く学修し、支持体についても様々な処方を試みる。また、絵画制作をとおし自らをより深く探求するとともに社会とのかかわりについても考察を深化させることを目標とする。技法材料・研究と重複する部分が多いが、繰り返すことによりより確かなものを獲得できるようにする。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
油彩やエッグテンペラ、その他のテンペラ、水彩等の技法等から、自らの表現の意図に最も相応しい技法を採用し、作品を通して個性豊かに自己実現につなげることができる。

授業全体の内容と概要
自ら採用した技法と材料とを駆使し、自らが設定したテーマに沿って制作を行う。客観的評価を得て自らの表現力を検証する意味で公募展等にも挑むが、発表の場や形式についても自らの作風や大きさに合わせて選択する。

授業の方法
様々な技法材料について学修するのだけではなく、主体的に自らが選択した技法や材料に重点を置き、自己表現する実技形式の授業である。それぞれの個性や哲学に相応しいテーマを設定し表現した作品を創り上げることを課題とするものである。授業での視聴覚機器を活用した情報提供はもとより、履修生自らが美術館や公募展等で得た情報等を作品や人間形成に寄与させるものである。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
この授業を履修するに当たっては、間もなく卒業し社会に出ることを前提として、以後美術を通して何ができるかを引き続き模索するものでもあることを十分に認識したうえで履修すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
支持体について	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴に習熟し、それらを自らの表現に効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現に効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にほぼ効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にある程度効果的に活かした。	様々の基底材や地塗り材のそれぞれの特徴を十分に理解してあらず、自らの表現に効果的に活かせなかった。
彩色材料について	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴に習熟し、それらを自らの表現に効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分理解し、それらを自らの表現に効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にほぼ効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を理解し、それらを自らの表現にある程度効果的に活かした。	様々の顔料や展色剤などのそれぞれの特徴を十分に理解してあらず、自らの表現に効果的に活かせなかった。
描写について	モチーフの面やパルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をより確かに、より効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法を確かに、効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をほぼ確かに、ほぼ効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法をある程度確かに、ある程度効果的に取り入れられた。	モチーフの面やパルルをとらえる際に、ハッチングや点描などの技法が不十分なもので、効果的に取り入れられなかった。
自らについて	自らの感性や個性をより深く認識し、社会とのかかわり方についてもより確かな見識を見出した。	自らの感性や個性を認識し、社会とのかかわり方についての見識も見出した。	自らの感性や個性をほぼ認識し、社会とのかかわり方についてもほぼ確かな見識を見出した。	自らの感性や個性をある程度認識し、社会とのかかわり方についてもある程度の見識を見出した。	自らの感性や個性を認識しあらず、社会とのかかわり方についても見識を見出しえなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	技法・材料研究 (科目ナンバリング: AEA223055)				
授業担当者(所属・職名)	安田 祐造(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	2号館1階		
単位数	2 (単位認定責任者: 安田 祐造)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	50年近く画業に専念するなかで経験した課題を具体的に解説しながら指導に当たる。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスを参照した本講の目的や進め方についての説明	出品予定の場所や形式について検討をしておく。(45分)	
2	様々な技法や材料についての復習		新作のテーマやモチーフについての構想を練る。(45分)
3	支持体製作 - 材料の裁断 (サイズは任意)	テーマやモチーフについての構想をまとめる。(45分)	
4	支持体製作 - 材料の組み立て		構想を具体的に下絵として取りまとめる。(45分)
5	支持体製作 - 布貼り(他に選択肢あり)	表現するに当たり必要とする資料等の収集を始める。(45分)	
6	支持体製作 - 地塗り作業(材料に選択肢あり)		必要とする資料等の収集を取りまとめる。(45分)
7	下絵の支持体への転写方法及び転写作業	新作創りを行うに当たり必要とする用材を準備しておく。(45分)	
8	下描き材料と下描き作業		下描きを点検し不十分な場合加筆修正を行っておく。(45分)
9	下描きの完成	これまでの制作を省みて長短それぞれについて改めて整理する。(45分)	
10	履修者が選択した技法や材料による本制作A		本日の制作を省みて次回の制作について計画を立てる。(45分)
11	本制作B	制作が遅れている場合自ら制作を進めておく。(45分)	
12	本制作C		本日の制作を省みて加筆修正を行う。(45分)
13	本制作D	完成に時間を要する場合自ら制作を進めておく。(45分)	
14	本制作E		本日の制作を省みて加筆修正を行う。(45分)
15	本制作F	採用した技法や材料が適当かを吟味する。(45分)	
16	本制作G		本日の制作を省みて加筆修正を行う。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	本制作H	遅れている点や改めるべき点を冷静に見極める。(45分)	
18	本制作I		遅れている点や改めるべき点をさらに加筆修正する。(45分)
19	本制作J	中間発表を前に自らの表現の意図が伝達されるかを確認する。(45分)	
20	本制作K		中間発表会で寄せられた他者の意見や助言について取りまとめる。(45分)
21	本制作L	中間発表会で得られた情報をさらに吟味し制作に反映させる。(45分)	
22	本制作B		本日の制作について省みて加筆修正を行う。(45分)
23	本制作M	作品締め切りが近いいため完成度を高めるための描き込みを行う。(45分)	
24	本制作N		表現の意図が充分に表れているか見極めて制作する。(45分)
25	本制作O	他者の助言も仰ぎながら完成度を高める。(45分)	
26	本制作P		細部について加筆修正を行う。(45分)
27	本制作Q	細部についてさらに加筆修正を行う。(45分)	
28	本制作R		全体を見渡して、部分と全体とのバランスや調和について点検する。(45分)
29	本制作S	全体を見渡して、部分と全体とのバランスや調和について点検する。(45分)	
30	本制作T		仕上げに向けた制作に取り組む。(45分)
31	合評A	これまでの制作活動を振り返り良い点や足りない点等について検討する。(45分)	
32	合評B		合評会での他者の意見や助言を参考に今後の制作の仕方について検討する。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA222062)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践的な指導を行う。		

概要

履修目標	彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作することができる。
------	---------------------------------------

授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。
---------	------------------------------

到達目標	彫刻の特性を理解して作品を制作することができる。
------	--------------------------

授業全体の内容と概要	彫刻では、具象表現(塑像)、レリーフ(塑像・石膏型取り)、抽象表現(石材)の3課題を通じて、実践的に彫刻の表現力を磨く。また、実践を通じて彫刻とは何かを探究する。制作した作品はポスター(プレゼンテーションボード)にまとめて提出する。
------------	--

授業の方法	スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポスターを作成し提出する。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										

履修上の注意事項	制作した作品は撮影して保存し、最終的にはポスターにまとめて提出すること。
----------	--------------------------------------

資格指定科目	教職課程(美術・工芸)必修科目
--------	-----------------

評価方法・基準

評価前提条件	20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポスターが提出されない場合は評価の対象としない。評価は作品点(40%)、ポスター点(30%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を活用しようとしていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し美しくデザインされたポスターを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポスターを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を全て収めたポスターを作成した。	制作した作品を収めたポスターを作成した。	制作した作品を収めずポスターを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書	<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																										
1																																																
2																																																
3																																																
4																																																
5																																																

参考文献・資料等	<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>『彫刻とは何かー特質と限界ー』</td> <td>ハーバート・リード、宇佐美英治訳</td> <td>日留出版社</td> <td>1980</td> <td>071179296135</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『彫刻とは何かー特質と限界ー』	ハーバート・リード、宇佐美英治訳	日留出版社	1980	071179296135		2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																										
1	『彫刻とは何かー特質と限界ー』	ハーバート・リード、宇佐美英治訳	日留出版社	1980	071179296135																																											
2																																																
3																																																
4																																																
5																																																

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA222062)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 彫刻家として国内外で活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践的な指導を行う。			

授業計画

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	
2	彫刻とは何か		ポスター作成(45分)
3	動物彫刻 ドローイング	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	
4	動物彫刻 ドローイング		ポスター作成(45分)
5	動物彫刻 芯作り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	
6	動物彫刻 芯作り		ポスター作成(45分)
7	動物彫刻(塑像)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
8	動物彫刻(塑像)		ポスター作成(45分)
9	動物彫刻(塑像)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
10	動物彫刻(塑像)		ポスター作成(45分)
11	動物彫刻(塑像) (仕上げ)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
12	動物彫刻(塑像) (仕上げ)		ポスター作成(45分)
13	レリーフ制作(塑像) ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
14	レリーフ制作(塑像) ドローイング		ポスター作成(45分)
15	レリーフ制作(塑像)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
16	レリーフ制作(塑像)		ポスター作成(45分)

回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	レリーフ(塑像)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
18	レリーフ(塑像)		ポスター作成(45分)
19	レリーフ(石膏型取り)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
20	レリーフ(石膏型取り)		ポスター作成(45分)
21	「心」石彫 ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
22	「心」石彫 ドローイング		ポスター作成(45分)
23	「心」石彫	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
24	「心」石彫		ポスター作成(45分)
25	「心」石彫	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
26	「心」石彫		ポスター作成(45分)
27	「心」石彫	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
28	「心」石彫		ポスター作成(45分)
29	「心」石彫 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
30	「心」石彫 仕上げ		ポスター作成(45分)
31	ポスターセッション 講評	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	
32	ポスターセッション 講評	講評を再考し、理解を深めること(45分)	

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA222063)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践的な指導を行う。		

概要

履修目標	彫刻の特性を活かして、構造的にも安定した美しい作品を制作することができる。
------	---------------------------------------

授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。
---------	------------------------------

到達目標	彫刻の特性を理解して作品を制作することができる。
------	--------------------------

授業全体の内容と概要	彫刻では、木彫(具種表現)、ソフトスカルプチャー(現代表現)の2課題を通して、実践的に彫刻の表現力を磨く。また、実践を通じて彫刻とは何かを探究する。制作した作品はポスター(プレゼンテーションボード)にまとめて提出する。
------------	---

授業の方法	スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポスターを作成し提出する。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	制作した作品は撮影して保存し、最終的にはポスターにまとめて提出すること。
----------	--------------------------------------

資格指定科目	教職課程(美術・工芸)必修科目
--------	-----------------

評価方法・基準

評価前提条件					
20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポスターが提出されない場合は評価の対象としない。評価は作品点(40%)、ポスター点(30%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
彫刻の基本的な特性の理解(知識・理解)	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、上手く活用しており、美しかった。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を理解し、活用していた。	作品が自立し、構造的にも安定している。また、彫刻の特性を活用しようとしていた。	作品が自立し、構造的にも安定していた。	作品が自立せず、彫刻として成立していなかった。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し美しくデザインされたポスターを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポスターを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を収めたポスターを作成した。	制作した作品を収めたポスターを作成した。	制作した作品を収めずポスターを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協働性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『彫刻とは何かー特質と限界ー』	ハーバート・リード、宇佐美英治訳	日留出版社	1980	071179296135	
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA222063)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	彫刻家として国内外で活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践的な指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション シラバスの説明、課題について	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	
2	彫刻を考える		ポスター作成(45分)
3	木彫「りんご」ドローイング 壁研究	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	
4	木彫「りんご」ドローイング 壁研究		ポスター作成(45分)
5	木彫「りんご」 荒彫り	課題に関連するドローイング等を描いてくる事(45分)	
6	木彫「りんご」		ポスター作成(45分)
7	木彫「りんご」 荒彫り	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
8	木彫「りんご」 荒彫り		ポスター作成(45分)
9	木彫「りんご」 彫り	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
10	木彫「りんご」 彫り		ポスター作成(45分)
11	木彫「りんご」 彫り	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
12	木彫「りんご」 彫り		ポスター作成(45分)
13	木彫「りんご」 彫り	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
14	木彫「りんご」 彫り		ポートフォリオ作成(45分)
15	木彫「りんご」 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
16	木彫「りんご」 仕上げ		ポートフォリオ作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	ソフトスケルプチャー(現代表現) ドローイング	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
18	「ソフトスケルプチャー(現代表現) ドローイング		ポートフォリオ作成(45分)
19	ソフトスケルプチャー(現代表現)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
20	ソフトスケルプチャー(現代表現)		ポートフォリオ作成(45分)
21	ソフトスケルプチャー(現代表現)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
22	ソフトスケルプチャー(現代表現)		ポートフォリオ作成(45分)
23	ソフトスケルプチャー(現代表現)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
24	ソフトスケルプチャー(現代表現)		ポートフォリオ作成(45分)
25	ソフトスケルプチャー(現代表現)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
26	ソフトスケルプチャー(現代表現)		ポートフォリオ作成(45分)
27	ソフトスケルプチャー(現代表現)	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
28	ソフトスケルプチャー(現代表現)		ポートフォリオ作成(45分)
29	ソフトスケルプチャー(現代表現) 仕上げ	課題に関連するドローイングを描いてくる事(45分)	
30	ソフトスケルプチャー(現代表現) 仕上げ		ポートフォリオ作成(45分)
31	ポスターセッション	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	
32	ポスターセッション		講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (1) (科目ナンバリング: AEA223068)				
授業担当者(所属・職名)	星 信彦(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 星 信彦)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	ガラス工芸家としての活動	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力・デザインの指導を行う。		

概要

履修目標
課題に対し、適正な発想展開しデザインする事、安全で効率良い制作作業、作品の説明までを一作品制作として行う。それぞれのプロセスの質を高めるよう努める。また素材知識を身につける事と段取りをして効率の良い進め方をする。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(2)と(3)」、「2(2)と(3)」に対応する。

到達目標
ガラスの素材知識を得る事とガラス工芸の手法を理解する。作品を具現化する為の発想展開が出来る。安全確保し、効率よく作業が行える。作品を明確に説明できる。

授業全体の内容と概要
素材特性を理解するよう、作業と素材感の異なる2つの技法を行う。さらにデザインから完成まで要所を押さえて制作する事を目標に、パート・ド・ヴェールで作品制作する。パート・ド・ヴェールでは原型・型取りを行い、ガラスを型に流し小皿、オブジェ等を製作する。高温のガラス特性を理解する為にパーナーワークの実技をする。パーナーワークではガラス棒を溶かしとんぼ玉等を製作。

授業の方法
パート・ド・ヴェールは粘土原型を制作し、耐火石膏で型取りした後ガラスカレットを詰め焼成する。作業日数を考え、段取りをしながら進める。パーナーワークは交代で作業する。講師による作業のチェックは適宜行う。

アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															

履修上の注意事項
安全を確保し、怪我に十分注意し作業する事。作業要所のメモを取る事。成績を主に作品で評価するため、必ず作品提出する事。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
出席数20回以上及び作品提出にて評価する。発想・作業・完成度・作品説明を考慮して評価。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>90%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	0%	90%	0%	0%	10%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	0%	90%	0%	0%	10%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発想力及びデザイン展開</td> <td>テーマに対し、ユニークな発想、デザイン展開がスムーズに行えた。</td> <td>テーマに対し、発想の独自性、デザイン展開の整合性が取れている。</td> <td>修正を行い制作可能なデザインができた。</td> <td>スケジュール内にデザインが決められた。</td> <td>発想が枯渇して、デザインが進まなかった。具現化出来る案がデザインできなかった。</td> </tr> <tr> <td>作品制作のプランニング及び理解</td> <td>作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。テーマに対し明快に答えた。</td> <td>作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。</td> <td>テーマに相応しい形態に仕上げられた。</td> <td>スケジュール内に作品が完成した。</td> <td>スケジュール内に作品が完成しなかった。</td> </tr> <tr> <td>技術の習得</td> <td>高温で溶けたガラスを難なく、余裕を持って扱えた。形を意図してコントロールできた。</td> <td>高温で溶けたガラスをそこそ安定して扱えた。形を成形できた。</td> <td>高温で溶けたガラスをなんとか扱うことができた。僅かに歪みある形に制作できた。</td> <td>高温で溶けたガラスの扱いではミスはありつつも堪えられた。歪んだ形ができた。</td> <td>高温で溶けたガラスを扱えなかった。要点を体現出来なかった。</td> </tr> <tr> <td>作品説明の表現</td> <td>作品説明を的確な言葉使用でできた。形と説明が合致していた。質問に明快に返答できた。</td> <td>テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。</td> <td>質問をやりとりして、テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。</td> <td>作品と制作意図に整合性が弱い。</td> <td>テーマに対応した説明ができなかった。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	発想力及びデザイン展開	テーマに対し、ユニークな発想、デザイン展開がスムーズに行えた。	テーマに対し、発想の独自性、デザイン展開の整合性が取れている。	修正を行い制作可能なデザインができた。	スケジュール内にデザインが決められた。	発想が枯渇して、デザインが進まなかった。具現化出来る案がデザインできなかった。	作品制作のプランニング及び理解	作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。テーマに対し明快に答えた。	作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。	テーマに相応しい形態に仕上げられた。	スケジュール内に作品が完成した。	スケジュール内に作品が完成しなかった。	技術の習得	高温で溶けたガラスを難なく、余裕を持って扱えた。形を意図してコントロールできた。	高温で溶けたガラスをそこそ安定して扱えた。形を成形できた。	高温で溶けたガラスをなんとか扱うことができた。僅かに歪みある形に制作できた。	高温で溶けたガラスの扱いではミスはありつつも堪えられた。歪んだ形ができた。	高温で溶けたガラスを扱えなかった。要点を体現出来なかった。	作品説明の表現	作品説明を的確な言葉使用でできた。形と説明が合致していた。質問に明快に返答できた。	テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	質問をやりとりして、テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	作品と制作意図に整合性が弱い。	テーマに対応した説明ができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
発想力及びデザイン展開	テーマに対し、ユニークな発想、デザイン展開がスムーズに行えた。	テーマに対し、発想の独自性、デザイン展開の整合性が取れている。	修正を行い制作可能なデザインができた。	スケジュール内にデザインが決められた。	発想が枯渇して、デザインが進まなかった。具現化出来る案がデザインできなかった。																														
作品制作のプランニング及び理解	作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。テーマに対し明快に答えた。	作業の目的と要点を把握し、効率良く作業出来た。	テーマに相応しい形態に仕上げられた。	スケジュール内に作品が完成した。	スケジュール内に作品が完成しなかった。																														
技術の習得	高温で溶けたガラスを難なく、余裕を持って扱えた。形を意図してコントロールできた。	高温で溶けたガラスをそこそ安定して扱えた。形を成形できた。	高温で溶けたガラスをなんとか扱うことができた。僅かに歪みある形に制作できた。	高温で溶けたガラスの扱いではミスはありつつも堪えられた。歪んだ形ができた。	高温で溶けたガラスを扱えなかった。要点を体現出来なかった。																														
作品説明の表現	作品説明を的確な言葉使用でできた。形と説明が合致していた。質問に明快に返答できた。	テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	質問をやりとりして、テーマ、コンセプトが理解出来る作品説明ができた。	作品と制作意図に整合性が弱い。	テーマに対応した説明ができなかった。																														

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (1) (科目ナンバリング: AEA223068)				
授業担当者(所属・職名)	星 信彦(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 星 信彦)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	ガラス工芸家としての活動	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	複数の技法を扱う制作活動経験を活かし、技法、発想力・デザインの指導を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・技法説明を行う。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	
2	[パート・ド・ヴェール] 小皿・アイデア		アイデアの素材収集する。(45分)
3	[パート・ド・ヴェール] 小皿・アイデア	アイデアの素材収集する。(45分)	
4	[パート・ド・ヴェール] 小皿・原型制作		メモを取り要点整理。(45分)
5	[パート・ド・ヴェール] 小皿・原型制作	作業の段取りをする。(45分)	
6	[パート・ド・ヴェール] 小皿・型取り作業		修正等。(45分)
7	[パート・ド・ヴェール] 小皿・焼成準備	作業の段取りをする。(45分)	
8	[パート・ド・ヴェール] 小皿・焼成		メモを取り要点整理。(45分)
9	[パート・ド・ヴェール] 小皿・仕上げ	プレゼンテーション案(45分)	
10	[吹きガラス] グラス制作 / 講評会		メモを取り要点整理。(45分)
11	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・アイデア	アイデアの素材収集する。(45分)	
12	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・原型制作		メモを取り要点整理。(45分)
13	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・原型制作	作業の段取りをする。(45分)	
14	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・型取り		メモを取り要点整理。(45分)
15	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・型取り	作業の段取りをする。(45分)	
16	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・焼成準備		修正等。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・焼成	作業の段取りをする。(45分)	
18	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・仕上げ		修正等。(45分)
19	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・仕上げ	修正等。(45分)	
20	講評会		メモを取り要点整理。(45分)
21	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・アイデア	アイデアの素材収集する。(45分)	
22	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・アイデア		アイデアの素材収集する。(45分)
23	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・原型制作	作業の段取りをする。(45分)	
24	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・原型制作		メモを取り要点整理。(45分)
25	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・原型制作	作業の段取りをする。(45分)	
26	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・型取り		修正等。(45分)
27	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・型取り	作業の段取りをする。(45分)	
28	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・型取り		修正等。(45分)
29	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・焼成準備	作業の段取りをする。(45分)	
30	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・焼成		メモを取り要点整理。(45分)
31	[パート・ド・ヴェール] オブジェ・仕上げ	プレゼンテーション案(45分)	
32	講評会		メモを取り要点整理。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (2) (科目ナンバリング: AEA223068)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	金属の加工技法を活かして、美しい作品を制作することができる。												
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(2)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標	金属の加工技法を理解して作品を制作することができる。												
授業全体の内容と概要	工芸実習(金属)では皿づくり(鍛金)と、真鍮を使ったオブジェ(ろう付け技法)の2課題を通じて、実践的に金属の表現技法を理解する。制作した作品はポスター(プレゼンテーションボード)にまとめて提出する。												
授業の方法	スライドを使って課題の説明を行なった後、各自作品制作を行う。作品完成後、作品評価及び講評を行う。学生は各自で画像を撮影して保存する。最終的に保存した画像を編集し、ポスターを作成し提出する。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	制作した作品は撮影して保存し、最終的にはポスターにまとめて提出すること。												
資格指定科目	教職課程(美術・工芸)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件	20回以上の出席がない場合は評価の対象としない。ポスターが提出されない場合は評価の対象としない。評価は作品点(40%)、ポスター点(30%)、及び主体的に学ぶ姿勢「平常点」(30%)の基準で行う。講義の前半で課題を説明するため、30分以上の遅刻は出席として認めない。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
金属表現の基本的な特性の理解(知識・理解)	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の特性を活用して美しい作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の特性を活用した作品を制作した。	金属における道具の使い方を理解し、鍛金、ろう付け技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け技法の作品を制作した。	鍛金、ろう付け技法が理解できず、作品が制作できなかった。
編集と発表の能力(思考力・表現力・判断力等)	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し美しくデザインされたポスターを作成した。	制作した作品・スケッチ・文章等を秩序立てて編集し、ポスターを作成した。	制作した作品・スケッチ等を収めたポスターを作成した。	制作した作品を収めたポスターを作成した。	制作した作品を収めずポスターを作成しなかった。
主体的に学習に取り組む態度(主体性・多様性・協調性)	課題を予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。また課題を超えて制作を行なった。	課題の予習・復習をした。挑戦的な計画をし、制作を行う事が出来た。	課題の予習または復習をした。自ら計画を立て、制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受け、計画的に制作を行う事が出来た。	授業毎の課題を受けて計画的に制作を行う事が出来なかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (2) (科目ナンバリング: AEA223068)				
授業担当者(所属・職名)	梅田 力(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 梅田 力)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション-シラバスの説明	シラバスをよく読んでおくこと(45分)	
2	鍛金技法について ろう付け技法について		ポスター作成(45分)
3	皿づくり(鍛金) ドロ잉	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
4	皿づくり(鍛金) ドロ잉		ポスター作成(45分)
5	皿づくり(鍛金)	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
6	皿づくり(鍛金)		ポスター作成(45分)
7	皿づくり(鍛金)	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
8	皿づくり(鍛金)		ポスター作成(45分)
9	皿づくり(鍛金)	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
10	皿づくり(鍛金)		ポスター作成(45分)
11	皿づくり(鍛金)	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
12	皿づくり(鍛金)		ポスター作成(45分)
13	皿づくり(鍛金)	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
14	皿づくり(鍛金)		ポスター作成(45分)
15	皿づくり(鍛金)	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
16	皿づくり(鍛金)		ポスター作成(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	皿づくり(鍛金)	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
18	皿づくり(鍛金)		ポスター作成(45分)
19	皿づくり(鍛金)	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
20	ろう付け技法		ポスター作成(45分)
21	ろう付け技法	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
22	真鍮によるオブジェ		ポスター作成(45分)
23	真鍮によるオブジェ	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
24	真鍮によるオブジェ		ポスター作成(45分)
25	真鍮によるオブジェ	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
26	真鍮によるオブジェ		ポスター作成(45分)
27	真鍮によるオブジェ	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
28	真鍮によるオブジェ		ポスター作成(45分)
29	真鍮によるオブジェ 仕上げ	課題に関連するドロ잉等を描いてくる事(45分)	
30	真鍮によるオブジェ 仕上げ		ポスター作成(45分)
31	ポスターセッション	講義全体を通して質問したい事項をまとめておくこと(45分)	
32	ポスターセッション		講評を再考し、理解を深めること(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (3) (科目ナンバリング: AEA223068)				
授業担当者(所属・職名)	中島 知之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 中島 知之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。		

概要

履修目標																					
日常の中にある「うつわ」をテーマにした陶芸制作を通じ、「陶器」という素材における表現方法と知識、技術を深めることで、美術表現の幅を広げる。																					
授業の位置づけ																					
デザイン学科のDP「1(2)と(3)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標																					
陶芸の知識・技法の理解を目標とする。その上で豊かな発想をもって新しく活動を展開する力を身につけることができる。																					
授業全体の内容と概要																					
2年次での工芸実習の内容をふまえ、これまでの実習の応用と新しい技術の習得を目指し、電動ろくろでの成形技術の実習を中心に進める。「土ねり」「装飾」「絵付け」「釉掛け」「窯詰め」「窯焚き」なども、作品の制作過程に沿ってより深く学ぶ。それと同時に全国の焼き物、各窯業地などの特色なども学ぶ。																					
授業の方法																					
課題作品の説明、実演ののちに各自練習。講師の示す期間内に課題作品提出し作品批評をおこなう。																					
アクティブラーニングの実施方法																					
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL															
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業															
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)															
履修上の注意事項																					
課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。																					
資格指定科目																					

評価方法・基準

評価前提条件					
課題提出期限は厳守。遅刻、欠席の無いよう注意すること。課題作品の提出を課す。課題作品の説明、提出の方法は授業時間に指示する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	50%	0%	0%	50%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
陶芸における関心、意欲及び授業態度	授業事前事後の学習は、授業中に積極的な質問を行い、作業など模範的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んでいた。	授業中の課題、作業をこなしている。また、理解を深めるため真剣に作業に取り組んでいた。	授業中の課題、作業をこなしている。	授業中の課題、作業をしていなかった。
陶芸の知識	授業内容を越える陶芸の知識を積極的に学び理解を深めていた。	授業内容における陶芸の知識をほぼ理解していた。	授業内容における陶芸の知識をおおむね理解していた。	授業内容における陶芸の知識を最低限理解していた。	授業内容における陶芸の知識を理解できていなかった。
陶芸技法の習得度	課題作品に必要な技法を習得し課題を完成させる。そして、より高難度技法の課題に取り組んだ。	課題作品に必要な技法をほぼ習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法をおおむね習得し課題を完成させた。	課題作品に必要な技法を最低限習得し課題を完成させた。	課題を完成できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (3) (科目ナンバリング: AEA223068)				
授業担当者(所属・職名)	中島 知之(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階 非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 中島 知之)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 作家活動の中で培った陶芸制作技法、経験を学生により分かりやすく伝える。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバス説明	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	基本的な陶芸の知識と制作の説明 土ねり指導(荒ねり, 霽ねり)		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
3	電動ろくろによる作品制作 カップ(電動ろくろによる粘土成型)	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
4	電動ろくろによる作品制作 カップ(電動ろくろによる粘土成型)		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
5	電動ろくろによる作品制作 カップ(電動ろくろによる粘土成型, 装飾, 仕上げ)	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
6	電動ろくろによる作品制作 カップ(電動ろくろによる粘土成型, 装飾, 仕上げ)		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
7	電動ろくろによる作品制作 カップ(装飾, 仕上げ)	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
8	電動ろくろによる作品制作 カップ(装飾, 仕上げ)		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
9	釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
10	釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
11	電動ろくろによる作品制作 茶碗(電動ろくろによる粘土成型, 装飾, 仕上げ)	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
12	電動ろくろによる作品制作 茶碗(電動ろくろによる粘土成型, 装飾, 仕上げ)		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
13	電動ろくろによる作品制作 茶碗(電動ろくろによる装飾, 仕上げ)	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
14	電動ろくろによる作品制作 茶碗(電動ろくろによる装飾, 仕上げ)		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
15	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
16	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
18	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
19	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
20	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
21	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
22	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
23	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
24	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
25	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
26	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
27	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
28	電動ろくろによる作品制作 皿(装飾, 仕上げ) 釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成		各自必要などころまで制作作業を進めること(45分)
29	釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
30	釉がけ, 窯詰め, 電気窯による焼成		各自で制作作業について振り返る(45分)
31	課題作品の批評会		人の作品を見て自分の作品との違い等についてイメージしておく(45分)
32	課題作品の批評会・まとめ・解説		講義全体をふりかえり, まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA223060)				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 連載・出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			

概要

履修目標
漫画を表現していく上で必要とされる基礎的な知識とそのテクニックを学習し、独自の個性と可能性を発掘し、自らが創作したものを他者に伝える表現技術や理論を身につける。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(2)・(3)」、「2(2)・(3)」に対応する。

到達目標
漫画制作の基礎的な技術を身につけ、自分の漫画作品の方向性を決めて制作することができる。

授業全体の内容と概要
各自で漫画作品の制作を行いながら、漫画道具の使い方、ストーリー構成、ネーム作成、コマ割りや画面構成などの基礎的な知識を身につける。個人の実力にあわせて指導する。

授業の方法
板書及び参考資料とプリントを使って説明をし、各自で制作の実技を行う。制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。必要に応じてレポート提出を行う。提出物にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									

履修上の注意事項
作品制作で使用する画材はできる限り各自で購入し持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。授業内で示した作業スケジュールを遵守し、期限内に必ず作品を提出すること。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	10%	80%	0%	10%	0%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	10%	80%	0%	10%	0%							

ルーブリック																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>漫画表現(知識と理論の理解)</td> <td>漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。</td> <td>漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。</td> <td>漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。</td> <td>漫画・イラスト制作における知識を理解できた。</td> <td>漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。作品を提出できなかった。</td> </tr> <tr> <td>漫画制作(ストーリー創作技術)</td> <td>ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。</td> <td>ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を制作できた。</td> <td>ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を制作する努力をした。</td> <td>ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。</td> <td>ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できず、作品を制作できなかった。</td> </tr> <tr> <td>漫画制作(作画技術)</td> <td>漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。</td> <td>漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。</td> <td>漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。</td> <td>漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。</td> <td>漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	漫画表現(知識と理論の理解)	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。作品を提出できなかった。	漫画制作(ストーリー創作技術)	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を制作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を制作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できず、作品を制作できなかった。	漫画制作(作画技術)	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。												
評価項目		評価基準																																							
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
漫画表現(知識と理論の理解)	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。作品を提出できなかった。																																				
漫画制作(ストーリー創作技術)	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を制作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を制作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できず、作品を制作できなかった。																																				
漫画制作(作画技術)	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。																																				

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『使用しない』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『使用しない』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『使用しない』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布』</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1	『必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布』						2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1	『必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布』																																									
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA223060)				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授) 鴨 修平(デザイン学科・非常勤)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 連載・出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・漫画制作道具の説明	シラバスを読んでおくこと。(45分)	
2	自画像と自己紹介イラスト		宿題の作品を作成すること。(45分)
3	クロッキーとディフォルメ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
4	クロッキーとディフォルメ2		宿題の作品を作成すること。(45分)
5	アオリと俯瞰 各アングルの説明と実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
6	アオリと俯瞰 各アングルの説明と実技2		宿題の作品を作成すること。(45分)
7	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
8	いがらしゆみこ特別講座		宿題の作品を作成すること。(45分)
9	背景表現 パースの説明と実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
10	背景表現 パースの説明と実技2		宿題の作品を作成すること。(45分)
11	1ページ・4コマ漫画 起承転結	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
12	1ページ・4コマ漫画 ネーム・ペン入れ		宿題の作品を作成すること。(45分)
13	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
14	いがらしゆみこ特別講座		宿題の作品を作成すること。(45分)
15	ストーリー漫画制作 プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
16	ストーリー漫画制作 ネーム1		宿題の作品を作成すること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	ストーリー漫画制作 ネーム2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
18	ストーリー漫画制作 ネーム3		宿題の作品を作成すること。(45分)
19	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
20	いがらしゆみこ特別講座		宿題の作品を作成すること。(45分)
21	ストーリー漫画制作 ペン入れ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
22	ストーリー漫画制作 ペン入れ2		宿題の作品を作成すること。(45分)
23	ストーリー漫画制作 背景	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
24	ストーリー漫画制作 べたぬり・効果線		宿題の作品を作成すること。(45分)
25	ストーリー漫画制作 スクリーントーン1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
26	ストーリー漫画制作 スクリーントーン2		宿題の作品を作成すること。(45分)
27	ストーリー漫画制作 仕上げ1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
28	ストーリー漫画制作 仕上げ2		宿題の作品を作成すること。(45分)
29	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
30	いがらしゆみこ特別講座		宿題の作品を作成すること。(45分)
31	講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
32	講評		講義全体の内容を振り返ること。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (1) (科目ナンバリング: AEA223069)				
授業担当者(所属・職名)	中島 義博(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 中島 義博)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	天平の三織(夾織, 蠶織, 蠟織)から夾織と蠶織の実技体験をする。正倉院御物から伝わる防染技法を体験することによって日本の古代文化に想いを馳せる。																					
授業の位置づけ	デザイン学科DP「1(1)(2)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	染色の歴史の中での防染の位置付けとバリエーションを知る。 二つの技法を習得し制作ができる。 染料と道具の実践的知識を身につけ正しく使用できる。																					
授業全体の内容と概要	天平の三織を知り古代の技法に挑戦する。 夾織は板締め絞り染めとして、蠶織はうけつ染めとしてそれぞれ現代に伝わるが古式に近い作業方法をとる。																					
授業の方法	視聴覚メディアと板書、作例によって歴史と作業の基礎を学び各自の発想による原画をもとに三織の作品を制作する実技科目である。完成作品の発表を行う機会を設け講評をする。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	工具類、染料の使用に対応した服装の用意。																					
資格指定科目																						

評価方法・基準

評価前提条件					
20回以上の出席と課題作品の完成, 提出を求める。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	0%	30%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
防染とは何かを知る。	防染とは何かを詳しく知り作品に応用できた。	防染とは何かを詳しく知っていた。	防染とは何かを知っていた。	防染とは何か、最低限のことを知っていた。	防染とは何かを知らなかった。
二つの技法を習得し制作できる。	二つの技法を習得し優れた作品を制作し、後進に技法を伝えることができた。	二つの技法を習得し優れた作品を制作できた。	二つの技法を習得し制作できた。	どちらか一つの技法を習得し制作できた。	どちらもできなかった。
染料と道具を正しく使用できる。	2種類以上の染料と、今回の道具を全て正しく使用でき、それを周囲に伝えることができた。	2種類以上の染料と、今回の道具を全て正しく使用できた。	染料と道具を正しく使用できた。	染料と道具をある程度正しく使用できた。	染料と道具を正しく使用できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (1) (科目ナンバリング: AEA223069)				
授業担当者(所属・職名)	中島 義博(デザイン学科・特任教授)	研究室所在	アトリエ棟 2階		
単位数	2 (単位認定責任者: 中島 義博)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。(45分)	
2	糸織課題説明		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
3	実作業による作例(大玉を例として)	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
4	各自方眼紙にデザイン		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
5	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
6	締め板作り		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
7	締め板作り	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
8	締め板作り		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
9	染色作業(植物染料)	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
10	染色作業(植物染料)		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
11	染色作業(重ね)	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
12	染色作業(重ね)		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
13	洗い、定着、乾燥	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
14	作品発表作品発表、講評		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
15	糸織課題説明	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
16	実作業による作例(ブロック、筆)		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	各自原画	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
18	各自原画		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
19	原画着色	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
20	原画着色		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
21	染色作業一層め(直接染料)	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
22	染色作業一層め		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
23	染色作業二層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
24	染色作業二層め		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
25	染色作業三層め	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
26	染色作業三層め		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
27	修正、加筆	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
28	アイロン脱蠟		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
29	蒸し、脱蠟	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
30	洗い、定着		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
31	作品発表、講評	作業が円滑に進むよう事前準備をしておくこと。(45分)	
32	課題解説、質疑応答		作品を持ち帰り使用または展示し課題を振り返る。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (2) (科目ナンバリング: AEA223069)				
授業担当者(所属・職名)	島田 晶夫(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 島田 晶夫)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。		

概要

履修目標
クラフトを課題として、実際にデザインを制作する過程で、木材を主とした素材を体験し、作る楽しさと、それを生活の中で利用する喜びを知る。同時に美と用途を兼ね備える器物「工芸」に対する理解度を深めることができる。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(2)と(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
使える物を丁寧に作る。ノミ、鉋、ノコの使い方(手工具の使い方)を身につける。

授業全体の内容と概要
木工の工作機械と工具、道具類の使い方を知り、作業手順の大切さと作業後の片付けの大切さを知る。あわせて、刃物の危険性を学ぶ。

授業の方法
実際に作業を見せて説明し、実技を行う。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
作品の制作が長期にわたるため、制作途中で欠席すると次の作業が不可能になる。途中で欠席すると、作品が完成しないので注意すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
手工具の使い方、授業態度	授業事前事後の学習はもとより、授業中の積極的な取り組み、模範的な授業態度であった。	授業事前事後の学習がなされている。授業中の課題や作業をこなし、模範的な授業態度であった。	授業中の課題や作業をこなしている。また、理解を深めるため内容を真実に聞いていた。	授業中の課題や作業をこなしていた。	授業中着席するものの課題や作業をしていなかった。
木材への知識、理解	授業内容を越える学習を積極的にこなし理解度を深めていた。	授業内容をほぼすべて理解していた。	授業内容の概ねを理解していた。	最低限の授業内容を理解していた。	授業内容を理解できていなかった。
木工作業への展開、安全	授業内容にとどまらず、問題点と課題を発見させ、安全な作業を展開できた。	授業内容をほぼすべて理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の概ねを理解し、安全な作業を展開できた。	授業内容の一部から安全な作業の展開を見つけていた。	授業内容を理解できていないため、安全な作業を展開することができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・2年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (2) (科目ナンバリング: AEA223069)				
授業担当者(所属・職名)	島田 晶夫 (デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 島田 晶夫)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 木工作家としての活動経験を有する教員が、その経験を活かして実践に即した実習を行う。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 授業説明 第一課題「象嵌」	シラバスを読んでおくこと、象嵌作業とは何かを理解しておく。(45分)	
2	第一課題 制作 デザインする		制作状況の確認。(45分)
3	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。(45分)	
4	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする		制作状況の確認。(45分)
5	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。(45分)	
6	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする		制作状況の確認。(45分)
7	第一課題 制作 デザインを基に象嵌作業をする	完成までの計画を立てる事。(45分)	
8	第一課題 制作 象嵌作業を終わらせる		制作状況の確認。(45分)
9	第一課題 塗装 完成させる	完成までの計画を立てる事。(45分)	
10	第一課題 品評会		指摘事項を確認すること。(45分)
11	授業説明 第二課題「三本脚スツール」	「三本脚」とは何かを調べておく。(45分)	
12	第二課題 授業説明続き、計画を立てる		加工作業の計画遂行状況の把握。(45分)
13	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。(45分)	
14	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める		加工作業の計画遂行状況の把握。(45分)
15	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。(45分)	
16	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める		加工作業の計画遂行状況の把握。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。(45分)	
18	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める		加工作業の計画遂行状況の把握。(45分)
19	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。(45分)	
20	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める		加工作業の計画遂行状況の把握。(45分)
21	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める	加工作業の計画を立てる事。(45分)	
22	第二課題 加工 各自の進度によって加工を進める		加工作業の計画遂行状況の把握。(45分)
23	第二課題 加工 大まかな加工をすべて終わらせる	加工作業の終了の見通しを立てる。(45分)	
24	第二課題 加工を終了させ、細部の確認をしておく		作業の遅れがないようにする。(45分)
25	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。(45分)	
26	第二課題 細部手直し、組み立て		組み立て技術を理解しておく。(45分)
27	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。(45分)	
28	第二課題 細部手直し、組み立て		組み立て技術を理解しておく。(45分)
29	第二課題 細部手直し、組み立て	作業の準備をしておく。(45分)	
30	第二課題 塗装、完成		完成へ向けた準備を行っておく。(45分)
31	第二課題 解説	全体を通しての疑問事項を整理する。(45分)	
32	第二課題 フィードバック		指摘事項を確認すること。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (3) (科目ナンバリング: AEA223069)				
授業担当者(所属・職名)	宮原 ミユキ(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮原 ミユキ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家としての経験と40年以上の手織指導経験を活かした実習を行う。		

概要

履修目標	「織」についての知識と技術を修得すると同時に、自己のデザイン表現と発想の可能性を広げる。												
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)(2)」、「2(1)」に対応する。												
到達目標	・「織」という技法について説明できる。 ・数点の作品を完成させる。												
授業全体の内容と概要	・基本的な織技術を習得する。 ・織機の種類や織技術の工程と技法、作品の仕上げ方などを認識、実習する。 ・織の歴史を学ぶ。												
授業の方法	指導書と織サンプルを提示・説明後、実技指導を行う。 基本的な織技法の中から学生本人の希望に応じた作品を製作することを原則とし、織機や道具の説明、材料の選択、作業工程説明の後作業に入る。 なお、作業中の説明や質問・要望には随時個別に対応・指導に当たる。												
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模範授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL										
模範授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業										
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)										
履修上の注意事項	授業時間内に作品が完成しない場合は、授業時間外も利用して完成させ、提出期限を守ること。 提出期限に遅れた場合は、特別な事情を除き、減点の対象となる。 関連する作品展を紹介するので可能な限り見学すること。見学を授業外学習と認め、見学後のレポート提出で加点とする。												
資格指定科目													

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は20回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
作品製作全体計画	使用目的に適した素材を含めたデザインを計画することができた。	使用目的に応じた作品の計画を立てることができた。	指導を受けながら製作計画を完成できた。	強力な指導を受けながら、作品製作計画を立てることができた。	作品製作の計画を立てることができなかった。
色彩計画	全体計画に適合する色彩計画を、十分な検討作業の中から、最も適切に計画することができた。	全体計画に適合する色彩計画を自発的に立てることができた。	指導を受けながら、全体計画に適合する色彩計画を立てることができた。	強力な指導の中で、全体計画に適合する色彩計画を立てることができた。	全体計画に適合する色彩計画を立てることができなかった。
織技術	基本的な織技術指導を受けた後、全体計画を効果的に実現できるような織作業を進めることができた。	基本的な織技術指導を受けた後、自発して織作業を進めることができた。	指導を受けながら織作業を進めることができた。	強力な指導の中で、織に必要な作業を進めることができた。	作品を完成させるための作業を進めることができなかった。
理解・意欲	当初の全体計画を進めながら多くの織素材や多様な織物組織での興味を持つことができた。	作品の全体計画を実現するために、積極的な理解と意欲を持って取り組むことができた。	指導を受けながら織に対する興味や理解・意欲を持つことができた。	強力な指導の中で作品製作を進めることができた。	作品製作を進めることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	工芸実習 (3) (科目ナンバリング: AEA223069)				
授業担当者(所属・職名)	宮原 ミユキ(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 宮原 ミユキ)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	作家としての経験と40年以上の手織指導経験を活かした実習を行う。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション・シラバスの説明、織物概論(歴史・現状)、織機や道具の説明	シラバスを読むとともに、関連する作品集や作品展で学び、どんな作品を織るか考えておく(45分)	
2	作品NO1 ・平織群の中から1種類選択(例:ペルト、テーブルマット、シャギーマット等)		作品NO1の作業遅れを取り戻す(45分)
3	作品NO1 ・ウィービングレポート作成、整理、機上げ	関連する作品集や作品展で学ぶ(45分)	
4	作品NO1 ・製織作業		作品NO1の作業遅れを取り戻す(45分)
5	作品NO1 ・製織作業	関連する作品集や作品展で学ぶ(45分)	
6	作品NO1 ・製織作業		作品NO1の作業遅れを取り戻す(45分)
7	作品NO1 ・製織作業	関連する作品集や作品展で学ぶ(45分)	
8	作品NO1 ・製織作業		作品NO1の作業遅れを取り戻す(45分)
9	作品NO1 ・製織作業	関連する作品集や作品展で学ぶ(45分)	
10	作品NO1 ・織り上り、経糸始末、仕上げ		作品NO2の計画を決める(45分)
11	作品NO2 ・基本計画(平織又は綾織)、ウィービングレポート作成	作品NO2に必要な資料等を準備する(45分)	
12	作品NO2 ・整経、機上げ		作品NO2の作業遅れを取り戻す(45分)
13	作品NO2 ・機上げ、織り出し	作品NO2の補足作業をする(45分)	
14	作品NO2 ・製織		作品NO2の作業遅れを取り戻す(45分)
15	作品NO2 ・製織	作品NO2の補足作業をする(45分)	
16	作品NO2 ・製織		作品NO2の作業遅れを取り戻す(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	作品NO2 ・製織		作品NO2の補足作業をする(45分)
18	作品NO2 ・製織		作品NO2の作業遅れを取り戻す(45分)
19	作品NO2 ・製織	作品NO2の補足作業をする(45分)	
20	作品NO2 ・製織		作品NO2の作業遅れを取り戻す(45分)
21	作品NO2 ・織上り、経糸始末、仕上げ	作品NO2の補足作業をする(45分)	
22	作品NO3 ・基本計画(NO1、NO2の経験からNO3作品を計画する)		作品NO3に必要な準備を整える(45分)
23	作品NO3 ・ウィービングレポート作成、整経	作品NO3の補足作業をする(45分)	
24	作品NO3 ・整経、機上げ		作品NO3の作業遅れを取り戻す(45分)
25	作品NO3 ・機上げ、織り出し	作品NO3の補足作業をする(45分)	
26	作品NO3 ・製織		作品NO3の作業遅れを取り戻す(45分)
27	作品NO3 ・製織	作品NO3の補足作業をする(45分)	
28	作品NO3 ・製織		作品NO3の作業遅れを取り戻す(45分)
29	作品NO3 ・製織	作品NO3の補足作業をする(45分)	
30	作品NO3 ・製織		作品NO3の作業遅れを取り戻す(45分)
31	作品NO3 ・製織	作品NO3の補足作業をする(45分)	
32	課題全体についての解説およびフィードバック		講義内容を振り返り、理解を深める(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA223061)				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 連載・出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			

概要

履修目標
漫画の基礎技術の向上と、現代における表現技法の多様性を学習し、雑誌だけを発表の場としない柔軟な考えを身に付け、芸術文化の推進に率先垂範できる能力を身に付けるとともに、芸術文化をとおし社会における使命・役割を理解する。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(2)・(3)」、「2(2)・(3)」に対応する。

到達目標
漫画の作業工程を理解し、制作する中で漫画の読者の立場から作者の立場に視点を変化することができる。

授業全体の内容と概要
いくつかの課題を通して基礎的なテクニックの確認と補強をしながら、雑誌投稿などを想定した漫画作品の制作を各自で行い、完成を目指す。個人の実力にあわせて指導する。

授業の方法
板書及び参考資料とプリントを使って説明をし、各自で制作の実技を行う。制作期間中は宿題とし、期限内に提出する。作品によってはその日の授業内に提出するものもある。必要に応じてレポート提出を行う。提出物にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法							
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
作品制作で使用する画材は各自で購入し持参すること。デジタル作品を制作する場合はノートパソコンやタブレットを持参すること。授業内で示した作業スケジュールを遵守し、期日内に必ず作品を提出すること。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	10%	80%	0%	10%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
漫画表現(知識と理論の理解)	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を十分に理解し、それらを自らの創作に活かして作品を完成できた。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論を理解し、それらを自らの創作に活かして作品を制作した。	漫画・イラスト制作における知識と、制作する上での姿勢、心がけ、理論をある程度理解し、それらを自らの創作に活かす努力ができた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できた。	漫画・イラスト制作における知識を理解できなかった。作品を提出できなかった。
漫画制作(ストーリー創作技術)	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを十分に理解し、自らの表現したいテーマを決めて創作し作品を完成できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解し、作品を制作できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックをある程度理解し、作品を制作する努力をした。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できた。	ストーリーの組み立て方やネームの作り方、コマ割り等のテクニックを理解できなかった。作品を制作できなかった。
漫画制作(作画技術)	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らの考えたテーマや個性を十分に表現し、完成できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し適切に使用して、自らのテーマや個性を表現できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解し、使用できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できた。	漫画・イラスト制作の作画技術・道具を理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『使用しない』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『必要に応じて参考資料を提示、プリントを配布』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	漫画 (科目ナンバリング: AEA223061)				
授業担当者(所属・職名)	五十嵐 優美子(デザイン学科・客員教授)	鴨 修平(デザイン学科・非常勤)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室	
単位数	2	(単位認定責任者: 鴨 修平)	CAP制	x	
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 連載・出版経験のある教員が、漫画の描き方を基礎から指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明・原稿の制作手順	シラバスを読んでおくこと。(45分)	
2	自画像と自己紹介イラスト		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
3	ストーリーのネームと実技1	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
4	ストーリーのネームと実技2		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
5	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
6	いがらしゆみこ特別講座		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
7	背景作画	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
8	ペンとスクリーントーンの実技		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
9	背景作画	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
10	ペンとスクリーントーンの実技		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
11	4P漫画制作(1)	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
12	4P漫画制作(2)		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
13	4P漫画制作(3)	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
14	4P漫画制作(4)		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
15	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
16	いがらしゆみこ特別講座		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	ストーリー漫画制作 プロット	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
18	ストーリー漫画制作 ネーム1		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
19	ストーリー漫画制作 ネーム2	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
20	ストーリー漫画制作 ネーム3		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
21	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
22	いがらしゆみこ特別講座		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
23	ストーリー漫画制作 ペン入れ	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
24	ストーリー漫画制作 ペン入れ		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
25	ストーリー漫画制作 背景	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
26	ストーリー漫画制作 ベタぬり・効果線		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
27	ストーリー漫画制作 スクリーントーン	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
28	ストーリー漫画制作 仕上げ・作品ファイル制作		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
29	いがらしゆみこ特別講座	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
30	いがらしゆみこ特別講座		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)
31	講評	学習内容に関連する事柄について情報を収集しておくこと。(45分)	
32	講評		講義中に指示された課題に取り組むこと。(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング: AEA222076)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての造形解釈を理解するために、造形の本質に関するテーマに触れ、理解した内容やコンセプト、自らの思考をレポート形式で記述することができる。												
授業の位置づけ												
デザイン学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標												
学生が造形論に関わる内容に関してレポート形式で記述することを学ぶことができる。												
授業全体の内容と概要												
美術、デザインにおける基本的素養としての造形の解釈理解するために、「ハイブリッド感覚」や「類似現象」などの直観的なテーマから学ぶ。												
授業の方法												
パワーポイントで授業を実施し、講義形式で授業をすすめ、毎回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、各自が毎回のテーマ課題レポートを制作して提出する。学生が、プレゼンテーションとしてのレポート等、ないしは、パワーポイント等による口頭発表を行う。実験・実習・実技として各自が制作した課題レポート(13課題)の確認とアドバイスによる双方向授業を行う。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
自筆ノートを制作すること。出席を取り終わったあとは次席とする。												
資格指定科目												
教職課程(工芸)必修科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
10回以上の最低出席回数。および、レポート課題10課題以上の提出の双方。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	4%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
造形論における対象が、人間に関わる文化的な表徴であること理解し表現している。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
各回のテーマに対して対象としたものの解説や主題(なぜこれを対象としたのか等)が表現されている。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
レポートとしての構成、内容、および、基本的な記述の形式が正しく表現されている。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング: AEA222076)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, 授業の進め方, 単位認定について シラバスの説明	シラバスの確認(90分)	ガイダンス, 授業の進め方についての確認 (90分)
2	形態と表皮	形態と表皮(90分)	形態と表皮(90分)
3	遍在する形態と空間	遍在する形態と空間(90分)	遍在する形態と空間(90分)
4	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ(90分)	路上観察で見つかる絵画作品とオブジェ(90分)
5	透明な造形	透明な造形(90分)	透明な造形(90分)
6	象られた"かたち"	象られた"かたち"(90分)	象られた"かたち"(90分)
7	パターン考	パターン考(90分)	パターン考(90分)
8	白黒のもの	白黒のもの(90分)	白黒のもの(90分)
9	"作品じゃないけど作品に見えるもの"	"作品じゃないけど作品に見えるもの"(90分)	"作品じゃないけど作品に見えるもの"(90分)
10	プリミティブ志向	プリミティブ志向(90分)	プリミティブ志向(90分)
11	形態の変容	形態の変容(90分)	形態の変容(90分)
12	対の造形	対の造形(90分)	対の造形(90分)
13	埋め尽くそうとする	埋め尽くそうとする(90分)	埋め尽くそうとする(90分)
14	コレクション	コレクション(90分)	コレクション(90分)
15	まとめ レポート提出	コレクション(90分)	まとめ レポート提出(90分)
16	講評 レポート返却	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	高評を受け講義内容全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング: AEA222077)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標												
学生が美術、デザインの専門家に必要な基礎的素養としての造形解釈を理解するために、造形の本質に関するテーマに触れ、理解した内容やコンセプト、自らの思考をレポート形式で記述することができる。												
授業の位置づけ												
デザイン学科のDP「1(1)と(2)と(3)」、「2(2)」に対応する。												
到達目標												
学生が造形論に関わる内容に関してレポート形式で記述することを学ぶことができる。												
授業全体の内容と概要												
美術、デザインにおける基本的素養としての造形の解釈理解するために、「ハイブリッド感覚」や「類似現象」などの直観的なテーマから学ぶ。												
授業の方法												
パワーポイントで授業を実施し、講義形式で授業をすすめ、毎回の授業の要点を各自が自筆ノートにまとめる。これらをもとに、各自が毎回のテーマ課題レポートを制作して提出する。学生が、プレゼンテーションとしてのレポート等、ないしは、パワーポイント等による口頭発表を行う。実験・実習・実技として各自が制作した課題レポート(13課題)の確認とアドバイスによる双方向授業を行う。												
アクティブラーニングの実施方法												
<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td>グループワーク</td> <td>フィールドワーク</td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td>ロールプレイ</td> <td>調査学習</td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>実験・実習・実技</td> <td>双方向授業</td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL	模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業	ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL									
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業									
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)									
履修上の注意事項												
自筆ノートを制作すること。出席を取り終わったあとは欠席とする。												
資格指定科目												
教職課程(美術・工芸)選択科目												

評価方法・基準

評価前提条件					
10回以上の最低出席回数。および、レポート課題10課題以上の提出の双方。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	60%	0%	0%	40%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
造形論における対象が、人間に関わる文化的な表徴であること理解し表現している。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
各回のテーマに対して対象としたものの解説や主題(なぜこれを対象としたのか等)が表現されている。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。
レポートとしての構成、内容、および、基本的な記述の形式が正しく表現されている。	十分に目標に達成していた。	概ね出来ていた。	不十分ではあるが出来ていた。	最低限出来ていた。	全く出来ていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	造形論 (科目ナンバリング: AEA222077)				
授業担当者(所属・職名)	松岡 龍介(デザイン学科・准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 松岡 龍介)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	ガイダンス, 授業の進め方, 単位認定について シラバスの説明	シラバスの確認(90分)	ガイダンス, 授業の進め方についての確認 (90分)
2	ハイブリッド感覚	ハイブリッド感覚(90分)	ハイブリッド感覚(90分)
3	類像現象	類像現象(90分)	類像現象(90分)
4	手法としての流用	手法としての流用(90分)	手法としての流用(90分)
5	架空の風景	架空の風景(90分)	架空の風景(90分)
6	ミニチュア化	ミニチュア化(90分)	ミニチュア化(90分)
7	表現形式としてのドット	表現形式としてのドット (90分)	表現形式としてのドット (90分)
8	組み替えのデザイン	組み替えのデザイン(90分)	組み替えのデザイン(90分)
9	表現形式のアーキタイプ	表現形式のアーキタイプ (90分)	表現形式のアーキタイプ (90分)
10	構成要素で構成されている造形	構成要素で構成されている造形(90分)	構成要素で構成されている造形(90分)
11	擬態するデザイン	擬態するデザイン(90分)	擬態するデザイン(90分)
12	作品の解釈について	作品の解釈について(90分)	作品の解釈について(90分)
13	見立て	見立て(90分)	見立て(90分)
14	簡略化のデザイン	簡略化のデザイン(90分)	簡略化のデザイン(90分)
15	まとめ レポート提出	簡略化のデザイン(90分)	まとめ レポート提出(90分)
16	講評 レポート返却	講義全体を通して質問事項をまとめておく(90分)	評価を受け講義全体の理解を深める(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221074)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
速読法の取得する。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築する。正しい本の読み方を身につければ、知識はそれについてくることが実感する。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
過去の作品を学ぶことで、日本美術の本質が何かを理解できる。講義から得た知見を自らの制作に生かすことができる。

授業全体の内容と概要
美術作品は書物などからの二次的な知識として理解するものではない。あくまでも作品の実物を見ることから来る直観的な理解が伴って初めて、総合的な理解に到達すると考える。それゆえ各学生が各時代の個別の作品に対してどのような印象を持ったか、そしてそれが今後の制作にどのように利用できるかなどの視点から説明することを求める。文献の内容をいかにして効率よく理解し、他者に伝えるかの方法論の習得に重きを置きます。

授業の方法
各講義前に数名の学生を指名し、レジメを作成してもらいます。指名された学生は翌週に読む内容をまとめてください。レジメとは、読む部分の大事だと思われる内容が書かれたものを差します。具体的には、著作のテーマと要点、著者の結論とどのような事実を元に主張が展開されているかを簡潔にまとめた1ページから2ページにまとめてもらいます。(本講義では各章、あるいは各節の内容をまとめてください。平均、2-3時間くらいでできるようです。)レジメは授業の度に、受講する学生全員に配布され、内容を制作者に発表してもらいます。これをたたき台として、各章を具体的に読み込みます。質問は随時受け付け、フィードバックします。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、特定の画家、美術概念について、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の事由がない限り、不可とします。デザイン科の学生は職入りの人が多く、完璧を求める傾向が強いようです。レジメの作成では、必要最少限の労力で最大限の効果を上げることを目指してください。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にてきた。	各章のレジメ作成3時間以内にてきた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理が一応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識が習得できなかった。
自主性	発表回数多数回以上を達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本美術を見る眼』	高階 秀爾	岩波書店			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221074)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと(90分)	レジメの作り方の確認(90分)
2	日本美の個性	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
3	「もの」と「かた」	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
4	視形式の東と西	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
5	枝垂れモチーフ	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
6	旅の絵	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
7	装飾性の原理	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
8	明治洋画における東洋よ西洋	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
9	日本の前衛美術	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
10	日本のアカデミズム	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
11	ジャポニズムの諸問題	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
12	移ろいの美学	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
13	絵画と文学の交響	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
14	記憶の遺産	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
15	各レジメを前提としたレポートの作成法	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
16	各レジメを前提としたレポートの作成法 その2	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221074)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

速読法の取得。テーマと論点を明記するレジムの作成能力の構築。正しい本の読み方を身につければ、知識はそれについてくることを実感する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

過去の作品を学ぶことで、日本美術の本質が何かを理解できる。講義から得た知見を自らの制作に生かすことができる。

授業全体の内容と概要

美術作品は書物などからの二次的な知識として理解するものではない。あくまでも作品の実物を見ることから来る直観的な理解が伴って初めて、総合的な理解に到達すると考える。それゆえ各学生が各時代の個別の作品に対してどのような印象を持ったか、そしてそれが今後の制作にどのように利用できるかなどの視点から説明することを求める。文献の内容をいかにして効率よく理解し、他者に伝えるかの方法論の習得に重きを置きます。

授業の方法

各講義前に数名の学生を指名し、レジムを作成してもらいます。指名された学生は翌週に読む内容をまとめてください。レジムとは、読む部分の大事だと思われる内容が書かれたものを差します。具体的には、著作のテーマと要点、著者の結論とどのような事実を元に主張が展開されているかを簡潔にまとめた1ページから2ページにまとめてもらいます。(本講義では各章、あるいは各節の内容をまとめてください。平均、2-3時間くらいでできるようです。)レジムは授業の度に、受講する学生全員に配布され、内容を制作者に発表してもらいます。これをたたき台として、各章を具体的に読み込みます。質問は随時受け付け、フィードバックします。

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、特定の画家、美術概念について、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の事由がない限り、不可とします。デザイン科の学生は職入りの人が多く、完璧を求める傾向が強いようです。レジムの作成では、必要最少限の労力で最大限の効果を上げることを目指してください。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジム作成を2時間以内にてきた。	各章のレジム作成3時間以内にてきた	レジムの作成の仕方が理解できた。	レジムの意義を理解できた。	レジムの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理が一応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識が習得できなかった。
自主性	発表回数多数回以上を達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本美術を見る眼』	高階 秀爾	岩波書店			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	1Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221074)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明、オリエンテーション	シラバスを読んでおくこと(90分)	レジメの作り方の確認(90分)
2	日本美の個性	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
3	「もの」と「かた」	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
4	視形式の東と西	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
5	枝垂れモチーフ	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
6	旅の絵	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
7	装飾性の原理	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
8	明治洋画における東洋よ西洋	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
9	日本の前衛美術	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
10	日本のアカデミズム	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
11	ジャポニズムの諸問題	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
12	移ろいの美学	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
13	絵画と文学の交響	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
14	記憶の遺産	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
15	各レジメを前提としたレポートの作成法	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
16	各レジメを前提としたレポートの作成法 その2	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221075)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

速読法の取得。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築。日本美術の展開と特徴を学ぶことにより、日本美術の独自性を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

過去の作品を学ぶことで、日本美術の本質が何かを理解できる。講義から得た知見を自らの制作に生かすことができる。

授業全体の内容と概要

美術作品は書物などからの二次的な知識として理解するものではない。あくまでも作品の実物を見ることから来る直観的な理解が伴って初めて、総合的な理解に到達できる。日本美術とその背景にある思想について考えます。

授業の方法

西洋美術史、東洋日本美術史 に書いた内容と同じです。受講者に週読む内容を簡単にまとめたレジメを作成してもらい、それを発表してもらいます。質問は随時受け付け、フィードバックします。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、特定の画家、美術概念について、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の理由がない限り、不可とします。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にてきた。	各章のレジメ作成3時間以内にてきた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理がー応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識が習得できなかった。
自主性	発表回数多数回以上を達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本人にとっての美しさとは何か』	高階秀爾	筑摩書房			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221075)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 言葉とイメージ 1	シラバスを読んでおくこと(90分)	レジメの作り方の確認(90分)
2	言葉とイメージ 2	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
3	言葉とイメージ 3	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
4	言葉とイメージ 4	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
5	日本の美と西洋の美 1	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
6	日本の美と西洋の美 2	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
7	日本の美と西洋の美 3	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
8	日本の美と西洋の美 4	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
9	日本人の美意識はどこから来るのか 1	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
10	日本人の美意識はどこから来るのか 2	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
11	日本人の美意識はどこから来るのか 3	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
12	日本人の美意識はどこから来るのか 4	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
13	日本人の美意識はどこから来るのか 5	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
14	まとめ、レポートの作成法(フィードバック含む) 1	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
15	まとめ、レポートの作成法(フィードバック含む) 2	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
16	まとめ、レポートの作成法(フィードバック含む) 3	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221075)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標

速読法の取得。テーマと論点を明記するレジメの作成能力の構築。日本美術の展開と特徴を学ぶことにより、日本美術の独自性を理解する。

授業の位置づけ

デザイン学科のDP「1(1)と(2)」、「2(2)」に対応する。

到達目標

過去の作品を学ぶことで、日本美術の本質が何かを理解できる。講義から得た知見を自らの制作に生かすことができる。

授業全体の内容と概要

美術作品は書物などからの二次的な知識として理解するものではない。あくまでも作品の実物を見ることから来る直観的な理解が伴って初めて、総合的な理解に到達できる。日本美術とその背景にある思想について考えます。

授業の方法

西洋美術史、東洋日本美術史 に書いた内容と同じです。受講者に選読内容を簡単にまとめたレジメを作成してもらい、それを発表してもらいます。質問は随時受け付け、フィードバックします。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ	○	調査学習		反転授業
○	ディスカッション		実験・実習・実技	○	双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

出席を重視します。12回以上出席すれば、最低限の成績ではありますが、単位は取得可能と考えてください。(最低出席数は10回とします。)講義の過程で、特定の画家、美術概念について、自主的なレポートをする機会を設けます。その発表ひとつひとつが加点の機会だと考えてください。7回以上欠席した場合、特段の理由がない限り、不可とします。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は10回以上。授業開始後20分以降の出席は受講回数から除外する(公共交通機関などの遅延の場合は例外とする)。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	50%	0%	0%	50%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
速読法の理解	各章のレジメ作成を2時間以内にてきた。	各章のレジメ作成3時間以内にてきた。	レジメの作成の仕方が理解できた。	レジメの意義を理解できた。	レジメの意義を理解できなかった。
論点の把握	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマ、論点を適切に提示できた。	テーマの把握、論点の整理がー応できた。	テーマと論点がわかった。	テーマと論点が理解できなかった。
知識の習得	適切な知識を身に着けた。	適切な知識を身に着けた。	最重要課題についての知識を身に着けた。	必要最低限の知識はあった。	必要最低限の知識が習得できなかった。
自主性	発表回数多数回以上を達成した学生。	発表回数3回以上を達成した学生。	発表回数2回以上を達成した学生。	発表回数1回以上を達成した学生。	発表できなかった学生。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『日本人にとって美しさとは何か』	高階秀爾	筑摩書房			
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	東洋・日本美術史 (科目ナンバリング: FAH221075)				
授業担当者(所属・職名)	金子 敏也 (社会福祉学科・特任准教授)	研究室所在	2号館7階		
単位数	2 (単位認定責任者: 金子 敏也)	CAP制	○		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 言葉とイメージ 1	シラバスを読んでおくこと(90分)	レジメの作り方の確認(90分)
2	言葉とイメージ 2	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
3	言葉とイメージ 3	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
4	言葉とイメージ 4	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
5	日本の美と西洋の美 1	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
6	日本の美と西洋の美 2	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
7	日本の美と西洋の美 3	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
8	日本の美と西洋の美 4	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
9	日本人の美意識はどこから来るのか 1	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
10	日本人の美意識はどこから来るのか 2	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
11	日本人の美意識はどこから来るのか 3	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
12	日本人の美意識はどこから来るのか 4	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
13	日本人の美意識はどこから来るのか 5	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
14	まとめ、レポートの作成法(フィードバック含む)	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
15	まとめ、レポートの作成法(フィードバック含む)	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)
16	まとめ、レポートの作成法(フィードバック含む)	発表者はレジメの作成、発表の準備をする(90分)	復習(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	美術学特講 (科目ナンバリング: AEA222080)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		

概要

履修目標	WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。																					
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法を理解し、制作現場に即した基本的な知識・技術を習得する。																					
授業全体の内容と概要	制作現場でよく活用される制作環境をベースにHTMLやCSS、jQuery等の基礎的な知識・技術について演習を通して習得し、就職活動でも活用できるポートフォリオサイトを制作する。																					
授業の方法	授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い(必要があれば資料を配布)演習を行う。また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	Adobe CCライセンス必須。																					
資格指定科目																						

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイト上でデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	美術学特講 (科目ナンバリング: AEA222080)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 環境構築(xampp環境)・概要説明 一般的な制作環境・ツールを理解する	シラバスを読んでおくこと(90分)	PCを持っている場合は環境構築を試しておくこと(90分)
2	HTMLの基本 HTML5の基本構造やタグについて理解する	一般的なタグの種類を確認しておくこと(90分)	HTML構造やタグの意味を理解しておくこと(90分)
3	CSSの基本 CSSの基本構造やセレクタ、メディアクエリについて理解する	CSSの意義について確認しておくこと(90分)	CSSの記法やレスポンシブについて理解しておくこと(90分)
4	マークアップ演習 使用頻度の高いレイアウトパーツのHTML構造、CSS設計について理解する	WEB上で公開されているサイトのレイアウトをいくつか確認しておくこと(90分)	CSSの記法やレスポンシブについて理解しておくこと(90分)
5	マークアップ演習 使用頻度の高いレイアウトパーツのHTML構造、CSS設計について理解する	WEB上で公開されているサイトのレイアウトをいくつか確認しておくこと(90分)	レイアウトパーツの構造・設計について理解しておくこと(90分)
6	jQueryの基本 jQueryの基本構造やセレクタの扱い、制御構文について理解する	CSSのセレクタについて再確認しておくこと(90分)	WEB上の文献にらってjQueryを記述し実践しておくこと(90分)
7	PHPの基本 PHPの基本構造や制御構文について理解する	PHPの役割について確認しておくこと(90分)	WEB上の文献にらってPHPを記述し実践しておくこと(90分)
8	コンテンツページ制作 サンプルデザインを元にコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	画像抽出・タグ記述・画像表示まで行えるよう理解しておくこと(90分)
9	コンテンツページ制作 サンプルデザインを元にコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・CSS設計手法について理解しておくこと(90分)
10	コンテンツページ制作 サンプルデザインを元にコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	HTMLの構造・CSS設計手法について理解しておくこと(90分)
11	コンテンツページ制作 レスポンシブ手法について演習を通して理解する	レスポンシブの概要について確認しておくこと(90分)	レスポンシブ設計手法について理解しておくこと(90分)
12	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元に枠組みの構築を行う	HTML5の構造について再確認しておくこと(90分)	枠組みの設計手法やインクルードについて理解しておくこと(90分)
13	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元にページの基本構築を行う	jQueryについて再確認しておくこと(90分)	主にjQueryの技術的箇所について理解しておくこと(90分)
14	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元にページの基本構築を行う	自身のプロフィールと掲載できる写真画像(数枚)をまとめておくこと(90分)	デバイスフォント・WEBフォントについて理解しておくこと(90分)
15	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元に詳細表示の設計を行う1	自身の制作物(電子データ)と紹介文をまとめておくこと(90分)	制作したポートフォリオサイトを見直し、適宜調整を行うこと(90分)
16	ポートフォリオページ制作 基本デザインを元に詳細表示の設計を行う2-講評	自身の制作物(電子データ)と紹介文をまとめておくこと(90分)	制作したポートフォリオサイトを見直し、適宜調整を行うこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	美術学特講 (科目ナンバリング:AEA222081)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。		

概要

履修目標
WEB制作における基本的な概念・手法を学び、実践的な基礎力を身につけることが目的であり、社会から求められる多様なWEB展開に応える為の知識・技術を習得する為の科目である。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(1)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
WEB制作環境とコンテンツ制作における概念や文法をより深く理解し、就職後のスタートアップから役立つ実践的な知識・技術を習得する。

授業全体の内容と概要
制作現場でよく活用されるより効率的な制作環境をベースに、HTMLやCSS、jQuery等の実践的な知識・技術について演習を通して習得すると共に、多くの企業で活用されているCMSについての理解を深め、代表的なwordpress構築技術を習得する。

授業の方法
授業ではパワーポイント資料やマークアップコード等をディスプレイに表示して解説を行い(必要があれば資料を配布)演習を行う。また、質問や不明点等は演習中に実演も交えながら個別に回答する。

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
Adobe CCライセンス必須。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	100%	0%	0%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
WEB制作環境の理解・構築	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールをデータに応じて適切に使い分けて起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールの設定を行い、起動することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解し、制作に必要なツールを入手することができた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できた。	WEBサイト制作を行う為の環境を理解できなかった。
WEB制作ツールの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、デザインやマークアップに応じて適切に使い分けて操作を行うことができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを操作することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解し、必要なツールを起動することができた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できた。	WEBサイト制作を行う為のツールを理解できなかった。
マークアップの知識・技能	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、デザインに応じて適切に構造を組み立て、問題なくデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立ててWEBサイトでデザインを表現することができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解し、構造を組み立てることができた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できた。	WEBサイト制作を行う為のマークアップ構造を理解できなかった。
コンテンツマネジメントの知識・技能	コンテンツマネジメントの基本概念を理解し、代表的なCMSを利用した構造を適切に組み立て、動的なWEBサイトを構成することができた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解し、代表的なCMSを利用した構造を組み立てることができた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解し、代表的なCMSに必要なツールを入手し、設定することができた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解できた。	コンテンツマネジメントの基本概念を理解できなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	美術学特講 (科目ナンバリング: AEA222081)				
授業担当者(所属・職名)	山腰 雅樹(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	1 (単位認定責任者: 山腰 雅樹)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 制作現場における実務を行っている教員がその知識と経験を活かし、今日の現場で通用する技術や知識を実践を通して指導する。			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 環境構築(gulp/sass環境)・概要説明 タスクランナー・CSSの拡張メタ言語を理解する	シラバスを読んでおくこと(90分)	PCを持っている場合は環境構築を試しておくこと(90分)
2	sassの基本 scssの基本構造や記法について理解する	拡張メタ言語(sass)について確認しておくこと(90分)	scssの記法について理解しておくこと(90分)
3	gulpの基本 タスクランナーを用いたコンパイル環境について理解する	タスクランナーの役割について確認しておくこと(90分)	gulpタスクについて理解しておくこと(90分)
4	マークアップ演習 gulp, sassを用いたレスポンシブコンテンツ制作演習を行う	メディアクエリについて確認しておくこと(90分)	レスポンシブ設計手法を理解しておくこと(90分)
5	マークアップ演習 gulp, sassを用いたレスポンシブコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	レスポンシブ設計手法を理解しておくこと(90分)
6	マークアップ演習 gulp, sassを用いたレスポンシブコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	レスポンシブ設計手法を理解しておくこと(90分)
7	マークアップ演習 gulp, sassを用いたレスポンシブコンテンツ制作演習を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	レスポンシブ設計手法を理解しておくこと(90分)
8	wordpressの基本 wordpressの構造, コンテンツ管理について理解する	CMS(コンテンツマネジメントシステム)について確認しておくこと(90分)	wordpressの基本構造について理解しておくこと(90分)
9	wordpress演習 基本デザインを元にブログページの基本構築を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	制作したブログページを見直し, 適宜調整を行うこと(90分)
10	wordpress演習 基本デザインを元にブログページの基本構築を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	制作したブログページを見直し, 適宜調整を行うこと(90分)
11	wordpress演習 基本デザインを元にブログページの基本構築を行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	制作したブログページを見直し, 適宜調整を行うこと(90分)
12	wordpress演習 ブログ構築演習を行う	WEB上で公開されているブログサイトをいくつか確認しておくこと(90分)	ブログ構造について理解しておくこと(90分)
13	wordpress演習 ブログ構築演習 - 制作したブログページの組み込みを行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	ブログ組み込みに必要な構造・関数について理解しておくこと(90分)
14	wordpress演習 ブログ構築演習 - 制作したブログページの組み込みを行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	組み込んだページを見直し, 適宜調整を行うこと(90分)
15	wordpress演習 ブログ構築演習 - 制作したブログページの組み込みを行う	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	組み込んだページを見直し, 適宜調整を行うこと(90分)
16	wordpress応用 CMSとしてのwordpress活用事例について理解する - 講評	前回までの内容を再確認しておくこと(90分)	CMSとしてのwordpress活用について理解しておくこと(90分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA223064)				
授業担当者(所属・職名)	國松 明日香(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 國松 明日香)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
この科目の(課題)では「私の肖像」をテーマに作品を制作する。「私」とは何かという問いかけとそこで見出す自分を造形化することにより、自分自身を客観的に見つめ、よく知っているつもり「私」をもう一度見つめ直すことを目標とする。(課題)ではJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する作品の制作をとおして、社会の中でのアートへの役割について考察する。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(2)と(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
(課題)では制作をとおして自分自身をよく見つめ、その一部でも理解できるようになることとそれを他者に伝えることができる能力を身につけることができる。(課題)では自分が表現したものが、社会の中でどの様な役割を担うことができるか考えられることができる。

授業全体の内容と概要
(課題)は作品制作をとおして「私」を理解するために、「私の肖像」をテーマに不用になった段ボール箱を素材に立体作品を制作する。「私とは?」という問いをもちながら、理解の手がかりになるものを採って調べる。調査したもから作品を構想し、立体作品にするためのアイディアスケッチを制作。その後不要になった段ボール箱を素材として作品を制作する。 (課題)はJR札幌駅東コンコースにある「アートボックス」内に設置する彫刻作品の制作。パブリックな空間に美術作品を設置することの意義を理解するため、決められた特殊な空間での作品制作を行う。実際に設置されている「アートボックス」を視察し、併せて周囲の空間を読み取り、作品プランと模型を制作する。

授業の方法
(課題)はパワーポイント及び授業担当者作成の資料を基に課題についてのプレゼンテーションを行う。自分について改めて調べてみたいと思う資料を収集する。併せて自分が興味を惹かれるものを収集する。通学途中に見つけ出す「気になる風景や物」、「魅力を感じた人や物」などを写真に収めたり拾ってきたりする。それらを基に不用になった段ボール箱で「私の肖像」を立体作品として制作する。 (課題)はパワーポイント及び担当者作成の資料を基にプレゼンテーションを行う。設置予定となる「アートボックス」の取材。参考になると思われるものを写真に収めたりスケッチなどとする。それらを基に制作用のイメージスケッチをし、作品プランと模型を制作する。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
実制作に入ってから、作業に適した服装で受講すること。また北広島市や札幌市の公共空間に設置されている美術作品を機会を見つけて視察しておくこと。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用(知識の習得)	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する情報を積極的に収集し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それらの資料等の収集に努め、それらの内の数点を的確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方(思考力・表現力)	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力・完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトをしっかりと持っていて、それらの表現力も的確に持っており、完成度が高い作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っていて、それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトを持っていて、それを作品に反映させている作品ができた。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション(表現力)	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトについて他者に的確にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できた。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA223064)				
授業担当者(所属・職名)	國松 明日香(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 國松 明日香)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明(課題)に関するオリエンテーション	シラバスを読んでおくこと(45分)	
2	(課題)に関するオリエンテーション		自分の周辺にある資料の収集(45分)
3	持参した資料を基に発表	自分の周辺にある資料の収集(45分)	
4	持参した資料を基に発表		通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集(45分)
5	集めた資料などを基にアイデアスケッチの制作	通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集(45分)	
6	集めた資料などを基にアイデアスケッチの制作		通学途中で目に止まったものなどの写真撮影や資料の収集(45分)
7	段ボール箱による実制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
8	段ボール箱による実制作のつづき		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
9	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
10	段ボール箱による実制作のつづき		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
11	段ボール箱による実制作のつづき	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
12	段ボール箱による実制作のつづき		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
13	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点	提出すべき作品の確認(45分)	
14	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点		講義全体を振り返り、まとめを行うこと(45分)
15	(課題)に関するオリエンテーション	学習内容に必要な事前準備を行うこと(45分)	
16	(課題)に関するオリエンテーション		身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)	
18	アートボックス(札幌駅東コンコース)の現地視察		身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)
19	世界のパブリックアートについて、パワーポイントを使い講義	身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)	
20	世界のパブリックアートについて、パワーポイントを使い講義		身近にあるパブリックアートを写真に収めておく(45分)
21	アイデアスケッチの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
22	アイデアスケッチの制作		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
23	プレゼンテーションボードの制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
24	プレゼンテーションボードの制作		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
25	プレゼンテーションボードの完成	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
26	プレゼンテーションボードの完成		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
27	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
28	模型の制作		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
29	模型の制作	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと(45分)	
30	模型の制作		各自必要箇所まで制作作業を進めること(45分)
31	模型の完成・講評及び採点	提出すべき作品の確認(45分)	
32	模型の完成・講評及び採点		講義全体を振り返り、まとめを行うこと(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA223065)				
授業担当者(所属・職名)	國松 明日香(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 國松 明日香)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
(課題)では形として目で見ることができないものをテーマとして、それを目に見える形として表現する技量を身につける。 (課題)では(課題)で取り組んだ結果を更に発展させ、北海道らしい四季を作品制作のテーマとして掲げ、その形象化を目指し、彫刻作品として完成させ、併せて様々な素材を体験し、今後の制作活動に役立てる。

授業の位置づけ
デザイン学科のDP「1(2)と(3)」、「2(2)」に対応する。

到達目標
自然が持つ優れた造形性を理解し、形態の美しさについて学び、それらを他者に伝えることができる。

授業全体の内容と概要
(課題)では「暖かさ」をテーマに抽象彫刻をテラコッタ(粘土を素焼きにしたもの)として制作。陶芸用の粘土で制作し、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。 (課題)では「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、様々な素材(金属、流木、石膏、粘土など)にて立体造形作品として制作する。

授業の方法
(課題)抽象彫刻をテーマにパワーポイントにて講義をする。「暖かさ」という言葉からイメージする形態を導き出し、アイディアスケッチを制作。陶芸用粘土にて実制作に入り、乾燥後陶芸用の窯にて焼成する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。 (課題)四季を表現した美術作品や音楽作品を鑑賞し、意見を述べ合う。「四季」あるいは「春」、「夏」、「秋」、「冬」の中からひとつの季節を選び、アイディアスケッチを制作。実制作に使用する素材を決め、実制作に移る。使用する素材へのアドバイスや立体に組み立てるための技法を指導する。完成作品についてプレゼンテーションしてもらい、それについて講評する。

アクティブラーニングの実施方法			
プレゼンテーション	グループワーク	フィールドワーク	PBL
模擬授業	ロールプレイ	調査学習	反転授業
ディスカッション	実験・実習・実技	双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
実制作に入ってから、作業に適した服装で受講すること。

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
単位認定に必要な最低出席回数は、20回以上とする。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	80%	0%	0%	20%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
資料の活用(知識の習得)	課題の意味をしっかりと理解し、それに関する確かな調査し、必要な資料等を活用しながら的確に作品に反映させることができた。	課題の意味をしっかりと理解し、それらの資料等の収集に努め、それらの内点の確に作品に反映させることができた。	課題の意味を理解し、資料を複数収集し、それらの資料をよく活用しながら作品に反映させることができた。	資料を収集しそれを活用して作品を完成させることができた。	資料の収集ができなかった。更に作品を完成させることができなかった。
作品とコンセプトの考え方(思考力・表現力)	作品制作のコンセプトが的確であり、それらの表現力に優れ、更に技術力も高い。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトをしっかりと持って、それらの表現力も的確に持っている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っていて、それを作品に反映させている。又作品の完成度も高い。	作品制作のコンセプトを持っている。それを作品に反映させている。又作品の完成度も認められる。	作品制作のコンセプトが認められない。更に作品を完成させることができなかった。
プレゼンテーション(表現力)	自分自身が制作した作品について、作品を客観的に眺めることができ、その制作プロセスやコンセプトについて他者に的確にプレゼンテーションすることができる。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがしっかりとできる。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができる。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることがある程度できる。	自分自身が制作した作品について、その制作プロセスやコンセプトについて他者にプレゼンテーションすることができない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期	授業形態	実技	必修・選択	選択
科目名称	彫刻 (科目ナンバリング: AEA223065)				
授業担当者(所属・職名)	國松 明日香(デザイン学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 國松 明日香)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明(課題)についてのオリエンテーション。パワーポイントを使って課題のテーマに沿った彫刻作品の(課題)についてのオリエンテーション。パワーポイントを使って課題のテーマに沿った彫刻作品の解説。併せてテラコッタ作品を鑑賞。	シラバスを読んでおくこと。(45分)	
2			制作に参考となる資料の収集。(45分)
3	集めた資料を基に発表。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	
4	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
5	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	
6	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
7	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	
8	粘土にて制作。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
9	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	
10	粘土にて制作。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
11	粘土にて制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	
12	粘土にて制作。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
13	粘土作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。(45分)	
14	粘土作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。		講義全体を振り返り、まとめを行うこと。(45分)
15	(課題)についてのオリエンテーション。東洋・西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	
16	(課題)についてのオリエンテーション。東洋・西洋の自然観が判る作品についてパワーポイントにて解説。		制作に参考となる資料の収集。(45分)

各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間			
回	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	東洋・西洋の自然観が判る音楽を鑑賞。	制作に参考となる資料の収集。(45分)	
18	集めた資料を基に発表。		制作に参考となる資料の収集。(45分)
19	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	
20	集めた資料を基にアイディアスケッチの制作。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
21	各自が使う素材の収集。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	
22	各自が使う素材の収集。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
23	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	
24	実制作。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
25	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	
26	実制作。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
27	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	
28	実制作。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
29	実制作。	作業が円滑に進むよう必要な事前準備を行うこと。(45分)	
30	実制作。		各自必要などころまで制作作業を進めること。(45分)
31	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。	提出すべき作品の確認。(45分)	
32	作品の完成・プレゼンテーション・講評及び採点。		講義全体を振り返り、まとめを行うこと。(45分)

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)				
授業担当者(所属・職名)	デザイン学科各教員	研究室所在	デザイン学科各教員各研究室		
単位数	(単位認定責任者: デザイン学科各教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	各学生が専門領域を深め、自らの研究テーマを確かなものにする。
------	--------------------------------

授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1の全て」、「2(2)」に対応する。
---------	------------------------------

到達目標	学生が各ゼミナールでの研究の足がかりを見つけることができる。
------	--------------------------------

授業全体の内容と概要	各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。
------------	----------------------------------

授業の方法	各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、作品制作、コンクール等への応募、見学、鑑賞等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。
-------	--

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項	この演習が来年度の卒業制作・研究に繋がることがほとんどなので、各自興味・関心のあるテーマを見つけ、担当教員と相談しながら研究を進めること。他の専門演習科目と同様、様々な点から非常に重要な科目なので欠席をせず、継続的に努力することが望まれる。授業だけではなく、空き時間などを利用して、継続的に自学自修を行ない、各々にとっての課題を探し、その深化に努めること。
----------	--

資格指定科目	
--------	--

評価方法・基準

評価前提条件					
出席10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
各専門分野における基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解していた。	基本的な知識を理解していた。	基本的な知識を概ね、理解していた。	基本的な知識を最低限理解していた。	基本的な知識を理解していなかった。
各専門分野における基本的な技能、技術の修得	自ら率先し技能、技術を修得し、十分理解していた。	基本的な技能、技術を理解していた。	基本的な技能、技術を概ね理解していた。	基本的な技能、技術が最低限あった。	基本的な技能、技術を修得していなかった。
各専門分野における知識、技能を活かした作品の制作・研究	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かしていた。	修得した知識、技術により作品制作・研究に取り組むことができていた。	修得した知識、技術により作品制作・研究に、概ね取り組むことができていた。	作品制作・研究に最低限取り組んでいた。	作品制作・研究に取り組むことができていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『各教員による。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『各教員による。』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)				
授業担当者(所属・職名)	デザイン学科各教員		研究室所在	デザイン学科各教員各研究室	
単位数	(単位認定責任者: デザイン学科各教員)		CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるシラバスの説明	所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	総括	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)
16	講評	提出課題の内容を再確認(45分)	講評内容をまとめ自己評価を行う(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM233082)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)				
授業担当者(所属・職名)	デザイン学科各教員	研究室所在	デザイン学科各教員研究室		
単位数	1 (単位認定責任者: デザイン学科各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	各学生が専門領域を深め、自らの研究テーマを確かなものにする。																								
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1の全て」、「2(2)」に対応する。																								
到達目標	学生が各ゼミナールでの研究の足がかりを見つけることができる。																								
授業全体の内容と概要	各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。																								
授業の方法	各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、作品制作、コンクール等への応募、見学、鑑賞等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。																								
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																		
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																		
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																		
履修上の注意事項	他の教室に移動することは可能だが、長期的に担当教員との連携を密にしながら、研鑽を重ねることが求められる。他の専門演習科目と同様、様々な点から非常に重要な科目なので欠席をせず、継続的に努力することが望まれる。「専門研究 A」と同様に、授業だけではなく、空き時間などを利用して、継続的に自学自修を行ない、各々にとっての課題を探し、その深化に努めることが最も肝要である。																								
資格指定科目																									

評価方法・基準

評価前提条件	出席10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
	0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック	評価基準				
評価項目	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
各専門分野における基本的知識の修得	自ら率先し知識を修得し、十分理解している。	基本的な知識を理解している。	基本的な知識を概ね、理解している。	基本的な知識を最低限理解している。	基本的な知識を理解していない。
各専門分野における基本的な技能、技術の修得	自ら率先し、研究し、技能、技術を十分修得している。	基本的な技能、技術を修得している。	基本的な技能、技術を概ね修得している。	基本的な技能、技術を最低限修得している。	基本的な技能、技術を修得していない。
各専門分野における知識、技能を活かした作品の制作・研究	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かしている。	修得した知識、技能により作品制作・研究に取り組みることができる。	修得した知識、技能により作品制作・研究に、概ね取り組みることができる。	作品制作・研究に最低限取り組みることができる。	作品制作・研究に取り組みることができない。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『各教員による』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『各教員による』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・3年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)				
授業担当者(所属・職名)	デザイン学科各教員		研究室所在	デザイン学科各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: デザイン学科各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	総括	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)
16	講評	提出課題の内容を再確認(45分)	講評内容をまとめ自己評価を行う(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEZM233083)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)	デザイン学科各教員		研究室所在	デザイン学科各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: デザイン学科各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標
<p>学生が専門研究 A、Bで習得した技を発展させ、卒業制作に取り組める力を身につけることを目的とし、単に技術的なものだけでなく、制作意図や適切な表現方法を見出すべく研究を重ねること。</p>

授業の位置づけ
<p>デザイン学科のDP「1の全て」、「2(2)」に対応する。</p>

到達目標
<p>学生が技術的にも内容的にも自信を持って卒業制作に取り組める力を身につけることができる。</p>

授業全体の内容と概要
<p>卒業制作につなげるエスキース、技術的実験、試作、習作など制作を主体に展開し、各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。</p>

授業の方法
<p>各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、作品制作、コンクール等への応募、見学、鑑賞等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。</p>

アクティブラーニングの実施方法						
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク	PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習	反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
<p>四年間の学びの集大成である卒業制作につなげる非常に重要な科目となるため、欠席をせず、継続的に努力することが望まれる。また、授業だけではなく、空き時間などを利用して、継続的に自学自修を行ない、各々にとっての課題を探し、その深化に努めることが最も肝要。</p>

資格指定科目

評価方法・基準

評価前提条件					
出席10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
各専門分野において修得した知識を深める	自ら率先し知識を修得し、十分深めることができていた。	修得した知識を深めることができていた。	修得した知識を概ね、深めることができていた。	基本的な知識を最低理解していた。	基本的な知識を理解していなかった。
各専門分野における身につけた技能、技術を深める	自ら率先し技能、技術を修得し、十分深めることができていた。	身につけた技能、技術を深めることができていた。	身につけた技能、技術を概ね深めることができていた。	基本的な技能、技術を最低限修得していた。	基本的な技能、技術を修得していなかった。
各専門分野における知識、技能を活かし、作品の制作・研究を深める	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かしていた。	修得した知識、技術により作品制作・研究に取り組むことができていた。	修得した知識、技術により作品制作・研究に、概ね取り組むことができていた。	作品制作・研究に最低限取り組むことができた。	作品制作・研究に取り組むことができていなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『各教員による。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『各教員による。』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)	デザイン学科各教員		研究室所在	デザイン学科各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: デザイン学科各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。所属研究室選択資料の確認(45分)	配布資料の確認(45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題(45分)	授業振り返り課題(45分)
15	総括	授業振り返り作成(45分)	全体振り返り(45分)
16	講評	提出課題の内容を再確認(45分)	講評内容をまとめ自己評価を行う(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 A (科目ナンバリング: SEM234084)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">評価項目</td> <td colspan="5">評価基準</td> </tr> <tr> <td>履修項目を超えたレベルを達成している</td> <td>履修項目をほぼ達成している</td> <td>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</td> <td>到達目標を達成している</td> <td>到達目標を達成していない</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)				
授業担当者(所属・職名)	デザイン学科各教員		研究室所在	デザイン学科各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: デザイン学科各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標	学生が専門研究 A, B, A で習得した技能、技術等を発展させ、卒業制作に取り組める力を身につける。																					
授業の位置づけ	デザイン学科のDP「1の全て」、「2(2)」に対応する。																					
到達目標	各学生が技術的にも内容的にも自信を持って卒業制作に取り組める力を身につけることができる。																					
授業全体の内容と概要	卒業制作につなげるエスキース、技術的実験、試作、習作など制作を主体に展開し、各ゼミナール担当教員の提示する「専門テーマ」に沿って進められる。																					
授業の方法	各教員の指導方針の下に行われるので、講義、ゼミナール、作品制作、コンクール等への応募、見学、鑑賞等、さまざまな授業形態がとられる。したがって、大学生として真摯に学ぶ姿勢と自覚が求められる。																					
アクティブラーニングの実施方法	<table border="1"> <tr> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																
履修上の注意事項	四年間の学びの集大成である卒業制作につなげる非常に重要な科目となるため、欠席をせず、継続的に努力することが望まれる。また、授業だけではなく、空き時間などを利用して、継続的に自学自修を行ない、各々にとっての課題を探し、その深化に努めることが最も肝要。																					
資格指定科目																						

評価方法・基準

評価前提条件					
出席10回以上の出席がなければ成績評価の対象としない。評価基準は各教員が判断し決定する。					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	0%	70%	0%	30%	0%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
各専門分野において修得した知識を深める	自ら率先し知識を修得し、十分深めることができていた。	修得した知識を深めることができていた。	修得した知識を概ね、深めることができていた。	基本的な知識を最低限理解していた。	基本的な知識を理解していなかった。
各専門分野における身につけた技能、技術を深める	自ら率先し技能、技術を修得し、十分深めることができていた。	身につけた技能、技術を深めることができていた。	身につけた技能、技術を概ね深めることができていた。	基本的な技能、技術を最低限修得していた。	基本的な技能、技術を修得していなかった。
各専門分野における知識、技能を活かし、作品の制作・研究を深める	自ら率先し作品制作・研究に取り組み、学んだ知識、技能を十分活かしていた。	修得した知識、技術により作品制作、研究に取り組むことができた。	修得した知識、技術により作品制作、研究に、概ね取り組むことができた。	作品制作・研究に最低限取り組んでいた。	作品制作・研究に取り組むことができなかった。

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『各教員による。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『各教員による。』					
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	デザイン学科・4年		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	必修
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)				
授業担当者(所属・職名)	デザイン学科各教員		研究室所在	デザイン学科各教員研究室	
単位数	1 (単位認定責任者: デザイン学科各教員)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	担当教員によるガイダンス シラバスの説明	シラバスを読んでおくこと。所属研究室選択資料の確認 (45分)	配布資料の確認 (45分)
2	担当教員による授業 1	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
3	担当教員による授業 2	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
4	担当教員による授業 3	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
5	担当教員による授業 4	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
6	担当教員による授業 5	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
7	担当教員による授業 6	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
8	担当教員による授業 7	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
9	担当教員による授業 8	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
10	担当教員による授業 9	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
11	担当教員による授業 10	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
12	担当教員による授業 11	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
13	担当教員による授業 12	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
14	担当教員による授業 13	予習課題 (45分)	授業振り返り課題 (45分)
15	総括	授業振り返り作成 (45分)	全体振り返り (45分)
16	講評	提出課題の内容を再確認 (45分)	講評内容をまとめ自己評価を行う (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)			
授業担当者(所属・職名)		研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当		
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)			
授業担当者(所属・職名)		研究室所在		
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	後期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	専門研究 B (科目ナンバリング: SEM234085)		
授業担当者(所属・職名)		研究室所在	
単位数	1 (単位認定責任者:)	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
%	%	%	%	%	%

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>レポート</td> <td>課題・作品</td> <td>中間テスト</td> <td>平常点</td> <td>その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他						
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							

ルーブリック																																															
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																				
評価項目		評価基準																																													
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																																										

教科書・参考文献・資料等

教科書																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

参考文献・資料等																																										
<table border="1"> <tr> <th>No</th> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> <th>I S B N</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考	1							2							3							4							5						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考																																				
1																																										
2																																										
3																																										
4																																										
5																																										

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6	(単位認定責任者:)	CAP制		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>P B L</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		P B L																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	I S B N	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	後期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究 (科目ナンバリング: THE234086)				
授業担当者(所属・職名)			研究室所在		
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究(9月) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	卒業制作・研究（9月（科目ナンバリング：））		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	6（単位認定責任者：）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究(9月) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当	
開講時期	前期集中	授業形態	実技 必修・選択
科目名称	卒業制作・研究（9月 （科目ナンバリング： ））		
授業担当者（所属・職名）		研究室所在	
単位数	6 （単位認定責任者： ）	CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容		

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究(9月) (科目ナンバリング:)				
授業担当者(所属・職名)		研究室所在			
単位数	6 (単位認定責任者:)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目		左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容			

概要

履修目標																								
授業の位置づけ																								
到達目標																								
授業全体の内容と概要																								
授業の方法																								
アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>プレゼンテーション</td> <td></td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td></td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ディスカッション</td> <td></td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>		プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業		ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	
履修上の注意事項																								
資格指定科目																								

評価方法・基準

評価前提条件					
評価方法					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

基本情報

科目分類区分		対象学科・配当			
開講時期	前期集中	授業形態	実技	必修・選択	
科目名称	卒業制作・研究（9月（科目ナンバリング：））				
授業担当者（所属・職名）			研究室所在		
単位数	6	（単位認定責任者：）		CAP制	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			